

カクノ如キヲ意味セルナリ。

「ダマスコ」ノ王「ブシ」ハ著シキ破壊ヲ逞フシタル者ナリ。即チ一一二九年、彼レ命シテ「アッサシン」派ノ友ナル「タヒル」及其徒六千人ヲ殺サシメキ。然ルニ、報ヒハ立所ニ到リヌ。二年ヲ出テスシテ「アッサシン」ノ一隊、來リテ彼レヲ撃ツ。彼レ傷ヲ受ケシモ辛フシテ命ヲ免レシカ、次年ニ到リテ、先キノ傷ノ爲メニ死シタリ。

「アッサシン」派ハ復讐ノ念ヲ絶タス、時節ト機會ト場所トヲ待チ、子孫ノ代ニ到リテモ尙之ヲ忘レス、又捨テサリキ。カクテ「ブシ」ノ子「シエムス・ウル・ムルタ」(Shems ul Mu'taz) 及其他多クノ知名ノ士、同派ノ劔ニ斃レタリ。カスギン(Kasvin)ノ「ムフチ」(Mufthi) 長「イスバハン」及「テプリズ」ノ市長等モ殺サレヌ。是等ノ王者及長者ノミナラス、商人及普通民ノ多クモ「ハツサン・ベン・サバー」及其後繼者、所謂回教ノ使徒ノ手下ノ者ニ殺サレヌ。

然ルニ「バグダッド」ノ「カリフ」ノ玉座ハ「アバシド」系ノ者ト「ファチミド」系ノ者トノ間ニ激烈ナル軋轢アリシニ拘ラス、又「ファチミド」系ヨリ出タル「アッサシン」派カ久シキ間、己レノ敵ヲ滅サムト努メタリシニ拘ラス、嘗テ血ニ汚サレサルヲ得タリ。而カモ今ヤ時ハ來リヌ。「アッサシン」派ハ「カリフ」ニモ容赦ナキナリ。「ファチミド」系第十

世ノ「カリフ」 「アブ・アリ・マンズル」(Abu Ali Mansur) 始メテ、カノ派ノ一人ノ殺ス所トナリヌ。但シ、コハ同派ノ政策ニ出タルナルカ、ハタ、單ニ私怨ヲ酬フ爲メナリシカハ明ナラス。又但シ、加害者ハ大宰相「エフダル」(Eldhal)ノ家族ヨリ依囑ヲ受ケタリト考フル者少カラス。

此「エフダル」ハ埃及ニ於テ大勢力ヲ有セシカハ、「カイロ」ノ「カリフ」ニ取リテ危険ナリシト同時ニ、又十字軍ヲ憎ミ猛烈ニ之レト戰フノ力ヲ有ス(實際戰ヒモシタリ)ルカ故ニ十字軍ニ取リテモ危険ナル者ナリシカ。「アッサシン」派ノ二名ノ爲メニ殺サレタリ。但シ、此二名ヲ使噉シタルハ「カリフ」ナルカ十字軍ナルカハ誰モ知ルコトナカリキ。サレト、疑ハ先ツ「カリフ」ニ懸リヌ。然ルニ「エフダル」ノ殺サルルヤ、忽チ其子「アブ・アリ」(Abu Ali) 獄ニ投セラレシカ、「カリフ」ノ暗殺セラレタル時、解放セラレシノミナラス、官職ヲ授ケラレ宰相トナレリ。然ルニ間モナク「アブ・アリ」モ「アッサシン」派ノ爲メニ殺サレヌ。案スルニ、是等三名ノ加害者ハ、或隱レタル敵ノ手先ナルヘシ。

此時ヨリシテ後、埃及ハ、「バグダッド」ノ「カリフ」ノ與黨、即「アバシド」系ノ者ト「カイロ」ノ「カリフ」ノ與黨、即「ファチミド」系ノ者トノ間ノ烈シキ争鬭ノ爲ニ、全ク無秩序、騷亂ノ光景ヲ呈シタリ。

「アバシド」系ノ第二十九代ノ「カリフ」、「モステルシエド」(Mostershed)ハ一一一八年ヨリ一一三五年迄權力ヲ維持セシカ、其權力タル甚タ限ラレタルモノニテ、彼レノ地位極メテ不安固ナリキ。セルジュク「系」ノ「スルタン」等自ラ「バグダッド」ノ「カリフ」ノ藩屏トナルヤ、金曜日ノ祈禱ト貨幣鑄造以外、カリフノ凡テノ權力ヲ奪ヒシカ「マツスド」(Massud)カ「スルタン」トナリタル時、此最後ノ殘レル權力ノ表示ヲモ奪ヒ、己レノ名ニ於テ金曜日ノ祈禱ヲナシタリ。「モステルシエド」ハ此侵害ヲ承諾セサリシモ寛容シタリ。然ルニ、暫ク後「マツスド」ノ部下若干「マツスド」ヲ離レテ「モステルシエド」ノ軍ニ來リ投シ、彼レニ「マツスド」ニ克ツコト難カラスト確言ス。彼レ此言ヲ信シ「マツスド」ヲ攻ム。最初ノ合戦ニ兵士背キ去リ、彼レ「マツスド」ノ爲メニ捕ニセラレ、「メラガ」(Meragha)ニ於テ監禁セラレシカ、向後ハ「バグダッド」ヲ出テサルヘク又年々「スルタン」ニ貢ヲ納ルヘシトノ約ノ下ニ解放セラルルヲ得タリ。

「イスメール」ノ徒ハ右ノ戦争ノ結果ハ「アバシド」系ノ滅亡トナラムト考ヘタリシニ、事豫期ニ反シテ痛ク失望シ、今ハ躊躇スヘカラス、如何ナル代價ヲ拂ツテモ自己ノ手ニヨツテ目的ヲ遂ケサルヘカラスト決心シ、「マツスド」カ「モステルシエド」ヲ放チテ「メラガ」附近ノ己レノ陣地ニ置キシ時、彼レ及其從者ヲ斬リ殺シヌ、否、殺シタル

ノミニテハ満足セス、彼等ノ耳鼻ヲ削キ取リタリ。

「モステルシエド」殺サレテ人民恐怖ニ打タレ、其恐怖未タ回復セサル間ニ後繼者「ラシド」亦殺サレタリ。始メ「アツサシン」派「モステルシエド」ヲ殺スヤ以爲ラク、是ニヨリテ「カリフ」ノ職位亦滅亡スヘシト、而カモ「ラシド」繼イテ立ち、先ツ父ノ讎ヲ報ヒムコトヲ謀リ先ツ「イスバハン」ニ往キ、歸リテ後「アツサシン」派ニ對シテ爲ス所アラムト欲ス。彼等、早ク其計畫ヲ看破シ、敏捷ナル者四名ヲシテ「ラシド」ノ後ニ隨ヒ往カシム。四名ノ者、機ヲ覗ツテ之ヲ刺シ殺シ、屍ヲ「イスバハン」ニ埋ム。彼レカ、同派ヲ討ツ爲メニ集メ置キタル兵士モ忽チ散シヌ。

「ラシド」ノ計「アラムト」ノ大管長ニ達スルヤ、同地ハ、七日七夜銅羅ヲ鳴ラシテ、全山地ニ祝報ヲ傳フ。「アバシド」系ノ者恐懼甚シ。傳ヘイフ「ラシド」死後「アバシド」系ノ「カリフ」ハ何ツレモ奥深く潜ミ、外ニ出テタル者殆ントナシト。「アツサシン」派今ハ隊伍ヲナシテ亞細亞ヲ横行シ、其既ニ取リタル城砦ヲ更ニ固ムルノミナラス、或ハ新ニ築キ或ハ買得シタルモ少カラス。彼等「シリヤ」ニ於テ一一三四年「カドモス」(Kadmos)ヲ、其ヨリ四年ノ後「カハフ」(Kahaf)ヲ、一一四〇年「マツシアト」(Massia)ヲ獲タリ。「カドモス」ト「カハフ」ハ購買シタル所ナレト「マツシアト」ハ暴力ヲ以テ奪ヒタルナリ。同城ハヤカテ、

「シリヤ」ニ於ケル彼等ノ活動ノ中心トナリス。

「ケイ・ブスルゴミド」(Kei Busurgomid)、「アツサシン」王國ヲ支配スルコト十四年、自ラ死ノ近キヲ悟リ、長子「キア・モハメツド」(Kia Mohamed)ヲ立テテ大管長トス。「キア」ハ「アツサシン」派ノ勢力ヲ増大シ、且各方面ニ之ヲ伸張セシカト、自ラ君王ヲ以テ呼フコトナク、又君王ノ權力ヲ握ラムト要求スルキトモナク、「己レハ將來出現シテ全人類ヲ統御スヘキ不可見ノ一イマム」ノ使徒ナリ、今ハ只、其「イマム」ノ名ニ於テ統治スルノミト稱ス。但シ同派ノ眞ノ意志ヲ知レルハ只、大管長ト其選ミ、試ミ、且ツ恐ロシキ誓ノ下ニ秘密ヲ保ツヘク約シタル仲間トノミニシテ、其下ニアル民衆ハ自ラ、教祖モハメツドノ熱心ナル信奉者ナリト思惟シテ、其教ヲ忠實ニ遵守シ、且大管長ノ知惠ヲ信シ、喜ヒテ其命ニ服從シタリ。又民衆ハ大管長ノ弟子等カ政治上ノ計畫ヲ實行セムカ爲メニ、又ハ私怨ヲ晴サムカ爲メニ其手先キトナリテ劍ニヨツテ幾多ノ人命ヲ破壊スルヲ見テ、コハ神聖ナル目的ノ爲ニ己等ノ信仰及國ノ敵ヲ除去スルモノト信シタリ。「ハツサン・ベン・サバー」及彼レニ繼ギタル「アラムト」ノ首領等ノ著書及稿本類ハ、蒙古人襲來ノ時毀滅セラレタルカ故ニ、當時ニ於ケル「アツサシン」王國ノ内政ノ事情ニ關シテハ多ク知ルコトヲ得ス。彼等ハソノ眞ノ教義ヲ秘シ外觀ハ回教

ノ護持者ナリキ。此事ハ「スルタン」、「シンジャル」カ「アラムト」ニ使ヲ派シ「アツサシン」派ノ教義ニ付テ問合セタル時ノ回答ニヨリテ知ルコトヲ得ヘシ。

大管長ノ答ニ曰ク、「イスメール」ノ教義ハ下ノ如シ。我等ハ唯一ノ神ヲ信シ、神ノ聖言ト豫言者モハメツドノ命令トニ一致スルモノノミヲ眞智ト認ム。我等ハ「コーラ」ニ見ユル「モハメツド」ノ命令ニ服從ス。我等ハ「モハメツド」カ、創造、末日、賞罰、審判、復活ニ付テ教ヘタル凡テノ事ヲ信ス。カク信スルコトハ救ヒノ爲メニ必要ナリ。何人モ神ノ命令ニ對シテ説ヲ吐クヲ得ス、又其命令中ノ一語タモ變更スルヲ得ス。是等ノ命令ハ我宗教ノ依ツテ立ツ所ノ規則ナリ。「スルタン」若シ之ヲ悦ハスハ、一神學者ヲ遣ハシテ我等ト語ラシメヨト。

「キア」ノ治世ハ一一三八年ニ始マレリ。彼レハ才能ナカリシニアラサルモ、政治ノ術ニ於テ全ク未熟ナリキ。「アツサシン」派ノ勢力、今ハ絶頂ニ達シ、其權威、亞細亞ノ諸國ノ認ムル所トナリ。「アラムト」ニ一強力者ヲ要スルノ時ナリキ。「ハツサン・ベン・サバー」出テテ其殺戮ノ經歷ヲ始メシヨリ既ニ約五十年ヲ經、其間、民衆ハ回教ノ凡テノ教説ヲ嚴守シ且支配者ヲ信シ、ヨク之ニ服從セシカ。「キア」ハ人民ノ信賴ヲ得ル能ハス、却ツテ大ニ憎マレタリキ。然ルニ彼レノ子「ハツサン」大志アリ、夙ニ民衆ニ愛セラ

レ、達識博學ノ譽アリ。但シ彼レハ此聲譽ヲ己レノ目的ヲ遂クル爲メニノミ利用シ、決シテ「アッサシン」派ノ發展ノ爲メニ謀ルコトナカリキ。彼レノ與黨、彼レコソ、カノ「ハッサン・ベン・サバー」カ約束シタル「イマム」ナレト普ネク流言スルヤ彼レハ之ヲ知リシモ否定スルコトナカリキ。然ルニ大管長ハ人民カ「ハッサン」ヲ以テ久シク望メル「イマム」ト倣セルヲ聞キ又「ハッサン」ノ之ニ關スル言動ヲ知リテ不快ヲ感シ、宣言シテ曰ク「ハッサン」ハ我子ナリ。我レハ「イマム」ニアラス、其先驅ノ一タルノミ。カク考ヘサル者ハ異端ノ徒ナリト直チニ命シテ「ハッサン」ノ與黨二百五十人ヲ誅シ其餘ヲ追放セシム。「ハッサン」累ノ己レニ及ハムヲ恐レ、己レノ與黨ヲ攻撃シ、父ヲ贊助スル旨ノ文ヲ草シ、以テ嫌疑ヲ避ケ所刑ヲ免ルルヲ得タリ。サレト、彼レハ陰ニ酒ヲ飲ミ、禁令ニ背ケル幾多ノ行動ヲ敢テセシカハ、彼レノ與黨ハ彼レヲ以テ來ルヘキ「イマム」ナリト考フルニ至レリ。蓋シ「イマム」ノ出現ト同時ニ凡テノ禁令ハ終リヲ告クルモノト信セラレタレハナリ。

然ルニ、今ヤ「アラブ」朝ヲ顛覆スヘキ使命ヲ負ヘル人々現ハレヌ。「アク・スンクル」(Ak Sunkur)ノ子ナル「ゼンキ」(Zenky)ノ子「ヌル・エド・デン・マームド・ベン・アメド・エス・ゼンキ」(Nur ed din Mahmud Ben Amed Es Zenky)ト「ゼンキ」ノ友ナル「フェユブ」(Fyub)ノ子

「サラヂン」(Saladin)ト是ナリ。「アク・スンクル」ハ元奴隸ニシテ「メリク・シャール」ノ侍臣、後ニ「アレツボ」ノ總督トナリシ人。一〇九四年死ス。一子「ゼンキ」時ニ十歳ナリキ。父ノ死後間モナク時ノ「モスル」王「クル・ブガ」(Kur Buga)ノ宮廷ニ召サレ、寵アリ常ニ王ニ隨伴ス。一一二二年「ワシト」(Wasit)及「バストラ」(Basra)ノ地ヲ受ク。翌年三月「アラビヤ」人「ガアサド」(Asad)族ノ有名ナル王族「ズベク」(Dubeq)ノ指揮ノ下ニ「バグダッド」ヲ攻ムヘク來ルヤ「カリフ」「モステルシエド」軍ヲ率キテ河ヲ渡リ、堤上ニ於テ、屬邦ノ君「モスル」王及「バストラ」ノ「ゼンギ」等ニ迎ヘラレ、兵ヲ合セテ敵城「ヒラ」(Hilla)ヲ撃ツ。「ズベク」ノ軍兵數ニ於テ「カリフ」ノ軍ニ優リシモ、主トシテ「ゼンキ」ノ敏捷ナル策戰ノ爲メ、敗レタリ。稍後「ゼンキ」ハ「ハマダン」(Hamadan)ニ於ケル「セルジュク」系ノ「スルタン」。「ヤームド」ノ宮廷ニ到リ、間モナク甚富有ナル貴族「クンヅグリ」(Kundugly)ノ寡婦ト婚シ、一一二四年「バストラ」及「ワシト」ニ歸リ、苛政ヲ行フ「スルタン」。「マームド」ノ「カリフ」。「モステルシエド」ト戰フヤ、彼レハ「マームド」ニ加擔シテ援兵ヲ送り、其結果「カリフ」ヲシテ和ヲ請フノ已ムナキニ至ラシム。「スルタン」ハ此戰勝ノ後、居ヲ「バグダッド」ニ定メ、「ゼンキ」ヲ重用ス。一一二七年、彼レ「モスル」及「ジェジラ」(Jezira)ノ總督ニ命セラレ、十字軍ニ對スル同國防守ノ任ニ當リシカ、久カラスシテ「アレツボ」ノ城主トナリス。一一三一年「マームド

ド[死シ、繼位ニ關シテ烈シキ葛藤起レリ]。ゼンキ「[ダマスコ]ヲ奪ハムト謀ルコト四年ニ及ヒシカ成ラス。一一四四年彼レ、當時十字軍カ占領セル「エデツサ」[Edessa]ヲ圍ミ之ヲ陷レシカ、此大勝ノ後二年、一侍臣ノ手ニ殺サル。一子アリ「ヌル・エド・デン」[Nur ed din] 即チ是ナリ。

是ヨリ先キ、一一三二年「ゼンキ」[カラジヤ] [Karaja]ト戦ヒ敗レテ逃ケ「チグリ」[河畔]テクリト「[Tekrit]ノ城主「エユブ」[Eyub]ノ救フ所トナリシカ、彼レ決シテ之ヲ忘レス。一一三八年「エユブ」カ「テンクリト」城ヲ逐ハレ「モスル」ニ來リテ身ヲ「ゼンキ」ニ寄セシ間ニ、一夜「ゼンキ」一子ヲ得「エツスフ・サラル・エド・デン」[Essuf Salal ed din] 即チ「Saladin」ト名ツク。一年ノ後「ゼンキ」[「パールベク」[Balbek]ヲ取リ「エユブ」ヲ同地ノ總督トナス「サラヂン」カ九歳ノ時「ゼンキ」殺サレ、領ヲ二子ニ分ツ。即チ「セイフ・ウド・デン」[Seif ud din]、「モスル」ヲ「ヌル・エド・デン」ハ「シリヤ」ノ地ヲ獲タリ。

「ヌル・エド・デン」統治者トシテハ賢且正、軍人トシテハ勇且剛、而カモ斷乎トシテ回教ノ擁護ニ努メタリ。彼レハ「モスル」ト「アレツボ」ノ君主ニシテ「北シリヤ」ヲモ領セシカ「ダマスコ」ハ未タ其手裡ニ歸セサリシヲ以テ直「シリヤ」ニハ勢力ヲ有セス。當時「ダマスコ」ハ「セルジユク」系ノ最後ノ「スルタン」。「メジル・エド・デン」ア「バク」[Mejr ed din Ab-

バ]ノ治ムル所ナリキ。或ハ寧ロ、其宰相カ彼レノ委託ヲ受ケテ治メタリトイフヲ正シトセム。「ゼンキ」ノ死後「ダマスコ」ノ軍「パールベク」ヲ奪還スヘク入寇ス。「エユブ」和ヲ請ヒ、同市ヲ引渡シ、其代リニ同地方ニ於ケル十村ヲ受ケタリ。數年ノ後、彼レ「ダマスコ」軍ノ總指揮トナリ、一一五四年「ヌル・ウド・デン」カ「ダマスコ」ニ攻メ來リシ時モ尙其職ニ在リシカ、彼レノ兄弟「シルク」[Shirkah]ハ「ヌル・エド・デン」ニ仕ヘテ其下ニアリキ。「シリヤ」軍市ノ前ニ到ルヤ、「シルク」カ「エユブ」ニ交渉シタル結果、「エユブ」ハ舊友ノ子「ヌル」ニ同市ヲ引渡シヌ。カクテ「ダマスコ」ハ傳來ノ統治者ヲ失フコトトナリ、「メジル・ウド・デン」同市ヲ去リテ、ソノ代リニ當時ノ「バリ」[Balis]即チ今ノ「エメサ」[Emesa]ヲ受ケシカ、終ニ「バグダッド」ニ往ケリ。

是ヨリ先キ「ダマスコ」ハ地震ノ爲メニ痛ク破壊セラレタリシモ、「ヌル・ウド・デン」之ヲ修理回復シ己レノ首都トナシヌ。「ヌル」在位二十八年、其間ニ彼レハ城ヲ取ルコト五十以上ニシテ領内ノ各市ニ寺院及學校ヲ建テタリ。彼レハ政策上及宗教上ノ關係ヨリ「カイロ」ノ「ファチミド」系ヲ棄テ「アバシド」系ヲ庇護シタリ。蓋シ當時「カイロ」ニ於テハ將軍「ダルガム」[Dargham]ト宰相「シャウエ」[Shawer]トノ間ニ權力争ヒアリテ内訌甚シカリシカハ、彼レハ「カイロ」滅亡ノ時節到來シタリト考ヘシモノトス。

「ヌル」カ「ハラム」(Haram)ニ克チ「シリヤ」ノ多クノ城ヲ奪ヒタル年ノ翌年即チ一一六三年ノ初メ「シヤウエル」カ「カイロ」ヲ逐出サレテ「ダマスコ」ニ來リ「ヌル」ニ告ケテ曰ク「請フ我カ「ダルハム」ヲ討ツニ援ヲ與ヘヨ我レハ軍費ノ一切ヲ負擔スルノミナシス爾後埃及ノ收入三分一ヲ獻クヘシト」ヌル「夙ニ埃及ニ足場ヲ獲ムトノ志アリシモ直チニ之ヲ諾スルヲナサス漸ク次年ノ春ニ到リ勇敢ニシテ野心アル「エメサ」ノ總督「エツセド」エド「ヂン」シルク」ニ兵ヲ授ケテ埃及ニ攻メ入ラシメタリ「ダルハム」敗レテ死シ「シヤウエル」ハ舊ノ地位ヲ回復スルヲ得タリ然ルニ「シヤウエル」約ヲ履マサリシカハ「シルク」怒リ東部「シエルキア」(Serkia)ノ地及其首都「バルベイス」(Balbais)ヲ占領シタリ。

「シヤウエル」ハ奸譎ニシテ操守ナク己レノ友ニ對シ己レノ兵士ニ對シ否己レノ利益ニ對シテモ虛偽ヲ事トスル者ナリ彼レ「シルク」ヲ討タムト欲シ「アスカロン」(Askalon)ノ伯爵ニシテ「エルサレム」ノ王タル「アマリク」(Amalric)ヲ招キ十字軍ト結託スカクテ今ヤ「シヤウエル」ハ己レノ友ヲ敵トシ十字軍モ從來敵タリシ者ト同盟シ「アマリク」ト「ヌル」ヴド「ヂン」ハ互ニ埃及ニ於テ權力ヲ握ラムトシテ烈シク相爭ヒヌ。

「シルク」ハ「ベルベイス」ノ城ヲ固フシ奮闘三箇月ヨク之ヲ守リ「ヌル」ヴド「ヂン」兵ヲ率キテ「バレスチナ」ニ向フ之ヲ見タル「アマリク」ハ自國防守ノ爲メニ歸ラサル能ハス乃チ和議成リ兩軍埃及ノ地ヲ去ル。

然ルニ一一六七年「アマリク」大軍ヲ率キテ再ヒ埃及ニ向フ「ヌル」ヴド「ヂン」之ヲ聞キ直チニ「シルク」ヲ騎兵二千ニ將トシ埃及ニ送ル彼レ「ニル」河ヲ渡ルヤ否ヤ「アマリク」既ニ對岸ニ現レタリ「シルク」ハ「ギザ」(Giza)ニ「アマリク」ハ「フスタト」(Fostat)ニ陣ス「シヤウエル」ハ「アマリク」ト同盟ヲ結フ「アマリク」自ラ條約文ヲ草シ「カリフ」ニ裁可ヲ要求シタリ。

「シルク」同盟軍ノ勢ニ恐レ上埃及ニ退キシカ埃及ノ追フ所トナリシカハ轉シテ「ミニヤ」(Mina)ノ南數哩ノ地ニ戰ヲ交ヘ埃及兵ヲ破ル實ニ一一六七年四月十八日ナリ「シルク」克チ進ンテ「カイロ」ニ入ラムト欲セシモ兵餘リニ少カリシカハ「アレキサンドリア」(Alexandria)ニ退キ同地ニ軍ノ半ヲ留メテ「サラヂン」ヲ之ニ將トシ己レハ募兵ノ爲メ南方ニ進ミス敵忽チ來リテ「アレキサンドリア」ヲ圍ミ糧道ヲ絶ツ城中食乏シク將ニ降ラムトス會々「シルク」兵ヲ率キテ來リ救ハムトストノ報アリ未タ降ラス「シルク」カ「カイロ」ノ前ニ陣シ同市ヲ攻ム「アルマルリク」ハ「アレキ

サンドリヤノ圍ヲ解ク「シルク」モ「アルマルリク」モ共ニ埃及ヨリ撤兵スヘシトノ約ノ下ニ和議成ル。傳フル所ニヨレハ、此時埃及ノ收入ノ中ヨリ「シルク」ハ五萬「ヅカット」ヲ「アルマルリク」ハ其倍額ヲ受ケタリトイフ。而カモ「カイロ」ニハ「ヌル・エド・ヂン」ニ備フル爲メ十字軍ノ一將、大數ノ兵ヲ擁シテ留マリタリ。

然ルニ、平和ハ長ク續カサリキ。「アルマルリク」條約ニヨリテ受ケタル利益ニ甘ンセス更ニ其國ヲ支配セムトノ欲望ヲ起シヌ。偶々慈善團(Hospices)長「バルベイス」ニ同團ヲ扶殖セムトノ志アリ、ソノ爲メ既ニ同國ニ十萬「ヅカット」以上ノ負擔ヲ課シタリシカ、彼レ「アルマルリク」ニ埃及征討ヲ勸メシニヨリ、「アルマルリク」ハ一一六八年ノ冬ノ始メ兵ヲ率キテ埃及ニ入りヌ。

十一月「アルマルリク」、「バルベイス」ニ達シ、同市ヲ陥レ其住民ヲ殺ス。尋テ「カイロ」ヲ圍ミ、女子小兒等カ日夜ノ勞働ニヨリテ築キタル一壁壘ヲ毀ツ。同月十二日「シヤウエル」敵ヲ妨害セム爲メ命シテ、同市ノ最古キ部分「フスタト」(即チ普通「舊カイロ」ト稱セラルルモノ)ニ火ヲ放タシム。炎燒晝夜五十四日ニ及フ「カリフ」。「アダド」(Adad)再三急使ヲ「シリヤ」ニ遣ハシ、「ヌル・エド・ヂン」ニ急ヲ告ケ救ヲ求ム。封書中ニ妻妾ノ毛髮ヲ添ヘタリ。其狀恰モ「敵今正ニ我妻妾ノ毛髮ヲ引摺リツツアリ、來リ救ヘ」ト謂ハムト

スルモノノ如シ。

時ニ「ヌル・エド・ヂン」ハ「アレツボ」ニ「シルク」ハ「エメサ」ニアリキ。サレトモ勢力獲得ニ付テハ何時ニテモ機ヲ逸スルヲ好マサル「ヌル」ハ直ニ「シルク」ニ金二十萬「ヅカット」ヲ授ケ、急ニ埃及ニ赴カシム(一一六八年十二月)。「シリヤ」人ノ精兵六千「ダマス」ノ土耳其人ヨリ抜キタル者二千、之ニ從ヒタリ「サラヂン」モ伯父ニ促サレテ此行ニ加ハリヌ。

然ルニ、之ト同時ニ「シヤウエル」ト「アルマルリク」トノ間ニ談判アリ。後者ハ「カイロ」ヲ取ラント欲シ、前者ハ其圍ヲ解カムコトヲ望ム。「シヤウエル」ハ「カリフ」ノ名ニ於テ一百萬「ヅカット」ヲ與フルノ約ヲナシ、現金五萬「ヅカット」ヲ拂フ。「エルサレム」ノ王悦ヒ、十字軍退キシカ、其時恰モ「シルク」ハ「シリヤ」人ヲ率キテ「カイロ」ノ前ニ現ハレタリ(一一六九年一月)。「カリフ」直チニ其陣ヲ訪ヒ、「シヤウエル」カ十字軍ヲ埃及ニ入ラシメ、「フスタト」ヲ燒キ、國ヲ荒ラシタルヲ訴ヘ、「我レ自ラ「シヤウエル」ノ首ヲ獲ムト欲スルモ能ハサルナリ、汝我爲メニ之ヲ取レ」ト請ヒヌ。

己カ身ノ危険ヲ感シタル「シヤウエル」ハ、表面親和ヲ裝ヒツツ「シルク」ノノ甥「サラヂン」及隨行ノ諸王子ヲ、宴ニ招キテ、凡テ之ヲ殺サムト謀リシニ、謀漏レ、彼レ「シラ

ターヲ訪ヒシ時、捕ハレテ殺サレ、其首級「カリフ」ニ送ラレタリ。
 「シルクター」、「シャウエル」ニ代リテ宰相トナリ、「カリフ」之ニ「アル・メリク・アル・マンヌル」(Al Melik Al Mansur)「勝王」ノ意ノ稱號ヲ授ク。

二箇月ノ後、精シクハ三月二十六日「シルクター」死ス。其甥、當年三十一歳ナル「ユスツフ・サラール・エド・デ」(Yussuf Salah ed din) 同爵位、同稱號ヲ受ク。

「サラデン」ハ「カリフ」ノ宰相トナリ且「ヌル・エド・デ」ノ將タリ。カクテ彼レノ地位ハ一種特別ノモノナリ。即チ「シイ」派ノ「カリフ」ノ宰相ニシテ而カモ同時ニ「スン」派ノ王ノ將タルナリ。故ニ彼レハ、金曜日ノ公ノ祈禱ニ於テ「カリフ」ノ名ノ後ニ「ヌル」ノ名ヲ呼ハシメタリ。

「ヌル」ハ「フアチミド」系ノ「カリフ」ヲ廢スルノ時至レリト考ヘシモ、「サラデン」ハ人民ノ尙「アダド」(Adhad)「フアチミド」朝最後ノ「カリフ」ニ歸依スルヲ見テ逡巡セシニ、恰モヨシ「アダド」病ミテ死ス。「サラデン」乃チ爾來、祈禱ニ「フアチミド」系ノ「カリフ」ノ名ヲ呼ブラ廢シ「アバシド」系ノ「カリフ」ノ名ヲ呼ハシムルコトトナリヌ。是レ實ニ一一七一年九月十日ナリ。カクテ「サラデン」ハ西部「イスメイル」派ニ大打撃ヲ加ヘシカハ「アバシド」系ノ「カリフ」勢大ニ振ヒ、約三百年ノ間「イスメイル」派ニ擁護サレタル「アリ」ノ系

統衰微シタリ。

「サラデン」今ヤ「アバシド」系ノ勇敢ナル戰士トシテ立チヌ。此事東洋史ノ上ニモ、ハタ「アッサシン」派ノ歴史ノ上ニモ重大ナル意義アル出來事ナラスムハアラス。

「アッサシン」派ノ大管長「モハメツド」ハ「フアチミド」朝ノ倒レシ時ヨリ八年前ニ死シ「ハッサン」二世權ヲ握レリ。既ニ記シタル如ク「ハッサン」ハ父ノ存命中既ニ與黨ヲ増シ且、我レコソ「イマム」ナレトノ信仰ヲ傳播シタル者ナリ。彼レハ少時、多年哲學ト歴史トヲ學ヒ「イスメイル」派ノ秘法ヲ授ケラレシカ、今ヤ自ラ淫蕩放縱ヲ極メ、アテユル惡徳ヲ働クヲ憚ラサルノミナラス、他人ノ之ヲ行フヲ獎勵シ、以テ隱サス包マズ「イスメイル」派ノ秘事ヲ暴露セント欲シ、實ニ實際上同派ノ領袖等ノ罪惡ヲ宥スノミナラス、又講臺ニ於テ罪惡ノ宥サルヘキコトヲ説カン。爲メ「ヘギラ」(Hegira 教祖逃去)ノ第五百五十九年(即一一六三年)ノ「ラマダン」(Ramadan)月ニ於テ「ルドバル」(Rudbar)ノ住民ヲ「アラムト」ニ召集シ、同城ノ麓ニ一講臺ヲ「メツカ」ノ方ニ向ケテ据ヘ置キタリ。回教ノ教師ハ祈禱ノ時同地ノ方ニ向フヲ常トス。

「ハッサン」講臺ニ登リ新宗教ノ綱領ヲ宣説シテ曰ク汝等ハ直覺ニヨツテ神ヲ知ルヘキ時期ニ入レルヲ以テ律法ノ凡テノ束縛ヨリ解放サレタリ。汝等ハ最早凡テ

ノ命令ノ重荷ヲ脱シテ復活ノ日ニ會ヘリ、即チ「イマム」ノ出現ニ接セルナリ。今茲ニ汝等ノ前ニ立タル者、是即ソノ「イマム」ナリ。汝等ハ爾後、一日五回ノ祈禱ヲナスヲ要セス、又其他ノ宗教的儀式ヲ行フヲ要セス、且復活、地獄、天國等ノ教義ハ比喩ノ意味ニ解セサルヘカラスト。述ヘ終リテ臺ヲ下ル。衆、復活ノ日、即チ「イマム」出現ノ日ヲ祝スヘク、一大宴ヲ開キテ或ハ踊リ或ハ歌ヒ、或ハ酒ヲ飲ミ或ハ遊戯スルナト、アラユル娛樂ヲ縱ニシタリ。

「モラヒド」(Molahid)即チ墮落者ナル名稱ハ、從來「カルマト」派及其他重大ナル罪行者ニノミ附セラレシニ、「ハツサン」カ如何ナル事ヲナスモ許サルヘシト唱ヘタル時ヨリ後ハ、管ニ「ハツサン」ノ弟子ノミナラス、凡テ「イスマール」派皆此名ヲ受クルニ至レリ。同派ハ幾年ノ間モ其眞ノ教義ヲ隠シタリシカ今ヤ、大管長ノ口ヨリ、俄然之ヲ世ニ暴露シ、兇惡ト殺戮ト不道德トヲ主義トスル者ノ團體トナリ、カクテ、内部ヨリ崩壊スヘキ氣運迫リス。

「イスマール」派以爲ラク、宇宙ハ無始無終ナリ。其終リトハ其存在中ノ一期ノ段落ヲ意味スルニ過キスシテ、其後ニ他ノ一期來リ、其長サハ諸天體ノ運動及位置ニヨリテ定メラルヘシ。復活トハ、一期ノ終末ニ於テ人間カ神ノ前ニ現ハルルヲ謂フ。而

シテ、其時來レハ凡テノ宗教的働作モ終ヲ告クヘシ、何トナレハ己レノ行爲ヲ顧慮スルコトハ煩累ナレハナリト。

彼等カ第十七ノ「ラマダン」ニ於テ、饗宴及遊戯ヲ開催シタルハ「イマム」ノ出現ヲ祝スル爲ノミナラス、又實ニ其教説公示ノ日ナリシナリ。回教徒カ教祖ノ死去ヲ以テ紀元トナス如ク、「モラヒド」派ハ「イマム」ノ出現、即チ「ヘギラ」ノ第五百五十九年ニ於ケル第十七ノ「ラマダン」ヲ以テ紀元トナス。又回教徒ハ「モハメッド」ノ名ヲ言フ時必ス之レニ「祝福サレタル者」(The Blessed)ナル語ヲ附加スルヲ常トスル如ク、同派ニ於テハ「ハツサン」ノ名ニモ「其記憶ニ祝福アル」(Blessed be his memory)ナル語ヲ附加ス。大管長等ハ、己レヲ單ニ「イマム」ノ布教師又ハ前驅ト呼ビシモ「ハツサン」ハ自ラヲ以テ「イマム」トナシ、自ラ律法廢止ノ全權ヲ有スト主張シ、立法者トシテ人民ノ前ニ現ハレタリ。彼レカ、諸地ノ王ニ送リタル書ハ何レモ此精神ヲ示シタルモノナリ。彼レカ「タヒスタン」ノ大管長「レイス・モツサフェル」(Rais Mossafer)「ハツサン・ベン・サバー」ノ下ニ「イラク」ニ於テ大管長タリシ者ト同名異人ニ關シテ記シタル書ニ曰ク我レ「ハツサン」汝ニ聲明ス、我レハ地上ニ於ケル神ノ代理者ナリ。「モサフェル」ハ「クヒスタン」ニ於ケル我レノ代理者ナリ。同地ノ人々、彼レニ從フヘシ。彼レノ言ヲ我言トシテ聽

カサルヘカラスト。

「レイス」其住メルムミン・アバド (Mumin Abad) 城ノ中ニ一講臺ヲ建テ之レニ登リテ、右ノ書ヲ讀ミシニ人民喜ヒテ之ヲ聽キ、又講臺ノ下ニ一大宴ヲ開キテ踊リ飲ミ騒キ、アラユル方法ヲ以テ今回律法ノ束縛ヲ脱シタル悦ヲ發表シタリ。飽ク迄モ回教ニ忠實ナル少數ノ者ハ此教團ヲ去リシカ、其宗教ヲ信セス而モ此少數者ノ如キ決心ヲナス能ハサル者ハ留マリテ所謂「墮落者」ノ名譽ヲ擔ヒタリ。

カクテ、放蕩ト兇惡ト不義ト一切ノ禁制無視トカ一般ニ流行シ「イスメール」派ノ凡テノ講臺ニ於テ「ハツサン」ハ「モハメツド」ノ眞ノ後繼者ニシテ、待タレタル「イマム」ナリト説カレヌ。

サレト「ハツサン」ニ取リテハ「イマム」ノ權化トナルヨリモ兇惡ト不徳トノ教師トナル方更ニ容易ナリシナリ。

「ハツサン」己レヲ「イマム」ナリト衆ニ信セシムル爲メニハ己レノ「ファチミド」系ノ「カリフ」ノ子孫ナルコトヲ證明セサルヘカラスト。是ニ於テカ、彼レ、我レハ「ネサル」ノ子ニシテ「カリフ」、「モンスタンシル」ノ孫ナリト唱ヘ己レノ系圖ヲ捏造セシム、曰ク「モンスタンシル」治世ノ間、カノ「ハツサン・ベン・サバー」ハ「カイロ」ニ在リシカ當時ノ政争

ニ於テ其子「ネサル」ニ與ミシタル爲メニ、彼レハ、大將軍「ベドル・ジマリ」(Bedr Jinnai) ヨリ埃及退去ノ命ヲ受ケタリ「モンスタンシル」死シテ一年ノ後、其寵臣ナリシ「アブル・ハツサン・セイド」(Abul Hassan Seid)「ネサル」カ「ハツサン・ベン・サバー」ニ託シ置キタル「ネサル」ノ一子同シク名ヲ「ネサル」トイフヲ携ヘテ「アラムト」ニ往キシニ「ハツサン」尊敬ヲ以テ之ヲ迎ヘ、其「ネサル」ニ「アラムト」城附近ノ一村ヲ住所トシテ授ケタリ「ネサル」婚シ、一男兒ヲ得、其記憶ニ祝福アレト名ツク。其生レシ時「アラムト」ノ大管長「モハメツド」ノ妻モ亦一男兒ヲ生ム。乳母「ネサル」ノ子即チ其記憶ニ祝福アレヲ携ヘテ城中ニ入り、之ヲ「モハメツド」ノ子ト換ヘタルナリト。

人民此説明ヲ聞キ、満足セサルノミカ、却ツテ之ヲ虚トシテ嘲笑シタリ。依ツテ「ハツサン」ハ更ニ系圖ヲ變更セシメテ曰ク「ネサル」カ「モハメツド」ノ妻ト密通シタル結果我レ「ハツサン」生レタルナリト。蓋シ新宗教ニヨレハ、世ニハ善惡ナク、禁セラレタル何事モナケレハナルヘシ。

カクノ如クニシテ「ハツサン」ハ「ネサル」ノ子ナリト證明セムト試ミタル「イスメール」派ノ者ヲ、反對派ハ、呼ムテ「ネサリ」ト稱シタリ「ネサリ」トハ極メテ嘲笑ノ意味ヲ含メル語ナリ。

「イスメール」派カ勢力ヲ有シタル所ニハ何處ニモ不徳ト犯罪盛ニ行ハレ、從來「アツサシン」派ノ領袖ハ回教ニ有害ナル者ヲ除去スルコトニヨリテ宗教的義務ヲ果ス者ナリト信シテ之レニ從ヒ居タル同派ノ人々モ今ヤ荐リニ人民ヲ暴殺スルニ至レリ。

「ハツサン」二世其治世ノ第四年「ラムシル」(Lamsir)城ニ於テ己レノ義兄弟ニ刺殺サレヌ。

サレト「ハツサン」カ秘義ノ曝露ニヨツテ引起シタル葛藤ハ其死ニヨツテ鎮定サルルコトナク、其子ニシテ後繼者タル「モハメツド」二世ノ代ノ間ニ於テ愈々増加シタリ「モハメツト」二世先ツ父ノ讎ヲ報ユルカ爲メニ、カノ加害者「ナンヴェル」(Nanver)ヲ捕ヘ、處刑者ヲシテ斧ヲ以テ之ヲ斬ラシメ、尙其凡テノ親族、男モ女モ盡ク殺サレタリ。

「モハメツト」二世父ヨリモ猛烈ニ、放蕩犯罪、惡徳ノ教説ヲ唱道シ、又父ト同シク、己レヲ「イマム」ト稱シタリ。且ツ哲學ニ精通シタル彼レハ、斯學及其他ノ知識ニ於テ自ラ天下無雙ト考ヘタリ。彼レハ飽迄モ罪惡ニ耽リタル人ナリキ。其治世四十六年ノ久シキニ及ヒタリシモ、其間ニ於ケル「イスメール」派ノ消息ハ殆ント傳ハラス。

正統ノ回教徒ヨリ見レハ「アツサシン」派ハ賤陋ナル異端ノ群、無賴漢ノ集合ナルモ、實際上、同派ハ尙勢盛ニシテ侮ルヘカラサリシナリ「ルヤン」(Ruyan)ノ「ファクル・ウル・イスラム」(Fakhu ul-Islam)ハ該派ヲ背信ノ徒ト宣言シタル最初ノ法學博士ナリ。彼レ「カズグイン」ニ於ケル裁判(Fetva)ニ於テ此旨ヲ發表シタルカ「ルヤン」ニ歸ル途中、同派ノ手ニ斃レタリ「ライ」ニアリタル「ファクル・ウド・デン・ラシ」(Fakr ud din Rasi)モ神學博士ニシテ「イスラム」ヨリモ名聲高キ人ナリシカ、彼レハ其講義ニ於テ常ニ同派ノ凡テノ教説ヲ攻撃シ、終リニ「願クハ、神、彼等ヲ呪ヒ、滅ホシタマハムコトヲ」ト言ヒタリキ「イスメール」ノ大管長、己レノ部下一人ヲ「ライ」ニ送り、學生ニ扮シテ「ラシ」ノ講義ニ出席シ、機會ヲ窺ハシム。一日、カノ僞學生「ラシ」カ獨リ自宅ニ居ルヲ見、入りテ、戸ヲ閉チ、劍ヲ抜イテ彼レノ胸ニ擬ス「ラシ」戰慄シ、叫ムテ「コハ何事ソ」トイフ。僞學生「何故汝ハ絶間ナク「イスメール」派及其教説ヲ呪フコトヲスルヤ」トイフ「ラシ」我ハ爾後決シテソレ等ノ事ヲ語ラサルヘシ。我レ固ク之ヲ汝ニ誓フ」トイフ。僞學生「汝ハ此誓ヲ必ス破ルコトナキヤ」トイヒテ、充分ニ念ヲ押シ満足ナル答ヲ得タル後、劍ヲ鞘ニ收メテ曰ク、我レハ汝ヲ殺セトノ命ヲ受ケス。サレト若シ、カカル命ヲ受ケタリセハ我レハ決シテ汝ヲ宥ササルヘキナリ。我主ハ汝ニ好意ヲ有ス。我主ハ常人ノ言ニ對シ

テハ決シテ願慮スルコトナキモ汝ノ言ハ長ク人民ノ記憶ニ殘ルヘキヲ思ヒテ汝ノ言ニ注意スルナリ之レ我主自ラ我レニ告クル所ナリ我主ハ親ラ汝ヲ見テ敬意ヲ示サムト欲シ汝ノ「アラムト」ニ來ラムコトヲ望メリト。

「アラケ」ニ往クヲ欲セス、只沈黙ヲ守ルヘキヲ約シタリ。カノ僞學生、金三百「ミスカル」(Miskal)ヲ容タル一封ヲ出シテ、汝ハ毎年之レト同額ヲ授ケラルヘシ。尙我レハ「エマン」(Yeman)ノ上衣二領ヲ携帶シ來リ今、宿所ニアリトイヒテ去リス。此後「アラケ」先生、絶エテ「イスメール」派ヲ呪ハサリシカハ、或一學生其何故ナルカヲ問フ。先生答ヘテ曰ク彼等ノ論鋒極メテ銳利ナリ、イカテ呪フコトヲ得ムヤト。

「アルスラン・クシヤド」(Arslan Kushad)ノ一高山ノ頂ニ「カズグイン」ヲ距ル二時間程ニシテ一城アリ「イスメール」派、或夜、不意ニ之ヲ襲フ。同地ノ人民、カカル暴徒ノ近隣ニ在ルヲ憂ヒ、諸王ニ之ヲ除カムコトヲ歎願ス。容易ニ應スル者ナカリシカ、偶々「シエイク・アリ」(Sheikh Ali)ナル者アリ。漸ク「クワレスミヤ」ノ「スルタン」(「タガシ」(Tagash))ニ説キテ其諾ヲ得タリ「タガシ」同城ヲ圍ミテ之ヲ陥レ「イスメール」派ニ退却ヲ許シ、一小隊ノ守備兵ヲ山上ニ置キタリ。然ルニ包圍者去ルヤ直ニ「イスメール」派、夜ニ乘シ

テ、己等ノミノ知レル地下道ヲ經テ再ヒ城ニ侵入シ、盡ク守備隊ヲ殺シタリ。ヨツテ「シエイク・アリ」再ヒ「タガシ」ニ請フ「タガシ」親ラ兵ヲ率キテ到ル「カズグイン」ノ人民其軍ニ合シ、包圍スルコト二箇月ニ及ヒ「イスメール」派漸ク屈シ「若シ安全ニ立退ヲ許サルレハ、城引渡サム。且ツ、其際、我等二部ニ分レ、第一部カ安全ニ通行スルヲ得タルヲ見ハ、第二部次テ出テム。サレト、第一部カ安全ニ通行スル能ハサル時ハ、第二部ハ踏止マリテ戰フヘシトイフ。タガシ」之ヲ許ス。ヤカテ、第一部、城ヲ降り「スルタン」ニ禮シテ去リス。然ルニ、第二部ハ久シク待テトモ來ラス。終ニ、彼等ハ凡テ一隊トナリテ出テ去リタルコト判然セシカハ「スルタン」命シテ城ヲ毀タシメシニ「イスメール」派「シエイク・アリ」ニ報キント欲シ、彼レカ「メツカ」巡拜ノ歸路「ダマスコ」ノ或「モスク」ニ於テ刺殺シス。

當時「サラヂン」ノ敵「シリヤ」及埃及ニ於テ跋扈シツツアリキ。今其形勢ニ付テ記スル所ナカルヘカラス。

「カイロ」ニ「スルタン」ノ大宮殿アリ「ファチミド」系ノ者累代、茲ニ、埃及「シリヤ」及「アラビヤ」ヨリ集メタル富ヲ蓄フ「スルタン」死後「サラヂン」此宮殿ヲ取ルヤ、無價ノ寶石許多アルヲ發見シタリ。即チ、大ニシテ美ナル眞珠數個、長サ一指尺(九吋)厚サ一中指幅

アル綠玉石一個、黒檀ト象牙トニテ作レル家具、寶石ヲ鑲メタル金塗ノ箱許多等各種ノ物品ヲ網羅セリ。尙、宏大ナル圖書館アリ、或史家ハ、其藏書二百六十萬冊ナリシト傳ヘ、他ノ史家ハ、遙カニ少キ數ヲ記セリ。何レニシテモ、當時歐洲ニ於ケル最大ノモノナリシコトハ疑ナシ。

「サラヂン」是等ノ財物ノ中一部ハ將校連ニ、他ノ一部ハ「ヌル・エド・ヂン」ニ頒チ與ヘ其餘ハ賣却シテ十字軍討伐費及城壘「モスク」學校等ノ建築費ニ充テタリ。

又「カイロ」ニハ「サラヂン」ヲ敵トスル一黨興アリ、埃及ノ將校、宮殿ノ吏員「シリヤ」ノ將校等ニシテ、年尙少ナル「サラヂン」ノ急速ナル發展ヲ憎メル者等ヨリ成リテ甚有カナリシカ「サラヂン」ノ與黨モ、隆盛ノ勢アリ「ヌル・エド・ヂン」之ヲ見テ警戒スルナキニアラサリシモ、十字軍ト「ルーム」ノ「ヌルタン」ノアルアリ「サラヂン」ヲ「カイロ」ヨリ去ルコト能ハス。乃チ表面、彼レト親密ニシ而カモ裏面用心ヲ怠ラス「サラヂン」モ亦慎重ノ態度ヲ取リタルニ對シテ、ソノ「シリヤ」及埃及ノ統治者トシテノ敬意ヲ拂フト同時ニ、自己ノ地位ヲ安固ナラシメンカ爲メ、家族ヲ身邊ニ集メ、兄弟、甥、及其他ノ親戚ヲ將校トナシ且「カイロ」ノ城壘ヲ強固ニシタリ。

一一七三年六月「サラヂン」 「アタベグ」ノ命ニヨリ「カラク」(Karak)ヲ圍ム。然ルニ、既

ニ戰ハムトシテ兵ヲ整ヘタル時「ヌル・エド・ヂン」ノ「シリヤ」軍ヲ率キテ來リ攻メムトスルヲ聞キ、父ノ病ノ爲メト稱シテ急ニ「カイロ」ニ引返ヘシシカ、一一七四年彼レ己レノ兄「ツラン・シャ」ヲ遣ハシテ「エメン」(Emin)ヲ取ルヘク攻メシム。蓋シ「シリヤ」ノ「アタベグ」ニ攻メラレタル場合、同地ハソノ防禦ニ有利ナルヲ思ヒタレハナリ。

當時、同地方ハ、カノ背神者「カルマト」ノ部下ナル「アブデンネビ」ノ所領ニシテ、人民ハ彼レノ虐政ニ惱ミタリシナリ「ツラン・シャ」間モナク、克チ、同地ハ其後五十年以上「アバシド」系ノ者ノ手中ニアリキ。

一一七四年五月六日「ヌル・エド・ヂン」死シ、子「サリ」(Sali)繼ク、齡僅ニ十一歳、政ヲ自ラスル能ハス、宦官「グムシテギン」(Gumushegin)主トシテ監督ノ任ニ當ル。彼レハ「アレツボ」ノ「シリヤ」人ノ痛ク憎メル所トナリ、埃及ノ主トシテ大軍ヲ左右スルヲ得ル「サラヂン」ハ、自ラ欲セハ權力ヲ掌握スルコト能ハサリシニアラス。サレト彼レハ忠實ニ「サリ」ノ爲メヲ謀リ、直ニ令ヲ下シテ、金曜日ノ祈禱ニハ「ヌル・エド・ヂン」ノ子「エス・サリ」ノ名ヲ呼ハシメ、貨幣ノ上ニモ之ヲ刻セシメタリ。

サレト、葛藤ハ間モナク起リヌ「モスル」ノ王、機ヲ見テ盟ニ叛キ「エデツサ」ヲ取リヌ。十字軍ハ「ダマス」ヲ獲ムト欲シテ絶エヌ、同市ヲ脅カシ、只總督「イブン・アル・モカツ

デン] (Ibn al Mokadden) カ莫大ノ金額ヲ與ヘタル時ノミ之ヲ退キタリ。八月「グムシテギン」 「サリー」ヲ携ヘテ「アレツボ」ニ行ク。同地ニ於テハ、同地ノ兵ノ大將カ「サリー」監督ノ任ニ當リキ。サテ「ダマスコ」ノ人民、十字軍ノ既ニ近ツキ來レルヲ見且「アレツボ」ノ兵ノ侵撃ヲ恐レ「モスル」ノ王ニ援ヲ乞ヒシカ、拒絶セラレシカハ、轉シテ「サラデン」ノ力ヲ求ム。「サラデン」諾シ、急ニ兵ヲ提ケテ砂漠ヲ渡リ「ダマスコ」ニ入り、十一月二十七日、己レノ兄弟ヲ同地ノ總督トナシ、己レハ「アレツボ」ニ向ツテ出發ス。

彼レ同地ニ著シ、使ヲ「サリー」ニ遣ハシテ曰ク、我レノ「シリヤ」ニ在ルハ十字軍及「モスル」ツ「セイフ・エド・ヂン」ニ對シ諸市ヲ保護セムカ爲メナリト。總督ト「グムシテギン」門ヲ閉テ入城ヲ拒ミシカハ「サラデン」忽チ之ヲ圍ミ、揚言シテ曰ク我レハ我主ヲ救ハムト欲スルナリト。

是ニ於テ「グムシテギン」ハ「アッサシシ」派ニ頼ラムト欲ス。當時「シリヤ」ノ大管長ラ「シド・エド・ヂン」シナン (Rasid ed din Sinan) 「マツシアト」 (Massiat) ニ在リ「マツシアト」ハ「シリヤ」ノ「イスメール」派カ有セル諸城中ノ最堅固ナルモノナリ。

「シナン」ハ、博學ニシテ策略ニ富ミ、「アッサシシ」國ノ統治者中ノ最惡者タリ。當時、北「シリヤ」ノ山地ニ於テ大勢力ヲ有ス。「サラデン」ハ「アバシド」系「カリフ」ノ勇將ニシテ、將

來「カリフ」トナラムトスル勢アリ。サレハ彼レカ「アッサシシ」派ノ敵トナルハ自然ニシテ「シナン」カ喜ンテ「グムシテギン」ヲ援ケムトスルモ無理ナラス。況ヤ、若シ速ニ「サラデン」ヲ殺サハ莫大ノ金ヲ報キムトノ約アルヲヤ、依ツテ「サラデン」ヲ刺スヘク、忽チ部下三名ヲ送リタリ。然ルニ彼等「サラデン」ノ天幕ニ到リ現前ニ之ヲ見ナカラ其侍臣ニ殺サレキ。

恰モ此頃基督教徒ハ埃及軍ノ一部カ駐在セル「エメザ」ヲ攻ム。「サラデン」已ムナク「アレツボ」ノ圍ヲ解キテ「エメザ」ニ進ミ、市街及衛城ヲ奪ヒ、數日ノ後更ニ「パールベク」ヲ取レリ。

「モスル」ノ王ト其兄弟「サラデン」ノ成功ニ驚キ、己等ノ兵ヲ「アレツボ」ノ兵ト併セ「サラデン」ヲ討ツヘク進ム。一一七五年四月十三日「ハマト」 (Hama) ニ於テ會戰シ、聯合軍大敗潰走、敵軍追撃シテ「アレツボ」ノ門ニ及フ。

「サラデン」今ヤ埃及及「シリヤ」ニ於テ勢大ニ振ヒシカハ、自ラ王ト稱シ、父ノ名譽ノ爲ニ「エユブ」朝ヲ創立ス。十二箇月ノ後「モスル」ノ王再ヒ大舉シテ來リ攻ム。「サラデン」之ヲ「アレツボ」附近ニ迎ヘテ激戰ス。實ニ一一七六年四月二十二日ナリ。「モスル」ノ王敗レ、陣地ト兵ヲ失フ。

「サラデン」此勝利ノ後、ボサア [Bosaa]、マンビジ [Manbidji]、アザズ [Azaz]ノ三大城ヲ取レリ。但シ「アザズ」ノ陥落ニハ約一箇月ヲ要シタリシカ、其間ニ「サラデン」ハ、マタモ「アッサシン」派ニ襲ハルルコト三回ニ及ヒヌ。初回ニ於テハ小刀ヲ以テ頭部ヲ斬リ付ケラレシカ、「サラデン」カ敵ノ手ヲ握レル間ニ侍臣進ミテ之ヲ殺シタリ。次回及第三回ニ於テモ敵ハ成功セサリキ。

「サラデン」是數回ノ襲撃ニ懲リ、意ヲ決シテ「アッサシン」派ヲ撲滅セム、又ハ少クモ之ヲ「シリヤ」以外ニ放逐セムトス。一一七七年「モスル」ト「アレツボ」ニ對スル和議成リシ後、「サラデン」大軍ヲ率キテ「マツシアト」ヲ圍ム。同城ハ山頂ニアリ、深谷之ヲ繞リ、殆ント通路ナシ。回教ノ史家曰ク「サラデン」ノ伯叔父ニシテ「ハマト」ノ城主「シハブ・エド・ヂン (Shihab ed din)」サラデンニ請フ所アリ、ソノ斡旋ニヨリテ「シナン」ハ必ス今後「アッサシン」派ヲシテ「サラデン」ニ害ヲ被ラシムルコトナキヤウニスヘシトノ條件ノ下ニ和ヲ講スルコトトナリシカ、若シ此事ナカラムニハ「サラデン」ハ必ス此重要ナル「マシヤト」城ヲ取り、以テ「シリヤ」ニ於ケル「アッサシン」派ヲ根滅スルニ至リシナラムト。然ルニ他ノ史家ハ「サラデン」カ「シナン」ニ恐嚇サレタル結果、講和トナレルナリトシテ曰ク、一夜「サラデン」目覺ム。床ノ傍ニ「アッサシン」派特用ノ形ト大サヲ有スル温

カキ菓子若干アリ。其近クニ、一ツノ劔ヲ以テ留タル紙アリ。中ニ、恐嚇ト警告ヲ含メル文ヲ載セタルヲ見タリト。原因ハ如何ニモアレ、兎モ角モ「サラデン」ハ該城ヲ陥ルルコトナクシテ「ダマス」コニ退キ、同地ニ「ツラン・シヤ」ヲ留メ置キテ、己レハ二年間不在ナリシ「カイロ」ニ歸リシモノトス。

其後「サラデン」、「埃及」及「シリヤ」ニ於テ戰ヒ、十字軍カ占領セル幾多ノ大都市ヲ取リテ、回教徒ノ爲メニ聖地ヲ回復セシカ、「アッサシン」派ハ彼レヲ襲撃セサリキ。

上ニ記シタル如ク、一一三二年「モハメッド」三世「アラムト」ニ於テ毒殺セラレシカ、其一子「ジエタル・ウド・ヂン・ハツサン (Jedai ud din Hassan)」時ニ二十五歳ナリキ。彼レ幼ヨリ「アッサシン」派ノ行フ所ヲ好マス、之レニ反對セシカ、長スルニ及ヒ其反對ノ態度極メテ激烈トナリテ父子互ニ恐ルルニ至リ、父カ急死シタル時ハ嫌疑ヲ受ケタル程ナリキ。彼レ、新ニ大管長トナルヤ、我レ回教ノ眞ノ旨趣ニ復歸セムト宣言シ、凡テ「イスメートル」派ヲシテ我例ニ倣ハシムヘク、努ムルト同時ニ「バグダッド」ノ「カリフ」、「クワレスミヤ」ノ「シヤ」及「イラク」ノ總督ニ自己ノ改心ヲ告ケタリ。而シテ彼レノ此言、彼等ノ信スル所トナリシカ如シ。彼レノ母ト妻カ「メツカ」ニ巡拜シタル時、「バグダット」ニ於テ優待セラレ、其一行ハ他ノ巡拜者ノ前ニ進ミタルニ察スヘキナリ。彼レ

在位僅ニ十二年ニシテ死セシモ、其間ニ幾多ノ「モスク」及學校ヲ建テ又人民ニ真ノ宗教ヲ教ヘシムヘク幾多ノ學者ヲ招聘シタリ。カクテ、暫ラク殺戮ハ跡ヲ絶チシモ、ヤカテ彼レ毒殺セラレ其子「アライ・エド・ヂン・モハメツド」(Alai ed din Mohammed) 僅カニ九歳ノ身ヲ以テ繼キテ立チ、後宮ノ婦人政ヲ擅ニシ、「ジエラル」ノ作りタル法令毫モ行ハレサルニ至リテ、兇惡ト劔、再ヒ勢ヲ逞フシ、恰モ「ハツサン・ベン・サバー」ノ代ノ如クナリヌ。然ルニ「アライ・エド・ヂン」成年ニ達セムトスル頃精神ニ異狀ヲ呈セシカ、一人ノ進ムテ補佐者ノ必要ヲイフ者ナシ。嘗テ、一醫師、言之レニ及ヒシニ、忽チ鐵棒ヲ以テ粉碎セラレタリ。ソノ病、愈々昂進スルヤ暴行ノ狀言語ニ絶シタリシカト、侍臣ハ、彼レノ言動ハ凡テ神ヨリ出ツルモノナリト唱ヘキ。彼レ十八歳ノ時一子ヲ得タリ。名ヲ「ロクン・ウド・ヂン・クルシャ」(Rokn ud din Kurshah) トイフ。定メテ繼位者トス。

「イスメール」派「ロクン」ヲ未來ノ大管長ト見、其父ニ對スルト同一ノ尊敬ヲ拂ヒシカ「アライ」之ヲ怒リ、「ロクン」ヲ廢シテ、繼位者ヲ他ニ求メムト欲ス。然ルニ、既定ノ繼位者ハ變スヘカラストイフ者アリシカハ、彼レ愈々己レノ子ヲ惡ミ、之ヲ苦シメ惱マシタリ。「ロクン」遂ニ耐ヘス、己レト同シク父ニ對シテ不滿ヲ抱ケル侍臣ニ己レノ志ヲ披瀝シテ曰ク、我父ハ自國ヲ壞シツツアリ、蒙人、乘シテ之ヲ滅サム。我レ、父ヲ離レ、大汗ニ使ヲ遣ハシ同盟セムト欲スト。

重臣ノ中「ロクン」ニ賛成スル者多ク、何處マテモ援助シテ敵ヲ滅サム、但シ「アライ」ノミハ、其身神聖ナレハ、殺ス能ハスト約シタリ。然ルニ、此約ノ後間モナク「アライ」酒ニ酔ヒテ、羊小屋ノ傍ナル木造ノ家屋ニ眠リシニ「アライ」ハ平素、遊戯トシテ、羊ヲ牧スルヲ樂ミトシ、屢々彼處ニ到リシナリ、眞夜中頃、彼レノ首足處ヲ異ニシ、一土耳其人ト一印度人ト其傍ニ傷キ倒レ居タルヲ發見シタリ。

嫌疑ヲ受ケタル多クノ者ヲ拷問スルコト八日ノ後、漸ク加害者ヲ確ムルヲ得タリ。加害者ハ「マサン・デラン」(Masanderan) ノ「ハツサン」トイフ者「アライ」ノ最モ昵近ナル親友ニシテ、「アライ」カアラユル方法ヲ以テ苦シメナカラ尙且死スル迄愛シタル者ナリ。

「ロクン・ウド・ヂン」ハ「ハツサン」ヲ審問ニ附スルコトナク直チニ之ヲ殺シ且彼レノ死體ト同時ニ彼レノ二男兒ト一女兒トヲ燒カシム。勿論、此三子ニハ罪ナカリシモ秘密ノ洩レムコトヲ虞レシナリ。兎モ角モ「アライ」ハ己レノ子ノ雇ヒタル暗殺者ノ手ニ死セシモノトス。

「ロクン・ウド・ヂン」位ニ即キテ、先ツ臣民ニ回教ノ凡テノ勤行ヲ實修スヘキヲ命シ、尋テ、盜奪ト殺戮ヲ絶止スヘク謀リシカ、僅カニ一年ヲ出テスシテ蒙患到リス。「ロクン・ウド・ヂン」トイスメール派ハ之ヲ豫知スル能ハサリシモ、「アラムト」及ソレニ屬スル凡テノ者ノ運命ハ既ニ定マリシナリ。「フラグ」既ニ大汗ノ命ヲ受ケテ彼等ヲ滅ホスヘク進ミツツアリシナリ。

「ロクン・ウド・ヂン」一使ヲ「ハマダン」ニ在ル「ヤサウル」ニ遣ハシ降ヲ乞フ。「ヤサウル」曰ク「フラグ」王「恰モ」ベルシヤニ來レリ、須ラク之ヲ訪フヘシト。「ロクン・ウド・ヂン」己カ身ノ危カラムヲ慮リ、兄弟「シヤヒンシヤ」(Shahinshah)ヲシテ己レニ先チ往カシメムトイフ。「ヤサウル」之ヲ諾シ、己レノ子ヲ「シヤヒンシヤ」ニ伴ヒ往カシム。然ルニ、之レト同時ニ、彼レハ「ベルシヤ」兵及土耳其古兵ノ一團ヲ率キテ「アラムト」地方ニ侵入シ、一二五八年六月「アラムト」城ヲ攻ム。激戦ノ後撃退セラレ、怒リテ田野ヲ荒ラシタリ。是ヨリ先キ「フラグ」、「グガイルガ」(Guga Irga)ト「キタ・ブガ」(Kia Buga)トニ命シ「クヒスタン」征伐ヲ完了セシメタリ。「キタ・ブガ」ハ二年前ヨリ既ニ同地ヲ攻メ始メタルモ、其業遅々トシテ捗ラサリシニ今ヤ「グガイルガ」ノ援ケヲ得「ツン」(Tun)ヲ取り、若キ女ト小兒以外ノ凡テヲ殺スヲ得タリ。ヨツテ、二將ハ「フラグ」ニ合ス。

サテ「フラグ」「シヤヒンシヤ」ヲ陣營ニ迎ヘタル後、使ヲ「ロクン・ウド・ヂン」ニ遣ハシテ曰ク、汝ハ己レノ兄弟ヲ遣ハシテ和ヲ乞ハシメタルカ故ニ、我レハ汝ノ父ノ行ヒタル罪ヲ宥スヘシ。汝ノ城ヲ毀チテ我陣ニ來レ。我レハ汝ノ國ニ對シ何等ノ害ヲ與ヘサルヘシト。「ロクン・ウド・ヂン」乃チ、數城ヲ毀チ且「アラムト」、「メイムンヂズ」(Meymundiz)及「レムシユル」(Lemsher)ノ三城ノ門ヲ取外シシカハ「ヤサウル」ハ「イスメイル」ノ地ヲ去リタリ。然ルニ「ロクン・ウド・ヂン」カク「ヤサウル」ニハ服從シタルモ、「フラグ」ニ對シテハ、服從マテニ一箇年ノ猶豫ヲ乞ヒタリ。

「フラグ」再ヒ使ヲ「ロクン・ウド・ヂン」ニ遣ハシ、約束ト威嚇トヲ以テ己レノ許ニ之ヲ招カシム。使ノ歸ル時「ロクン」ハ父ノ從兄弟一名ト己レノ宰相「シエムス・ウド・ヂン」キレキ「(Shems ud din Kielek)」ヲ伴ヒ往カシメ「フラグ」ニ請フテ曰ク「アラムト」ト「レムシユル」ト「ラル」ノ三城ハ毀ツコトヲ宥サレタシ。但シ其他ハ凡テ引渡スヘシ。就テハ、服從ハ尙一年間猶豫セラレタシト。蓋シ、彼レハ冬來ラハ山地ニ於ケル凡テノ活動ノ不可能トナルヘキヲ思ヒタルナリ。

然ルニ時ニ恰モ「シヤ」ヂズ「(Shahdiz)」城ヲ取りタル「フラグ」ハ之ニ對シテ答ヘテ曰ク「ロクン」ハ自ら速ニ「デマベンズ」(Demabenz)附近ノ我陣營ニ來ルヘシ。若シ來ルニ付

キ準備ノ爲メニ、數日ヲ要スルトナラハ、己レノ子ヲ直チニ送ラサルヘカラスト。
「ロクン」此答ニ接シテ大ニ恐レ、更ニ書ヲ致シテ曰ク、今直ニ我子ト兵三百トヲ送ルヘシ又汝我國ニ侵入スルコトナクハ必ス諸城ヲ毀タムト。然ルニ彼レハ己レノ子ノ代リニ己レノ異母弟「クルデスタン」ノ女ヨリ生レタル者、年僅ニ七歳ナルヲ遣ハシタリ「フラグ」。「ロクン」ノ此奸計ヲ知リシモ故ラニ知ラサルマネシテ、カノ小兒ヲ親切ニ扱ヒ、送り還シテ曰ク、此者ハ餘リニ幼ナリ、第二弟「シヤヒンシヤ」ヲ送ルヘシト。「ロクン」乃チ「シヤヒンシヤ」ヲ送り、我レ自ラ往カムコトハ用捨アリタシトイフ。蓋シ其意ニ以爲ラク、ヤカテ冬到ラム。然ラハ城ニ據リテ、以テ、如何ナル敵ヲモ防クヲ得ムト。

「フラグ」再ヒ「シヤヒンシヤ」ヲ送り還ヘシテ曰ク、汝「メイムンチス」城ヲ毀テ、自ラ速ニ我レニ來ルヘシ。我レ必ス汝ヲ好遇セム。汝若シ來ラスハ、神ナラテハ知り能ハサル大事到ラムト。

「ロクン」又例ノ如ク往クヲ欲セス、種々ノ口實ヲ繰返ヘシヌ。「フラグ」聽カス、諸地ニアル己レノ兵ニ、一齊ニ「ルドバル」ニ攻メ入ルヘク命ス。右軍ハ「マザンデラン」ヨリ進ミ、左軍ハ「カル」(Khan)ノ附近ヲ過キテ「レムナン」(Lennan)ヲ越ヘ、中軍ハ「タレカン」(Taleken)

ノ大道ヲ往ク。「フラグ」中軍ニ在リ、「ロクン」兵三百ヲ派シテ之ヲ迎ヘシメシカ、「フラグ」陰ニ「カズウイン」附近ニ於テ是等凡テヲ殺サシム。「フラグ」。「メイムンチス」ニ達スルヤ、同城ノ周圍ヲ巡行一回シタル後、城中ニ告ケテ曰ク、「ロクン」ニハ降服ノ爲メ五日ノ猶豫ヲ與フベシ。彼レ若シ五日以内ニ降ラハ彼レモ彼レノ臣民モ何等ノ害ヲ受クルコトナカラム。此期滿ツレハ攻撃ヲ始ムヘシト。

城中ヨリノ答ニ曰ク、「ロクン」今不在ナリ。彼レノ許可ナクシテ何人モ降ルヲ得スト。蒙軍、ヨツテ直チニ戦闘ノ準備ヲナス。即チ木ヲ伐リテ近隣ノ山頂ニ運ヒ行キ、弩砲ヲ造リ、「フラグ」最高ノ地點ニ幕ヲ張リテ陣ス。翌日、攻撃既ニ始マリタル時、「ロクン」使ヲ遣ハシテ曰ク、今ハ「フラグ」王ノ居所知レタレハ茲ニ攻撃中止ヲ請フナリ。本日、若クハ明日、我レ自ラ王ノ陣ヲ訪フヘシト。次日、「ロクン」書ヲ以テ降ヲ乞ハムト欲シ宰相「アタウル・ムルク・ジュウエイニ」(Ata ul Mulk Juvaini)ヲシテ開城ヲ約スル文ヲ草セシム。然ルニ「ロクン」ノ弟之ヲ携ヘテ城ヲ出テムトスルヤ城内ノ激昂騒動甚シク、降服セムトイフ者ハ凡テ立所ニ殺サレムトスルノ狀勢ナリシカハ、事遂ニ中止ノ已ムナキニ至レリ。

「ロクン」己レノ困窮ヲ「フラグ」ニ告ク。「フラグ」、「徒ラニ危険ヲ冒スハ愚ナリ」ト答フ。

而カモ同時ニ弩砲ハ据ヘラレ、翌朝、八方ヨリ攻撃起リ、互ニ奮戦シテ夕ニ及フ。從來此季節ニ於テハ暴風及雪ノ爲メニ凡テノ山地ハ通行シ難カリシニ、當年ニ於テハ偶々此事ナク包圍攻撃ニ都合好カリキ、「ロクン」長ク城ニ居ルノ不可ナルヲ思ヒ、第四日ノ朝、己レノ子ト重立チタル者數名ヲ「フラグ」ノ陣ニ送り、更ニ翌朝自ラ到リテ「フラグ」ノ前ニ伏シテ憐ミヲ乞フ。彼レノ大臣ニシテ有名ナル天文學者ナシル「ウド・ヂン」(Nassir ud din)ト二名ノ大醫彼レニ伴ヒタリ。何ツレモ常ニ降伏ヲ勸メタル人々ナリ。

次日、蒙軍「メイムンヂズ」ニ進ム。「フラグ」ハ「ロクン」ヲ優待セシモ、蒙將數名ヲシテ彼ヲ監視セシメ、共ニ「イスメール」ノ諸城ニ到リ、彼レヲシテ、城將ヨリ城ヲ受ケ取ルノ任ニ當ラシメタリ。カクノ如クニシテ引渡サレタル強城四十以上、而シテ何ツレノ場合ニモ、城兵ノ撤退スルヤ直チニ盡ク破壊セラレタリ。最後ニ殘リシハ「アラムト」、「レムシエル」ノ二城ナリシカ、城將ハ何ツレモ「フラグ」自ラ來リ且「ロクン」カ引渡シヲ命スルニアラサレハ降ラスト主張シタリ。

「フラグ」、「アラムト」ニ向ツテ出發シ、途中シエヘレク(Sieherck)ニ寄り、留ルコト九日ニ及フ。同地ハ「ヂレム」(Dilem)系ノ王ノ舊都ナリ。其後「アラムト」ニ着シ、「ロクン」ヲ遣

ハシテ其民ヲ招キ降ラシム。城將聽カス。「フラグ」大兵ヲ派シテ城ヲ圍マシム。城兵屈シテ降ヲ乞ハムト欲シ、幾度モ「ロクン」ニ使ヲ送リテ己等ノ爲メニ仲裁ノ勞ヲ取リテ生命ヲ助ケラルヘキヤウ斡旋セムコトヲ願フ。

城兵カ己レノ所有品ヲ自ラ運フ爲メニ三日間ノ猶豫ヲ與ヘラレシガ、第四日ニ到リ、蒙人ト「ベルシャ」人侵入シ、殘レル凡テノ物ヲ取リタル後、建物ニ火ヲ放チタリ。傳ヘイフ。「フラグ」自ラ城ニ往キ周圍ノ山ノ高キニ驚キタリト。

「アラムト」ノ圖書館ハ其ノ地方ニ於テ有名ノモノナリシカ、史家ニシテ宰相タリシ「アタ・ウル・メリク・ジュウ・エニ」、「フラグ」ノ許ヲ得テ「イスメール」派ノ教説ニ關スル凡テノ原稿ヲ破壊シタリ。

有名ナル「アラムト」城ハ八六〇年ノ建築ニ係リ、地險ニシテ、設備堅且豊、眞ニ殺戮國ノ首城タルニ恥チス。城ニ續キタル岩ヲ掘リテ房ヲ作り、之レニ固體並流體ノ糧食ヲ貯フ。流體糧食中ニハ酒アリ、蜜アリ、醋アリ。傳ヘイフ、是等ノ貯藏品ハ、百七十年前即チ「ハツサン・ベン・サバー」ノ代ニ集メ置カレタル所ニシテ、場所ノ清潔ナルト其地方ノ山ノ空氣ノ新鮮ナルトニヨリ、毫モ變敗スルコトナク保存セラレタリト。濠ハ城ノ半ヲ繞リ「バヒル」(Bahir)河ノ水ヲ引キタリ。

「ベルシヤ」及「蒙古軍」ノ一蒙將「アラムト」城ヲ毀ツヘク命セラレ、多大ノ時ト勞トヲ費シテ之ヲナシ遂ケタリ。

尋テ「フラグ」、「レムシエル」ニ往キシカ、城主降ルヲ肯ンセサリシカハ、之ヲ取ルヘク一大部隊ト共ニ「マイル・ブガ」ヲ留メ置キ、己レハ本營ニ歸リ、八日ニ亘ル盛宴ヲ張リス。「ロクン・ウド・デン」、「フラグ」ニ從ツテ「ハマダン」ニ到リ、其處ヨリ、「シリヤ」ニ於ケル諸城ノ守將ニ、「フラグ」ノ使者ト共ニ己レノ使者ヲ派シ諸城ヲ蒙古人ニ引渡サシム。「ロクン」、「ハマダン」滯在中、賤シキ生レノ一蒙女ヲ戀慕ス。「フラグ」之ヲ與ヘテ婚セシム。カクテ「フラグ」、「ロクン」ヲ利用スルコトニヨリテ、若シ「イスメール」派ニシテ抵抗ヲ敢ヘテセハ尙數年ヲ支フヘカリシ諸城ヲ容易ニ奪取シタリシカ、既ニ用ヲ濟マシタル上ハ之ヲ亡キ者ニセムト欲シタリシモ、先キニ生命ノ安全ヲ保證セルヲ以テ公然約ヲ食ム譯ニモ行カス、モテ餘シ居タリシニ、偶々「ロクン」、「大江」、「マング」ノ宮廷ニ訪問シタキ由ヲ申シ出テタリ。但シ、コバ疑モナク、「フラグ」カ他ノ者ヲ通シテ熱心ニ慫慂シタル結果ナラスムハアラス。「フラグ」、「ロクン」ノ請ヲ許シ、一隊ノ蒙兵ヲ警護トシテ、己レノ部下九名ト共ニ「ロクン」ヲ「マング」ノ許ニ送リス。「ロクン」到ル。「マング」之ヲ見ルヲ欲セスシテ曰クカカル馬ヲ疲ラスノ外何ノ獲ル

所モナキ旅行ヲ「ベルシヤ」ノ官憲カ許スヘキ筈ナシト。「ロクン」ヨツテ、歸路ニ就ク。「ツング」(Tungat)山附近ニ達シタル時、護衛兵、彼レヲ從者ト共ニ斬リ殺シヌ。但シ「ラシド」(Raid)ノ言フ所ニヨレハ、彼レハ此歸路ニ於テ殺サレタルニアラス、蒙古ヘノ途上「マング」カ殺サシメタルナリト。

是ヨリ先キ、大汗「イスメール」派根絶ノ令ヲ下シシカハ「ロクン」ノ臣下ハ蒙古ノ各軍隊ニ配置、拘留セラレタリシカ、「ロクン」ノ蒙古ニ出發スルヤ、諸將更ニ命ヲ受ケテ、彼等ヲ盡ク殺シ、女子、小兒ト雖宥サレス、母ノ胸ニ抱カルル幼兒モ母ト共ニ命ヲ絶タレ。「ロクン」ノ子モ、親戚モ一人トシテ生キ殘リタルハアラサリキ。

「アツサシン」派ノ最後ノ統治者「ロクン」ハ實ニ歷史上最モ忌ムヘキ人物ノ一ニシテ、己レノ父ヲ殺サシメ、之レニ用キタル加害者ヲ、己レノ惡事ノ其口ヨリ漏レムコトヲ慮リテ審問ヲナサシメ殺シ且其屍體ヲ其子等ト共ニ燒キタリ。彼レハ己レノ權力ヲ、毫モ其擁護ニ努ムルコトナク放棄シタル上、己レノ生命ヲモ失ヒタルナリ。

第十三章 「カリフ」ノ破滅

「フラグ」既ニ「アツサシン」派ヲ滅シタリ。今ヤ「アバシド」系ヲ滅サムトス。一二五七年八月、彼レ一書ヲ當時「バグダット」ニ在ル「カリフ」¹「モスタツシム」(Mostassim)ニ遣ハシタリ。モスタツシムハカノ「シャール・モハメツド」ヲ滅スヘク「ジンギス」汗ヲ招キタル「ナシル」ノ孫ナリ。

同書ハ若干ノ前書ノ後、記シテ曰ク、拳ヲ以テ錐ノ尖ヲ擊ツコトナカレ、太陽ヲ燭火ト誤ルナカレ。速ニ「バグダット」ノ城壁ヲ毀テ其塹濠ヲ埋メ、暫ク政治ヲ子ニ委ネテ我許ニ來ルヘシ。汝若シ自ラ來ル能ハスハ、宰相ト「スレイマン・シャール」(Sulaiman Shah)ト尙書トヲ遣ハスヘシ。彼等我等ト詳ニ商議シ其結果ヲ汝ニ齎ラスヘシ。汝之ヲ正シク用キテ、我等ヲ怒ラシムルコトナカレ。我等若シ「バグダット」ヲ攻メムカ、汝、ダトヒ、地ノ底ニ隠レ又ハ天ノ頂ニ登ラムトモ、遂ニ我等ヨリ逃ルルコト能ハサルヘシ。汝、己レノ生命ヲ愛シ、己レノ家ノ安全ヲ欲セハ我等ノ言ニ聽クヘシ。然ラスハ、天ノ怒リ忽ニシテ到ラムト。

之ニ對スル返書ハ、毫モ恐怖又ハ謙遜ノ跡ヲ示サス。曰ク、汝、年若クシテ、十日ノ好運ニ氣誇リ眼眩ミ、自ラ宇宙ノ主ナリト思ヒ、己レノ命令ハ運命ノ決定ナリト考フ。汝ハ我レノ與フル能ハサルモノヲ要求ス。

東西ヲ問ハス、凡ソ神ヲ拜シ、眞信ヲ有スル者ハ盡ク我僕ナルコトヲ汝知ラサルカ。我レ若シ、願タニセハ、自ラ「イラン」ノ主トナルコト、能ハサルニアラス。我レハ「イラン」人ノ殘レル者ト共ニ「イラン」ヲ出テ、凡テノ者ヲ其眞ノ地位ニ置クコトヲ得ヘシ。サレト我レ、戰ヲ起スヲ欲セス。戰ハ凡テノ國民ノ苦痛ナレハナリ。我レ我兵カ我臣民ニ呪ハルルヲ願ハス、特ニ、我レハ「大汗」ニモ「フラグ」ニモ友ナレハナリ。汝、親誼ノ種ヲ蒔カムトナラハ、イカテ「バグダット」ノ城濠ニ付テ顧慮スルノ要アラム。請フ平和ノ途ヲ歩ムテ「コラツサン」ニ歸ラムコトヲト。

使者三名此返書ヲ携ヘテ「フラグ」ノ使者ト共ニ出發セシカ「バグダット」ノ城外ニ於テ人民ノ一大群、彼等ヲ嘲罵シ、彼等ノ衣服ヲ裂キ、彼等ノ面ニ唾キシ、彼等凡テヲ殺サムトセシカ、城兵急ニ突出シテ、彼等ヲ救フヲ得タリ。

サテ「モスタツシム」ノ峻烈ナル答辭ニ接シタル「フラグ」使者ニ告ケテ曰ク、「カリフ」ハ弓ノ如ク曲レリ。我レ之ヲ矢ノ如ク直クセムト欲ス。天ハ地ノ此國ヲ「ジンギス」汗ト其子孫トニ與ヘタリ。汝ノ主ハ此權力ニ對シ服從ヲ拒ムカ故ニ今ハ唯戰アルノミト。

「モスタツシム」如何ハセムト宰相ニ問フ。宰相ハ手厚キ禮物ヲ贈ルニ若カストシ

テ曰ク「カリフ」ヲ擁護スル爲メニ費スコトニ優リタル富ノ使用法ハアルヘカラスト。

尙書ハ宰相ニ反逆ノ意アルヲ答メ且ツ曰ク我等「バグダット」ヨリ出ツル凡テノ道ヲ保テリ。若シ敵ニ禮物ヲ送ルコトアラハ我等之ヲ奪フヘシト「カリフ」宰相ニ告ケテ曰ク汝ノ患ハ根據ナシ。蒙古人ハ單ニ我等ヲ嚇スニ過キス。彼等若シ敢ヘテ攻メ來ラハ彼等自ラノ破滅トナラムノミト。

總大將スレイマンシャー等急ニ宰相ノ許ニ赴キ「カリフ」ヲ難シテ曰ク「カリフ」ハ遊戯舞蹈ニ耽リ、武備ニ意ナシ。快速ナル處置ヲ取ラスハ敵忽チ門ニ到リ「バグダット」ハ蒙害ヲ被ルコト他ノ諸市ノ如ク、高キモ卑キモ、富メルモ貧シキモ盡ク屠ラレム。我等ハ大軍ヲ集ムルヲ得ヘシ。我等ハ凡テノ道ヲ保テリ。我等敵ヲ撃ツテ之ニ克タムト欲ス。サレト、武運拙クハ名譽ノ戰死アルノミト。

「カリフ」之ヲ聽キテ意氣振フ。乃チ宰相ニ兵ヲ集メテ「スレイマン」ヲ援ケ、全力ヲ舉ケテ「バグダット」ヲ固守セヨト命ス。宰相命ニ從ヒ兵ヲ集メシモ、ソノ集ムルヤ極メテ遅々、五箇月ノ後漸ク準備成リ、「モスタツシム」亦甚惰慢ニシテ必要ナル貨幣ヲ支給セサリキ。蒙古ノ間諜、凡テノ事情ヲ探知シ、目下「フラグ」ノ進來ヲ喰ヒ止メ又ハ之

ヲ不意ニ襲撃スルヤウノ機ナキヲ認メタリ。

「カリフ」再ヒ使ヲ「フラグ」ニ遣ハシ、「アバシド」家ハ永遠ニ亡フルモノニアラサルカ故ニ之ヲ攻ムルハ徒勞ナリ。古來、神聖ナル我家ニ敵對シタル者ハ凡テ自ラ破滅ヲ招キタリトシテ其幾多ノ例ヲ舉ケ、特ニカノ「シヤ」モハメツト「カ裏海」ノ一島ニ於テ慘死ヲ遂ケタルカ如キ最近ノ實例ナリ。汝若シ彼等ノ如キ企圖ヲ有セハ須ラク彼等ノ運命ヲ記憶セサルヘカラスト警告シタリ。

「フラグ」此種ノ警告ニ對シテハ殆ント何等意ニ介スルコトナク、大都市包圍ノ準備ヲナス。彼レノ本陣ハ「ハマダン」ニアリ、而シテ「バグダット」ヲ取ラムト欲ス。故ニ第一著手トシテ兩地ノ間ノ凡テノ通路ヲ占有スルノ要アリ。然ルニ左軍ノ進ムヘキ一路ハ諸山ノ間ニアリテ高ク位置シ四時雪ヲ絶タス「ダリタン」(Daritang) 城ハ是困難ナル地方ニアリテ、一狹路ヲ有シ「アラビヤ」ノ「イラク」ヲ衛レル要塞ナリ「タリタン」ノ城將、名ヲ「アケ」(Ake) トイフ。彼レ、屢々「カリフ」ニ惱マサレ不平ナリ「フラグ」利ヲ以テ彼レヲ誘ヒ其城ヲ渡サシメムト謀リス。

「アケ」一時ハ心動キシモ、ヤカテ悔ヒ、一友ヲ「バグダット」ニ遣ハシテ敵ノ計畫ヲ告ケ且ツ曰ク「カリフ」若シ精銳ナル騎兵一隊ヲ我レニ送ラハ我レハ「クルド」人及土耳其

古人ヨリ良兵十萬ヲ集メ、是等ヲ併セテ以テ蒙軍ヲ喰ヒ止メ蒙軍ヲシテ「バグダツト」ニ進ム能ハサラシムルヲ得ムト。然ルニ「カリフ」之ヲ聽カサリキ「フラグ」詳ニ此事ヲ知り、慄慄ナル騎兵一隊ヲ遣ハシ城下ニ到リ、商議ノ爲メニ「アケ」ヲ招ク。「アケ」出テテ接ス、忽チ之ヲ捕ヘテ曰ク汝、己レノ生命ヲ救ハムト欲セハ汝ノ人民ノ凡テヲ呼ヒ出スヘシ。我等ハ人口ヲ調査セムトスルナリト。「アケ」言ニ從ヒ人民ヲ呼ヒ出セシカ蒙人又曰ク汝、忠直ナラハ須ラク城ヲ毀ツヘシト。「アケ」今ハ先キノ事ノ漏レタルヲ悟リシカト、尙ホモ温順ニ命ニ從ヒ城ヲ毀テシニ、ヤカテ、彼レハ部下ノ凡テ及家族ト共ニ殺サレタリ。只一子「エミル・サーイド」(Emir Said) 逃レテ山地ニ彷徨シ、終ニ「バグダツト」ニ到リシカ、マタ、殺サレタリ。

「フラグ」、「ダリタン」ノ道路ヲ占領スルヤ、先キニ、兄ナル大汗ヨリ與ヘラレタル星占者ヲ招キ、各種ノ行動ニ對シテ吉日ヲ撰ハシム。宗教上「カリフ」ノ味方ニシテ、又恐ラクハ「カリフ」ヨリ依頼ヲ受ケタル彼レ星占者ハ、若シ蒙古人カ回教ノ首都ヲ圍ムコトアラハ六個ノ大災禍起ルヘシト豫言シタリ。「フラグ」、「シイ」派ニ屬スル「アラムト」ノ星占者「ナシル・ウド・ヂン」(Nasir ud Din) ヲ召シ問フテ曰ク、是等ノ六災事眞ニ起ルヘキカ。答ヘテ曰ク、慥ニ其一ツタニ起ラサルヘシ。問フテ曰ク、然ラハ何事カ起ルヘ

キ。答ヘテ曰ク「バグダツト」ハ「フラグ」ノ取ル所トナラムト。後「ナシル」先キノ星占者ニ會ヒ、從來ノ「カリフ」ニシテ、人類ニ禍ヲ齎ラスコトナク殺サレタル者「ナキニアラス」トイヒテソノ名ヲ擧ケ、彼レノ説ヲ破リス。

「フラグ」蒙軍ニ「バグダツト」進撃ヲ命シ、部署ヲ定ム。「ルーム」及西部ニアル兵ハ「モスル」ヲ過キテ「バグダツト」ノ稍西方ニ到リ陣セシム。之ヲ右軍トス。左軍ハ「ダリタン」附近ノ道ヲ經テ進ミ、同都ノ北東ニ陣セシム。「フラグ」ハ自ラ中軍ニアリ、道ヲ「ヘウルワ」(Heulwan) ニ取ラムトス。是レカノ「モハメツト・シャ」カ災禍ヲ受ケタル地點ナリ。「エツセツド・アバド」(Essed Abad) 新ニ使ヲ「カリフ」ニ遣ハシ、本營ニ來訪セムコトヲ求ム。「カリフ」之ヲ拒絶ス、但シ「フラグ」若シ凡テノ兵ヲ撤退セハ年貢ヲ納ルヘシト告ク。「アバド」今ハカク近ツキタレハ「カリフ」ニ見エスシテ退ク能ハスト答フ。然ルニ「アバド」未タ進マサル中ニ「フラグ」再ヒ使ヲ遣ハシテ宰相ノ尙書ト共ニ來ラムコトヲ求メタリ。

此間ニ、蒙兵ハ「ルリスタン」(Luristan) ノ大部分ヲ取りヌ。右軍カ「チグリス」河ノ南岸ニ近ツキタル時、同地方ノ人民大恐慌ヲ起シ、群ヲナシテ「バグダツト」ニ逃走シタリ。狼狽ノ結果、急ニ河ヲ渡ラムトシテ落チ溺死シタル男女少カラス、又金貨腕環ナト

手ニ握リ得ル品物ヲ惜シケモナク渡守ニ與ヘタルモアリキ。

サテ「ヘウルワン」ノ道路ニ兵ヲ擁セル尙書ハ將軍「フエト・ウド・ヂン」(Feth el Din)ト共ニ上記ノ蒙古ノ右軍ト會戦スヘク進ミ、其先鋒ヲ撃チテ之ヲ散ラシ、更ニ本隊ヲ突ク。勝敗決セス夜ニ入ル。蒙軍「チグリ」河ヲ決シテ、水ヲ敵ノ背後ニ溢レシメ、退却ヲ困難ニス。拂曉、マタ激戦アリ、「バグダッド」軍大敗シ、兵ヲ失フコト算ナシ。尙書、殘レル僅少ノ兵ト共ニ「バグダッド」ニ逃レ到ル。此時漸ク「カリフ」ノ參謀、防禦ノ設備ヲ堅クスルニ著手ス。數日ノ後蒙古ノ右軍「チグリ」河ノ西岸ニ達シ、「フラグ」百ヲ同市ノ東側ヲ攻撃ス。之ヨリ先キ尙書ノ逃ケ歸リタル時「カリフ」ハ直チニ宰相ヲ當時ノ「ネストリヤ」派ノ管長ト共ニ「フラグ」ノ本營ニ遣ハシテ曰ク、我レ、汝ノ要求ヲ容レタリ、願クハ先キニ約シタル所ヲ忘レサラムコトヲト「フラグ」答ヘテ曰ク、我レノ要求ヲナシタルハ我レノ「ハマダン」ニ在リシ時ノ事ナリ。當時我レハ宰相ト尙書ヲ見ムコトヲ望ミタリ。然ルニ、我レ今、既ニ都門ニ在リ。我望ム所、先キニ望ミシ所ト同シキコト能ハサルヘシト。

次日、宰相、内務大臣及市民中ノ重立チタル者等、一體トナリテ「フラグ」ノ許ニ到ル。「フラグ」接見セス。更ニ攻撃ヲ始メ、六日間ニ及ヒ、東方ノ壁壘全部ヲ奪取ス。城民逃ケ

ムト欲スルモ、河ノ流レ急ニシテ上ルコトヲ得ス又下ルコトヲ得ス。尙書亦逃去ヲ企テシニ、石、熱油、矢、襲ヒ來リ、已ムナク退キシカ、時ハ既ニ、彼レノ船三隻奪ハレ、其中ノ人々殺サレタル後ナリキ。

「カリフ」今ヤ蒙古ニ屈セサルヘカラサルヲ知リヌ。而シテ例ノ愚ナル仕方ヲ以テ屈シヌ。即チ彼レ、二名ノ者ヲシテ餘リ多カラヌ又尊カラサル禮物ヲ携ヘテ「フラグ」ニ往カシメタリ。コハ、餘リ多ク又ハ尊キ物ナルトキハ蒙古人ハ彼レヲ卑怯者ト考ヘ且愈々多クヲ求メムトスルヲ恐レタルナリ。「フラグ」是等ノ使者ニ謁見ヲ許サザリキ。ヨツテ「カリフ」已レノ末子ト「サヒブ」ノ「ヂワン」(Sahib Divan)ヲ送ル。此回ハ禮物豊ナリシモ「フラグ」ハ前回ト同シク謁見ヲ許サス。ヨツテ「カリフ」ノ長子ト元老ト往キシカ、マタ、徒勞ナリキ。次日「フラグ」使者二名ヲ「バグダッド」ニ遣ハシテ曰ク「スレイマン・シヤ」ト尙書ト來ルヘシ「カリフ」來ルト否トハソノ意ニ任セムト。二人來ル「フラグ」之ヲ「バグダット」ニ送り還ヘシ、ソノ知レル凡テノ人々ニ「汝等皆シリヤ」ニ連レ往カルヘシ而シテ門ハ妨ケナク通行スルヲ得ヘシト告ケシム。カクテ多クノ人民「バグダット」ヲ出テシカ、皆捕ヘラレテ蒙古ノ各軍ニ配送セラレタル後盡ク殺サレタリ。尙書、最初ニ殺サレ、尋テ「スレイマン」兩手ヲ縛セラレテ「フラグ」ノ面前ニ送ラル。

「フラグ」は汝ハ星占ニ通セル者、何故ニ來ルヘキ運命ヲ豫見シテ汝ノ主ニ相當ノ注意ヲ與ヘサリシヤト問フ。「カリフ」ハ運命ニ縛セラレ、我忠言ニ耳ヲ聽ケスト答フ。「スレイマン」其一家ト共ニ凡テ殺サル、其數七百。尙書ノ子モ亦他ノ者ト共ニ殺サレタリ。最後ニ「カリフ」ハ其三子、高級ノ官人及其他凡テ三千人ト共ニ「バグダット」ヨリ「フラグ」ノ前ニ到リシカ、「フラグ」ハ慇懃ニ安否ヲ問ヒタル後、「汝ハ「バグダット」ニ歸リ往キテ、市民ニ武器ヲ棄テテ來リ、人口ノ調査ヲ受クベシト告ケヨトイフ」モスタツシム」命ノ如ク、歸リ往キテ、凡テ生命ヲ助ケラレムト願フ者ハ武器ヲ棄テ蒙軍ノ陣地ニ到ルヘシト告ケシカハ、兵士モ兵士ナラサル者モ群ヲナシテ市ノ門ヲ出ツ。彼等、門外ニ於テ盡ク殺サレ、唯「カリフ」ト其子トハ蒙古ノ左軍ニ送ラレ嚴重ニ監禁セラレヌ。此時、回教法王ハ自己ノ運命ヲ明カニ察スルヲ得タルナルヘシ。

三日ノ後、「バグダット」ノ劫掠始マリヌ。蒙人、八方ヨリ一齊ニ侵入シテ強奪シ、只基督教徒ト僅少ノ外國人ノミ害ヲ免レタリ。劫掠ノ第二日、「フラグ」ハ市内ノ宮殿ニ到リ諸將ヲ會シテ宴ス。宴ノ終ル頃、「カリフ」導カレテ「フラグ」ノ前ニ立ツ。「フラグ」曰ク汝ハ此家ノ主ニシテ我レハ客ナリ、請フ、汝ノ所有品中我レニ適當ナル贈物トナルヘキモノヲ示セト。

「カリフ」美衣二千着、金一萬、デナルノ外多クノ寶玉ヲ所有セシカ、「フラグ」ハ此等ヲ見ルヲ欲セスシテ、曰ク此種ノ物ハ我部下能ク之ヲ發見スルヲ得ヘク、且ツ彼等ニ與フヘシ。我レハ秘藏ノ寶物ヲ見ムコトヲ願フト。「カリフ」庭内ノ某地點ニアリトイフ。直ニ人ヲ派シテ之ヲ掘ラシメシニ、二ツノ池アリテ、中ニ一片百「ミスカル」(Missal)ヲ價スル金貨滿チタリ。尙蒙人、宮殿ノ各所ニ於テ金銀ノ器具ヲ數多發見セシカ、彼等ハ之ヲ恰モ銅製又ハ錫製ノモノノ如ク取扱ヒテ、尊重スルコトヲ知ラサリキ。

「フラグ」次キニ後宮ヲ數ヘシム。妃及婢合セテ七百人、外ニ宦官一千人アリ。「カリフ」ハ是等ノ未嘗テ日光モ月光モ見タルコトナキ婦女ヲ與ヘラレムコトヲ請フ。「フラグ」百人ヲ與フルヲ許ス。「カリフ」親戚ノ者ヲ撰ヒ取リテ宮外ニ去ラシム。「フラグ」ハ「カリフ」ノ凡テノ財寶ヲ取リテ己レノ天幕ノ周圍ニ堆積シタリ。蓋シ其一部ハ實ニ「アバシド」系ノ者カ五百年ノ間ニ人民ヨリ取上ケタル所ニ係レルナリ。

劫掠七日七夜、打續キ、其間ニ殆ント凡テノ「モスク」燒カレタリ。數名ノ使者來リテ「フラグ」ニ生命ヲ赦サレムコトヲ乞フ。「フラグ」之ヲ許サハ利スル所アルヘキヲ思ヒ、之ヲ許セシカ、コハ、既ニ八十萬ノ生靈ヲ殺シタル後ナリキ。潛匿シ居リタル者今ヤ安全ニ出テ來ルヲ得タリ。サレト其數少ク、且ツ見ルサハ憐ヲ催フス姿シタリ。基督教

徒ノ多クハ防備堅固ナル一寺院ニ集マリテ、死及其他ノ害ヲ免ルルヲ得タリ。蓋シ「ネストリヤ」派ノ管長ノ力ニ負ヘルモノトス。僅少ノ富メル回教徒モ己レノ財寶ヲ該管長ニ保管ヲ託シ、尙生延ヒンコトヲ望ミシカ、豫期ニ反シ盡ク殺サレタリ。

「バグダット」ノ空氣汚レテ厭ハシカリシカハ、「フラグ」同市ヨリ少シ隔レル「ワカフ」(Vakaf) 村ニ退キ「カリフ」ヲ召ス「カリフ」震慄シ「イブン・アルカミヤ」(Ibn Alkamīya) ニ救ヒノ道ナキヤヲ問フ。宰相答ヘテ「我髯長シ」トイフ。蓋シ「アラビヤ」ニ髯長クシテ、智短カシ「諺」アリ、暗ニ尙書ヲ嘲レルナリ。「カリフ」ト其長子ハ各草囊ニ包マレ馬蹄ノ下ニ蹂躪セラレテ死シ「カリフ」ノ侍臣等亦種々ノ方法ヲ以テ殺サレ、尙翌日「カリフ」ノ末子及「アバジド」系ノ凡テノ者殺サレタリ。

「モスタツシム」ハ第三十七世ノ「カリフ」ニシテ、其母ハ「エチオビヤ」人ナル奴隸ナリキ。其死セシハ一二五八年二月二十一日、齡正ニ四十六、治世ノ第十五ナリキ。「フラグ」新ニ諸ノ高官ヲ任命シタリシガ、老宰相「イブン・アルカミヤ」ハ舊ノ地位ヲ保ヲ得タリ。新官ノ中、注意ニ値スルハ只一人アルノミ。「バグダット」ノ東方ノ一地及其附近ノ知事「ベン・アムラン」(Ben Amran) 即是ナリ。彼レ「モト」「ヤクバ」ノ總督ニ仕ヘテ其僕タリシカ、一日、催眠ノ爲メニ總督ノ蹠ヲ摩シツツアリシ時、彼レ自ラ眠リ始メタリ。總

督、彼レヲ呼ビ覺マシタルニ、彼レ「不思議ノ夢ヲ見タリ」トイフ。如何ナル夢ソト問フ。「モスタツシム」ト「カリフ」ノ職位亡ヒテ我レ「バグダット」ノ總督トナレルヲ見タリ」ト答フ。總督、方ヲ籠メテ蹴リシカハ、彼レ後ロニ倒レタリ。後「バグダット」包圍ノ際、彼レ同市ニ在リ。蒙軍ノ糧食乏シキヲ聞キ、一書ヲ矢ニ束ネ、壁壘ヲ超ヘテ蒙軍ノ中ニ射ル。書ニハ「フラグ」若シ價値アル情報ヲ獲ムト欲セハ「ベン・アムラン」ヲ招クヘシ」ト記シタリ。「フラグ」之ヲ讀ミ、「アムラン」ヲ招キシカ、暗愚ナル「カリフ」ハ彼レノ出城ヲ許シタリ。「アムラン」ハ「フラグ」ヲ見テ、糧食ノ大貯藏アルヲイフ。「フラグ」ハ全ク其言ヲ信シタルニアラサルモ、一吏ヲ遣ハシテ彼レト共ニ往カシム。彼レ「ヤクバ」附近ノ穴倉ニ到ル。蒙兵ノ凡テヲ半月間支フルニ足ル程ノ小麥ヲ獲タリ。カクテ「フラグ」ハ故障ナク包圍攻撃ヲ續クルヲ得タリ。「アムラン」カ知事トナサレタルハ蓋シ此叛逆ノ賞タリシナリ。

「イブン・アルカミヤ」モ亦落城ノ前後ニ於テ叛逆ヲナシタル者ニシテ、學校ノ教科書中ニハ久シキ間「イブン・アルカミヤ」ヲ呪ハサル者ハ神ニ呪ハルヘシ」ノ句アリキ。「カリフ」ノ死後ノ直次ノ金曜日ニ各所ニ於テ行ハレタル祈禱ニ曰ク、至高ノ存在ヲ破壊シ、此處人道ニ住メル者ヲ滅ホシタマヒタル神ハ讚ムヘキカナ。オオ、神ヨ、回教

ニ於ケル空前ノ惱ミニ惱メル我等ヲ助ケタマヘ。サハレ我等ハ神ニ屬シ神ニ還ラムト。

サテ、今ヤ「バグダッド」ノ主トナレル「フラグ」ハ「ウレマ」博士團ニ一問題ヲ呈出シタリ曰ク行ノ正シキ不信者ト行ノ正シカラサル回教信者ト統治者タルニ於テ何レカ可キト集レル「ウレマ」答フル所ナカリシカ、遂ニ衆ニ尊ハレタル賢人「ラジ・ウド・ヂン・アリ」(Raji ud din Ali)書シテ曰ク、正シカラサル信者ヨリモ正シキ不信者ヲ優レリトスト。凡テノ「ウレマ」之ニ署名シタリ。

「ベルシヤ」灣ヨリ「バグダッド」ニ到ル凡テノ地ハ「フラグ」ニ服從セシカ、服從セシ者ノ行動ト運命ニシテ吾人ノ注意ヲ値スルモノナキニアラス。「ヘゼラス」(Heras)ノ子「テゲレ」(Teghele)ハカノ知事「ベン・アムラン」トハ全ク反對ノ態度ヲ取りタル者ナリ。彼レハ「シャ・モハメット」ノ時屢々善言ヲ進メシカ、後、蒙軍ニ投シタリ。然ルニ「バグダット」陥落シテ「カリフ」死スルヤ、之ヲ哀悼シタル爲メ、「フラグ」大ニ怒リ彼ヲ誅セムトス。「テゲレ」之ヲ聞キ、許可ヲ受ケスシテ陣ヲ去リ、山地「ルリスタン」(Luristan)ニ退ク。「フラグ」兵ヲ遣ハシテ之ヲ捕ヘムトス。ヨツテ、兄弟「シエムス・ウド・ヂン・アルブ・アルグ」(Shems ud din alb Argun)出テテ、彼レノ爲メニ「フラグ」ニ和ヲ請フヘク「ルリスタン」ノ境

ニ到リシニ蒙兵ニ遭フ。蒙兵彼レヲ捕ヘテ鎖ニ繫キ其凡テノ衛兵ヲ殺シ、更ニ進ミ往イテ「テゲレ」ニ降ヲ勸ム。「テゲレ」彼等、約スル所ノ言ヲ信セス、之ヲ拒ミシモ、自ラ抵抗スルコトナカリキ。蒙兵、ヨツテ「フラグ」ノ指輪ヲ與ヘテ、必ス優遇スヘキノ意ヲ表ハシシカハ、「テゲレ」之ヲ信シテ降服ス。彼等、乃チ彼レヲ「テブリズ」ニ送ル。「フラグ」彼レヲ審問シタル後市場ニ於テ死ニ處シタリ。

「テゲレ」死シ「ルリスタン」ノ王位ハ其兄弟「アルブ・アルグ」ニ授ケラレタリ。恰モ此頃、相敵視セル「ルーム」ノ「ニスルタン」(ロクン・ウド・ヂン・ケリチ・アルスラン) (Rokn ud din Kelij Arslan)ト「イズ・ウド・ヂン・ケイ・カウス」(Izz ud din Kei Kavus)ト「フラグ」ノ本營ニ到レリ。「カウス」ハ先キニ「フラグ」ニ抵抗シタル爲メ其怒リヲ買ヒシ者ニテ心中恐怖ヲ懷キツツ來リシカ、「フラグ」ニ謁見ヲ許サルルヤ、美ハシキ一足ノ靴ノ底ニ己レノ像ヲ畫ケルヲ獻シテ曰ク、大王願クハ僕ノ頭ニ其尊キ足ヲ加フルノ榮ヲ賜ハラムコトヲト。此謙遜ノ辭ト「フラグ」ノ妻「ドクズ・カツン」(Dokuz Khatun)ノ執成トニヨリテ、彼レハ「フラグ」ヨリ、望ミノ恩典ヲ受クルヲ得、兄弟ノ間ニ和成リ「ルーム」ヲ二分シテ各之ヲ領スルコトトナリス。

「フラグ」(モスル)ノ王「ベドル・ウド・ヂン・ルル」(Bedr ud din Lulu)ヲ召ス「ルル」時ニ齡既ニ

八十歳ヲ超ユ、性極メテ狡猾ナリ。元「ヂアルベクル」(Diarbekr)ノ「シヤール」(Masud)ヲ彼レニアルスランノ奴隸ナリシカ「アルスラン」死スル時己レノ子「マスド」(Masud)ヲ彼レニ託シ其保護者タラシム。依ツテ「ルル・マスド」ニ代リテ「モスル」ヲ治メシカ、一一一八年「マスド」幼キニ子ヲ遺シテ死ス。二年ノ後ニ子亦死シ「ルル」王トナル。彼レ「フラグ」ニ召サレタル時ハ既ニ「モスル」ヲ治ムルコト三十九年ノ後ナリキ。彼レ豊ナル禮物ヲ携ヘ、表面極メテ服従ノ態度ヲ以テ到ル。彼レ「モスル」ヲ去ル時其友等、彼レノ前途ヲ憂慮スルコト甚シ。彼レ、彼等ヲ宥メテ曰ク我レ必ス汗ヲ和ケ且ツ彼レト語ル際其耳ヲ引クヘシト「ルル」「フラグ」ニ歡迎セラレ、其公ノ禮物ヲ盡ク献シタル後「我レ、特ニ私ニ汗ニ呈セムト欲スル物アリ」トイヒテ、希有ノ美珠ヲ篋メタル耳環一對ヲ取り出しシニ「フラグ」之ヲ見テ嘆美ス「ルル」「汗若シ、我レニ我手ヲ以テ之レヲ汗ノ耳ニ着クルヲ許シタマハハ、凡テノ王及我臣下ノ眼ノ前ニ我レノ光榮イカハカリソ」トイフ。「フラグ」之ヲ許ス。彼レ、即チ「フラグ」ノ耳ヲ引キテカノ二環ヲ着ケ、ヤカテ、我從者ヲ一睨シテ曰我レ先キノ約ヲ果シタリト。

「アバシド」系ノ支配セシ間ハ基督教徒モ猶太人モ共ニ苦ミシカ、今ヤ蒙古人ノ代トナリテ彼等愁眉ヲ開クヲ得タリ。蒙古人ハ當時、回教徒ヨリモ特ニ彼等ヲ好ミタル

譯ニアラサルモ、只回教徒ヲ敵視スル者ノ歡心ヲ得ルハ自己ノ利益タルヲ思ヒタルニヨルノミ。兎モ角、基督教徒ハ今ヤ蒙古人ノ庇護ヲ受ケ、マタ、回教徒ノ悲境ヲ見ル。乃チ、彼等ハ數百年間彼等ヲ虐待シタル回教徒ヲ支配セムトノ望ヲ起シタリ。サレハ、「フラグ」カ今又「シリヤ」ヲ討タムトスルヤ、十字軍モ亞細亞ノ基督教徒モ悅ヲ禁スル能ハス、回教ハ少クトモ、基督教徒ノ血ヲ流シタル地方ニ於テハ必ス滅亡スヘシト確信シタリ。

蒙古入寇以前ハ「シリヤ」ハ「サラヂン」ノ孫「サリ」(Salih)「スルタン」トシテ之ヲ領セシカ、該入寇ノ少シ前「サラヂン」ノ從兄弟ノ子等埃及ヲ失ヒタリ。

一一二四年聖「ルイ」ノ軍「ダミエツタ」(Damietta)ニアリシ時「サリ」死セシカト、其子「モアザム・ツラン・シヤール」(Moazam Turan Shah)カ「ユーフラタス」^一「チグリ」^二河ノ間ノ其領地ヨリ歸來スルマテ其喪ヲ秘シタリ。サテ、佛軍敗レテ聖「ルイ」擒トナリ、三週ノ後「ツラン・シヤール」ハ其父ノ領内ノ「マメルク」(Mameluk)族ノ會長等ニ殺サレタリ、是レ彼レカ彼等ノ地位ヲ奪ヒ、己レノ友ヲ以テ之ニ代ヘムトシタルニヨル。會長等、彼レヲ殺シタル後「アリ」ノ婢ニシテ且妾タル「シエジェル・ウド・ジン」(Shejer ud duf)ト、結ビヌ。彼女ハ「アリ」ノ信任ヲ受ケ「ツラン・シヤール」ガ「カイロ」ニ來著スル迄政ヲ司トリシ。

者ナリ。

「マメルク」族ノ一酋長「エイベグ」(Eibeg) 選マレテ新ニ「スルタン」トナリ「シエジエル・ウド・ヅル」之ニ嫁セシカ三箇月ノ後寵ヲ失ヒタリ。彼レ即位スルヤ、自ラ「モイズ」(Moiz)ト稱シ「スルタン」「カミル」(Kamil)ノ曾孫ニシテ當時僅ニ六歳ナル「エユブ」族ノ「エル・アシラフ」(El Ashraf)ヲ選ヒテ己レノ友トス「マメルク」族ノ一酋長カ「エユブ」族ノ戴ク所トナリシコトハ、如何ニ該族カ當時埃及ニ於テ勢力ヲ有セシカラ證スルモノトス。是ヨリ先キ、一一六九年頃「サラヂン」尙權力ヲ握レル時「フアチミド」系ノ諸カリフニ仕ヘタル黒奴埃及人及「アラビヤ」人ヨリ成レル軍隊ヲ解散シ「クルド」人及土耳其人ヲ以テ之ニ代ヘタリ。新軍隊ハ一萬二千ノ騎兵ヨリ成レリ「サラヂン」及其後ヲ繼キタル諸カリフハ好ムテ土耳其ノ少年ヲ買ヒ入レ、之レカ軍隊教育ニ勉メタルカ「サラヂン」ノ後第六世ナル「サリ」ニ到リテ他ノ者ヲ廢シテ専ラ「マメルク」族ヲ用ユルコトトナレリ「サリ」未タ位ニ登ラサリシ時「マメルク」族ヲ試験シ其價値ヲ認メタリシカ。ソノ「スルタン」トナルヤ新ニ購入スルコトニヨリテ大ニ其數ヲ増シタリ。是等ノ新兵ハ「コーカサス」山及裏海ノ北部ヨリ來レル者ニシテ、東洋ニテハ「キプチャク」(Kipchak)露國ニテハ「ポロウチ」(Polovci)ト稱スル種族ナリ。最初ハ彼等ヲ獲ル

コト困難ナリシモ、蒙古人ノ露國入寇後ハ少壯ノ俘虜ノ賣ラレテ埃及及「シリヤ」ニ來ル者甚多ク「サリ」ハ其一千人ヲ獲、之ヲ「カイロ」ノ前面ニアル一小島「ランダット」(Randhat)城ニ置キ呼フニ「バーリエ」(Bahiyeh)河ノ人ノ義ノ名ヲ以テシ之レニ武器ノ使用ト回教トヲ教ヘタリ「ケリー」ノ護衛兵ハ全部「マメルク」族ナリキ。彼レノ家扶モ顧問モ皆同族中ノ酋長ナリキ。彼等ハ最高ノ軍職ヲ占メ、貸附ケタル土地多ク、從ツテ收入極メテ豊カナリキ。彼等ハ埃及ヲ「マンストラ」(Mansura)ニ於テ救ヒ、佛軍ヲ破ルニ大ニ與ツテ力アリキ。彼等ノ力ハ其團體精神ト野心トニ存シタリ。彼等ノ酋長ハ起チテ埃及ヲ支配シ、蒙古人ヲ喰ヒ止メタリ。

「シリヤ」ハ當時「ナシル・サラ・ウド・ヂン・ユセイフ」(Nasir Sala hud din Yusseif)ノ所有ナリキ。彼レハ其父「アジズ」(Aziz)「サラヂン」ノ孫一ヨリ一一三六年「アレツボ」ノ地ヲ受ケ又一一二五〇年「ツラン・シヤ」ヲ殺シタル後、埃及ノ「スルタン」ノ所領タリシ「ダマスコ」ノ地ヲ取りタリ。カクテ「シリヤ」ノ主要ナル部分ヲ獲タル彼レハ、更ニ最近埃及ノ「カリフ」ノ位ヲ奪キタル元、奴隸ナリシ土耳其人ヲ除カムト企テ、カノ「エイベグ」ト戰ヒテ敗レシカ「カリフ」使ヲ遣ハシテ、仲裁シ、和成リ、一一二五一年「ナシル」ハ「エイベグ」ニ「エルサレム」ト「ガザ」(Gaza)ト「ナブルス」(Nablus)マテノ沿岸ノ地トヲ割讓シタリ「マメルク」

族ノ大會長「ファリス・ウド・ヂン・アクタイ」[Faris ud din Aktai]「エイベグ」ノ怒ヲ買ヒタルコトアリテ、其命ニヨリ暗殺セラレ、部下ノ兵七百ト若干ノ「バリエ」逃ク。逃ケタル者ノ中ニ、後ニ埃及ノ「カリフ」トナリタル「ベイバルス」[Beibars]ト「ケラヴン」[Kelaun]モアリキ。二人、夜、カイロヲ去リテ「シリヤ」ニ到リ、「ナシル」ニ會見ヲ求メテ許サレ、金錢、美服ヲ受ク。彼等「ナシル」ニ「カイロ」ヲ攻メムコトヲ勸ム。「ナシル」彼等ヲ信セス。蓋シ「エイベグ」カ書ヲ送リテ、彼等ニ異圖アルヲ告ケタルニヨル。サレト「ナシル」ハ此機ニ乗シ、先キニ埃及ニ讓與シタル諸地ヲ回復セムト欲シ、ソノ旨ヲ「エイベグ」ニ請フテ曰ク是等ノ地ヲ租借セル「マメルク」族ハ、何ツレモ我レニ仕フル者ナレハ、之レヲ返サレタシト「エイベグ」乃チ、諸地ヲ返還シ「ナシル」ハ、之ニ對スル「マメルク」族ノ使用權ヲ認メタリ。然ルニ河岸ニ住セル彼等ハ「ナシル」ノ力弱クシテ己レノ目的ニ利用スルニ足ラサルヲ思ヒ、ヤカテ背キ去リテ、他ノ「エユブ」族ナル「カラク」[Karak]ノ王「モギト・オマル」[Mogith Omar]ニ往キ、我等ハ「エイベグ」ヲ攻撃スヘク「カイロ」ノ諸將ニ招カレタル者ナリ、援助ヲ與ヘラレタシト伴リ請ヒス。

「モギト」ハ「スルタン」。「アヂル」[Adil]ノ子ニシテ、先キニ「ツラン・シャール」ノ爲メニ「シユベク」[Shubek]城ニ幽サレシカ「ツラン」死スルヤ城將ノ爲メニ解放セラレ、後一二五一年「カラク」[Karak]及「シユベク」[Shubek]ノ王トナリシ者ナリ。彼レ埃及ノ攻撃ニ勝利ノ望ヲ齎ラシシニ「エイベグ」ノ將「クツズ」[Kutus]ト戰ツテ敗レ、部下ノ多クノ「バリエ」擒ニセラレテ直ニ刎ネラレタリ。

サテ「ナシル」ハ「エイベグ」ニ破ラルル數年前、宰相「ゼイン・ウド・ヂン・エル・ハフィツジ」[Zein ud din el Hafzji]ヲ「フラグ」ニ遣ハシシカ「ハフィツジ」ハ「ナシル」ノ安全ヲ保證スル旨ノ返書ヲ得テ歸レリ。然ルニ「フラグ」カ大軍ヲ率キテ來リ、威、四方ヲ震撼スルヲ見テ、尙早ク「フラグ」ニ好ヲ納レサリシヲ悔キ乃チ、一二五八年、己レノ子「アジズ」[Aziz]トイフ尙幼キ兒童ニ宰相ト一將ト數名ノ吏員ヲ伴ハシメテ一書ヲ「ベドル・ウド・ヂン・ル」ニ遣ハシタリ。「ル」ハ、上記ノ如ク「フラグ」ノ耳ヲ引キタル老且猾ナル「モスル」ノ王ナリ。

「フラグ」、「ナシル」ノ使者ヲ迎へ、汝等ノ主ハ何故ニ共ニ來ラサリシヤト問フ。彼等、伴リ答ヘテ曰ク「シリヤ」王ハ、己レ若シ不在ナラハ隣ノ敵「フランク」[Frank]入寇スルアラムヲ恐レシカハ、己レノ子ヲシテ己レニ代ラシメタルナリト。「フラグ」陽ニ此答ヲ承認シタリ。傳フル所ニヨレハ、此時、使者等ハ「フラグ」ニ「マメルク」族ヲ退ケテ埃及ヲ救フニ援ケムコトヲ請ヘリト。サテ「フラグ」「アジズ」ヲ留メ置クコト數月、後、漸ク

父ニ歸ルヲ許シ、宰相ニ「ナシル」ニ宛テタル書ヲ授ケタリ、其要ニ曰ク、「ナシル」王及「シリヤ」ノ凡テノ將士ハ我等ノ地上ニ於ケル神ノ軍ナルヲ認ムヘシ。我等ニ敵對スル者ハ禍ナル哉、彼等ハ逃ケサルヘカラス、我等ハ之ヲ驅ラサルヘカラス。彼等、何レノ道ヲ辿リテカ逃クルヲ得ム、如何ナル地カ彼等ヲ保護セム。我等ノ馬ハ迅キコト電光ノ如ク、我等ノ劍ハ斬ルコト霹靂ノ如ク、我等ノ兵ノ多キハ濱ノ眞砂ノ如シ。我等ニ敵抗スル者ハ屠ラレ、我等ニ哀願スル者ハ赦サレム。我等ノ律法ヲ認容セヨ、サラハ、汝等ト我等友タラム。汝等、若シ抵抗シテ慘苦ヲ受ケナハ、其咎汝等自ラニアリ。安全ノ途ヲ取り、速ニ答ヘヨ、否ラスハ汝等ノ國ハ砂漠ト化セム。其時、死ノ神ハ恐ラクハ「是等ノ者ノ中一人ノ、少シニテモ生ケル徵候アル者、又ハ微ナル聲タニ舉クル者アルヤ」ト言ハム。我等ハ誠實ナリ、故ニ此警告ヲ汝等ニ與フルナリト。

「ナシル」、「フラグ」ト戰ハサル能ハス、而カモ他ニ援ヲ獲ルノ望ナキヲ以テ凡テノ回教徒ト同盟スルニ若クナシト決心シ、「フラグ」ニ對シテ斷乎タル回答ヲ與ヘタリ曰ク、汝等イフ、神ハ汝等ノ心ヨリ凡テノ憐ミヲ除キ去レリト。然ラハ汝等ノ心ハ惡魔ノ心ナリ、王者ノ心ニアラス。サハレ、毆打ヲ以テ獅子ヲ、鬚狗ヲ以テ虎ヲ、無骨漢ヲ以テ英雄ヲ脅サムトスルハ奇ナラスヤ。汝等ニ反抗スルハ神ニ從順ナル所以ナリ、

我等汝ヲ殺サムカ、之レ我等ノ祈禱ノ成就ナリ。汝等我等ヲ殺サムカ、我等天國ニ往カム。我等汚辱ノ中ニ活キムヨリハ死スルニ若カス。我等生殘ルヲ得ハ幸ナリ、若シ死セハ之レ殉教ナリ。汝等、我等ニ、我等カ教祖ノ代理者ニ對スルノ服從ヲ要求スルモ汝等ハ之ヲ得ルコト能ハサルヘシ。我等ハ寧ロ教祖ノ居マス所ニ到ラムコトヲ欲ス。請フ、汝等ノ書ヲ作りタル者は是レハ嘗テ「アラムト」城ニ在リタル星占者ニシテ「カリフ」ノ寵セル星占者ヲ驚カシタル「ナシル」ウド・デンヲ指ス(ニ告ケヨ、我等、彼レノ言ヲ顧慮スルコト、蠅ノ鳴聲又ハ「ベルシヤ」胡弓ノ音ニ若カスト。

「フラグ」、「シリヤ」ニ進軍スヘク令ヲ下シ、「ベドル」ウド・デンルヲ召シタルニ、彼レ老齡ノ故ヲ以テ辭シ、己レノ子「メリク」サリト「イスメイル」(Melik Salih Ismail)ヲ「モスル」ノ兵ト共ニ遣ハス。「イスメイル」蒙軍ノ陣ニ著スルヤ、間モナク「フラグ」彼レニ「クワレスマミヤ」ノ最後ノ「シヤー」ジエラル・ウド・デンノ娘ヲ與ヘテ婚セシム。サテ「キタ」ブカ「先鋒トナリ」カッサル(Kassar)ノ子孫「シンクル」(Sinkur)ト「バイヂユ」右軍ヲ「スンジャク」(Sunjak)左軍ヲ率キ「フラグ」自ラ中軍ニ將トシテ、出發ス。實ニ一、二、五、九、年、九、月、十二、日、ナリ。蒙軍「ハツカル」(Hakar)ヲ過ク。出會フ所ノ凡テノ「クルド」人ヲ殺シテ一人モ殘スナシ。「フラグ」、「ヂアルベクル」(Diabekir)ニ入ルヤ「チグリヌ」河畔ノ「ジエジレット」(Dziret)

ヲ取り、更ニ己レノ子「イシムト」(Yshumt)ト「モンタイ・ノヨン」(Montai Noyon)トヲ遣ハシテ「ヂャベクル」ノ北東ニアル有名ナル「マヤフアルキン」(Mayafarkin)市ヲ討タシム。其王「エユブ」族ノ「カミル・ナシル・ウド・ヂン・モハメツド」(Kamil Nasir ud din Mohammed)カ蒙古ニ叛キタルヲ罰セムトテナリ。「カミル」ハ數年前「マング」大汗ニ歡待セラレ、己レノ土地ヲ大汗ノ保護ノ下ニ置クコトヲ約シタル者ナリ、而カモ今ヤ却ツテ叛ス。「フラグ」ノ怒ル、故ナシトセス。是ヨリ先キ「カミル」ハ大汗ヨリ通行免狀ヲ受ケテ己レノ許ニ來リタル「ベルシヤ」僧ヲ磔殺シタルノミナラス、蒙人知事ヲ放逐シ、「カリフ」ノ命ヲ奉シテ「バグダッド」ヲ救フヘク一隊ノ兵ヲ遣ハシタリ。之レ「フラグ」カ「カミル」ヲ責ムル所以ナリ。然ルニ彼等ハ途中ニ於テ「バグダット」ノ既ニ陷落シタルヲ聞キ、引キ返シ「カミル」ハ「ダマスコ」ノナシル王ニ蒙古征討ヲ請ヒ、單ニ約束ノミヲ與ヘラレテ、空シク「マヤフアルキン」ニ歸リシ時恰モ「イシムト」等來リテ同市ヲ圍ミス。

次キニ「フラグ」「マルヂン」(Mardin)ノ王「サイド・ネデムド・ヂン・エル・ガジ」(Said Nejdud din el Gazi)ヲ召キ降ヲ請ハシム「ガジ」己レノ子ト判事長「モザフエル・カル・アルスラン」(Mozaffer Kar Arslan)ト一貴族トヲシテ禮物ト、重病ナル故自ラ往ク能ハサル旨ノ一書トヲ携ヘ到ラシム。「フラグ」判事長ニ返書ヲ授ケ、彼レノミヲ歸ラシメタリ。書ニ曰

ク「王ハ自ラ病ヲイフサレト、コハシリヤ」ノ「ナシル」ヲ恐ルルニ由ル。以爲ラク「フラグ」若シ克クハ「フラグ」ト和セムト、カルカ故ニ伴ハリ病ト稱スルナリ。而シテ、我レ若シ敗レムカ、王ハ「ナシル」ト和セムト。「フラグ」「ベドル・ウド・ヂン・ルル」ノ子ヲ派シテ「アミド」(Amid)ヲ攻メシメ、己レハ「ニシビン」(Nisbin)ヲ取り、「ハラン」(Harra)附邊ニ陣ス。「ハラン」ノ人民降ヲ請フ。之ヲ許シ、生命ヲ奪ハス「ロハ」(Koha)ノ住民亦「ハラン」ニ倣ヒテ降ヲ請ヒ、同シク許サレ死ヲ免レシカ「サルヂ」(Sard)ノ人民ハ、使ヲ遣リテ生命ノ赦サレムコトヲ請ハサリシニヨリ、一人モ殘サズ殺サレタリ。

「フラグ」ノ來寇ヲ聞クヤ、全シリヤ震駭ス。王「ナシル」ハ是時迄「モギト」トノ交渉ニ時ヲ費シツツアリシナリ。前年、騎兵三千「フラグ」ノ軍ヲ去ツテシリヤニ來リシコトアリ。彼等ハ、疑モナク「シエヘルズル」(Sheherzus)ノ「クルド」族ニシテ所謂「シエヘルズル」人ナリ。「ナシル」彼等ヲ召キテ好遇ヲ與ヘ用キタリ。然ルニ彼等「モギト」ニ往カムコトヲ望メル。由聞エシカハ、俸給ヲ倍セシニ拘ラス、去ツテ「モギト」ニ附キヌ。「モギト」今ハ己レノ下ニ「シエヘルズル」人ト「マメルク」族ヲ有シタレハ、我レ「ダマスコ」ヲ取ルヲ得ヘシト考ヘタリ。「ナシル」ハ「モギト」ヲ討タムト欲シ、往キテ「ジザ」(Ziza)湖附近ニ陣ス。互ニ使ヲ派シテ交渉ヲ重ヌルコト六箇月ノ後、終ニ「モギト」ハ部下ノ「マメルク」族ヲ「ナ

シルニ渡シ且ツカノ「バトリエ」等ヲ解雇スヘシト決ス。
 約成リ「ナシル」ニ「ダマスコ」ニ歸ル「フラグ」ノ「ハラン」ニアルヲ聞キ諸將ヲ會シテ議シタルニ、迎ヘ撃ツヘシト決セシカハ「ダマスコ」ノ少シ北ナル「ベルゼ」(Berze)ニ陣ヲ構ヘタリ。然ルニ、彼レハ、義勇兵、土耳其人「アラビヤ」人ヨリ成レル我軍ヲ信賴スル能ハス、又將卒皆「フラグ」ヲ恐ルルコト甚シキヲ知リタリ。且ツ彼レ自ラ、性怯懦ニシテ、兵士ノ尊重ヲ得ル能ハサリキ。

宰相「ゼイン・ウド・ヂン・エル・ハフイツジ」(Zain ud din el Hafzji)「ナシル」ノ心懸セルヲ見盛ニ「フラグ」ノ偉大ヲ讚シ、降ヲ勸ム。貴族「ベイバルス・ブンヅクダル」(Beibars Bundukdar)一日之ヲ憤リ、宰相ヲ毆打シ、且ツ咀ヒ、叫ムテ曰ク汝ハ回教ノ破滅ヲ欲スル反逆者ナリト。「ゼイン」之ヲ「ナシル」ニ訴フ。同夜「ナシル」亦「マメルク」族ノ襲フ所トナリ、漸ク衛城ニ逃ケ、辛フシテ命ヲ救フヲ得タリシカ、後諸將ノ切願ニヨリテ陣ニ歸レリ。蓋シ右ノ「マメルク」族ハ速ニ「ナシル」ヲ殺シテ、新シキ「スルタン」ヲ選ハムト欲シタルモノトス。サテ「ベイバルス」ハ去ツテ「ガザ」ニ到リ、同地ヨリ、部下「タイバルス」(Tabars)ヲ埃及ノ新主「マンズル」(Mansur)ニ遣ハシ、忠實ノ誓ヲナシス。

「ナシル」來ルヘキ危害ニ對スル處置ニ付テ會議ヲ開キシニ、王モ文武ノ臣モ皆ソノ家族ヲ埃及ニ送ルコト然ルヘキ旨、一ツノ異議ナク決シタリ。因テ、彼レ「セルジユク」系ノ「スルタン」、「ケイ・コバド」(Kei Kobad)ノ娘ナル己レノ妻、己レノ子及財寶ヲ埃及ニ送ル。吏員及多クノ人民之レニ倣フ。民衆ノ恐怖ノ念、兵士ニ感染シ、恰モ家族ノ者ト告別スルカノ如ク伴リ出テ往キテ歸ラサル將校少カラス。カクテ「ナシル」ノ軍隊ハ事實、解散シタリ。

「ナシル」即チ援ヲ「モギト」ニ求メ且ツ別ニ「カイロ」ノ「スルタン」ニ援ヲ求ムヘク「サヒブ・ケマル・ウド・ヂン・オマル」(Sahib Kemal ud din Omar)ヲ同地ニ遣ハシタリ。恰モ其時「チイベグ」其妻「シエヘル・ウド・ヅル」(Sheher ud dur)ニ殺サレヌ。之レ彼女、彼レカ己レヲ殺サムトスルノ意アルヲ悟リ、先ンシテ彼レヲ殺シタルナリ。罰ハ速ニ到リヌ。彼女、捕ヘラレテ「スルタン」。「アジズ」(Aziz)ノ寡婦ニ渡サル。彼女「シエヘル」ヲ宦官及妾婢ト力ヲ併セテ打チ殺シ、其衣ヲ剝キ、身體ヲ城濠ニ投ケ棄テ、數日間覆被ナク又埋ムルコトナク、横ラシメタリ。

「エイベグ」ノ子「マンズル」時ニ齡僅ニ十五、父ノ後ヲ襲ク。父ノ友ナリシ「アクタイ」保護者タリ。後「アタベグ」、「アクタイ」ニ代リ、間モナク「クツズ」、「アタベグ」ニ代レリ。「クツズ」ハ嘗テ「アタベグ」ノ奴隸ナリシ者ナリ。サテ「ナシル」ヲ使、埃及ニ著スルヤ、「クツズ」、

「スルタン」ノ前ニ於テ會議ヲ開キシニ、判事長及長老ニ對シ「人民ニ對シテ適法ニ戰稅ヲ課スルヲ得ルヤ」ノ問題提出セラル。彼等答エテ曰ク有價物ヲ人民ヨリ奪ヒ之ヲ賣却シタル後課稅スルヲ得ヘシト。會議之ヲ認容シタリキ。マンスルハ、年尙幼、加フルニ母ヨリ惡教育ヲ受ク、此危急ノ際ニ於ケル統治ノ任ニ耐フル者ニアラス。クツズ、主權ヲ握ラムノ野心アリ、機ヲ諸將ノ上埃及ニ往クニ待ツ。彼等去ルヤ、直ニ「マンスル」ヲ其弟及母ト共ニ幽シ、自ラ「スルタン」ト稱シタリ。

「クツズ」ハ、幼ニシテ蒙古人ニ捕ヘラレ、賣ラレテ「ダマスコ」ニ來リ、後「カイロ」ニ往キシ者ナルカ、自ラハ「クワレスミヤ」ノ王、「シヤー・モハメツド」ノ甥ト稱ス。而シテ「モイツ・ウド・ヂン・エイベグ」ニ解放セラレタルニ因ミ、「マメルク」ノ慣習ニ從ツテ「エル・モイツズ」ナル名ヲ自己ノ名ニ冠シタリ。

諸將「クツズ」カ「マンスル」ノ位ヲ篡ヘルヲ答ム。彼レ「フラグ」ト「ナシル」ノ難ヲ説イテ曰ク「我願フ所ハ只蒙人ノ驅除ニアリ。首領ナクシテ、イカテ之ヲナシ得ム。此敵ヲ拂ヒタル時、汝等ソノ好ム所ヲ撰ヒテ「スルタン」トセヨ」ト。カクテ彼レハ諸將ノ心ヲ和ラケ、且ツ己レノ力ノ確固タルヲ感シ、「マンスル」ヲ其母ト弟ト共ニ「ダミエツタ」(Damietta)ニ移シタリ。彼等、次ノ代ニ、土耳其ノ首都「スタムブル」(Stamboul)ニ送ラレ、同地ニ留

マリ居リキ。

新「スルタン」、「クツズ」八名ノ將ヲ獄ニ下シタル後、兵士ヲシテ己レニ誓ヲナサシメ、蒙軍攻撃ノ準備ヲナス。先ツ、一書ヲ「ナシル」ニ寄ス。曰ク「我レハ毫モ王ノ領地ヲ取ラムコトヲ願ハス、只埃及ニ於ケル王ノ代理者ヲ以テ自ラ任スルノミ。我レ「カイロ」ニ到ラハ必ス王ヲ「カリフ」トナサム。王我レヲ用ユルノ意アラハ我レ兵ヲ率キ往キテ王ヲ助ケム。サレト、我レ到ルニヨリテ王ノ兵不穩ヲ醸スノ患アラハ願クハ一將ヲ指名セヨ。我レ其者ト共ニ到ラムト。

是ヨリ先キ「ナシル」使ヲ「クツズ」ニ遣ハシテ援ヲ求メシカ、「クツズ」右ノ書ヲ己レノ使ニ授ケテ「ナシル」ノ使ノ歸ルニ伴ハシメタリ。時ニ「フラグ」既ニ「シリヤ」ニ侵入シ、事急ナリ。即チ「ユーフラテス」、「チグリリス」二河ノ間ノ凡テノ地ヲ取リタル「フラグ」ハ今ヤ「ユーフラテス」河畔ノ「エル・ビレト」(El Biret)ヲ圍ミ、亦之ヲ取り、同城ニ九年間囚ハレタル「エユブ」族ノ王「サイド」(Said)ヲ解放シテ之ニ「セバイベト」(Seibet)及「ビニアス」(Banias)ノ地ヲ與ヘタル後「エル・ビレト」。「ネヂラム」(Nedjran)。「シヨアメル」(Joaber)。「カロムコス」(Kallonkos)。「ラシ」(Lash)ノ住民ヲ殺シ、之レニ守備兵ヲ殘シ、更ニ「マラツチャ」、「ケラト」、「ウル・ルーム」、「エル・ビレト」及「キルクシヤ」(Kirkissia)ノ諸地ヨリ舟ヲ集メ、之

ヲ繫キテ橋トシ、ユーフラテス河ヲ渡リテ全軍ヲアレツボニ進メタリ。

「アレツボ」ノ民衆先ヲ争ツテ「ダマス」ニ逃ク。同時ニ「ダマス」ヨリ埃及ニ逃ケ來ル者少カラサリキ。時恰モ嚴冬、旅中死スル者多ク、又大抵所持品ヲ剝カレタルノミナラス、會々「シリヤ」特ニ「ダマス」ニ疫病流行シ爲メニ斃レタル、亦少カラサリキ。

又「アレツボ」ノ附近ニ陣シタル蒙軍ノ一隊ノ一部、進ムテ同城ヲ攻ム。城兵突出シテ之ト戰フ。最下級ノ人民ヨリノ義勇兵之ニ次キシモ、敵ノ優勢ナルニ辟易シ、門内ニ引還ヘシタリ。次日、カノ一隊盡ク堅壘ニ押寄ス。城兵ノ幹部、出テテ街郭ニ於テ會議ヲ開ク。總督「モアザム・ウラン・シャー」(Moazzam Turan Shah)ハカカル明カニ優勢ナル敵ト戰フ交ユルヲ不可トセシカ、其兵ノ一部ト普通民ノ一團、進ムテ「バンクツサ」(Bankutsa)ヲ占領シ、敵ノ來ルヲ見テ、其一部之ヲ撃ツヘク山ヲ降ル。蒙軍故ニ退却ス。之ヲ追ヒ進ムコト一時間許リニシテ伏兵起リ圍マル。圍ヲ脱シタル者「アレツボ」指シテ逃ク。蒙軍之ヲ追フ。其「バンクツサ」山ノ前ニ達スルヤ、山上ニ残り居リタル者、急ニ降りテ城門ニ向ヒシカ、多數殺サレキ。同日、蒙軍ハ「アレツボ」ノ北方ノ一市「アザイ」(Azai)ヲ攻メテ之ヲ取レリ。

數日ノ後「フラグ」來リ「モアザム」王ニ一書ヲ送リテ降ヲ勸ム曰ク「汝ハ我等ニ抗ス

ル能ハス。我等市及衛城ニ各一名ノ守將ヲ置カムトス。須ラク彼等ヲ認容セヨ。我等今「ナシル」ヲ討ツヘク進ミツツアリ。彼レ若シ敗レムカ、國ハ我等ノ有ナリ。但シ、回教徒ノ生命ハ汝ノ故ニ宥スヘシサレト、我等若シ敗レナハ、カノ守將等ヲ放逐又ハ殺シテ可ナリト。「エルゼン・ウルム」ノ王此書ヲ携ヘ到リテ「モアザム」ニ呈ス。「モアザム」答ヘテ曰ク「汝ト我トノ間ニハ劍ノ外何物モアルコトナシト」。

「アレツボ」ノ壁壘堅ク、且城内多クノ兵器ヲ貯フ。蒙軍、或夜、堅固ナル對壘ヲ造リ、二十挺ノ弩砲ヲ以テ城ヲ射ル。包圍ノ第七日城陥ル。實ニ一二六〇年一月二十五日ナリ。掠奪、七日七夜、住民ノ屠ラルル者極メテ多ク、市街、屍ヲ以テ充ツ。只四戸ノ貴族ノ家ト、回教徒ノ一學校ト一會堂トニ逃レタル者ノミ、生殘ルヲ得タリ。婦人及小兒ノ捕ヘラレテ奴隸トシテ賣ラレタル者一萬人。壁壘毀タレ、モスク壞ラレ、庭園ハ掘リ荒サレス。一箇月ノ後衛城亦陥リ、蒙軍ハ無數ノ戦利品ト多クノ工人ヲ獲、工人ハ虜トシ生命ヲ宥サレタリ。

「ナシル」王「ダマス」附近ノ「ベルゼ」(Bares)ニ陣セル時「アレツボ」陥落ノ報ニ接ス。彼レノ將「ガサ」ニ退キ「スルタン」。「クツズ」ニ援ヲ乞フヘシト勸ム。「ナシル」。「ダマス」ヲ去リ、「ハマト」ノ王「マンズル」及其徒數名ト共ニ「ガザ」ニ向ツテ出發セムトシテ、令ヲ下

シテ曰ク凡ソ埃及ニ往クヲ得ル者ハ直チニ出發スヘシト。市内恐慌甚シク、駱駝ノ價、極度ニ上リ、地價低落シ、或地ノ如キハ一ツノ唱歌ト交換セラレタリ。

「ナシル」暫ラク「ナブルス」(Nabuls)ニ留マリ、去ル時二名ノ將校ヲ兵若干ト共ニ殘シ置キシカ、同市ヨリ「ガザ」ヘノ途中ニ於テ、彼等ノ蒙軍ニ捕ヘラレテ殺サレタルヲ聞キ、蒙軍進來ノ餘リニ速ナルニ驚キ、退イテ「エル・アリシ」(El Arish)ニ到リ、同地ヨリ、使ヲ「スルタン」、「クツズ」ニ遣ハシテ、至急來援ヲ乞フ。

サテ「ナシル」ノ留守ヲ預レル宰相「ゼイン・ウド・ヂン・エル・ハフイツジ」(Zain ud din el Hafizi)ハ「ダマスコ」ノ門ヲ鎖シ、サキニ「フラグ」ガ「ベルゼ」ニアル「ナシル」ヲ見ルヘク送りタル使者ニ降服ヲ申し出テ、高貴者ノ一團ヲシテ豊カナル禮物ト城門ノ鍵トヲ携ヘ、「アレツポ」附近ノ「フラグ」ノ陣營ニ到ラシム。「フラグ」彼等ノ中ノ長ニ名譽ノ外套ヲ被セシメ、彼レヲ「シリヤ」ノ大判事ニ任シタリ。此裁判官直ニ「ダマスコ」ニ歸リ、會議ヲ開キ、カノ外套ヲ着シテ其前ニ出テ、己レノ受ケタル辭令ト凡テノ者ノ生命ヲ保證スル旨ノ「フラグ」ノ書ヲ讀ミタリ。カクノ如キ言ヲ聞キタルニ拘ラス、混亂ト恐怖到ル所ニ廣カリス。

ヤカテ、約束ノ二名ノ守將來レリ、一ハ蒙古人、他ハ「ベルシヤ」人ナリ。彼等「ハフイツ

ジ」ノ意志ニ從ヒ、且住民ニハ正當ノ取扱ヲナスヘシトイフ。又其後間モナク「キタ・ブガ」一隊ノ蒙兵ヲ率キテ來ルヤ、直ニ、生命、財産ノ安全ヲ保證スル旨ヲ宣シタリ。然ルニ衛城降ルヲ拒ミシカ、包圍攻撃六日ノ後陷リ、城將ト其副將「フラグ」ノ命ニヨリ首刎ネラル。「エユブ」族ノ王ニシテ「シルク」ノ孫「アシラフ」ハ「ナシル」カ埃及ニ出立テタル後「アレツポ」ニ在ル「フラグ」ニ到リ降リシニ、「フラグ」舊ノ如ク、再ヒ彼レヲ「ヒムス」(Hims)ノ王トナシ—十二年前「ナシル」ハ彼レノ此位ヲ奪ヒテ「テルバシル」(Telbasir)ヲ以テ彼レニ代ヘタルナリ—且「シリヤ」ニ於ケル己レノ代理者ノ長タラシム。カクテ「アシラフ」ハ「メルジ・バルグト」(Merj-Bargut)ニ來リ「キタ・ブガ」ハ「ハフイツジ」等ニ其權力ヲ引渡スヘク命シヌ。

「アレツポ」既ニ陷リ、「フラグ」進ムテ「アンチオケ」ヲ距ル二日程ナル「ハレム」(Harem)城ニ到リ、城兵ヲ招キ、何人モ害セサルヘシトノ誓約ノ下ニ降ヲ勸ム。城兵答ヘテ曰ク、我等「フラグ」ノ宗教ヲ知ラス。故ニ該誓約ニ付テ如何ニ考フヘキカヲ解セス。サレト、若シ一回教徒「コーラン」ヲカケテ、生命ヲ宥スヘシト誓ハハ、我等開城セムト「フラグ」然ラハ何人ヲ送リテ誓ハシムヘキカト問フ。彼等「ファタル・ウド・ヂン・サキ」ヲト答フ。「サキ」ハ最近「アレツポ」衛城ノ守將タリシモノナリ。「フラグ」「サキ」ニ、彼等ノ願フ所ノ

何事ニテモ誓フヘシト命シテ之ヲ城内ニ送ル。彼レノ誓ニヨツテ「ハレム」ハ引渡サレ住民盡ク城ヲ出ツ「フラグ」己レノ言ノ信セラレサリシヲ怒リ直チニ「サキ」ヲ誅シ次テ幼兒ヲモ宥スコトナク全住民ヲ殺シタリ。但シ只一人宥サレタル者アリ「アルメニヤ」人ノ玉工是ナリ。蓋シ彼レハ「フラグ」ニ入用ナリシナリ。

第十四章 埃及ノ「スルタン」、「クツズ」ノ勝利

「フラグ」大汗「マング」ノ計ニ接ス。直ニ蒙古ニ歸ラムト欲シ「キタ・ブガ」ヲ「シリヤ」ニ於ケル總指揮トナシ去ルニ臨ミ「アレツボ」ノ壁壘及其衛城ヲ毀ツヘキヲ命ス。此時十字軍ノ使者來リテ「キタ・ブガ」ニ謁ス。

史家ノ傳フル所ニヨレハ「フラグ」ハ「バレスチナ」ヲ回教徒ノ手ヨリ奪ヒテ之ヲ基督教徒ニ與ヘムトスルノ志アリ。將ニ之ヲ實行セムトセシ時「マング」ノ計到リシナリト。サテ彼レハ「マング」ノ後ヲ襲カムトノ望ヲ齎ラシツツ歸蒙ノ途ニ就キシカ「テブリズ」ニ到リ兄弟「クビライ」(Kubilai) 忽必烈カ選ハレタルヲ聞キ旅行ヲ中止ス。

「ナシル」、「エル・アリシ」ヲ出テテ「カチヤ」(Kathia) ニ急ク。當時「サライエト」ニアリシ「クツズ」、「エユブ」族ノ王カ埃及ノ統治者タルヲ好マス「ナシル」部下ノ諸將特ニ所謂シ

エヘルズル「ナル者」主ニ土耳其人及「クルド」人ニ書ヲ送りテ高キ地位ト黄金トヲ授クヘケレハ來リテ我レニ仕ヘヨトイフ。彼等利慾ニ誘ハレ「ナシル」ヲ去ル。殘ルハ只彼レノ兄弟ト其他ノ僅少ノ者ノミ。彼レ「カチヤ」ニ著キタルモ更ニ埃及ニ進ムコトヲナナス。途ヲ變シテ沙漠ヲ經テ「シユベク」ニ向フ。到達シタル時ハ二、三ノ從者ト其馬トノミナリキ。尋テ「カラク」(Karak) ニ向フ「カラク」ノ王馬、天幕及其他ノ所要品ヲ送り我許ニ留マルカ又ハ「シユベク」ニ往ケト告ク「ナシル」其何ツレヲモ欲セス更ニ「バルカ」(Balika) ニ往キシニ「クルド」人ナル二名ノ從者密カニ己レノ主ノ居所ヲ「キタ・ブガ」ニ教エシカハ彼レ「ジザ」(Ziza) 湖ノ附邊ニ於テ捕ヘラレ當時「アジャロン」(Ajalon) 城ヲ圍ミツツアリシ「キタ・ブガ」ノ許ニ送ラル「キタ・ブガ」、「ナシル」ニ迫リテ該城ヲ降服セシメヨト命ス。城將稍抵抗ヲ試ミタル後屈シ同城毀タル。同城ハ「サラデン」ノ一貴族「イジズ・ウド・チン」ガ築キタル所ナリ。是ヨリ少シ前蒙兵「パールベク」ヲ取り其市街ト衛城ヲ破壊シタリ「キタ・ブガ」、「ナシル」ヲ其兄弟ト「ヒムス」王ノ子「サリ」ト共ニ「テブリズ」ニ送ル「カラク」ノ王「モギト」モ僅ニ六歳ナル己レノ子「アジズ」ヲ之レニ伴ハシム。彼等「ダマス」コ「ヲ過キシ時「ナシル」心大ニ痛ミ「アレツボ」ノ荒廢ノ跡ヲ見テ涙ヲ禁スル能ハサリキ。

「フラグ」、「ナシル」ヲ歡迎シ、汝若シ埃及ヲ征服セハ「シリヤ」ニ於ケル汝ノ地位ヲ舊ニ復スヘシト約ス。

從來、蒙害ヲ避ケムトスル者ノ「匿場」ナリシ埃及モ、今ヤ蒙軍侵入ノ恐怖ニ打タレヌ。蒙軍ノ侵入シタル地ハ何ツレモ必ス其奪フ所トナリシニ見テ、埃及モ亦取ラレヘシト想像スルハ自然ナリ。「カイロ」ニ住居セル「アフリカ」人カ其遠キ故郷ニ歸リタルモ此故ノミ「フラグ」、「ベルシヤ」ニ出發シタル後、使者「カイロ」ニ來リ、「スルタン」ニ降服ヲ要求シ、若シ聽カスハ戰ハムトイフ。「クツズ」直ニ大會議ヲ開キ、戰ノ可否ヲ詢フ。「ナシル」ヲ離レテ來リ附キタル「クワレスマイヤ」ノ一將「ナシル・ウド・ヂン・カイメリ」(Djinn)トイフ者、主戰論ヲ唱ヘテ曰ク「フラグ」ハ先キニ「アラムト」ノ城主ニ對シテモ、「カリフ」ニ對シテモ、ハタ「ダリタン」ノ城將ニ對シテモ、イツモ約ヲ破リタル者、誰カ彼レノ言ヲ信スルヲ得ムト。貴族、ベイバルス」モ亦「ダマスコ」ヨリ召サレテ席ニアリ。討議スルコト暫ラクニシテ、皆主戰ニ贊ス。「クツズ」曰ク善哉、我等戰ハム。勝敗ハ問フ所ニアラス、只我等ノ義務ヲ盡サムノミ。後ノ回教徒ヲシテ我等ヲ目シテ怯懦漢トナサシムルナカレト。

乃チ「フラグ」ノ使者斬ルヘシト議決シ、獄ニ投シテ刑ヲ待タシム。カクテ「クツズ」ハ戰爭ノ準備ノ爲メニアラユル努力ヲナシタリ。彼レハ、回教ニ於テハ法律ノ禁スル所ナルニ拘ラス、貢納金ヲ徵シタリ。所得稅ヲモ人頭稅ヲモ課シヌ。サレト未タ足ラス。彼レノ爲メニ「ナシル」ヲ離レテ彼レニ來リ附キタル凡テノ者ノ財産ヲ奪ヒタリ。「ナシル」ノ妻モ其所有ノ寶玉ノ一部ヲ獻セサルヲ得サリキ。他ノ婦人モ同様ノ貢獻ヲ致スヘク命セラレ、之ヲ拒ム者ハ虐待セラレタリ。準備漸ク成ルヤ「クツズ」諸將ニ忠義ノ誓ヲナサシメ、一二六〇年七月二十六日「山城」(Castle of the Mountain)ト呼ハレタル己レノ居城ヲ出ツ。兵數凡ソ十二萬、埃及人「アラビヤ」人及土耳其人ヨリ成ル。出發ノ當日、カノ蒙古ノ使者ノ長及其次位者三名ヲ「カイロ」市ノ各區ニ於テ首刎ネ、四個ノ首級「ザリフ」(Zaliva)ノ門ニ晒ラシ、殘レル二十六名ノ使者モ、只一人ヲ除キ、盡ク殺シタリ。宥サレタルハ一少年ナリシカ「クツズ」ハ之ヲ「マメルク」族ノ間ニ置キヌ。ヤカテ「苟クモ兵士タル者ハ盡ク今回ノ戰爭ニ出ツヘシト」令全埃及ニ下リ、身ヲ隱サムトスル者アルトキハ容赦ナク棍打セラレタリ。

「クツズ」一使ヲ「ヒムス」ノ「アシラフ」ト「サイド」トニ遣ハシ、援ヲ乞フ。「アシラフ」ハ「フラグ」ノ命ニヨリ「シリヤ」ノ總督トナリシ者ニテ「サイド」ハ「フラグ」ノ爲メニ「エル・ビレト」ノ獄ヨリ放タレ「セバイベト」ト「バニヤス」ノ地ヲ與ヘラレタル者ナリ。「サイド」ハ「クツズ」

ズ」ノ使ヲ罵リテ接ケサリシカ「アシラフ」ハ喜ムテ之ヲ迎ヘ其前ニ拜跪シテ「クツズ」ニ敬意ヲ表シ曰ク「我レハ「スルタン」ノ前ナル地ニ接吻シテ、己レハ「スルタン」ノ僕ニシテ「スルタン」ノ命ニ服スル者ナルヲ告ク。我レハ神カ「クツズ」ヲ擧ケテ回教ノ救主トナシタルヲ感謝ス。彼レニシテ蒙軍ヲ撃タハ、勝利疑ナシト」。

「クツズ」、「サライエト」ニ於テ會議ヲ開ク。幹部ノ多クハ、更ニ進ムコトナク、同地ニ留ラムト欲ス。「クツズ」曰ク「オオ、回教ノ領袖達ヨ、我レ今此神聖ナル戰ヲ戰ハムト欲ス。我レト共ニ戰ハムト欲スル者ハ我レニ從ヘ之ヲ欲セサル者ハ歸リテ可ナリ。サレト、神ハ此腰拔漢ヲ看過シタマハサルヘシ。我國ノ興廢ト我國婦人ノ名譽トハ此輩ノ頭上ニ係レルニアラスヤ」カクテ「クツズ」己レニ從ハムト欲スル諸將ニハ誓ヲナサシメ、欲セサル者ハ去ラシメ、翌朝、蒙兵進撃ノ號報ヲ鳴ラシ、全軍一齊ニ沙漠ニ入ル。先キニ「バリエ」ノ諸領袖ト共ニ「ナシル」ヲ去ツテ「クツズ」ニ來リ、「カリウブ」(Kaliub)ノ地ヲ與ヘラレタル「ベイバルス」先鋒タリ「ガザ」ニ在ル蒙兵彼レヲ見テ忽チ去リシカハ、彼レ難ナク同地ヲ占領スルヲ得タリ。「クツズ」同地ニ留マルコト少時、ヤカテ、岸ヲ沿フテ進ム「キタ・ブガ」、「バアルベク」ニ在リ、敵ノ來レルヲ聞キ、家族ト手荷物ヲ「ダマスコ」ニ送り、兵ヲ集メ、敵ヲ迎ヘ撃ツヘク出發ス。

兩軍、最初「バイサン」(Baisan)ト「ナブルス」トノ間ナル「エイン・ジャルト」(Ain Jalut)アリ「Goliah」ノ泉)ニ於テ相對ス。戰ニ先チ「クツズ」激越ノ態度ヲ以テ諸將ニ、是迄蒙古人ニ殺サレタル者ノ狀ヲ語リテ曰ク、汝等克ツニアラサレハ必ス是等ト同一ノ運命ヲ受ケム。我レ汝等ヲ起タシメタルハ「シリヤ」ヲ救ヒ回教ヲ護ラムカ爲メナリ。汝等克タスムハ天ノ怒リト恐ロシキ刑罰ヲ獲ムト。彼レ感極マツテ涙ヲ流シ、極力奮闘以テ敵ヲ撃退スヘシト誓フ。

一二六〇年九月三日會戰ス。埃及軍、始シメ、勝利ノ自信ナク、左翼先ツ臆シテ亂レ、敵ヲ背ニシテ逃散セムトスルノ狀アリ。「クツズ」之ヲ見テ、大聲「オオ、神ヨ、汝ノ僕、クツズ」ニ勝ヲ與ヘタマヘト叫ツツ、親ラ、密集セル敵中ニ突キ入り、驚クハカリノ奮戰ヲナス。カクノ如クニスルコト數回、以テ衆ヲ鼓舞シ、恐ルル所ナク死ヲ決シテ進マシメムトス。

左翼之ヲ見テ、再ヒ集マリテ軍容ヲ整ヘテ進ミ、奮迅ノ勢ヲ以テ敵ニ當ル。蒙軍潰走、將士死スル者極メテ多ク「キタ・ブガ」亦死ス。近隣ノ高地ニ陣シタル蒙軍ノ一隊亦敗レ、殺サルル者多シ。逃ケタル者モ「バイバルス」ノ圍ム所トナリ、免レタルハ數名ニ過キス。戰場附近ノ葦ノ中ニ隠レタルモアリシカ「クツズ」之レニ火ヲ放チシカハ、

レ等亦盡ク死シタリ。戰終ルヤ、「クツズ」馬ヲ降り、二句ノ祈禱ヲ献ケテ神ニ感謝ス。蒙軍ノ側ニアリテ戰ヒタル「サイド」降ヲ乞フヘク來リ、馬ヲ降りテ「クツズ」ノ手ニ接吻セムトス。「クツズ」其口ヲ蹴リ、直チニ一別當ニ命シテ首刎ネシム。

激戰中、「クツズ」カ先キニ「マメルク」族ノ間ニ置キタル「キタ・ブガ」ノ子、父ノ仇ヲ報セムト欲シ機ヲ窺ヒ、「クツズ」ヲ射ラムトセシニ、傍ニアリシ者ノ一人、速ニ其手ヲ捕ヘシカハ、矢、外ツレテ馬ニ中リキ。

克チタル埃及兵ハ蒙人ノ陣營、其婦女及小兒並ニ輜重ヲ奪ヒ、且ツ、捕ヘタル「フラグ」ノ將ヲ盡ク斬リシカ、「ダマスコ」ニ在リタル者ハ生命ヲ救フヲ得タリ。然ルニ八月八日ノ夜、土、日兩曜ノ間ニ於テ、敗報同地ノ蒙軍ニ達シ、諸將忽チ去レリ。彼等カ同地ヲ占領セルコト實ニ七箇月ト七日間ナリシナリ。九月九日、「クツズ」チベリアス「Tibetia」ヨリ「ダマスコ」ニ、今次神ノ與ヘタマヒタル勝利ヲ傳告ス。回教徒ノ悦、譬フルニ物ナシ、蒙軍ニ克タムコト豫想ノ外ナレハ無理ナキナリ。彼等、直ニ基教徒ノ家ニ侵入シテ掠奪殺傷ヲ恣ニシ又聖「ヤコブ」及聖「マリヤ」ノ墓ヲ發キス。猶太人ノ店舗モ殆ムト盡ク劫メラレシカ、家屋ト會堂ハ、武力ノ保護ニヨリテ漸ク破壊ヲ免レタリ。尋テ、蒙人ニ與シタル回教徒、容赦ナク屠ラレヌ。

「クツズ」兵ヲ率キテ「ダマスコ」ニ著シ、二日ヲ過キテ市内ニ入り、蒙人ニ與ミシタル若干ノ回教徒、特ニ「ナシル」ニ叛キタル「クルド」族ヲ殺シタルノミナラス、基教徒三十名ヲ殺シ、其餘ノ基教徒ニハ金十五萬「ドラクマ」(Drachma)ヲ出サシメ、其生命ヲ赦シタリ。

逃クル蒙兵ヲ追撃スヘク遣ハサレタル「ベイバルス」、「ハマト」ニ到リテ將ニ之レニ追付カムトシタルニ蒙兵、輜重ヲ捨テ、俘虜ヲ放チ、急ニ海岸サシテ走リシカ、其邊リノ回教徒ノ爲メニ或ハ擒セラレ或ハ殺サレタリ。「ノヨン」モ埃及軍ニ抗スル能ハス、殘兵ト共ニ「ルーム」ニ退キス。

「クツズ」ハ當時、百戰百勝ノ勢アル蒙人ヲ逐回ヘシタル唯一ノ人、彼レ既ニ埃及ヲ救ヒ、「シリヤ」ヲ取リ、「ユーフラテス」河ニ及フ。乃チ、己レノ意ノママニ、領ヲ授ケ賞ヲ行フ。即チ「シンヂヤル」ニ「ダマスコ」ヲ、「ベドル・ウド・ヂンル」ノ子「モザフアル」ニ「アレツボ」ヲ治メシメ、「マンズル」王ニ其「ハマト」ノ所有ヲ確認シ、「シリヤ」ニ於ケル「フラグ」ノ首タル代理者タリシ「ヒムス」王「アシラフ」ハ其請フカママニ罪ヲ赦サレヌ。「クツズ」、「シリヤ」ニ於ケル己レノ代理者ヲ凡テ指名シ終リ、十月五日「ダマスコ」ヲ去リテ埃及ニ到ル。戰ニ無雙ノ勇ヲ表ハシタル「ベイバルス」、「アレツボ」ノ總督タラムコトヲ求メタ

ルモ得ス、怒ツテ他ノ六名ノ不平漢ト共ニ「クツズ」暗殺ノ謀ヲ企テタリ。

「クツズ」コイツセム(Koitssem)トサラヒエトトノ間ニ於テ暫ラク旅ヲ中止シ、近傍ニ狩リス。ベイバルス等陰カニ其跡ヲ追ヒ行ク。ベイバルスヤカテ彼レヲ見、近ツイテ愛顧ヲ乞ヒ、許サレテ、其手ヲ取りテ接吻ス。同時ニ同謀者ノ一人、劍ヲ以テ背ニ斬リ付ク。又一人、彼レヲ馬ヨリ引落ス。尙又一人、矢ヲ以テ胸ヲ射ル。而シテ最後ニ、ベイバルス自ラ之レカ止メヲ刺シヌ。實ニ一、二六〇年、十月二十日ナリ。「ベイバルス」等「クツズ」屍ヲ其場ニ打捨テ急イテ「サラヒエツト」ノ陣ニ到リ、「クツズ」ノ天幕ニ入りテ直チニ貴族「ビルバン」(Bilban)ヲ押シテ即位セシメムトス。「ビルバン」ハ彼等ノ中ノ最尊貴ナル者ナリ。「アタベグ」フアリウド・デン・アクタイ「馳セ來リ、何事ヲナサムトスルヤト問フ。彼等「ビルバン」ヲ指シテ「此人ヲ「スルタン」トセムトスルナリ」ト答フ。「アクタイ」此種ノ場合ニ於ケル土耳其ノ慣習如何。彼等殺シタル者繼ク「アクタイ」スルタンヲ殺シタル者ハ誰ソ。彼等「ベイバルス」ヲ指シテ「此人ナリ」トイフ。「アクタイ」「ベイバルス」ノ手ヲ取りテ「スルタン」ノ座ニ導ク。「ベイバルス」曰ク「我レ神ノ名ニ於テ茲ニ座ス。汝等我レニ誓ヲナスヘシ」。「アタベグ」曰ク「汝先ツ、彼等ヲ取扱フニ誠實ヲ以テシ、彼等ヲ昇進セシムルニ吝ナラサルヘキヲ誓フヘシ」ト。新「スルタン」此意味ノ誓ヲ

ナシ、次テ、彼等亦忠實ノ誓ヲナシヌ。

「ベイバルス」即位後、去ツテ「カイロ」ニ到ル。時正ニ深夜、市中、到ル處ニ回教ノ教主「クツズ」ノ爲メニ祝燈ヲ掲ク。人民ハ此名譽アル「スルタン」ヲ待チテ、戦勝ノ悦ヲ表サムト望メルナリ。曉ニ到リ、傳令使、普ネク「カイロ」全市ニフレ廻リテ曰ク「オオ、民ヨ、エル・モザフエル・クツズ」ノ魂ノ爲メニ神ノ惠ヲ求メ、汝等ノ新「スルタン」、「ベイバルス」ノ爲メニ祈ルヘシ」之ヲ聞キタル時ノ人民ノ吃驚如何ハカリナリシソ。

且ツ彼等ハ「バーリエ」等ノ暴虐ヲ知レルカ故ニ之ヲ恐レタルナリ。「ベイバルス」ハ元來「キブチヤク」人、即チ「ポロウチ」土耳其人(Polovai Turk)ニシテ「ダマスコ」ニ於テ八百「ドラクマ」ニテ賣ラレタル者ナルカ、買ハムトシタル人、彼レノ眼ニ白キ星アルヲ發見シタル爲メ、破談シ、貴族「エイヂキン・ブンヅクダル」(Eidikin Bundukdar)之ヲ買ヒタリ。ヨツテ「マメルク」ノ慣習ニ從ヒ、彼レハ自ラ「ベイバルス・エル・ブンヅクダル」ト稱ス。二四六年「エユブ」族ノ「スルタン」、「サリー」、「エイヂキン」ヲ斥ケタル時、「ベイバルス」ヲ取リテ之ヲ用キ、ヤカテ彼レハ「バーリエ」中ノ最高ノ地位ニ進ミタルナリ。

サテ、今ハ「スルタン」トナリタル「ベイバルス」、「ダマスコ」ヲ其舊主「サリー」ニ與ヘテ總督トナシヌ。然ルニ、蒙軍カ「アイン・ジャルト」(Ain Jalut)ニ敗レタルノ報達シタル前

日「フラグ」ハ「ナシル」王ニ「ダマス」コ及其附近ノ地ヲ與ヘ、彼レニ「シリヤ」人三百名ヲ附シテ「ハマダン」ヨリ出發セシメタリ。「シリヤ」人「フラグ」ニ「ナシル」ハ「ダマス」コヲ獲テ「クツズ」ニ附カムコト必セリト告ク。ヨツテ「フラグ」蒙古騎兵三百名ヲシテ「ナシル」ヲ追ハシム。彼等「サルマス」(Salmas)ノ山地ニ於テ追及ヒ、一星占者以外凡テヲ殺ス。此星占者ハ即チ當時ノ殺戮ノ狀ヲ記シテ史家「バル・ヘブラエウス」(Bar Hebraeus)ニ授ケタル者ナリ。「フラグ」「アイン・ジャルト」ニ於ケル戰敗ノ辱ヲ雪カムト欲スルコト極メテ切ナリシモ「マング」ノ死ノ爲メニ、速ニ進軍ニ著手スル能ハサリキ。

上ニ記シタル如ク「フラグ」ハ「マヤフアルキン」ニ降服ヲ要求シ、己レノ子「イシムト」ヲシテ之ヲ圍マシメ、己レハ「アレツボ」ニ向ヒタリ。當時「マヤフアルキン」ノ王「カシル」答ヘテ曰ク「之ヲ他ノ諸王ノ運命ニ徵スルニ蒙古人ノ言ハ毫モ信スル能ハス。我等ハ最後マテ戰ハムト欲スル者ナリト」カミル「己レハ」バグダット「ノ」カリフ「ノ」如ク貪慾ノ爲メニ己レノ身ト國トヲ亡ホス如キ事ヲナスヲ願ハス」ト言ヒテ人民ヲ激勵シ、己レノ所有ノ凡テノ物品財寶ヲ發シテ軍用ニ提供シ、第一著手トシテ突撃ヲ試ミ、敵ノ多クヲ殺シス。特ニ、彼レノ部下ニ弩砲ヲ以テ大石ヲ投射スルニ巧ナル者アリ、敵ヲ惱マスコト夥カリシカ「モスル」王「ベドル・ウド・ヂン・ルル」カ敵ニ送リタル兵ノ

中ニ亦此術ニ巧ミナル者アリキ。傳ヘイフ、此二人カ發シタル大石空中ニ於テ衝突シ何ツレモ粉碎シタリト。城内ヨリ二名ノ勇將相次テ突撃ヲ試ミ、敵ヲ原野ニ追拂ヒシコトアリシモ、終ニ、包圍ハ封鎖トナリ、封鎖ハ飢饉ヲ將來シ、城内ノ者、犬、猫、靴ヲ喰ヒタルノミナラス、人々相食ムノ已ムナキニ至ル。封鎖全一箇年ニ及ヒ、支フル能ハス「カミル」住民ヲ出タシテ「イシムト」ニ送り、城内ニハ最早抵抗ヲ敢ヘテスル者ナシト告ク「イシムト」「オロクツ」(Orukh)ヲ城内ニ送リテ檢セシム、餓死ニ瀕セル人民七十名ヲ見タルノミ。蒙兵侵入シテ掠奪ヲ恣ニス。カノ二勇將、一家屋ノ頂ニ登リ、下ヲ過クル者ヲ殺セシカ、遂ニ蒙兵ノ圍ム所トナル。而カモ屈セス、討死ス。カタテ、一二六〇年ノ春、有名ナル「マヤフアルキン」ノ城市ハ蒙人ノ手ニ落チタリ「カミル」王ト九名ノ「マメルク」擒トナリテ「テルバシル」(Telbasir)ニ送ラレ「フラグ」ノ面前ニ導カル「フラグ」彼レノ肉ヲ一片又一片、切り取りテ之ヲ嚙下セシメ、命ヲ絶ツマヲ續ケタリ。其後首ヲ斬リ放チ、之ヲ槍ノ先キニ突キ刺シ「アレツボ」ヨリ「ハマト」ヲ經テ「ダマス」ニ運ハシム。市街通行ノ際、其前ニ太鼓ヲ鳴ラシ歌ヲ歌ハシメ「エル・フェラヂス」(El Feradis, Paradise)極樂門ニ到リテ、其隣接ノ壁ニ懸ケタリ。後「クツズ」「アイン・ジャルト」ニ克チテ「ダマス」コニ入リシ時、之ヲ見テ卸シ「アリ」ノ子「フツセイイン」ノ陵ノ中ニ收メタリ。

「カミル」ト共ナリシ九名ノ「マメルタ」ノ中八名ハ殺サレ一名ノミ赦サレタリ蓋シ
彼レハ「カミル」ノ狩獵部ハ長ナリシニヨルヤカテ「フラグ」探リテ己レニ仕ヘシム。

又「イシムト」ハ父ノ命ヲ奉シ「マルデン」ヲ攻メタリ蓋シ是ヨリ先キ「フラグ」ハ「マル
デン」ノ「サイド」ヲ招キシニ「サイド」ハ「フラグ」ヲ信セス子「モザフェル」ヲ「アレツボ」ニ遣
ハシタリ「フラグ」之レニ汝ノ父ニ告ケテ自ラ來レト言ヘ汝ハ彼レノ反逆ヲ諫メテ
其生命ヲ救フヘシトイヒテ之ヲ「マルデン」ニ送り回ヘシシニ「サイド」之レニ耳ヲ借
サス却ツテ之ヲ獄ニ投セシカハ「フラグ」之ヲ攻メシメタルナリ然ルニ城高キ所ニ
アリテ矢及ハサリシカハ之ヲ封鎖シタルニ八箇月ノ末、饑饉疫病並到リ、死スル者
算ナク「サイド」王亦病ムテ死ス或史家ハ子「モザフェル」ノ毒殺シタルナリトイフ「モ
ザフェル」ハ解放セラレテ降り「フラグ」之レニ「マルデン」ヲ與フ「モザフェル」死ニ至ル
マテ(一二九六)之ヲ領シタリ。

「バグダッド」陥リ「カリフ」倒レタル後「カリフ」ハ「モスタツシム」ノ叔父「アブルカツシ
ン・アーメド」(Abul Kassin Ahmed) 逃レテ「イラク」ノ「ベヅイン」(Beduin) 等ノ間ニ隠レシカ、
一二六一年彼レ「アラビヤ」人ヲ率キテ「ダマスコ」ニ到ル「ベイバルス」直ニ命ヲ下シテ、
此「アツバス」(Abbas) ノ子孫ヲ優待シ埃及ニ導カシム。一二六一年六月十九日、彼等カ

イロニ近ツク「ベイバルス」多クノ將士ト裁判官ト「ウレマ」ト民衆ト經典ヲ携ヘタル
猶太ノ「ラビ」(Rabbi) ト聖書ヲ携ヘタル基督教ノ僧侶トヲ率キテ出テ之ヲ迎フ。

四日ノ後、上長ノ官吏ト「ウレマ」等宮殿ニ會合シ「アーメド」ノ系圖ヲ確立ス判事長
「タジ・ウド・ヂン」(Taj ud din) 先ツ忠實ノ誓ヲナシ、次テ「ベイバルス」ハ「新カリフ」ニシテ常
ニ回教ノ律法ヲ守リ、教祖ノ教ニ從ヒ、律法ノ命スル如ク命シ、律法ノ禁スル如ク禁
シ、神ノ道ヲ歩ム限リ、從順忠實ナルヘシト誓ヒ且、信者ノ寄進ハ之ヲ神ノ名ニ於テ
適法ニ受ケ、之ヲ取ルヘキ權利ヲ有スル信者ニ與フヘシト告ク。此時「カリフ」ハ「アー
メド」ハ「ベイバルス」ニ既ニ回教ニ屬セル諸國及神力不信者ノ手ヨリ彼レノ奪フヲ
許シタマフヘキ諸國ノ主權ヲ授クル爲メニ其旨ノ證書ヲ與ヘ、次テ、凡テノ列席者、
「カリフ」ヲ拜シテ忠實ヲ誓フ「カリフ」自ラ稱シテ「アル・モンスタンシル・ビラーニ」(Al
Monstansir Bilihani) トイフ「スルタン」ハ「ベイバルス」各地ニ令ヲ下シテ新カリフヲ確認
セシメ、彼レノ名ヲ公ノ祈禱ニ呼ハシメ、又新貨幣ノ上ニ刻セシム「カリフ」ハ「スルタ
ン」ニ「アツバス」家ノ外套ヲ授ク。數日ノ後「カリフ」ハ「黒キ馬具附ケタル白馬」ニ跨リ市ニ
出ツ。頭ニハ「黒キ頭巾」ヲ戴キ、莖色ノ襟ヲ着ケ「ベヅイン」ノ劔ヲ佩キタリ。又即位ノ當
日「カリフ」ハ「スルタン」ニ官服ヲ授ケ、首ニ金鎖ヲ懸ク。其後宰相「ベイバルス」ニ主權ヲ

授クル旨ノ證書ヲ朗讀シタリ。終リテ「スルタン」馬ニ跨リ威風堂々トシテ市中ヲ巡ル。宰相ト大將軍、カノ證書ヲ交ル。其頭上ニ戴セテ前驅ヲナス。各戸、飾ヲ施シテ祝意ヲ表シ、「スルタン」ノ馬、貴重ナル織物ヲ敷キタル街路ノ上ヲ行ク。

次キノ金曜日ニ、「カリフ」、衛城ノ「モスク」ニ於テ説教ス。其功果ヲ危ミタル「スルタン」之ヲ確實ニセムトテ、己レノ身邊ヨリ金銀貨ヲ蒔キ散ラシタリシカ、却ツテ、之レカ爲メニカノ説教ハ妨害サレタリ。

「ベイバルス」、「カリフ」、ニ必要ナル吏員、騎兵、從僕ヲ供給シ、尙ホ各三頭ノ駱駝ト三頭ノ馬ヲ有スル「マメルク」百名、二千ノ騎馬、一團ノ「ベヅイン」ヲ與ヘタリ。

一二六二年、九月四日「カリフ」ト「スルタン」、「カイロ」ヲ去ツテ「ダマスコ」ニ向ツテ出發ス。十月十日「カリフ」途ヲ「バグダッド」ニ取リ、「ユーフラタス」マテ伴ヒ來リタル將軍「セイフ・ウド・ヂン・ビルバン」[Seif ud din Bilban]ト「ルーム」ノ「ソンコル」[Sunkor]ト別レ、彼等ニ暫ラク此處ニ止マリ、ヤカテ我合圖ヲ待チテ「イラク」ニ入ルヘシト命ス。

當時「モスル」ト「ジェジレット」[Jeziret]ト「シンヂヤル」トニ各々王タリシ「ベドル・ウド・ヂン・ルル」ノ三子ハ「カリフ」ト共ニ出發セシカ「ラーバー」[Rahbah]ニ到リテ止マリ、「カリフ」ノ尙モ同行ヲ請フニ拘ラス、「カリフ」ト別レタリ。但シ「カリフ」ハソノ時「マメルク」五六十

名ヲ與ヘラレ、又「アル・ファズル」[Al Fazi]ノ長「エジド」[Yezid]カ「ベヅイン」四百名ヲ携ヘテ來リ、且王族「エイヂキン」カ騎兵三十ヲ率キテ「ハマト」ヨリ來ルニ會ス。

彼等「ユーフラタス」ノ西岸ニ沿ヒテ進ム「アバシド」系ノ「イマム」[Al-Hakim]七百ノ土耳其騎兵ヲ率キテ到ル。蓋シ之レ「スルタン」ノ意ニ反シテ「アレツボ」城將トナリタル「アルブルンリ」[Al Burunli]ノ遣ハシタル所ナリ。「カリフ」、「ハキム」ノ一行ニ「アナ」[Ana]ニ於テ追及フヤ、七百ノ騎兵去リス。

是ニ於テ、「ハキム」、「カリフ」、「モンスタンシム」ニ從ヒ、彼レノ「バグダッド」ヲ取ルヲ援ケムトス。然ルニ「アナ」ノ民「ハキム」ヲ迎フルヲ拒ムテ曰ク來ルヘキ「カリフ」ハ埃及ノ「スルタン」ノ認メタル所ナリ。我等彼レ以外ノ者ニ對シテ門ヲ開クヲ欲セスト。

然ルニ「モスタンシル」乘ルヤ、彼等ハ相當ノ尊敬ヲ以テ之ヲ迎ヘタリ。「ハヂツエ」[Hajjeh]モ亦「アナ」ト同シク之ヲ迎ヘシニ「ヒット」[Hit]ハ頑トシテ門ヲ開カサリシカハ、「カリフ」兵力ヲ以テ之ヲ奪ヒ、十一月二十四日其兵ト共ニ同市ニ入ル。此兵、容赦ナク基督教徒及猶太人ヲ劫掠シタリ。

「アラビヤ」ノ「イラク」ヲ守リ居リタル蒙將「カラ・ブガ」[Kara Buga]「モンスタンシル」ノ來ルヲ聞キ、騎兵五千ヲ率キテ「アンバル」[Anbar]ニ進ム。「アンバル」ハ「カリフ」ニ好意ヲ

有シ之ヲ援ケムト欲ス「ブガ」急ニ同市ニ侵入シ、到ル處ニ民ヲ殺ス。「バグダッド」ノ總督「バハヅル・アリ」(Bahadur Ali) 同地ノ守備兵ヲ率キテ、到リ「アンバル」附近ニ於テ「ブガ」ト會シ兵ヲ併セテ「モンスタンシル」ト戰フ。「モンスタンシル」ハ「土耳其兵」ヲ右翼「アラビア兵」ヲ左翼トシ、自ラ中軍ニ將タリ。「バハヅル」ノ兵敗走シ、河ニ落チテ死スル者極メテ多シ。「ブガ」兵ノ一部ヲ伏セテ待ツ。ヤカタ「土耳其兵」ト「アラビヤ兵」到リ、蒙兵ニ會ヒテ驚キ潰走ス。中軍、孤立、忽チ包圍セラレテ混亂シ、殆ント全滅ス。「カリフ」亦此混亂裡ニ消失シテ再ヒ出テス。或ハ、此時殺サレタリトイヒ、或ハ「アラビヤ」人ノ間ニ逃ケシモ創ノ爲メニ死シタリトイフ。

傳フル所ニヨレハ「モンスタンシル」ハ精力絶倫、勇氣アリ、加フルニ品性高雅ニシテ、カノ「フラグ」ノ陣ニ於テ馬ノ蹄ノ下ニ踏潰サレタル最後ノ「カリフ」。「モスタツシム」ノ類ニアラスト。サレト、彼レカ今回ノ擧ノ愚ノ極ナルハ、争フヘカラス。ソモ何故ニカノ怜悯ナル埃及ノ「スルタン」カ、カクノ如キ前途ノ運命ノ見エ透キタル遠征ニ莫大ノ財寶ヲ費スヲ敢ヘテセシカ。彼レ「カリフ」ヲ滅サムトノ異圖ヲ抱キシニアラスムハ、事豈茲ニ出ツルヲ得ム。一史家曰ク、「ベイバルス」。「カリフ」ヲ「バグダッド」ニ立テム爲メ、兵一萬ヲ送り、「モスル」ノ王及其兄弟等ヲシテ之ヲ援ケシメムトセシニ、其一

人「ベイバルス」ニ戒メテ「カリフ」若シ「バグダッド」ニ於テ足場ヲ得ハ、遂ニ埃及ヲ取ルニ至ラムト告ケタリト。案スルニ「ベイバルス」ハ單ニ自己ノ權力ヲ固メ、回教界ニ自由ヲ得ムト欲シタルニ過キス。而シテソノ爲メニハ、今ノ「カリフ」ヲ廢シ、之レニ代フルニ餘リ強カラサル從順ナル者ヲ以テセムト企テシナラム。サテ、カノ「アンバル」ニ於テ「カリフ」ニ會ヒタル「ハキム」ハ一一三五年「アツサシン」派ニ殺サレタル「モスタシエド」四世ノ孫ナリト自稱スル者ナルカ、彼レハ今次埃及ニ逃ケシニ「ベイバルス」之ヲ歡待シ「ムナシル・アル・ケベシ」(Munahir al Kebesh) ト名ツクル宮殿ニ置キタリ。カクテ「ハキム」ハ「カリフ」トナリシカ、彼レハ、只「ベイバルス」カ埃及ノ「スルタン」タルハ神聖ナル回教ノ認ムル所ナリトシテ「ベイバルス」ヲ回護シ、以テ凡テノ「フアチミド」系ヲシテ、斷念セシムルノ用ヲナスニ止マリ、何等權力ヲ有セス。彼レハ實ニ「マメルク」系ノ「スルタン」ノ傀儡トナレル最初ノ埃及「カリフ」ナリキ。彼レハ地上ニ於ケル神ノ影、神ノ命ヲ受ケタル統治者ト稱セラレテ、治世四十年ニ及ヒ、子孫相繼イテ立チシカ、後ニ「セリム」(Selim) 一世埃及ヲ征服スルニ及ムテ、該朝倒レ、土耳其ノ諸「スルタン」。「カリフ」トナリ「モハメット」ノ後ヲ襲キタリ。

サテ「モスル」ノ「ベドル・ウド・ヂン」ノ長子「サリ」ハ「カリフ」ニ比シ遙カニ惡シキ運命

ヲ受ケタリ。始シメ「ベイバルス」即位スルヤ、間モナク「サリー」ノ兄弟「サイド」「マメルク」等ノ爲メニ「アレツボ」ヲ逐出サレタル—埃及ニ到リ、同地ヨリ「サリー」ニ宛テ一書ヲ發シ「汝「ベイバルス」ノ許ヲ訪フヘシ、彼レ若シ蒙古人ニ克タハ、汝ヲ西部ノ小地ニ王タラシムルコトナク、東部ノ大地ヲ與フヘケレハ」ト告ケタリ。「サリー」此書ヲ大切ニ寢床ノ下ニ隠シ置キシニ「ベドル・ウド・ヂン」ノ世ニ大立物ナリシ一吏「イブン・ユヌス」「Ibn Unus」トイフ者「サリー」ノ眠レル間ニ之ヲ盜ミ、直チニ已レノ生地「ニネヤ」「Nineveh」ノ「バアシカ」「Bashika」ニ走リス。

「サリー」書ノ失セタルヲ見テ、奴隸二名ヲ「バアシカ」ニ遣ハス。「ユヌス」捕ハルレハ必ス重罰ヲ受ケムコトヲ恐レ、「エルビル」ニ向ツテ逃ク。途中「バクテリ」「Bakel」ニ寄リ「アバド・ウラー」「Abad Ullah」ニ「汝直ニ汝ノ民ヲ率キテ我レト共ニ埃及ニ逃クヘシ」「サリー」ハ凡テノ基督教徒ヲ亡サムト欲スル者ナレハ「ト告ケ、後「エブリル」ニ到ル。

然ルニ「サリー」ハ「ユヌス」カ、カノ書ヲ蒙人ニ示スコトアラムヲ恐レ、已レノ子「アライ・ウル・ムルク」「Alai ul Mulk」ト共ニ「シリヤ」ニ退ク。妻「ツルカン・カツン」「Turkan Khatun」從フヲ欲セス、蒙人知事「ヤサン」「Yasan」ト共ニ「モスル」ニ留リ、門ヲ閉チテ防禦ノ準備ヲナス。「サリー」ノ將「アラム・ウド・ヂン・サンヂヤル」「Alam ud din Saugay」途中「サリー」ト別レ、

「モスル」ヲ占領スヘク歸リシニ、門鎖サレタルヲ見、之ヲ攻ム。攻撃七日ニ及ムテ、市民ノ多數、終ニ門ヲ開キシカハ、「サンヂヤル」入ルコトヲ得タリ。「ヤサン」ト「カツン」ハ衛城ニ逃ケス。

「サンヂヤル」回教ヲ奉スルヲ肯ンセサル凡テノ基督教徒ヲ殺セシカハ、已レノ生命ヲ救フ爲メニ已レノ宗教ヲ捨テタルモノ少カラサリキ。

之レト同時ニ「クルド」人、近隣ノ地ヲ攻撃シ多數ノ基督教徒ヲ殺シタリ。「クヂダ」「Khidida」僧庵、彼等ノ爲メニ襲撃セラレ死スル者多ク「マル・マタイ」「Mar Matthew」寺ハ歩兵若干ト騎兵一千トニ圍マルコト四箇月、彼等強襲ヲ試ミタルモ、僧侶等奮闘之ヲ擊退シ、其懸ケタル梯子ニ油ヲ澆キテ燒ク。「クルド」人、近傍ノ山ノ頂ヨリ、二個ノ巨石ヲ轉ハシ下ス。其一ツ、壁壘ノ中ニ堅ク埋マリ、恰モ、之ヲ用キテ築造シタルニ似タリ。他ノ一ツハ貫キ通りテ、大ナル穴ヲ殘ス。「クルド」人、此穴ヨリ侵入セムトズ。僧侶等、石、槍等凡テ寺ニアリタルアラユル武器ヲ用キテ之ヲ防キ、彼等ヲシテ入ルヲ得セシメス。院主「アブンセル」「Abunser」特ニ勇戦シ、一眼ヲ失フ。サレト、結局、寺院方敗勢ヲ呈シタリ。若シ「クルド」人ニシテ攻撃ヲ續ケナハ必スヤ陷落ノ已ムナカリシナラム。但シ、「クルド」方ニモ弱味ハアリシナリ。蒙人ノ來寇ヲ恐レタルコト是ナリ。サレト、彼等、巧

ニ之ヲ隠シテ和議ヲ講シ、僧侶等、寺院中ノ金銀及人民ヨリ徴シ得ル限りノ財寶ヲ取リテ、之ヲ「タルド」人ニ與フルコトトナリ、「タルド」人ハ之ヲ受ケタル後去リス。

蒙人王族「クトレグ・ベグ」(Kutlug Beg)「エルビル」ニ於テ容赦ナク男女ヲ屠ル「サリ」ノ將「サンジヤル」蒙軍ノ「モスル」ニ向ヒツツアルヲ聞キ出テ之レト戦ヒ敗レテ死ス。此時「モスル」ノ「メリク」、「サリ」ハ、新「カリフ」ト共ニ「ダマスコ」ノ「ベイバルス」ノ許ニアリテ、兄弟等ト共ニ大ニ歡待セラレ、馬、旗、名譽ノ衣服及稱號確認ノ證書ヲ授ケラル。此證書ハ後、更ニ「カリフ」ノ確認ヲ得タリ。三兄弟カ「カリフ」ヲ送リテ「ラツバー」ニ到リ、同地ニテ別レ、各自ノ領ニ歸リタルコトハ上ニ誌シタリ。

サテ「サリ」、「モスル」ニ歸ラムトスルヤ、蒙軍恰モ同地ヲ包圍シツツアリキ。蒙將「サムダグ」(Sandag)「サリ」ノ來ルヲ聞キ、市ヲ距ル程遠カラヌ地ニ退キ之ヲ待ツ「サリ」ノ既ニ門ヲ入りタルヲ見テ「ツマン」ノ兵ト二十五個ノ弩砲トヲ以テ再ヒ包圍シ、攻撃スルコト十二月ヨリ翌年ノ夏ニ及フ。

「サリ」厚ク城兵ニ賜ヒ、且「スルタン」ヤカテ援兵ヲ送ルヘシト告ケシカハ、彼等、勇ヲ鼓シテ奮闘屈セス。一日、蒙兵八十、壁壘ヲ越ヘテ侵入セシカ、城兵盡ク之ヲ殺シ、其首ヲ弩砲ヲ以テ射テ敵軍ニ送リス。

「サムダグ」援兵ノ必要ヲ感シ、之ヲ「フラグ」ニ請フ「フラグ」速ニ之ヲ送ル「スルタン」モ「アレツボ」ノ總督「アツクシ」(Akush)ニ「モスル」ヲ救フヘク命ス「アツクシ」到リテ己レノ來レルヲ告ケムトシテ鳩ヲ送ル。然ルニ鳩、偶然「サムダグ」ノ兵ノ用ユル所ノ弩砲ノ上ニ棲マリ、捕ヘラレ、是レニ附ケタル信書「サムダグ」ノ讀ム所トナレリ「サムダグ」急ニ精兵一隊ヲ遣ハシ「アツクシ」ヲ要撃セシム。蒙兵、三個ノ地點ニ伏シテ之ヲ待ツ。埃及兵、到ル。伏起リシノミナラス、偶、猛風アツテ砂塵面ヲ撃チシ爲メ、大敗シ、死者多ク、免レタルハ極メテ僅カナリキ。蒙兵、次キニ「サンジヤル」ノ民ヲ攻メテ、婦女及小兒ヲ擒ニシ、餘ハ殆ント盡ク殺シタリ。尋テ蒙兵「アツクシ」ノ兵ノ衣服ヲ被テ、「モスル」ニ進ム。近キタル時、城兵、望樓ヨリ之ヲ見テ「スルタン」ヲ援兵來レリトナシ、之ヲ迎フヘク出テ行キタル者甚タ多ク、彼等忽チ、蒙兵ニ圍マレ、一人ヲ殘サス殺サレタリ。

包圍六箇月ニ及ヒテ酷暑到リ、各方面攻撃ヲ中止スルノ已ムナキニ至リ、蒙將「サリ」ニ凡テノ者ノ生命ヲ赦スヘケレハ降服セヨト告ケシカハ「サリ」屈シ「サムダグ」ニ一書ヲ送リテ降服ノ條件ヲ申シ出タリ。

一二六二年六月二十五日「サリ」禮物及美味ヲ携ヘ、舞踏者、歌唱者、俳優ヲ先キニ立テ、蒙軍ノ陣ニ到ル。蒙將、凡テノ約束ヲ破リ「サリ」ヲ迎ヘス、見サルノミナラス、却

ツテ直ニ之ヲ嚴重ナル監護ノ下ニ置キタリ。

然ルニ「サムダグ」再ヒ「モスル」ノ民ニ「汝等恐ルルノ必要ナシ。生命ハ必ス救サム、但シ壁壘ヲ壊ツヘシ」ト告ク。彼等直ニ命ニ從ヒ凡テヲ取拂ヒタル時、蒙兵來リテ虐殺ヲ始メ、七日間ニ及ヒ、一人モ殘ラスナリ、市街全ク荒レ果テシカ、蒙兵遠ク去リタル後、山間、洞穴ニ潜匿シタル者八千乃至一萬人、歸リ來リテ住居シタリ。

荒廢シタル「モスル」ノ最初ノ總督ハ、實ニカノ「サリー」ノ書ヲ盜ミテ叛キタル「イブン・ユヌス」ナリキ。

「サリー」裁判ノ爲メニ「フラグ」ニ送ラレ、嚴酷ナル宣告ヲ受ケタリ。「モスル」ノ王ナリシ彼レ、衣服ヲ奪ハレ、新ニ剃キタル羊ノ皮ヲ着セラレ、熱帶ニ於ケル七月ノ太陽ニ晒サレ、ヤカラ、蛆虫湧キ出テ跋扈ス。此苦惱一箇月ニシテ彼レ遂ニ死シタリ。三歳ノ幼童ナル、彼レノ子「アライ・ウド・デン」モ「モスル」ニ送リ還サレ、同地ニ於テ、身體ノ中央ヨリ兩斷セラレ、各部ヲ架柱ニ掛ケテ「デグリス」ノ兩岸ニ晒ラサレタリ。「ゼブラク」(Zehlak)ノ子「モハイ」(Mohai)ハ他ノ者ト共ニ先キニ門ヲ開キテ「サリー」ヲ容レシ者ナルカ、彼レモ亦首刎ネラレキ。

「サムダグ」、「モスル」ニ克チタル後「ジェジレット」ニ到リテ之ヲ圍ミ、冬ヲ過キテ翌年

(即チ一二六三年)ノ春ヲ經テ初夏ニ及ヒタリ。但シ幸ニシテ、同市ハ「ネストリヤ」派ノ僧正「ハナン・エシユア」(Hanan Yeshua)「耶蘇」ノ「義」ノ爲メニ、破壊ノ運命ヲ免レタリ。蓋シ同僧正ハ鍊金術ニ通シ「フラグ」ニ寵アリシカハ直チニ往キテ「ヤルリク」(Yarlyk)人ノ生命ヲ保證スル命令書ヲ受クルヲ得タルナリ。城門ヲ開キテ「サムダグ」ヲ容ル「サムダグ」命シテ直ニ壁壘ヲ毀タシメ「ジェジレット」王ノ臣「グルベグ」(Gulbeg)ヲ總督トナシシカ、其後間モナク、彼レカ王ノ使ニ王ノ隱シ置キタル金ヲ與ヘタルヲ聞キ直チニ之ヲ誅シタリ。

此頃「バグダッド」ノ王族「サラル」(Salar)「イラク」ヲ去リ埃及ニ到ル。彼レハ「キブチヤク」人ニシテ、嘗テ「カリフ」、「ダヒル」(Dahir)ノ「マメルク」トナリ「ヴシト」(Vasit)「クフアト」(Kufat)及「ヒレント」(Hiliet)ノ地ヲ與ヘラレ「モスタツシム」及「モスタンシル」ノ世ニモ之ヲ領シ居タリシカ、「フラグ」ノ「バグダッド」ヲ陥ルルヤ、彼レハ他ノ者ト其兵ヲ併セテ蒙軍ニ抗シタリ。然ルニ、彼等ノ何事ヲモ爲スニ足ルノ力ナキヲ見、去ツテ「ヒヂヤズ」(Hijaz)ノ沙漠ニ居ルコト六箇月「フラグ」ノ使、來リ、彼レニ從前ノ所領ヲ許ス旨ヲ告ク。彼レ、乃チ往キテ之ヲ取リタリ。「バイバルス」、「スルタン」トナルヤ、幾度モ「サラル」ヲ「カイロ」ニ招クヘク書ヲ送り、彼レ、亦夙ニ「カイロ」ニ往カムノ志アリシモ、己レノ財産

ノ安全ヲ氣遣ヒ、躊躇シツツアリキ。

「スルタン」、「ベイバルス」一日「バグダッド」ノ「キリヂ」(Kirdi)ニ告ケテ曰ク「汝ノ友サラル」我レヲ訪フヘク來ラムトス。答ヘテ曰ク「我レハ彼レ來ルヘシト思ハス。彼レ今「イラク」ヲ治ム、如何ンソ、之ヲ捨テテ埃及ニ來ルコトアラム」。「然リ、彼レ來ラスハ、我レ來ラセム」。「ベイバルス」乃チ先ツ、一使ニ恰モ他者ニ答フル如キ書ヲ託シテ「サラル」ニ往カシメ、ヤカテ又一使ヲ送り、先キノ使ヲ「サラル」ノ國境ニ入りタル後、殺シテ其屍ヲ書ト共ニ棄テ置カシム。蒙軍ノ前哨、屍體ヲ發見シ、カノ書ヲ得、「フラグ」ノ許ニ送ル。時ニ先キニ「ベイバルス」ノ部下ナリシ「マメルク」ノ子數名「フラグ」ニ仕ヘ居タリ。彼等往キテ、アリシ次第ヲ「サラル」ニ語ル。「サラル」直ニ「ベイバルス」ノ己レヲ欺カムトセシヲ知リシカ、ヤカテ「フラグ」ヲ召ス。「サラル」殺サレムコトヲ恐レ、家族及財産ヲ後ニ殘シテ、去ツテ埃及ノ「スルタン」ニ身ヲ寄セタリ。

「ベイバルス」彼レヲ款待シテ將軍トナシ、相當ノ領地ヲ與ヘヌ。

サテ「フラグ」ノ「シリヤ」及埃及征討ノ計畫ハ、彼レノ從兄弟ニシテ「ジュチ」ノ子タル「金族汗」(Berka)ノ爲メニ、甚シク阻止セラレキ。是ヨリ先キ、「一二五五年」「バツ」死シ、其子「サルタク」(Sartak)繼キシモ亦間モナク死ス。其子「ウラクチ」(Ulatchi)尙幼ナリ。母

ノ後見ノ下ニ即位セシカ、數月ノ後死シ、「ジュチ」ノ第三子「ベルカイ」一二五六年繼キテ立ツ。彼レ回教ニ歸依シ、其布教ニ努ム。彼レ、「大江」「マンダ」ノ援助ニヨリテ、勢力強大トナルヤ「フラグ」ハ敵ニモ友ニモ、無用ナル虐殺ヲ敢ヘテシ、多クノ城市ヲ破壊シ、且「ジンギス」汗家ノ許可ヲ經スシテ「カリフ」ヲ殺シタリトテ答メシカ、彼レカ「フラグ」ヲ答メタルニハ尙他ノ事由モアリタルナリ。始メ「ジュチ」ノ血族三名、即チ孫「バラカン」(Balakan)、曾孫「ツマン」(Tumar)、及「クリ」(Kuli)「フラグ」ノ「ベルシヤ」征伐ニ從フ。「バラカン」ト「ツマン」ハ「バツ」ノ兵ヲ率キ「クリ」ハ父「ウルダ」(Uda)ノ兵ニ將タリ。然ルニ「ツマン」妖術ニヨリテ「フラグ」ヲ害セムト謀レリト告クル者アリ「フラグ」彼レヲ拷問シ、彼レ白狀シタリシカ、更ニ「ベルカイ」ニ對スル尊敬ノ念ヲ表スル爲メ彼レヲ「ベルカイ」ニ送ル。「ベルカイ」證據充分ナリトシテ「フラグ」ニ送り還ヘシ。「フラグ」直チニ彼レヲ死ニ處シタリ。然ルニ、其後間モナク「バラカン」モ「クリ」モ死シタリシカ「ベルカイ」ハ之ヲ以テ毒殺サレタルモノトシ大ニ怒リ、ヤカテ三名ノ家族ハ「ベルシヤ」ヨリ逃ケ去リタリ。案スルニ當時大汗ノ後繼ニ關シテ競争アリ「ベルカイ」ト「ジュチ」ノ子孫ハ「アリク・ブガ」(Arık Buga)ノ選ハレムヲ欲シ「フラグ」ハ「クビライ」ニ味方シ居タルニ見レハ、カノ三名ハ恐ラクハ策略ノ犠牲トナリシモノナルヘシ。サテ「フラグ」ハ「ベルカイ」ノ非難ノ餘リニ

酷ナルヲ怒リ、戦闘ノ準備ヲナス。ベルカイ之ヲ聞キ、我親族及他ノ幾千人ノ爲メニ復讐スベシト宣言シ、「ツマル」ノ從兄弟「ノガイ」(Nogai)ニ兵三千ヲ授ケテ、南下セシム。「ノガイ」、「コーカサス」ヲ超ヘ「シルワン」ノ附近ニ陣ス。「ジュチ」ノ三名ノ子孫ノ兵士等、己レノ主ト「フラグ」トノ間ニ戦ノ起リタルヲ見、急ニ「ベルシヤ」ヲ出テシカ、ソノ一部ハ「デルベンド」ヲ經テ蒙古ニ向ヒ、他ハ「フラグ」ノ兵ニ追ハレテ「コラツサン」ヲ過キ、「ガズニ」及印度隣接ノ諸地ヲ占領シタリ。

「フラグ」其夏ノ陣地「アラタグ」(Altag)ヲ出テ「イルシヤ」ヨリ集メタル凡テノ兵ヲ率キテ進ミシカ、一二六二年十一月十一日、先鋒「シラムン」(Shiramin)、「シエマキ」(Shemaki)附近ニ於テ大敗シタリ。サレト、數日ノ後「アバタイ」(Abatai)、「シルワン」附近ニ於テ克チヌ。

此勝ニ乘シテ「フラグ」裏海附近「デルベンド」ノ北方ニ於テ敵ヲ擊ツ、ノガイ敗走ス。「フラグ」ノ兵之ヲ追撃シテ「テレク」(Terek)河附近ノ一陣營ヲ奪ヒ大數ノ牛羊、婦女及小兒ヲ獲、且同所ニ於テ三日間、飲食遊戯ヲ恣ニシタリ。

カカル處ヘ「ノガイ」突然兵ヲ率キテ現ハレ、河ノ附近ニ於テ大ニ蒙軍ヲ破ル。實ニ一二六三年一月十三日ナリ。生き残りタル者、逃ケムトシテ結氷セル河ヲ渡リシニ

氷破レ、溺死算無シ。「フラグ」意氣大ニ沮喪シ、「テブリズ」ニ歸リシカ、又急ニ兵ヲ集メテ同地在住ノ「キブチャク」商人ヲ殺シ其家宅ヲ掠ム。依テ「ベルカイ」モ亦「フラグ」ノ臣民ナリシ商人及「キブチャク」ニ居ル者ニ對シ己レノ手ノ達スル限り殺戮ヲ肆ニシタリ。尋テ「フラグ」ハ「ボカラ」ノ人民ヲ殺シヌ。同市ハ其破壊後、稍人口ヲ回復シテ一萬七千ニ達シ、其中五千ハ「キブチャク」人、三千ハ「フラグ」ノ母「シウルククテニ」(Shirkukteni)ニ、其餘ハ大汗ニ屬シタリシカ。「フラグ」是等ノ五千ノ「ベルカイ」ノ民ニ命シテ市ノ附近ノ平原ニ出テシメ、男子ハ盡ク殺シ、婦女ト小兒ヲ擒ニス。

次年、即チ一二六四年「ノガイ」、「コーカサス」ノ南方ノ地ヲ攻撃セムトストノ報アリ。「フラグ」之ヲ迎ヘ戦ハムト準備シツツアリシ時、故カリフノ第二ノ宰相ノ子「ジュエラル・ウド・ヂン」彼レニ告ケテ曰ク、今「ベルシヤ」ニ居ル「キブチャク」人ノ中、速ニ先鋒トナリテ我用ヲナサムト欲スル者數十アリ。彼等北方ノ戰術ニ通ス。「ベルカイ」ヲ擊ツニ於テ之レニ優ル者アルヘカラスト。「フラグ」乃チ此等ノ兵ヲ召スヘク「ジュエラル」ヲ遣ハシ、且ツ「ジュエラル」ニ兵器、金銀及其他ノ必要品ヲ充分ニ供給セヨ、何人モ彼レノ妨ケヲナスヘカラスト部下ニ命シタリ。「ジュエラル」往キテ是等ノ「キブチャク」人ヲ集メ、告ケテ曰ク、「フラグ」汝等ヲ先鋒ニ用キテ汝等ヲ殺サムト欲ス。サレト我レハ之ヲ願

ハス、汝等我レニ從ヒ、以テ蒙害ヲ免ルヘシト、彼レ、乃チ「バグダッド」ノ倉庫ヨリ金銀及兵器ヲ出シテ彼等ニ與ヘ、同市ノ守將ニ告ケテ曰ク、我レ、今「フラグ」ノ敵ナル「カフアヂ」(Kafajie)ノ「アラビヤ」人ヲ討タムト欲ス。而シテ彼等ヲ討チタル後、シルワン」ニ向フヘシト。カクテ、彼レ「ユト」ヲテス「ヲ渡ル。其凡テノ兵、家族及荷物ヲ携ヘテ從ヒタリ。時ニ、彼等ニ告ケテ曰ク、我レ、今「シリヤ」及「埃及」ニ往カムトスルナリト。「フラグ」、「ジェラル」ノ此奸計ヲ聞クヤ、狂セムバカリニ怒リス。

サテ、狡慧ナル埃及ノ「スルタン」、「ベイバルス」ハ「フラグ」ノ戰備ト「ベルカイ」ノ活動ヲ見テ、是レ必定「シリヤ」侵入ノ爲メナルヘシト考ヘ、人ヲ「ベルシヤ」ノ國境ニ派シテ偵察セシメ、少シ後「ダマス」ノ人民ニ、家族ト共ニ埃及ニ來リテ難ヲ避クヘシ、サラハ、我兵ノ爲メニモ多クノ糧食ヲ獲ヘシト告ケ、又「アレツボ」ノ總督ニ、「アミド」ニ到ル地方ノ凡テノ草ヲ燒クヘシト命シタリ。此命令ハ十日間ニシテ遂行セラレキ。ヤカタ、報アリ、曰ク「キブチャク」ノ一隊「スルタン」ノ領内ニ現ハレタリ。彼等ハ「ベルカイ」ノ部下ニシテ、先キニ「フラグ」カ「ベルシヤ」ニ來ル時授ケラレタル者ノ一部ニ係ル。「ベルカイ」ハ召還ノ命ヲ發シタルカ、彼等若シ留マラハ、身ヲ埃及ニ寄スヘシト。彼等「カイロ」ニ來ル。精兵約二百、四將之ヲ率キタリ。「ベイバルス」彼等ヲ款待シテ厚

ク衣食ヲ與フ。特ニ、各將ハ一百人ノ長トセラレ、ソレニ相當ノ地ヲ受ケ、又將卒共ニ衣服、馬匹、金錢ヲ授ケラレ、何ツレモ回教徒トナリシカ、此待遇ノ厚キヲ聞キテ他方ヨリ埃及ニ逃レ來リタルモノ少カラサリキ。

「ベイバルス」是等ノ客ト其國及君ニ關シテ相語リシ時、使ヲ「ベルカイ」ニ送ラムトノ意起リ、「セイフ・ウド・ヂン」ケシリク「Self ud din Koshik」ヲ選ヒテ此任ニ當ラシム「ケシリク」ハ嘗テ「クワレスミヤ」ノ「スルタン」「ジェラル・ウド・ヂン」ニ仕ヘタルコトアル者ニテ、ヨクカノ國情及國語ニ通シタリ。裁判顧問「マヂド・ウド・ヂン」(Majid ud din)及「ベイバルス」ニ好遇サレタル二名ノ「キブチャク」人、行ヲ伴ニス。サテ、一行ノ携ヘタル書ハ、要スルニ「ベイバルス」カ「ベルカイ」ニ好意ヲ有スルヲ告ケ、「フラグ」攻撃ヲ德憑セムトスルモノナリキ。

即チ同書ニハ、己レノ兵ハ多クノ國民ヨリ成レルヲイヒ、回教徒及基督教徒ニシテ己ノ重臣トナレル者ノ名ヲ掲ケ、最後ニ、近頃、一隊ノ兵「カイロ」ニ來リシカ、自ラ「ベルカイ」ノ部下ナルヲ告ケシカハ、之ヲ厚遇シタル由ヲ述ヘ、且新カリフ、「ハキム」ノ系圖ヲ附載シタリ。

サテ、彼等「ウオルガ」(Vulga)ヲ指シテ出發セシカ、希臘領ヲ過キシ時、皇帝「ミカエル」

(Michael 精シクハ Michael Palaeologus)ノ爲メニ抑留セラレタリ。蓋シ當時「ベルクタイ」ノ兵、皇帝ノ領内ヲ劫掠シツツアリシニヨル。然ルニ皇帝ハ是ヨリ少シ前ニ、「ベイバルス」ニ和親ヲ誓フ旨ノ希臘文ノ書ヲ遣ハシタルコトアリキ。

其時「ベイバルス」直ニ教長及僧正ヲ召シテ破誓ニ對スル意見ヲ問フ。彼等「皇帝ニシテ誓ヲ破ラハ是レ己レノ宗教ト絶ツナリ」ト答フ。「ベイバルス」此聲明ニ署名セシメ之ヲ皇帝ニ送り又「ベルカイ」ニモ一書ヲ送りテ皇帝ノ地ヲ攻ムルコトヲ止メヨト告ク。

ヨツテ「ミカエル」ハカノ使者等ヲ解放シタリ。使者等黒海ヲ渡リテ「スダク」(Sudak)ニ上陸シ「更ニ」クリミヤ(Crimea)ヲ經テ「ウオルガ」河ノ少シ東ナル「サライ」(Sara)ニ到ル。此間費スコト二十日「ベルカイ」ノ宰相「アル・フルツシ」(Al Furusi)出テ之ヲ迎フ。「ベルカイ」五百人ヲ容ルヘキ大天幕ニアリ。使者等凡テノ武器ヲ棄テ、足ヲ闕ニ觸レサルヤウ慎ムテ之レニ入ル。玉座ノ左方ニ於テ携ヘ來リタル「ベイバルス」ノ書ヲ捧呈ス。其朗讀アリタル後、右方ニ導カレテ席ニ即ク。「ベルカイ」ノ正妻及高官五、六十名ソノ傍ノ椅子ニ座シタリ。

「ベルカイ」使者等ニ種々ノ問答ヲナシタリシカ、長ク彼等ヲ留ムルコトナク、ヤカテ、我使者ヲ伴ハシメテ「カイロ」ニ還ラシム。「セイフ・ウド・ヂン」等ノ出發ヨリ歸著マテ凡ソ二年ヲ經タリ。

始メ「セイフ」等カ「カイロ」ヲ出タル後、約六箇月ヲ經タル時「ベルカイ」ヨリノ二使同市ニ來レリ。共ニ回教徒ニシテ、一ツハ將校名ヲ「ジェラル・ウド・ヂン・エル・カヂ」(Jelal ud din el Kadji)一ツハ「シエク」(Shek 村長)名ヲ「ヌル・ウド・ヂン・アリ」(Nur ud din Ali)トイフ。途「ビザンチン」ノ首都ヲ過ク。此時恰モ「カラク」ヲ取リテ「シリヤ」ヨリ歸リタル「ベイバルス」諸將及其他ノ多クノ者ヲ從ヘテ之ヲカノ山城ニ引見ス。

彼等ノ携ヘ來レル「ベルカイ」ノ書ニハ「ベルカイ」カ兄弟四人ト共ニ回教ニ歸シタルコト、同盟シテ「フラグ」ヲ討タム、就テハ一隊ノ兵ヲ「ユーフラタス」ニ送ラレタキコト及「ヒルム」ノ「スルタン」、「イズ・ウド・ヂン」(Yas ud din)ヲ援ケラレタキコトヲ謂ヘリ。「ベイバルス」彼等ヲ優遇シ、其歸ル時、之レニ七十頁半ニ亘ル長文ノ答書ト共ニ己レノ使者ヲ伴ハシメ、且ツ「ベルカイ」ニ宛テ「カリツ」、「オスマン」カ自ラ寫シタリトイハルル「コーラン」一冊「オスマン」ノ講臺、其祈禱ノ時用ユル敷物、襯衣「バルバリ」(Barbary)製ノ蠟燭及火把、埃及製各種織物、木綿「モロツコ」革、絨氈、刀劍、弓、冑、胸當、鞍、馬勒、鐮ヲ充テタル箱、乾葡萄ノ壺、飾燈、宦官、黑人給仕女「アラビヤ」馬、一瘤駱駝、白色二瘤駱駝、野生驢

馬、麒麟、香料等ヲ送リタリ。而シテ尙右ニ加ヘテ「メツカ」ニアリタル一ツノ頭巾ヲモ送リタリ。蓋シ「ベイバルス」先キニ「ベルカイ」ノ名ヲ以テ、一吏ヲ同市ニ巡拜セシメ、又同市及「メデナ」ニ使ヲ馳セテ、各金曜ノ祈禱ニハ己レノ名ニ次キテ「ベルカイ」ノ名ヲモ唱フルヤウ請ハシメタルコトアルニヨル(此事ハ「エルサレム」及「カイロ」ニ於テモ行ハレタリ)。又新「カリフ」ノ最初ノ金曜説教ヲ録シテ「ベルカイ」ニ送り、且ツ先キニ「キブチャク」ヨリ來リタル二百名ノ兵士ヲ還ヘシタリ。

使者等、出發シテヨリ三箇月ノ後「キブチャク」人三百名「カイロ」ニ向ツテ出發ス。「ベイバルス」彼等ヲ途上好遇セヨトノ命ヲ發シ且ツ自ラ出テ迎フ。彼等彼レヲ見テ馬ヲ下リ地上ニ拜跪ス。間モナク、第二隊、第三隊來ル。其中ニ「アガ」(Aga)ノ尊稱ヲ有スル高級ノ將校十名アリ。「ベイバル」凡テ厚ク之ヲ遇シ、回教ニ歸セムコトヲ請ヒシニ、彼レノ面前ニ於テ之ヲ諾シ、同教徒トナリス。

又「ファルス」ノ高級將校數名「カフアヂエ」(Kafajic)トイフ「アラビヤ」族ノ酋長數名及「アラビヤ」イラクノ王族等「カイロ」ニ來リテ「ベイバルス」ニ身ヲ寄セシカ、彼レ彼等ニ土地ヲ授ケタリ。次年、侍臣「シユジャウ・ド・ヂン」(Shuja ud din)ヲ「ベルカイ」ニ遣ハシ「ビザンチン」帝ノ領土ヲ侵ササラムコトヲ請フ。蓋シ、同帝ヨリ依頼アリシニヨル。此時「ベ

イバルス」ハ、己レカ「メツカ」ニ巡拜ノ際用キタル三個ノ頭巾ト二個ノ大理石ノ壺ト其他ノ禮物ヲ携ヘシメタリ。

「フラグ」北境ニ於テ「ベルカイ」ノ兵ト戰ヒツツアリシ時、「シリシヤ」ノ王「ヘイトン」(Hayton)埃及ノ地ヲ侵シタリ。蓋シ、是ヨリ先キ「ヘイトン」「フラグ」ニ別レテ歸ル途中、「ハラクレア」(Heraclia)ニ於テ「ルーム」ノ「スルタン」、「ロクン・ウド・ヂン」ニ會ヒテ和親ヲ結ビ、歸國スルヤ直ニ兵ヲ集メテ「アインタブ」(Ainab)ニ進軍シタルナリ。

機敏ナル「ベイバルス」ハ、夙ニ之ヲ知り、先ツ「ハマト」及「ヒムス」ノ兵ニ命シテ「アレツボ」ニ向ハシメ、尋テ埃及ノ兵ヲ送ル「アルメニヤ」人驚イテ敗走ス。此時「ルーム」ニ居タル「ヘイトン」蒙古ヨリ兵七百ヲ招キ、更ニ「アンチオケ」ヨリ百五十人ヲ得、併セ、進ンテ「ハレム」ノ高原ニ陣セシカ、雨雪ト糧食缺乏トニ惱サレ、少カラサル死者ヲ殘シテ退却シタリ。

「ヘイトン」千個ノ蒙古外套ト帽子トヲ有セシカハ之ヲ己レノ兵ニ被セ、敵ヲシテ蒙兵來レリト思ハシメムト謀リシニ、之カ爲メニ却ツテ敵兵多數來到シ、之ヲ撃ツテ潰走セシメ「アンチオケ」ヲ蹂躪シタリ。

「ベイバルス」、「イラク」ニ在ル間牒ヨリ「フラグ」二名ノ者ヲ埃及ニ送り諸將ヲ誘惑

セント謀レリ、其二名ハ途中「アルメニヤ」ノ首都「シス」(Sis)ニ立寄ルヘシトノ報ヲ得タリ。二人ノ者果シテ「シス」ニ來リシカ、ヤカラ「ダマスコ」ニ往キタル由「アクレ」(Acre)ヨリ報アリシカハ、「ベイバルス」命シテ直チニ之ヲ捕ヘテ「カイロ」ニ送ラシメ、同地ニ於テ審問セシニ、凡テ白狀セシヲ以テ直ニ絞殺シタリ。

此年、埃及人「フラグ」カ「カラク」ノ王「モギト」ニ宛テタル書ヲ獲タリ、「モギト」カ「フラグ」ニ埃及及「ガザ」マテノ「シリヤ」ノ地ヲ取ラムコトヲ請ヒタルニ對スル答書ト覺ホシ。「ベイバルス」依テ直ニ「ガザ」ニ到リ、伴リテ「モギト」ニ和親ヲ示シ、之ヲ同地ニ招ク「モギト」往キ陣營ニ入ルヤ直ニ捕ヘラレタリ。

尋テ「ベイバルス」「ダマスコ」ノ判事長、諸王侯、幕臣、諸將及其他知名ノ士、歐洲ヨリ來レル使節等ヲ招キ、其前ニカノ書ヲ讀ミ、「モギト」ヲ捕ヘタルハ此書ノ爲ナリト告ク。其後、彼レ「カラク」ヲ取リテ「カイロ」ニ歸ルヤ、直チニ「モギト」ヲ殺シヌ。

「フラグ」統治ノ最後ノ年「アラタグ」(Alataq)ニ宮殿ヲ建テ又「メラガ」ノ天文臺ヲ竣工シタリ。彼レ自ラハ學者ナラサリシモ、學者、特ニ天文家及鍊金家ト語ルヲ好ミ、又特ニ鍊金家ヲ寵スルコト甚シク、ソノ爲メニ莫大ノ金錢ヲ費シヌ。

此頃(一二六四年)彼レノ領土ハ「オクスス」河ヨリ「シリヤ」及「ビザンチン」帝國ニ及ヒ

タリ。長子「アバカ」(Abaka)ハ「ヤザンデラン」(Iraq)及「コラツサン」ヲ、第三子「イシムト」ハ「アゼルバイジャン」ト「アラン」(Arran)ヲ、部將「ツダン」(Tudan)ハ「ヂヤルベクル」及「ヂアラビアト」(Diarrabia)ヨリ「ユーフラタス」マテノ地ヲ「モイン・ウド・デン・ベルワネ」(Moyin ud din Pervane)ハ「ルーム」ヲ「メリク」(Saddul-ud-din)ハ「テプリス」ヲ、王族「イキアツ」(Iki-atu)ハ「ファルス」ヲ授ケラレテ各之ヲ領ス。又「ラシド」ノ傳フル所ニヨレハ「ツルカン・カツン」モ「ケルマン」ヲ授ケラレタリ。但シ之ヲ疑フ史家アリ。一二六三年、彼レ、宰相「セイフ・ウド・デン・ビテクヂ」(Bitikci)カ「シエマキ」(Shemaki)ヨリ「デルベン」ニ進軍シツツアリシヲ殺シ之ニ代フルニ「シエムス・ウド・デン・ジュユイ」(Shems ud din Juveini)ヲ以テシ、其兄弟「アライ・ウド・デン・アタ・ウル・ムルク」(Alai ud din Ata ul Mulk)ヲ「バグダッド」ノ總督トナス。同年、彼レ又王族「エル・アカルバニ」(El Akarbanj)ノ子「セイイン・ウド・デン・ムエド・スレイマン」(Zein ud din Muyyed Suleiman)ヲ誅ス「スレイマン」ハ「先主」ハ「ファイジ」(Hafzzi)ノ名ヲ取リテ「エル・ハファイジ」ト稱シ、普通此名ヲ以テ呼ハルル者ナルカ、「フラグ」ハ彼レカ「ダマスコ」ノ收入ノ一部ヲ私シタルヲ答メ、其不忠ヲ詰リテ「汝ハ我レニ叛キタルノミナラス、ナシル」王「ハファイジ」王「パールベグ」王ニモ叛キタル者ナリトイヒテ、之ヲ殺シ、且其家族、兄弟、親戚、家人等五十人ヲ斬リタリ。只彼レノ子ト甥ノ二人ノミ免ル

ルヲ得タリ。

當時「ファルス」ニ於ケル葛藤ハ實ニ「フラグ」ノ頭ヲ惱マシタル所ナリキ。抑モ同地ノ諸王ハ最初ヨリ蒙古ニ服從シタル者ニテ、一二三一年「アタベグ」死スルヤ其子「サイド・アブ・ベクル」(Said Abu Bekr) 繼キ「テヘンテン」(Tehentem)ヲ「オゴタイ」ニ遣ハシ禮物ヲ獻ス。「オゴタイ」其所領ヲ認ムル旨ノ證書ヲ授ケ且ツ「クトルグ」(Kulug)汗ノ稱號ヲ授ク。カクテ「ファルス」ハ逸早く服從セシカハ蒙害ヲ免ルルヲ得、爾來各年國富ニ比シテハ少額ナル金貨三萬「チナル」ト禮物トヲ貢シタリ。

「フラグ」、「トランソクシアナ」ニ來ルヤ「アブ・ベクル」ノ甥「セルジユク・シャ」(Sergiuq)豐ナル禮物ヲ携ヘテ之ヲ迎フ。「フラグ」、「オクスス」河畔ニ於テ之ニ相當ノ待遇ヲナシシカ、後之ヲ獄ニ投シタリ。

一二六〇年「アブ・ベクル」治世三十年ノ後死ス。其子「サイド」繼キシカ即位後僅ニ十二日ニシテ死ス。一子アリ「モハメツド」トイフ。尙幼ナリ。母「ツルカン・カツン」之ヲ擁護シ居タリシカ、一二六二年又死シ、其叔父「モハメツド・シャ」位ニ即ク。彼レハ「ゼンギ」(Zengwi)ノ子「サイド」ノ孫ニシテ「サルガー・シャ」(Salgar Sha)ノ子「フラグ」カ「バグダツド」ヲ討チシ時「ファルス」ノ兵ヲ率キテ參加シタル者ナリ。勇敢ナリシモ、殘酷ニシテ

放縱ナリシカハ諸方ニ不平ノ聲聞ユ。「フラグ」、「ファルス」ノ國事ニ關シテ商議シタケレハト伴リ告ケテ彼レヲ己レノ陣營ニ招ク。彼レ、種々ノ口實ノ下ニ往カサリシカ、今ハ彼レノ妻トナレル「ツルカン・カツン」彼レノ日常ノ行爲、特ニ己レニ對スル取扱ニ嫌ラス、彼レカ後宮ヲ過キリシヲ捕ヘテ「フラグ」ノ許ニ送リテ曰ク「モハメツド・シャ」ハ統治ノ器ニアラスト。「フラグ」大ニ悦ブ。「カツン」夫ノ兄弟「セルジユク・シャ」ヲ獄ヨリ出シ、其性狂暴ナリシニ拘ラス、間モナク之ト婚シタリ。

一夜「セルジユク」宴ヲ催フシ酒ニ酔ヒタル時、彼レカ今日アルハ全ク「カツン」ノ功ナルヲイヒテ、彼レヲ辱メシ者アリシカハ「セルジユク」狂ハムハカリニ激怒シ、直ニ黒奴ノ宦官ニ、彼女ヲ斬リテ其首ヲ持チ來レト命ス。宦官命ニ從ヒ之ヲ携ヘ來ル。「セルジユク」其耳ヨリ美ナル眞珠二個ヲ裂キ取り、之ヲ宴ニ侍セル樂手ニ投ケ與ヘタリ。

「セルジユク」、「シラズ」(Shiraz)ニアル「フラグ」ノ知事「オグル・ベグ」(Ogul Beg)ト「クトルク・ビチクジ」(Kutluk Bitikji)カ己レノ行爲ヲ難シタルヲ聞クヤ、己レノ手ヲ以テ其人ヲ殺シ、己レノ僕ヲシテ他ノ一人ヲ殺サシメ、且ツ彼等ノ部下ノ民ヲモ殺シタリ。「フラグ」之ヲ聞キ、先キニ歸國ヲ許シタル「モハメツド・シャ」ヲ誅スヘク令ヲ發シ、且

ツ部將「アルタヂユ(Altadju)」ト「チムル」(Timur)ニ「セルジユク・シヤ」征討ノ命ヲ下シ「イスバハン」、「エズド」(Yezd)、「イチ」(Ich)及「ケルマン」ノ兵ヲシテ二將ノ兵ヲ援ケシム。「アルタヂユ」、「イスバハン」ヨリ一書ヲ「セルジユク」ニ送り「汝若シ前非ヲ悔ヒナハ或ハ宥サルルコトアラム。我レ汝ノ爲メニ斡旋スヘシ」ト告ク。然ルニ「セルジユク」甚シク使者ヲ虐待シタリ「アルタヂユ」、「ケルマン」王ノ兵「セルジユク」ノ義兄弟ナル「エズド」ノ「アタベグ」ノ兵及其他ノ兵ヲ率キテ「フアルス」ニ入ル。「セルジユク」「ベルシヤ」灣頭ニ退却ス。其部下ノ官吏及知名ノ者等旗、食糧許多ノ「コーラン」ノ寫本ヲ携ヘテ出テテ「アルタヂユ」ヲ迎フ。彼等ニ生命ノ安全ヲ保障シ、己レノ兵ニ對シテ掠奪ヲ嚴禁シ、毫モ彼等ヲ惱マスコトアルヘカラスト命シ、ヤカテ急イテ「セルジユク」ヲ追ヒ「カゼレン」(Kazern)ニ於テ戰フ。「セルジユク」奮闘セシモ遂ニ敗レ、聖「セイク・モルシエド」(Sheik Morshed)ノ墓陵ニ逃ク。蒙軍之ヲ圍ム。

「セルジユク」進退谷マリ、棒ヲ振ツテ、聖者ノ死體ヲ蔽ヘル石ヲ打壞ハシ、「オオ」、「シエイク」援ケタマヘ「ト叫フ。傳ヘイフ、此時、聖者ハ危難アラハ我レニ告ケヨ、我レ汝ヲ救ハム」ト答ヘシト。

蒙兵、戸内ニ亂入シ、「セルジユク」ノ民ノ多クヲ殺シタル後、逃クル「セルジユク」ヲ墓

ニ殺シタリ「サルガル」(Salgar)系ノ者ニシテ免レタル、ハ「アブ・ベクル」ノ子「アタベグ」。「サイド」ノ二女アリシノミ。其一ツハ名ヲ「ウン・ス・カツン」(Uta Khatun)トイフ。「セルジユク・シヤ」ニ刎ネラレタル「ツルカン・カツン」ノ生メル所ナリ。一二六四年「フラグ」彼女ヲ「フアルス」ノ王トナス。

「セルジユク・シヤ」ノ殺サレシ時「チムル」ハ凡テ「シラズ」人ヲ屠ラムト欲シ、其旨ヲ「セルジユク」ノ與黨ニ豫告シタルニ「アルタヂユ」ハ「人民ニハ罪ナシ、カカル酷刑ハ「フラグ」ノ命ニヨルニアラスハ行フヘカラス」ト主張シ、軍隊ヲ解散シ「フアルス」ノ住民中ノ重立チタル者ヲ率キテ「フラグ」ノ廷ニ到ル。

然ルニ一二六五年、マタモ、一大事「フアルス」ニ起リス。ハシメ、大判事(Grand Kadi)「シエリフ・ウド・ヂン」(Sherif ud din)ナル者アリ。彼レハ教祖「モハメット」ノ後裔ニシテ、多年間「コラツサン」ニアリ、其篤信ニヨリテ名聲ヲ博セシカ、彼レ此名聲ヲ利用シテ野心ヲ遂ケムト欲シ先ツ附近ノ人民ヲ懷柔シ、次テ各市各村ヲ訪フ。來リ附ク者多ク、衆、彼レコソカノ「シイ」派カ、期待セル「マーヂ」(Madin)ニシテ奇蹟ヲ行フノ力ヲ有スル者ナレト信シタリ。彼レ、王ノ徽章ヲ帶ヒ、其從ヒ來レル者ヲ以テ一小軍隊ヲ編シ、之ヲ率キテ「シエバンキア」(Shebankiare)ヨリ「シラズ」ニ向フ。

「シラズ」ノ蒙將ト「ウンス・カツン」ノ宰臣、之ヲ討ツヘク出テ「グザル」(Guzar)附近ニ迎フ衆、以爲ラク、「マーヂ」ニハ諸靈ノ冥護アリ、之ヲ撃ツ者ハ手、萎ユヘシト。暫ラクノ間ハ「シラズ」ノ軍中何人モ攻撃ヲ試ムル者ナカリシカ、終ニ二名ノ兵彼レヲ視ツテ矢ヲ放チ、ヤカテ他是ニ倣ヒ、次テ彼等進ンテ「シエリフ」ノ軍ヲ撃ツ、「シエリフ」敗レテ其徒ノ多クト共ニ死ス。

始メ「フラグ」、「シエリフ」ノ起チタルヲ聞クヤ、「アルタヂユ」ヲ棍打シテ、彼レカ「シラズ」ノ民ヲ赦シタルヲ罰セヨト命シ、且ツ兵「ツマン」ニ「シラズ」ノ民ヲ討ツヘク命セシカ、ヤカテ「シエリフ」殺サレ、而カモ「シラズ」ノ民ノ大部分ニ罪ナキコトヲ知り、先キノ命令ヲ取り消シヌ。

「ウンス・カツン」治世一箇年ノ後「オルツ」(Orut)ニ送ラレ、豊カナル嫁資ヲ携ヘテ「フラグ」ノ子「マング・テムル」ト婚ス、是ヨリ後「ファルス」ハ「ウンス」ノ名ヲ以テ「ヂワン」(Divan)議院、之ヲ治ムルコトトナレリ、「ウンス」一二八七年「テブリズ」ニ於テ死シ、其死ト共ニ「サルガル」朝絶ヘタリ。

一二六四年ノ末、蒙軍「エル・ビレト」ヲ圍ム。蓋シ同城ハ「シリヤ」ノ死命ヲ制スルノ要害ト考ヘラレタルナリ、「アクシ」守將タリ、蒙軍木材ヲ以テ城壕ヲ埋ム。城兵、壕ニ通ス

ル隧道ヲ作り、埋メタル木材ノ凡テヲ焚ク。蒙軍十七個ノ弩砲ヲ以テ攻撃セシモ、城兵奮闘固守ス。此戦ニ婦人、男子ニ優リテ勇敢ナリキ。

是ヨリ先キ、「ベイバルス」ハ「フランク」人(Frank)カ、蒙軍ニ書ヲ送リテ、須ラク、春季、兵屋内ニアリ馬、外ニ出テテ牧草ヲ食ヒツツアルノ時、「シリヤ」ニ侵入スヘシト勸メシヲ聞キシカ、今ヤ蒙軍「エル・ビレト」ヲ攻メツツアルヲ聞キ、之レニ兵四千ヲ送り、四日ノ後、更ニ四千ヲ送り、又更ニ一二六五年一月二十七日、「ベイバルス」百ヲ出發シ、二月三日「ガザ」ニ著セシカ、同所ニ於テ敵既ニ圍ヲ解イテ、退キタリトノ報ニ接ス。

蓋シ蒙軍ハ敵ノ援兵來レリト聞キ、弩砲ヲ撤シ、船ヲ沈メテ急ニ逃ケ去リシナリ。「ベイバルス」命シテ、十年ヲ支フルニ足ルヘキ兵器及糧食ヲ「エル・ビレト」ニ運ヒ入レシメ、又同所ニ於テヨク固守奮闘シタル者等ニ名譽ノ衣服三百領ト金十萬「ドラクマ」ヲ頒チ與ヘタリ。

一二六五年二月八日「フラグ」卒ニ死ス、齡四十八歳「ウルミヤ」(Urumia)湖中ノ一山島「タラ」(Tala)ニ葬リ、一城壘ヲ築キテ蒙古ノ慣習ニ從ヒ、多クノ金銀財寶ヲ收メ、且ツ極メテ美ナル少女ヲ盛装セシメ、生キナカラ、彼レト共ニ墓中ニ埋メタリ。其後四箇月ト十一日ヲ經テ彼レノ正妻「ドクズ・カツン」(Dokuz Khatun)死ス。彼女ハ「ワンカン」ノ孫

ニシテ基督教徒ナリキ。又極メテ賢明ナリキ。一二五三年「マング」[「フラグ」ニ彼女ニ商議スルコトナクシテ何事モナスヘカラスト命シタルヲ以テ見ルヘシ]「ラシド・ウド・ヂン」(Rashid ud din) イフ「フラグ」カ基督教徒ヲ庇護シ、彼等ヲシテ所々ニ教會ヲ建ツルヲ得セシメタルハ、全ク彼女ノ勢力ノ然ラシメタルナリト。

基督教徒ハ「フラグ」ト其妻ノ死ヲ哀悼シタリ。此二人、基督教徒ヲ尊重スル甚大ナルモノアリタレハナリ。「ドクズ・カツン」ノ宮殿ノ入口ノ傍ニ教會アリテ、定時ニ鐘ヲ鳴ラシタリ。「フラグ」ニ五人ノ妻アリ、十三人ノ男兒ト七人ノ女兒ヲ生ミス。

「フラグ」ノ裁判ニ關シテハ興味アル物語アリ。或時、數名ノ者、彼レニ訴ヘテ曰ク或一人ノ瓦製造者我等ノ近キ親戚ヲ殺シタリ。我等彼レヲ刑罰ニ附セント欲ス。願クハ彼レヲ引渡サレタシト。「フラグ」問フ「我國ニ瓦製造者多數アルヤ」。彼等答フ「少數ナリ」。「フラグ」考フルコト暫ラクニシテ曰ク「我レ、汝等ニ荷鞍製造者一名ヲ與ヘム。此類ノ者、我國ニ多シ。我レ、ソノ一人ヲ與フルコト瓦製造者一人ヲ與フルヨリモ易シ」。彼等我等ハ加害者ヲ與ヘラレムコトヲ欲ストイフ、サレト「フラグ」聽カス、牝牛一匹ヲ賠償トシテ授ケタリ。

又一織工ト喧嘩シテ一眼ヲ失ヒタル者アリ。來リ訴フ「フラグ」矢製造者ノ一眼ヲ

潰フシ、訴フル者ヲ満足セシメタリ。或人、何故ニ、カクナセシヤヲ問フ。答ヘテ曰ク「織工ハ兩眼ヲ要スルモ、矢製造者ハ一眼ニテ足ル。彼レカ矢ノ直否ヲ檢スル時常ニ一眼ヲ閉ツルニアラスヤ」。

一二六一年、署名ナク日附ナキ一書或法王「多分」アレキサンデル「四世ナルヘシト想像セラル」ヨリ「フラグ」ニ達ス。同書ハ、法王ハ「フラグ」カ「カトリク」トナラムトノ志アルヲ喜フ旨ヲイヒ且ツ曰ク「基督教徒ノ兵士ニシテ若シ公然汝ヲ援ケムカ、神ノ力亦汝ニ加ハルヘク、從ツテ汝カ「サラセン」(Saracens) 人ヲ服従スルノ力倍蕪スルモノアラム」カトリク「教」ニヨリテ汝ノ行動ヲ律セムニバ、汝ノ力高マリテ無限ノ榮ヲ獲ヘシト。又「フラグ」ハ嘗ニ基督教徒ノミナラス、他ノ凡テノ宗教ノ學者ヲ庇護スルコトニヨリテ其信賴ヲ得タリキ。

一二六六年ノ春「ベルカイ」[「コーカサス」ノ南方ノ地ニ第二次進軍ヲ始ム「フラグ」ノ長子ニシテ後繼者タル「アバカ」(Abaka)「クル」(Kur) 河ノ左岸ニ陣シ、兄弟「イシムト」ヲ遣ハシテ「ノガイ」ノ率ユル敵ノ先鋒ニ當ラシム「アクス」(Aksu) 河ノ附近ニ於テ激戰アリ「ノガイ」ノ軍敗レテ「シルワン」ニ潰走ス。「イガイ」亦自ラ傷キタリ「アバカ」一旦「クル」河ヲ渡リシカ「ベルカイ」天軍ヲ以テ向ヒ來ルヲ聞キ、又退キテ河ヲ渡リ凡テノ橋ヲ

破壊ス。

「ベルカイ」兵ヲ率キテ到リ、兩軍、河ヲ挟ムテ陣ス。互ニ矢ヲ放チ相罵リ合フ。コト十五日ニ及ヒシモ、何レノ側ヨリモ河ヲ渡ラス。從ツテ會戰ナカリシカ、遂ニ「ベルカイ」意ヲ決シテ、渡河ヲ企テ「チフリ」ス。東部ニ到ラムトセシニ途中、死シタリ。死屍ヲ「サライ」(Saray)ニ齎ラシ同地ニ葬ル。實ニ一二六六年ナリ。ヤカタ彼レノ軍ハ解散シタリ。カクテ、我等ハ次キニ金國ニ付テ語ラサルヘカラス。

第十五章 金國ノ滅亡

一二二九年金帝「ニンキアス」(寧甲速 *Ning Kia Su*) — 支那名守緒 — 「アジュタ」(Aju-ta)ヲ「オゴタイ」(Ogotai)窩淵臺ニ遣ハシ「ジンギス」汗ノ靈ニ供物ヲ獻セシメタリシモ、「オゴタイ」ハ金帝カ先キニ「ジンギス」ノ臣トナルヲ肯ンセサリシノ故ヲ以テ之ヲ受ケサリキ。

是ヨリ先キ、蒙人ハ「ジンギス」ノ死ニ顧慮マレトナク、依然支那ニ於ケル戰爭ヲ繼續シ、山西省ヲ經テ、宋ノ國境ニ迫リ、一二二七年ノ末鞏昌ノ南西三十里ニアル「シ・ホ・チン」(Si Ho chin)西和鎮ヲ圍ム。城將奮鬪固守セシモ、畢竟蒙人ノ勝ニ歸シ己レ

ノ捕ヘラルヘキヲ察シ、其妻李氏ヲ招キ、謂ツテ曰ク、汝宜シク汝ノ運命ニ付テ考フル所アルヘシト答ヘテ曰ク「我等帝ノ寵ヲ忝クシ今日ニ追ヘリ。我等コノ朝ノ爲メニ死セサルヘカラス」ト。乃チ毒ヲ仰イテ死ス。其二子及他ノ妻等亦之レニ倣ヒス。城將五個ノ死體ヲ燒キタル後自刃シ、部下二十八名共ニ死シタリ。

一二二八年蒙人更ニ南下ス。金將「ワニエンカダ」(Wanien Khada)完顔哈達(陳和尚)ニ一隊ノ騎兵ヲ授ケテ迎ヘ戰ハシメ、蒙兵八千ヲ殺スヲ得タリ。是レ三十年間ニ於テ支那人ノ始メテ獲タル勝利ニシテ、之カ爲メニ彼等ノ勇氣大ニ鼓舞セラレキ。

一二二八年蒙將「ツクルク」(Tukukku)慶陽府ヲ圍ム。金再ヒ使ヲ遣ハシテ禮物ヲ捧ケシカ蒙人之ヲ納レス。「オゴタイ」金將三名ヲ選ヒテ金ノ全軍ヲ指揮セシメ、其中ノ二名ヲ總督トナシス。

一二三〇年、金將「イラ・ブカ」(Yra Buka)伊喇豐阿拉再ヒ蒙軍ヲ破リ、慶陽ヲ救ヒ、監禁サレアリタル「ツルイ」ノ使者ヲ解放ス。之レハ先キニ「ツルイ」カ攝政タリシ時媾和ノ爲メニ送リタル所ナリ。「イラ・ブカ」去ラントスル使者ニ告ケテ曰ク「我等準備既ニ成レリ。汝等戰ヲ欲セハ我等ニ來ルヘシ」ト。意氣傲然タリ。使者此言ヲ「オゴタイ」ニ傳フ。「オゴタイ」乃チ直ニ兄弟「ツルイ」ト共ニ兵ヲ率キテ黄河ヲ渡リ、陝西ノ南方ニ進ミ、六

十城ヲ拔キ大都鳳翔ヲ圍ム。

金政府カノ使者ニ對シ禮ヲ失シタルヲ知り、新ニ使ヲ遣ハシテ和ヲ求ム。オゴタイ「此使者ヲ威嚇シ汝鳳翔ニ到リ同市ヲシテ降ヲ乞ハシムヘク斡旋セヨト迫リシモ、彼レ頑トシテ之ヲ聽カサリシカハ、オゴタイ「彼レノ髡ヲ切り去ラシメタル後獄ニ下シ、愈強固ニ鳳翔ノ包圍攻撃ヲ繼續ス。

金帝、諸將來援ノ甚遲キヲ見、輔佐「バイクワ」(Baikwa 白華?)ヲ遣ハシテ之ヲ促カス。諸將、答フルニ蒙兵極メテ多キニ我兵ノ甚少キヲ以テス。帝乃チ潼關城ヨリ兵ヲ徵シ、急ニ敵ヲ討チテ鳳翔ノ急ヲ救フヘシト命ス。

ヤカテ戰始マリ、勝敗一時決セサリシカ、翌夜、金軍、鳳翔ヲ棄テテ退キ城兵ノミヲ留メタリ。蒙將「アンチャル」(Anchar)其周圍ノ地ヲ取り糧道ヲ絶チシカハ城遂ニ降ル。「オゴタイ」既ニ陝西ヲ取りシカハ、進ムテ金帝最後ノ所有地タル河南ヲ獲ムト欲ス。然ルニ同地ハ北ニ黄河ヲ帶ヒ西ニ峻嶺聳ヘ、潼關ノ要塞アリテ攻メ難シ。蒙軍ノ將卒百方、是等障碍ヲ越ヘムト謀リシニ、鳳翔ノ陥リタル時降リタル金將李昌國トイフ者、河南ニ入ルニハ須ラク途ヲ南方ニ取ルヘシト建言シタリ。「ツルイ」其案ノ「ジ」ンギス「カ臨終ニ畫シタル所ト同シキヲ見、直ニ之ヲ奏ス。「オゴタイ」諸將ニ諮詢シタ

ル上之ヲ是認シ其實行ヲ「ツルイ」ニ委ネタリ。

「ツルイ」南部及北部ノ兵ヲ次年ノ春南京ニ集メムト欲ス。「オゴタイ」乃チ「チュブガ」ン(Chubugan)ヲ宋帝ニ遣ハシ宋ノ地ノ一部ヲ經ルノ許ヲ請ハシメムトセシニ、此使、宋ノ國境ニ入りタル後殺サレタリ。是ヨリ少シ前ニ宋ハ蒙古ニ親和ヲ求メタリシニ今此事アリ、蒙人痛ク驚キシカ、却ツテ之レニヨリテ、後ニ宋ヲ討ツノ口實ヲ得タリ。

「ツルイ」直ニ「バオキ」(Pao Ki 漢字不明)ニ進ミ、騎兵三萬ヲ集メ、先ツ大散關ヲ取り、鳳州ヲ破リ、非常ノ辛酸ヲ以テ華陽ノ諸山ヲ過クルヲ得タリ。此山脈ハ漢江ト淮河ノ間ニ横ハリテ支那ノ二帝國ノ境界ヲナセルモノナルカ、「ツルイ」ハ之ヲ横切りテ金ノ地ニ入り、城塞ヲ拔クコト百四十、多クノ者ヲ或ハ殺シ或ハ走ラシメ、陣ヲ漢江附近ニ定メテ駐ス。

金帝、敵ノ南境ヲ寇スルヲ見テ戰慄シ、諸臣ヲ會シテ防戰ノ策ヲ議ス。兵ヲ南京附近ニ置キ速ニ糧食ヲ集メテ防守セシムヘシ、蒙兵ハ長驅ノ爲メニ疲勞セルヲ以テ堂々タル戰ヲナス能ハサルヘク、ヤカテ饑餓ニ苦シミテ退却セムトイフ者甚多カリシカ帝此策ヲ是トセスシテ曰ク我民已ニ戰ノ爲メニ、アラユル犠牲ヲ拂ヘリ。今、

彼等ヲ危難ノ中ニ棄ツルハ我忍ヒサル所ナリ。宜シク南北ノ國境ニ於テ敵ヲ防クヘシト。

乃チ一隊ノ兵ヲ黄河ノ北ニ他ノ一隊ヲ南境ノ鄧州ニ置ク。南境ニ屯セル兵ハ一二三四年一月鄧州ニ著シタル「ワニエン・カダ」及「イラ・プガ」ノ兵ニ金ノ三將楊沃衍、陳和尚、武仙ノ兵ヲ合セタルモノナリシカ、此三將等「ツルイ」ヲ討ツニハ其漢江ヲ渡ラムトスル時ニ於テスヘキカ又ハ渡リタル後ニ於テスヘキカヲ議シツツアリタル際、既ニ敵ノ我傍ニ迫レルヲ聞キ、忽チ軍ヲ進メ、敵ノ禹山ノ麓ノ要害ノ地ニアルヲ見テ之ヲ攻メ激戦ス。蒙軍衆寡敵セス、退却ス。但シ兵ヲ失ハサルヲ得タリ。

數日ノ後、金ノ諸將、敵ノ或森ニ退キタルヲ聞キシカ、彼等鄧州ニ歸リテ同市ノ糧食ヲ喰ヒ以テ己等ノ配給ヲ節約セムト欲ス。偶々カノ森ノ附近ヲ過ク。蒙兵出テ之ヲ撃ツ。但シ、ソハ猛撃ノ真似タルニ止マリシカ、其間ニ金ノ騎兵ハ蒙軍ノ輜重ヲ奪ヒタリ。

金將等鄧州ニ著シ大捷ヲ獲タリト報ス。衆之ヲ聞イテ悦ヒシカ、ソノ悦ヤ東ノ間ニ過キサリキ。

「ツルイ」ノ征戰中「オゴタイ」ハ河中即チ蒲州ヲ攻メツツアリキ。同城ハ陝西省ノ南

西隅、黄河河畔ノ要害ニシテ、高サ二百尺ナル「ピラミド」狀ノ塔ト無數ノ土壁アリ。樓櫓ノ間隧道ヲ以テ通ス。戰始マリテ間モナク、塔及樓櫓ノ類破壊セラレ、城兵蒙兵相肉薄奮闘スルコト十五日ニシテ陷落ス。包圍始終三十五日ニ及ヒス。總督草火擒ラレ、「オゴタイ」命シテ之ヲ殺ス。城將板子、兵三千ト共ニ河ニ依リテ逃ケ南京ニ到リシカ、金帝之ヲ誅シタリ。

「ツルイ」ヨリ急使來リ、「オゴタイ」ニ河南ノ情勢ヲ報ス。「オゴタイ」直ニ黄河ヲ渡リ、「ツルイ」ヲシテ來リ會セシム。金帝之ヲ聞キ、命シテ都ノ附近ノ堤防ヲ決シ、其ノ邊リニ氾濫セシメ、以テ敵ヲ喰ヒ止メムトシ「キア・ク・サホ」(Kia Ku Saho) 夾谷撒合ヲ兵三萬ニ將トシテ河ヲ守ルヘク遣ハセシモ、彼レ「オゴタイ」ノ既ニ南岸ニアルヲ聞キ、退却ス。蒙兵來リテ、カノ堤防ヲ決シツツアリタル者等ヲ撃チテ其工事ヲ停止セシメ且多クノ者ヲ殺シタリ。

「ツルイ」兵ヲ甚多クノ小隊ニ分チ、之ヲ諸方ニ散在セシメ、以テ金軍ノ北行スルヲ見張ラシム。金軍、風、雨、雪ト飢餓トニ惱マサレ、行程極メテ緩慢ヲ致セシカ、ヤカテ金帝ノ宦官來リ、急ニ來リテ都ヲ救フヘキ旨ヲ傳フ。彼等、殆ント食ヲ口ニセサルコト三日間ニ及ヒ、困憊甚シク死セムハカリナリ。然ルニ彼等將ニ駐營セムトスルヤ「オゴ

タイ「ト」ツルイ「兵ヲ併セテ之ヲ圍ミス。」

金ノ諸將突擊血路ヲ開カムト勉メシカ、將士死スル者多ク、ワニエン・カダ「ハ漸ク逃レテ」イユ・チュ「Yü Chiu」釣州ノ誤ナラムニ據ル「ツルイ」忽チ同城ヲ圍ミ、城壁ノ周圍ニ濠ヲ掘リテ之ヲ陷レ、「カダ」ヲ擒ニス。「カダ」捕ヘラルルヤ「スボタイ」ニ見エムコトヲ請フ。「スボタイ」汝ノ生命須臾ノ間ニアリ、如何ソ、我レヲ見ムコトヲ願フヤ「ト」問フ「英傑ヲ我等ニ授クルモノハ天ナリ、偶然ニアラス。我レ今汝ヲ見ルヲ得タリ、死シテ遺憾ナシ」ト答ヘタリ。

陳和尚モ同城ニアリシカ「スボタイ」ノ怒リ稍解ケタル頃、其潛匿所ヨリ出テ來リ、「ツルイ」ヲ見ムコトヲ請フ。彼レ「ツルイ」ノ前ニ送ラルルヤ「ツルイ」ニ謂ツテ曰ク「我レ若シ敗戦ノ中ニ死セムカ、或ハ我レヲ目シテ反逆者トナス者アラム。サレト、今ヤ、衆我レノ死スル様ヲ見テ我レノ正直ナルヲ知ルヘシ」ト蒙人、百方、彼レヲシテ降服セシメムトスルモ彼レ屈セス。乃チ彼レノ足ヲ切り去リテ座セシメ、口ヲ削キテ黙セシメムトセシニ、彼レ此苦罰ノ中ニ語ヲ絶タス「我レハ反逆ヲ以テ己レヲ汚カスヲ欲セス」ト叫フ。此時、ソノ勇氣ニ感シ且クミス「Kien」馬乳ヨリ製シタル蒙古酒ニ興奮シタル蒙人呼ムテ曰ク「天晴レノ戦士ヨ、汝、此世ニ生レ返ラハ願クハ我黨ノ間ニ

生レヨ。」

「イラ・ブカ」南京ニ走ラムトシテ途中、捕ヘラレ「オゴタイ」ニ送ラル。彼レ「オゴタイ」カ「汝降服シテ生キテ我レニ仕ヘヨ」ト言ヘルニ對シ「我レハ金ノ臣ナリ、金帝ニ忠ナラサルヘカラス」ト答フ。「イラ・ブカ」モ他ノ諸將ト同シク殺サレタリ。カクテ、金ノ諸將ハ尊キ死ヲ致セシモ其死ヤ何等ノ益ナク、金軍、爲メニ、其最良ヲ失ヒタルノミ。

釣州城陥落後數日ヲ經テ「オゴタイ」、「ツルイ」ヲ其陣地ニ訪フ。「ツルイ」鳳翔ヨリ同城ニ到ル進軍中ノ無數ノ艱難特ニ糧食ノ缺乏ヨリ、草ヲ食ヒテ足ラス、遂ニ人肉ヲ喰ミシコトナト具ニ物語ル。「オゴタイ」感歎斜ナラス。「ツルイ」今次ノ成效ハ全ク兵士ノ勇敢、忍耐ト大汗ノ好運トニ是レ依ルノミト答フ。

金帝「ツルイ」ノ成效ヲ聞クヤ、河南ノ西境ヲ防守シ居タル凡テノ兵ヲ其首都南京ニ召集ス。因テ、彼處ニアリタル二將ト潼關ノ總督等兵ヲ集メ、歩兵十一萬騎兵五千ヲ得之ヲ率キテ、黄河ノ南陝州ニ向ヒ、舟二百隻ニ輜重ヲ積ミテ東方ニ運ハムト圖リシニ、未タ積込マスシテ蒙兵來リテ之ヲ奪ヒ、更ニ潼關ニ進ム。城主、一切ノ防禦設備ヲ蒙兵ニ引渡シ、且ツ金帝ノ防戦計畫ノ凡テヲ漏ラシス。

蒙軍、何等ノ障碍ナク陝州ニ進ム。金軍鐵嶺ニ退ク。無數ノ老若男女從フ、偶々積雪

解ケテ泥濘甚シク、時トシテハ途通セズ。遅レタル老人及小兒、先ツ敵ニ追付カレテ容赦ナク屠ラレ、降リタル一將亦殺サレ、他ノ諸將モヤカテ追付カレ、潼關ノ總督ト共ニ殺サレヌ。

河南西境ニ於ケル防守亦全ク失敗ニ歸シ、降ルモノ十四城、奮闘固守シタルハ只二城ノミ、其一ツハ河陽即チ河南府是ナリ。西軍ノ中ノ殘リシ者三千之レニ據ル。蒙軍砲撃數日ニシテ城壁ニ一ツノ穴ヲ穿ツ。總督事已ミス、降伏ノ辱ヲ見ルヲ待ツヘカラストシ、濠ニ投シテ死ス。城兵、強伸トイフ英傑ヲ選ムテ之ヲ戴キ奮闘固守三箇月ニ迫フ。蒙軍、兵尙三萬ヲ數ヘシモ病ニ襲ハルルアリ、戰ニ疲ルルアリ、攻撃百五十回ノ後退却シタリ。

「オゴタイ」今ヤ首都南京周圍ノ地ハ殆ント凡テ之ヲ取り、其西方十四里ノ所ニ陣地ヲ構ヘ、「スポタイ」ヲ遣ハシテ之ヲ攻メシム。

南京ハ當時周圍十二里、兵一萬之ヲ守ル。金帝、士氣ヲ鼓舞セム爲メ大儒「チャオ・ウ・ピン」(Chao wun ping) 趙秉文ノ諷ヲシテ、其旨ノ詔勅ヲ起草セシメ之ヲ發布ス。然ルニ「オゴタイ」ハ金帝ニ降服ヲ勸ムヘク使ヲ遣ハスト同時ニ既ニ包圍ニ著手シタリ、當時「オゴタイ」ノ要求ノ要ニ曰ク、大儒趙秉文、孔子ノ後裔孔元措及其他數名ノ大學

者、高貴ノ二十七族、既ニ蒙古ノ降レル者ノ家族ノ凡テ、金ノ英將「イラ・ブカ」ノ妻子、刺繡ニ巧ナル少女數名、熟練ナル應使數名ヲ質トシテ我レニ送ルヘシト。金帝、是等ノ要求ノ凡テヲ諾シ、且己レノ甥「ウコ」(Uko) 鄂和ヲモ質トシテ送ラムト。申出テ、彼レノ代理者「エグデー」(Egudai) 阿虎帶ヲ「オゴタイ」ト交渉シツツアリキ。

然ルニ「スポタイ」ハ、金側ノ如上ノ服従ノ態度ニモ拘ラス、猛烈ニ包圍攻撃ヲ續ケ曰ク、大汗ハ我レニ全都ヲ攻落スヘク命シタリ、我レハ之レニ從ヒツツアルノミト。彼レ夥シク弩砲ヲ列ネ立テ、俘虜ノ老若男女ヲシテ、籠衆ヲ運ヒ、濠ヲ埋メシム。サレト指揮ノ任ニナル金將、談判ノ妨ケトナラムヲ虞リ、應戰ヲ禁ジ爲メニ衆ノ憤ヲ招キタリ。金帝、騎兵數名ヲ從ヘテ衆ノ前ニ出テシニ、士官ノ一團來リ訴ヘテ曰ク、敵既ニ濠ノ半ヲ埋メタルニ我等防戰ヲ許サレスト。帝ノ曰ク、「朕ハ我臣民ヲ保護セムカ爲メニ既ニ屬邦ノ一臣タルノ覺悟ヲナシ、本日、朕カ子ヲ質トシテ送ラムトス。請フ、彼レカ出發スルヲ待ツヘシ。敵若シ退カスハ決死ノ戰アラムノミ」ト。

其日、皇子ハ大臣李蹊ト共ニ出發セシカ、蒙軍攻撃ヲ止メサリシカハ、金帝怒リテ戰鬪ノ命令ヲ下シタリ。

「スポタイ」無數ノ弩砲ヨリ、圭角稜々タル大白石ヲ猛烈ニ發射スルコト數日、城壘

ノ頂キ、殆ント石ヲ以テ充テ、宮殿ノ堅固ナル木材ヲ以テ造ラレタル櫓樓亦破壊セラレタリ。然ルニ此等櫓樓ハ裏面ヲ毛皮ヲ以テ蔽ヒ、繩ニヨリテ堅ク結ヒ付ケ、板ノ表ニ水牛ノ生皮ヲ張リタリシカハ、白石ノ效果見ラレサリキ。蒙兵更ニ弩砲ヨリ火ヲ發射シテ之ヲ焚カムトシタルモ、城壘ハ主モニ粘土ヲ以テ成リ、鐵ノ如ク堅固ナリシカハ、之レモ亦無効ナリキ。

城兵ハ可燃性ノ發射物、即チ或種ノ火藥ヲ充テタル鐵ノ壺ヲ或ハ弩砲ヲ以テ射出シ、或ハ鐵鎖ヲ以テ投下セシカハ、爆發ノ箇所ヨリ百尺以内ニ在ル者之レカ爲メニ殺サレ又ハ傷ケラレシカ、攻勢モ守勢モ共ニ新工夫ヲ凝ラシ、戰激烈ヲ極ム。蒙兵ノ或者ハ水牛ノ生皮ニ身ヲ固メテ近ツキ城壁ニ穴ヲ穿テ、之レニ入りテ發射物ヲ避ケ、城兵ハ火藥ヲ仕込ミタル槍ヲ投ケ、其三十尺以内ノ凡テノ物ヲ爆破シタリ。實ニ上記二種ノ發射物ハ蒙軍ノ大ニ恐ルル所ナリキ。

攻撃殆ント絶間ナク十六日ニ及フ。傳フラク(勿論誤リナカラ)此間、死シタル者一百万ナリト「スポタイ」使ヲ遣ハシテ曰ク、媾和談判進捗シタレハ、敵對行爲ハ全ク已ムヘキナリ。我レ既ニ退却ノ準備ヲナセリト。

金帝「スポタイ」及部下ノ將士ニ厚ク禮物ヲ送り、和議成ル。其一箇月ノ後、城内疫病

起リ、五十日間ニ郊外ニ運ヒタル棺ノ數九十萬ヲ算ヘタリト傳フ。尙其外、棺ニ收メサリシ貧民ノ死體モアリキ。

然ルニ媾和談判ノ間ニ、蒙古ノ使者タンチン(Tang tsing 唐慶)從者三十名ト共ニ汴京ニ於テ其民ニ殺サレ、而カモ加害者ハ罰セラルルコトナク、官憲亦之ヲ等閑ニ附セシカハ「オゴタイ」怒リテ「スポタイ」ニ再度金都ヲ攻ムヘキ命ヲ下シタリ。蓋シ「オゴタイ」ハ右ノ外、尙金帝「ニンキアス」(哀宗)ニ對シ含ム所アリシナリ。即チ、一蒙將ノ己レニ叛キテ其取リタル諸城ヲ渡シ、金帝ニ降リタルニ、金帝之レヲ納レタルノミナラス、之ヲ賞シタルコト是ナリ。

金都圍マルルヤ、金帝武仙ヲ招ク。蓋シ彼レ先キニ將トシテ戰ヒ敗レ、南陽ニ走リ、新ニ兵ヲ集メタルニヨル。金帝尙此外ニ、南部及北部ノ二名ノ總督ヲ招キタリ。サテ武仙ハ召ニ應シテ出テテ、都ヲ距ル三十里ノ地ニ到リシニ、蒙兵アルヲ見シカハ、最近ノ地ニアル總督ニ使ヲ送リテ來リ會セムコトヲ求メタリ。然ルニ總督ハ之レニ應セス、獨リ自ラ兵ヲ率キテ進ミ、亦蒙兵ニ會セシカ、戰ハスシテ其兵散走ス。武仙之ヲ聞キ速ニ引歸ヘシス。金帝武仙ヲ援クヘク「チガカトリカ」(Chiga Katika 漢字不明)ヲ遣ハセシモ、彼レ、武仙ノ既ニ引返ヘシタルヲ聞クヤ、其後輜重ヲ棄テテ南京ニ逃ケ

タリ。

金帝是等ノ敗報ニ接シ、失望シタル上ニ、窮乏日ニ増シ、交通ノ絶タレタル所甚タ多クナリシカハ、遂ニ都ヲ去ラムト決心シ、二人ノ皇后ト家族ヲ後ニ留メ、「サン・ヤ、ブ」(San ya pu 漢字不明)ニ指揮ヲ委任シ、且士氣ヲ鼓舞スル爲メ、將ヨリ卒ニ至ルマテ多クノ財寶ヲ與ヘタリ。

此日、鞏昌ノ將、軍ヲ率キテ入都シ、西方三十里ハ、既ニ蒙兵ノ蹂躪スル所トナレルヲ告ク。依ツテ金帝ハ、東方ニ向ヒ、外ニハ往クコト能ハサルナリ、南京ヲ距ル二十里ナル曹縣附近ニ於テ黄河ヲ渡レリ、蓋シ山東ニ援ヲ望ミタルナリ。

金帝、軍ノ一部ト共ニ北岸ニ著スルヤ、颶風起リテ、南岸ニアル他ノ兵等、帝ニ從フ能ハス。然ルニ、「スポタイ」ヲ遣ハシタル一隊ノ蒙兵南岸ニ現ハレテ、激戦起リ、金軍二將ヲ失ヒ、一名ハ擒ニセラレ、一名ハ降服、兵死スル者一千(其多數ハ溺死)ニ及ヒタリ。

「スポタイ」捷報ヲ聞キ、猛烈ニ都ヲ圍ム。金帝「ホリブ」(Holi pu 漢字不明)ノ子孫ニシテ親戚ノ一侯「バクサン」(Bak san)白撒又ハ博索ヲ遣ハシテ、衛州ヲ取ラシメムトス。然ルニ「バクサン」部下ノ兵ヲシテ、沿道到ル所ニ掠奪ヲ肆ニセシメシカハ、民之ヲ怒リ、援ケヲ

金帝ニ請ハスシテ却ツテ、衛州ニ逃ケ、其城門ヲ鎖サシテ兵ヲ入ラシメス。數日ノ後、「バクサン」敵軍ノ進來ヲ聞キ退却ス。蒙將、史天澤之ヲ追撃ス。「バクサン」自ラ敗ヲ金帝ニ告ク。金帝、歸德府ニ逃レムト欲シ、夜、七名ノ臣ト共ニ黄河ヲ渡リ、同府ニ入ル。金軍、翌日、帝ノ逃去ヲ聞クヤ、忽チ散潰ス。

汴京ノ民、勇氣沮喪セシモ、尙抵抗ヲ續ク。蒙軍之ヲ包圍ス。食品爲メニ無比ニ騰貴シ、民餓死スル者多ク、國ノ官吏ニシテ市ニ食ヲ乞フアリ、己レノ妻子ノ肉ヲ喰フアリ。又家屋ヲ毀チテ薪トスルアリ。帝、人ヲ遣ハシテ、陰カニ太后及后妃ヲ迎ヘ出サシメムトセシカ、成ラス、却ツテ、民ノ怨ヲ買ヒ、彼等ヲシテ「帝ハ我等ヲ棄テタリ」トノ嘆聲ヲ發セシメヌ。

恰モ此時、都ノ東面ノ守將崔立、亂ヲ謀リ、宮殿ノ總督ト大臣ト其他十名ノ高級吏ヲ、己レノ面前ニ於テ殺サシメ、後、彼等ハ己レノ義務ヲ盡サス、罪死ニ當ルト宣告シ、又劔ヲ提ケテ宮中ニ入リテ會議ヲ開キテ王子「ワニエンツオンロ」(Wa nien tsung lo 完顏從格)ヲ攝政トナスヘク決シ、太后ノ名ヲ以テ從格ヲ都ニ迎フ。從格直ニ來リテ攝政トナレリ。崔立ハ自ラ宰相、總元帥、議院長トナリ、己レノ兄弟ノ一ツヲ、市ノ總督ニ、他ノ一ツヲ宮殿ノ執事ニ任シ、凡テノ己レノ親族與黨ニ盡ク官職ヲ授ケタリ。彼

レ、己等ノ地位ヲ維持スルニ蒙古人ノ保護ヲ必要ト考ヘ、使ヲ遣ハシテ「スボタイ」ニ降服ヲ乞フ。「スボタイ」市ノ大門ニ到ル。崔立、王服ヲ着ケ、美ハシク部御ヲ整ヘ、出テテ之ヲ迎フ。父ニ對スルカ如シ。崔立、城ニ歸ルヤ、降服ノ意ヲ證明セム爲メ樓櫓ヲ燒ク。暫クノ後、彼レ攝政、后妃及其他ノ統治族ヲ一宮殿ニ集メ、我腹心ノ者ヲシテ之ヲ監守セシメ、自ラ皇居ニ入りテ之レニ住ス。又寶庫ヨリ寶玉及其他ノ貴重品ヲ搜出し之ヲ「スボタイ」ニ獻シ尙皇帝及皇后ノ冕服ヲモ之レニ贈リタリ。

崔立、尋テ先キニ金帝ニ伴ヒ往キタル諸侯ノ妻及娘ヲ己レノ宮殿ニ召シ、其中己レノ意ニ協ヘル者ヲ留メ、又令ヲ發シテ各自所有ノ金銀ヲ獻納スヘク命シ、其後更ニアラユル人家ニ吏ヲ送リテ財物ヲ徵發セシム。之ヲ拒ミタル爲メ殺サレタル者少カラス。「ツルイ」又其妻ト共ニ二皇后ヲ訪ヒテ有價物ヲ強要シ、次キニ太后ニ迫リテ其子、即チ現金帝ニ宛テ蒙古ニ降服スヘキ旨ノ書ヲ草セシメ、金帝ノ乳母ヲシテ之ヲ携ヘテ金帝ニ到ラシム。而シテ、カノ二后攝政以下統治族ノ凡テノ男女、凡ソ五百人ヲ捕ヘテ兵車ニ載セ之ヲ「スボタイ」ノ陣ニ送ル。孔子ノ後裔ニシテ賢儒タル孔元措、其他法律、哲學、道教ニ通スル學者、理學者、技術家、俳優、刺繡ヲヨクスル者等其中ニアリキ。

「スボタイ」ハ直チニ是等ノ凡テヲ殺シヌ、但シ二后ト皇女トハ蒙古ニ送ラレシカ、彼等「カラクルム」(Kara Kurum)ニ到ル途中、具ニ艱難ヲ嘗メタリ。

「スボタイ」南京ノ陥落ヲ豫見シ、「オゴタイ」ニ一書ヲ呈ス。其要ニ曰ク「同城ノ抵抗頑強ニシテ我將士ヲ失フコト多大ナリシカハ、「ジンギス」ノ法律ニ依リ我等掠奪セサルヘカラサリキ」ト。耶律楚材急ニ大汗ニ到リ説イテ曰ク、是等ノ民ハ須ラク陛下ノ民タラシムヘシ。其中ニハ尊重スヘキ有用ノ材少カラス。若シ之ヲ殺サハ我戰勝ノ利益ヲ失フコトトナルヘシト。「オゴタイ」此言ニ聽キ、金ノ一族以外何人モ殺スヘカラスト命セシカハ、死ヲ免レタル者甚少カラサリキ。之レ全ク楚材ノ效ニヨラスムハアラス。楚材マタ、強襲又ハ包圍ニヨリテ俘虜トナレル住民ハ之ヲ殺スヘシト謂ヘル法律ヲ廢シタリ。

サテ、金帝ハ歸德府ニ著キタル後、山東ニ於ケル敗戦ノ罪ハ「バクサン」ニアリトイフ衆ノ言ニ聽キ、軍法會議ノ結果、彼レヲ死ニ處シヌ。

マタ「フチャクアンヌ」(Fucha Kuan nu)富蔡固納トイフ一軍將、歸德ニ於テ亂ヲナシ、李蹊、總督等三百ノ官吏ヲ殺ス。是ヨリ先キ「バクサン」カ敗レタル時、固納ノ母擒ニセラレシカ、蒙將「テムタイ」(Temutai)歸德ノ南二十里ナル一市ヲ圍ムヤ、金帝、固納ヲシ

テ「テムタイ」ニ告ケシメテ曰ク若シ我（固納ノ）母ヲ還サハ、我レ金帝ヲシテ和ヲ講セシムヘシト「テムタイ」乃チ彼女ヲ還ヘシ、媾和ノ爲メ固納ト商議スルコト數次ニ及ブ。此間ニ、固納陰ニ兵備ヲナシ、夜、火箭ヲ用キテ蒙兵ノ陣ヲ襲フ。「テムタイ」ノ兵潰走シ河ヲ渡ラムトシテ溺死シタル者三千以上ニ及フ。固納、此戰功ニヨリ、勢威極メテ張リ、帝ハ只虚位ヲ擁スルニ過キサリキ。

時ニ、南河南ノ總督「ウクルン・ハオ」(Uku Tun Hao 烏古論鎬)帝ニ、蔡州城ニ幸シテ之ニ都セムコトヲ勸ム。帝之ヲ是トセシモ固納聽カス。己レノ勢威ノ失ハルルコトアラムヲ恐レタルナリ。帝、依ツテ、固納ヲ除カムト欲シ、一日彼レヲ其居室ニ殺ス。カクテ、金帝ハ、武仙カ兵七萬ヲ擁シテ河南ノ南方ニアルヲ恃ミテ、蔡州ニ往カムトス。然ルニ、此前年「オゴタイ」宋ノ皇帝理宗ト共ニ金ヲ滅ホスヘク約セシカ、理宗ハ今ヤ機至レリトナシ、「オゴタイ」ニ告ケテ曰ク、我今河南ニ出兵セム、但シ、金若シ、滅ヒナハ、其地ハ、舊ノ如ク、我領タルヘシト「オゴタイ」之ヲ諾ス。理宗乃チ、孟珙ヲシテ武仙ヲ馬躡山ニ討タシム。武仙敗レテ擒トナリ、且ソノ保持シ居タル九城ト殘リノ將士皆降リス。

金帝ハ、此事ノ前ニ、既ニ蔡州ニ到ル從フ者三百人、中、騎兵僅ニ五十。帝、親戚ナル「フシヤフ」(Hu sha hu 呼沙呼)ヲシテ事務ヲ司ラシム。呼沙呼ハ政治家ニシテ且名將ナリ。

彼レ新ニ軍隊ヲ作ラムト欲シ、アラユル努力ヲナシ、忽チ一萬ノ騎兵ヲ得、之ヲ中軍トナス。彼レ又帝ニ、陝西ノ要害鞏昌ニ幸セムコトヲ勸メ大ニ爲ス所アラムト欲セシカ、近侍ノ者之ニ反對シ、帝ヲシテ蔡州ニ留マラシメタリ。帝及帝ノ朝ノ破滅實ニ茲ニ基ツク。

始メ金軍ハ蒙兵ノ尙遠キニ安ンセシカ、間モナク、蒙將「タチャル」(Tachar 塔齊爾)ノ兵、來リテ洛陽城ヲ圍ム。城兵抵抗猛烈ナリシカハ蒙兵、已ムナク圍ヲ解ク。城將ハ、カノ河ノ北方ニ於テ大功ヲ收メタル「チャン・シエン」(Tsiyang Shen 漢字不明)ナリシモ、今次ハ、兵少クシテ長ク戰フ能ハズ。彼レ乃チ精兵ヲ選ヒ、先頭ニ立テテ敵中ニ突貫セシカ、劍ヲ握リナカラ、捕ヘラル。「タチャル」言ヲ盡シテ彼レニ北面シテ「オゴタイ」ヲ跪拜セムコトヲ勸メシモ、彼レ、頑トシテ聽カス、却ツテ南面シテ金帝ヲ拜セシカハ遂ニ殺サレタリ。

「タチャル」ハ「ジンギス」汗ノ四名將ノ一、「ボロウル」ノ子ナリ。彼レ今ヤ「ローマン」ヲ拔キ蔡州ニ向フ。宋帝カ「オゴタイ」トノ盟約ニ從ヒ送リタル孟珙ト江海精兵二萬ヲ率キテ來リ會ス。尙彼等、蒙兵ノ爲メニ米三十萬俵ヲ携ヘ來リキ。城内、二箇月ノ包圍ニ糧食乏シク人肉ヲ喰フニ至リ、加フルニ疫病起ル。城民ハ凡テノ能フ限リノ者ニ武

器ヲ執ラシム。婦女ト雖力アル者ハ皆、男裝シテ、木石ヲ携ヘ防戦ニ参加ス。蒙宋軍、突撃スルコト多次、漸ク樓櫓ノ一部ヲ取ルヲ得シカ、其後ニ、廣キ濠ヲ隔テテ更ニ一壁壘ノ築キタルヲ見テ驚ケリ。

金帝、外城ニ敵旗ノ翻ヘルヲ見テ、氣沮喪シ、近侍ニ告ケテ曰ク「我レ、治世十年、未ダ嘗テ罪過アラズ。而カモ惡君ノ運命我ニ迫レリ。我レ死ヲ恐レス。サレト、我レ自ラ、百年以上榮エタル朝ノ末帝トナリ、且ツ史家我レヲ、己レノ凶惡ノ爲メニ滅ヒタル者ト同視スルコトアラムヲ思フ時——嗚呼此一事ノミ、我レヲシテ悲痛ニ耐エサラシム。ソレ、敗王ハ幽閉ノ身トナルカ、然ラスハ衆ノ指彈ヲ受ク。我レハ生キテ、何レノ苦ヲモ忍フ能ハス。天、我志ヲ知ラム」。

サレト、金帝ハ尙一度己レヲ救ハムト欲シ、己レノ財産ノ凡テヲ城兵ニ與ヘタル後、數名ノ侍臣ヲ從ヘ、夜、變裝シテ出テシカ、敵ノ監視ノ嚴重ナルニ逃ルル道ナク、復引返シ、今ヤ我事終レリトナシ、我馬ヲ凡テ屠リテ、城兵ノ食料ニ供シタリ。ヤカテ、新年トナリヌ。元日ノ夜、蒙兵祝宴ヲ催フス。ソノ歌舞音曲ノ聲、城内ニ聞ユ。時ニ城民ハ食愈乏シク、市内ノ凡テノ革皮ヲ煮テ之ヲ喰フ。太鼓、靴、鞍等ノ革亦盡キ、次テ老人、病者、捕虜、負傷者ノ肉モ喰盡シタレハ、ソレ等ノ者及牛馬ノ骨ヲ粉ニシ之レニ雜草ヲ

混シテ食フニ至レリ。

宋將孟珙、城内ノ飢饉甚シキヲ知リ、強襲ノ時至レリトナス。宋兵枚ヲ銜ミテ城ニ近キ梯子ヨリ城ノ西壁ニ登リ、五個ノ裂目ヨリ入り、決死奮闘、日没ニ及ヒシカ、陥ルル能ハス、退出ノ已ムナキニ至ル。サレト、城兵亦良將良兵ノ幾多ヲ失ヒタリ。其夜、金帝、承麟ニ位ヲ讓ル。麟ハ「ホリブ」(Hôlipu)帝ノ後裔ニシテカノ山東ニ於ケル敗戦ノ爲メ、誅セラレタル「バクサン」ノ弟、現ニ城ノ東面ノ守將ナリキ。彼レ敢エテ位ヲ受ケス。拜泣スルノミ。帝曰ク我レ、此恐怖ト艱苦ノ日ニ於テ汝ニ位ヲ傳フル所以ノモノ他ナシ。我身體肥重、騎馬逃去ニ不便ナリ、汝輕捷ニシテ勇アリ。汝自ラ救ヒテ以テ我朝ヲ救ヒ我國ヲ恢復セムコトヲ願フノミト。

承麟、璽ヲ受ケ翌日位ニ即ク。即位式舉行中ニモ敵ノ攻撃進捗シ、西門破レテ孟珙、城ニ入り、江海ト「タツチャル」亦共ナリ。呼沙呼精兵一千ヲ提ケテ市街ニ戦フ。金帝、逃ルルニ道ナキヲ見、近侍ニ命シテ曰ク我レ死セハ屍ヲ燒クヘシト。自ラ縊ス。

呼沙呼將士ニ告ケテ曰ク、最早是マテナリ、何ソ戦フノ要アラム。我レ只賤シキ者ノ手ニ殺サレムコトヲ恐ルト。乃チ河ニ投シテ溺死ス。五名ノ將ト三百ノ兵、之ニ倣ツテ、同シク河ニ投ス。ヤカテ宮臣等、帝ノ屍ヲ燒ク。承麟之レニ奠ス。奠未タ終ラスシ

テ城陷ル。

孟珙ト「タチャル」金帝ノ凡テノ所有物ハイフマテモナク、凡ソ宮殿内ニ於テ發見シ得タル凡テノ寶玉ヲ互ニ分ケ取りタリ。承麟ハ其夜、部下ノ兵ノ爲メニ殺サレヌ。カクテ金族ノ支那ニ於ケル支配權滅亡ス。實ニ一三四年五月ナリ。治世九代百十八年ニ及フ。金ニ屬シタル凡テノ地ハ鞏昌府以外盡ク降り、宋帝喜フコト限リナク、宴ヲ張リテ祝ス。彼レ又金帝ノ骨ト灰ヲ己レノ家廟ニ獻シタリ。愚ナル哉、宋帝、彼レハ、今亡ヒタルモノヨリモ遙カニ恐ルヘキモノヲ援ケ、以テ自家ノ滅亡ヲ速メタルナリ。

大汗「オゴタイ」ト其兄弟「ツルイ」ハ金ノ亡フル前二年「カラクルム」ニ歸レリ。蓋シ、是ヨリ先キ「オゴタイ」黃河ヲ渡リ「ツルイ」河南ヲ過クルヤ、堪能ナル「スポタイ」二人ニ代リテ事業ノ完成ヲ引受ケタルナリ。「ツルイ」一三二二年八月、蒙古ニ歸リテ間モナク死ス。齡正ニ四十「ジュヅエイ」(Juvain)ノ記スル所ニヨレハ、彼レノ早死ハ過度ノ飲酒ニ因レルナリ。彼レハ「ジンギス」ノ愛子ニシテ、ソノ下ニ戰爭ニ關スル一切ヲ詳細ニ學ヒタル者、其河南ニ於ケル戰爭ハ實ニ嘆賞ニ値セスムハアラス。少年ノ時、父、彼レニ「ワンカン」ノ姪ニシテ兄弟「ジャガムブ」(Jagambou)ノ娘「シウルククテ」(Sür Kükent)ヲ娶ハセリ。彼女聰明ヲ以テ名アリキ。四子ヲ生ム「マング」、「クビライ」、「フラグ」、「アリクブカ」是ナリ。

第十六章 「オゴタイ」ノ支那征伐ト其死

一三三四年「オゴタイ」大「クルルタイ」ヲ「タランテペ」(Talanterpe)ニ開キシカ、次年復之ヲ新都「カラクルム」ニ開キ、三大征伐實行ノ決議ヲナス。一ツハ宋ニ對スルモノ、二ハ蒙古ニ叛キタル朝鮮ニ對スルモノ、三ハ裏海、高加索及黑海ノ北方ノ諸國並ニ西部一帯ニ對スルモノ是ナリ。「オゴタイ」ハ自ラ此第三ノ裏海方面征伐ノ任ニ當ラムト欲セシモ、子等ノ要請已ミ難ク、己レノ代リニ「ジュチ」ノ第二子「バツ」(Batu)拔都ヲ以テ此方面ニ於ケル總指揮トナス。

「フカツ」(Fuchs)一軍ヲ率キテ「カシミル」及印度ノ境ニ到ル。然ルニ當時「ベルシヤ」ハ「チオルマグン」ノ爲メニ、再ヒ征服セラレ「ジエラル・ウド・ヂン」既ニ一三三一年ニ於テ死シ、男性ノ子孫ナク「イラン」ハ蒙吏ノ支配スル所ナリキ。

而シテ朝鮮征伐ハ實行容易ナルモ、支那征伐ハ多大ノ困難ヲ有ス。吾人ハ、他ノ二ヲ後トシ、先ツ此征伐ニ就テ語ラム。

金滅亡後、蒙人ハ宋帝トノ先キノ約ヲ無視シ、宋ニハ只河南ノ東南ノ一小部ノミヲ與ヘ其餘ハ自國ニ併合シタリシカハ、宋ノ二皇子趙范ト趙葵、蒙古ノ背信ヲ怒リ、帝ニ説イテ曰ク、黄河ハ我帝國ノ眞ノ境界ニシテ、南方陝西モ我レニ屬セサルヘカラス。我等武力ヲ以テ、正當ノ權利ト盟約ト上我等ノ所有タルヘキモノヲ取得セサルヘカラス。即チ我等ハ汴京、洛陽、西安府ヲ回復セサルヘカラスト。然ルニ之ヲ非トスル者アリ曰ク、カクテハ蒙人再ヒ入寇スルニ至ルヘク、而シテ我等ハ遠隔ノ地ニ兵ヲ送リテ諸城ヲ維持セサルヘカラム、且ツ我國目下、國帑窮乏シ、又良兵良將ヲ有セスト。理宗、此言ニ聽カス、忽チ兵一萬ヲ汴京ニ遣ハスヘク命シヌ。當時汴京ハ崔立既ニ之ヲ蒙古人ニ與ヘ自ラ其城主タリ、ソノ部下ノ三將、彼レノ潜越ヲ憤リ、相共ニ之ヲ亡サムコトヲ謀ル。偶々宋將兵ヲ率キテ到ラムトスルヲ聞キ、陰ニ書ヲ馳セテ服從ヲ申シ出テ、崔立ニ對シテハ表面無事ヲ裝フ。ヤカテ、三名ノ一、李伯淵、火ヲ城門ニ放タシム。崔立、李ト共ニ彼處ニ赴ク。其著スルヤ否ヤ李、劍ヲ拔キ崔ヲ刺ス。崔、馬ヨリ落チテ馬脚ノ傍ニ死ス。豫シメ謀リテ門ヲ衛リ居タル兵等、崔ノ從者ヲ斬殺シヌ。李、崔ノ死屍ヲ馬ノ尾ニ縛リ付ケテ宮殿ニ運ハシメ、衆ニ告ケテ曰ク、「崔立ハ殺人者、盜奪者、詐欺漢ニシテ且無恥ノ反逆者ナリ。カカル惡人ハ古來未タ曾テ有ラサル

所ナリ。之ヲ誅スル豈可ナラスヤ。」衆叫ムテ曰ク「生きナカラ八裂ニスルモ刑尙足ラス」ト。乃チ首ヲ衆ニ晒ラシ胴ハ燒イテ先帝ノ靈ニ獻ス。カクテ、宋將、全子才、汴京ヲ占領スルヤ、兵五萬來リ合ス。ヨツテ直チニ洛陽ニ援兵ヲ送ル。

「オゴタイ」宋軍ノ河南ニ入りタルヲ聞クヤ、直ニ活動ヲ開始シ、汴京ヨリ洛陽ニ來ラムトシテ黄河河畔ニ陣セル宋軍一萬五千ヲ擊破シテ潰走セシメ、洛陽城附近ニ屯ス。宋軍城内ヨリ出テテ之ト戦ヒシモ利アラス、加フルニ糧食乏シク遂ニ城ヲ棄ツ。汴京ノ宋軍モ亦糧食ニ窮シテ同地ヲ去リ南方ニ向フ。カクテ南河南ノ諸城ハ殆ント盡ク蒙兵ノ蹂躪スル所トナリ、民飢渴ニ苦シミタリ。

「オゴタイ」、「スポタイ」ノ歐洲征伐ヲ中止セシメ、彼レヲ召シテ宋ニ遣ハシ、其破約ヲ責ム。理宗亦使ヲ「カラクルム」ニ遣ハシテ和ヲ議セムトセシモ時既ニ遅シ「クルム」ノ「オゴタイ」ハ戰爭ヲ議決シ、討宋ノ部署ヲ定ム。第一軍ハ「オゴタイ」ノ第二子「クタン」(Kutan) 庫騰)之ヲ指揮シ、副將「タガイ」(Tagai) 塔海)ヲシテ四川省ヲ攻メシメ、第二軍ハ「オゴタイ」ノ第三子「クチュ」(Kutchu) 之ヲ率キ「テムタイ」(Tenuai) 「チャウジュ」(Chaju) 等ノ諸將ヲシテ湖廣ヲ取ラシメ、第三軍ハ「チャガン」(Chagan) 察罕)ト「ロンブガ」(Khon Buga) 璘布哈)統帥ノ下ニ江南ニ戦ハムトス。

「クタン」陝西ヲ經テ「チヨンチヤンガン」(Chung changan 鞏昌德?)ヲ過ク。同地ノ總督降ヲ乞フ。彼レハ金ノ亡ヒテ諸城盡ク陥リシ時、獨リ堅守シテ下ヲサリシ者ナリ。クタン「元ノ如ク彼レヲ總督タラシメ、其兵ヲ率キテ前驅セシム」クタン「南西ノ方漢中ヲ過キテ沔州ヲ陥レ、其守將高稼ヲ斬ル。漢中ノ總督趙彥呐、急ニ四川ノ要害チンエン(Tsing yen 漢字不明)ニ馳セラ之ヲ占領セシモ、ヤガテ蒙軍ノ圍ム所トナリシカハ「リウチウ」(Lu chiu 利州ナラム)ノ城將「ツアオユアン」(Tsao yuan 曹友ナラム)急ニ來リ援ケ、蒙軍ヲ北方ニ驅逐シタリ。曹友、當時汪世顯ニ圍マレ苦シメル大安ニ赴キテ之ヲ救ヒシカ、近傍ニ居ル蒙古ノ大軍ヲ破リタル後、退却シタリ。カク「クタン」ノ前軍ハ敗レタルモ、其本軍來ルヤ、數ニ於テ既ニ甚シク劣レル宋軍ハ四川ト陝西トノ間ノ險峻ノ地ニ戰ヒテ破ラレ、陽平ニ逃走リ、蒙兵、苦モナク四川ニ入ルヲ得タリ。此後一箇月ノ間ニ、彼等、省内ニ於テ多クノ城ト良キ地トヲ取り、無數ノ人民ヲ屠ル。蒙兵、文州ヲ壓スルヤソノ總督、支フル能ハサルヲ見、家族ノ者ニ毒ヲ飲マシメ、其死體ヲ燒キ、次テ、公私ノ財物ト己レノ任官ノ辭令ヲ火ニ附シタル後、自刃ス。蒙兵、彼レノ副將ヲ八裂シ、更ニ軍人市民ノ凡テヲ殺シヌ。

「クタン」四川ノ西部ヲ蹂躪シタル後、陝西ニ歸ル。依ツテ、一二三七年宋軍成都ヲ回

復スルヲ得シカ、一二三九年「クタン」ノ副將「タガイ」再ヒ四川ニ入リテ多クノ地ヲ取り、再ヒ成都ヲ陥レ、楊子江ノ北岸貴州ヲ經テ更ニ湖廣省ニ入ラムトセシカ、宋將孟珙巧ニ之ヲ防禦シタルノミナラス、更ニ貴州ヲ奪回スルヲ得タリ。

此間ニ「クチユ」ハ河南ノ劄州ニ本陣ヲ構ヘ一二三六年湖廣ニ侵入ス。襄陽ノ守將城ヲ舉ケテ降り、無數ノ貯蓄物蒙軍ノ手ニ歸ス「クチユ」又「ツアオヤン」(Tsao yang 漢字不明)ト臨安トヲ取りシカ、ソノ後間モナク死ス。

「クチユ」ハ「オゴタイ」ガ大ニ寵シタル所ニシテ「オゴタイ」ノ後ヲ繼クヘク太子タリシ者ナリ。

「テムタイ」(King chiu 漢字不明)ヲ圍ミシカ、孟珙、省ノ總督ノ命ヲ受ケテ往キテ之ヲ救フ。彼レ城ノ附近ニ於テ蒙兵ヲ破リ、先キニ虜ニセラレタル二萬ノ民ヲ解放スルヲ得タリ。一二三七年ノ末「コンブダ」守將ノ棄テ去リタル三城ヲ取り、更ニ楊子江畔ノ黃州ヲ圍ミシカ、拔ク能ハス退却シ、次年、他ノ一大城ヲ圍ミシモ、亦拔ク能ハサリキ。一二三八年「チャガン」江南ノ廬州ヲ圍ミシカ、急激強烈ナル突撃ニ遇ヒテ多クノ兵ヲ失ヒ退却ス。一二三九年、孟珙、三タヒ蒙軍ヲ破リ四城ヲ獲タリ。一二四〇年蒙古ノ使王楫、宋ノ宮廷ニ來リ和ヲ求ム。宋聽カス。王楫、使職ヲ果サスシテ死

ス。宋、ソノ屍ヲ蒙古ニ送ル。一二四〇年ノ始メ、蒙兵、種々ノ路ヨリ支那ニ入寇シタリ、サレト、ソレヨリ次年「オゴタイ」ノ死後迄ハ、戦ヲ見サリキ。

蒙兵、朝鮮ヲ討チ、支那ヲ蹂躪シ、露西亞、洪牙利、「ポーランド」ヲ侵シテ、西歐羅巴ヲ惱マシツツアリシ間、「オゴタイ」ハ、狩獵ト飲酒ニ耽リツツアリキ。彼レ「カラクルム」ニ「オルツ・バリク」(Ortu Balik)トイフ大宮殿ヲ建テ、同地ト支那トノ間ニ三十七驛ヲ置キ、繼馬ヲ以テ連絡セシム、サレト、彼レ春ノ一箇月間ノミ之レニ居リ、其季節ノ餘月ハ同地ヲ距ル一日程ノ「ケルチャガン」(Kerchagan)宮ニ暮ラシタリ。該宮ハ波斯人カ「オルヅ・バリク」ヲ建テタル支那人ノ技倆ト競争スヘク建テタル所ニ係ル(既ニシテ彼レ「ケルチャガン」ヲ出テテ「カラクルム」ニ歸リ、居ルコト數日、去ツテ「オルメクツア」(Ormetua)ニ到リ、金ヲ鏤メタル絹ヲ張レル支那式ノ白天幕ヲ建テ、其中ニ於テ政務ヲ見、其夏ヲ送ル。該天幕ハ「サライ・オルヅ」(Saray Ordu)即チ^{ゴールデンホーネ}金族ト稱シ、廣サ一千人ヲ容ルルニ足ル。彼レ「コサ」(Kosa)湖ニ四十日ヲ費シ、其後「ゴビ」(Gobi)大沙漠ノ附近、オンキ(Orkhi)ニ到リ、同所ニ於テ狩獵ト野遊ニ全冬ヲ送ル。彼處ニ「チエヒク」(Chelik)ト稱スル大獸苑アリ。木柵ヲ廻ラシ多クノ門アリ、周圍六哩、守備兵各方面ニ大距離ヲ隔テテ駐在シ、獸ヲ狩ツテ門ヨリ入ラシム。獸ハ汗先ツ之ヲ殺ロシ、次チ家族ノ者ニ殺サシメ、順

次シテ、普通人民亦之ヲ殺スヲ許サレタリ。

「オゴタイ」飲酒ニ耽リ、屢々「ジンギス」ニ叱責セラレキ。「オゴタイ」ノ信任セル「ジャガタイ」一吏ニ命シ、毎夕、定メノ杯數ヲ過ササルヤウ監督セシム。「オゴタイ」「ジャガタイ」ノ命ニ違フヲ敢テセサリシモ、大杯ヲ用キテ之ヲ效ナカラシメシカ、彼ノ吏之ヲ默視シタリ。一日、耶律楚材、酒ノ爲メニ甚シク鎗ヒタル鐵環ヲ持チ來ラシメ、「オゴタイ」ニ謂ツテ曰ク「酒ノ鐵ニ於ケル既ニカクノ如キアリ、如何ニ胃ヲ害セサラムヤ」ト。オゴタイ「大ニ感スル所アリシモ、遂ニ其習慣ヲ廢棄スル能ハサリキ。一二四一年四月、彼レ一日狩ヨリ歸リ來リテ病ミ、人事不省ニ陥ル。妻ツラキナ(Turakina)大ニ悲シミ、楚材ニ、天ニ祈リテ夫ヲ恢復セシメムコトヲ請フ。楚材、功德ヲ積ムノ必要ナルヲ告ケテ曰ク「汗ハ官位ヲ賣リ正義ヲ弄フ者ニ權力ヲ與ヘ、而カモ無辜ノ民、己レニ加ヘラレタル不正ニ反抗シタルノ故ヲ以テ獄中ニ呻吟シツツアリ。大赦ヲ行ハサルヘカラス」ト。ツラニカ「直チニ大赦令ヲ發セムコトヲ請フ。楚材「オゴタイ」ノ命ニアラスハ發スルヲ得ス」ト答フ。

「オゴタイ」意識ヲ回復シタル時、獄ニアル者及謫セラレテ遠地ニ在ル者ヲ凡チ赦免ス。彼レ一時健康舊ニ復シタルニ、數月ノ後、楚材ノ諫ムルヲ聽カス、五日間狩ヲ續

ケ、歸路ノ途中深夜マテ飲酒シタル結果、其翌朝息絶ヘタリ。實ニ一二四一年十二月十一日ナリ。齡正ニ五十六、在位約十三年ニ及フ。彼レハ當時ノ蒙古人トシテハ性、温和ニシテ、奢侈ヲ好ミ、施與ニ吝ナラス、諸宗教ヲ寛容シ、大體ニ於テ愛スヘキ人物ナリキ。又狩獵ト相撲ヲ好ミ、屢々名アル力士ヲ「ベルシヤ」ヨリ招キタリ。彼レハ軍人タルト同時ニ政治家ニシテ法律ヲ制定シ、依ツテ以テ久シク蒙古帝國ヲ統一結合スルヲ得タリ。

「オゴタイ」死スルヤ、其住所ニ通スル凡テノ道路ニ衛兵ヲ置キ何人モ出ツルヲ許サス、又急使ヲ四方ニ馳セ、凡テノ旅行者ニ告ケテ、大汗ノ家族カ公式ノ訃ニ接スルマテ、旅行ヲ中止セシム。

始メ「オゴタイ」己レノ第三子「クチュ」ヲ己レノ後繼者ト定メシカ、「クチュ」一二三六年「オゴタイ」ノ死ノ五年前湖廣ニ於テ死セシカハ、當時宮廷ニ在リタル「シラムン」*Shirumun*、錫哩馬勒「クチュ」ノ子ナリヲ太子トス。然ルニ、我執強キ「ツラニカ」ハ己レノ長子「クユク」*Kuyuk*ヲ立テムト欲ス「クユク」一、二〇六年ニ生レ、始メ、征金軍ニ從ヒ、後「バツ」ノ下ニ西方ニ往キシカ、最近「オゴタイ」彼レヲ呼ヒタルニヨリ、彼レ歸路ニ就キ、途中父ノ訃ニ接シタリ。

「ツラニカ」*Turanika*「クルルタイ」ヲ開カムカ爲メニ諸將及血族ノ諸王子ヲ招ク。而シテ同時ニ「ジャガタイ」等ノ請ニ應シテ攝政トナレリ。彼女攝政トナルヤ、「ウイグル」人ニシテ大宰相ナリシ「チンカイ」*Chingkaï*（鎮海）ヲ除キ、回教徒「アブドウル・ラーマン」*Abdurrahman*ヲ寵ス「ラーマン」ハ以前屢々商品ヲ携ヘテ來蒙シタル者「オゴタイ」ノ死スル少シ前、支那ニ對スル租貢ノ取立ノ任ニ當ラムト申出テタルコトアリ。楚材、是ヨリ先キ、黃河北方ニ於ケル凡テノ收入ヲ銀五十萬「オンス」ト定メシカ、河南征服ノ後之ヲ高メテ一百十萬トス「ラーマン」ハ此次之ヲ二百二十萬トセムト申出テシニ、楚材、五百萬ト雖微シ得ヘカラサルニアラサルモ、カクテハ納稅者ノ苦痛甚シカラムト答フ。然ルニ「ツラニカ」ハ楚材ノ言ニ聽カス「ラーマン」ヲシテ財政監督ノ任ニ當ラシメタリ。楚材、一二四四年六月死ス。齡五十五、或ハイフ、彼レハ己レノ勞ニ成リタル凡テノ事業ノ破壊セラルルヲ豫見シ、失望ノ結果、死シタルナリト。彼レ「オゴタイ」ニ説キテ、多クノ生命ヲ救ヒ、又燕京ト山西ノ平陽トニ學校ヲ立テ、又天文書ヲ著ハセリ。

「オゴタイ」ノ死後間モナク、彼レノ叔父ニシテ「ジンギス」ノ末子タル「テムグ」*Temug*（*Temügh*）兵ヲ率キテ、國ヲ奪フヘク、汗ノ居所ニ迫ル。ツラニカ「使ヲ派シテ」汝、何故ニ、カク多クノ者ニ護ラルル汝ノ娘ニ來ルヤト問ハシメ、且ツ、同所ニアリタル彼レノ子ヲ送り

ヌ。然ルニ「テムグ」、「クユク」ノ既ニ西方ヨリ歸リテ、其「ユルタ」ノ「アル」イミル「Imil」ニ到着シタルヲ聞クヤ、忽チ、初志ヲ棄テ「我レハ我娘カ夫ヲ亡ヒテ哀メルヲ慰ムムカ爲メニ來レルノミ」ト答ヘ、己レノ住所ニ歸レリ。

サテ「オゴタイ」ノ後繼者ヲ選フ爲メニ「タランテペ」(Talantepe)ニ開カルヘキ「クルルタイ」ハ「バツ」ガ來ラサル爲メ一二四六年迄延引シタリ。蓋シ「バツ」ハ「クユク」ヲ悦ハス又其攝政タル母ヲモ悦ハス、足痛ミテ旅スル能ハスト伴リ稱シ、又衆モ、彼レハ其家族ノ王子中最年長者ナリシカハ、ソノ不在中ニ選舉ヲ行フヲ快シトセサリシナリ。「バツ」、「クラニカ」ノ懇請アリシカハ必ス「クルルタイ」ニ出席スヘシト答ヘタリシモ遂ニ來ラス、依ツテ彼レ不在ノママニ同會ヲ開キシカ「クユク」當選シタリ。

「クユク」大汗トナリ、二箇月ノ後「ツラニカ」死ス。是ニ於テ「ツラニカ」ノ友ニシテ助言者ナリシ「ベルシヤ」ノ女「ファチマ」(Fatima)ニ快カラサリシ多クノ者、彼女ヲ亡サムコトヲ謀ル「サマルカンド」ノ回教徒「シラ」(Sira)トイフ者「クユク」ノ弟「クタン」(Kutan)カ今病メルハ全ク「ファチマ」ノ所爲ナリト訴ヘ「クタン」モ亦、人ヲ「クユク」ニ遣ハシ「我レ若シ死セハ必ス「ファチマ」ヲ罰サレタシト請フヤカテ「クタン」死セシカハ、「クユク」、「ファチマ」ヲ棍棒ヲ以テ拷問シ罪ヲ白狀セシムルヲ得タリ。乃チ鼻以外、身體ノ凡テ

ノ孔口ヲ堅ク縫ヒ、毛布ヲ以テ包ミ河ニ投ス。彼女ノ友數名亦殺サル。次テ、カノ「シラ」モ「クユク」ノ子ヲ蠱惑シタリトノ廉ニヨリ、其妻及家族ト共ニ死ニ處セラレタリ。

「クユク」飲酒ト放蕩ノ結果、痛風ニ惱ミ、一二四八年ノ春、轉地療養スヘク出發ス「ツルイ」ノ寡婦「シウル」ククテニ「Suir Kukteti」或ハ「クユク」カ己レノ甥ナル「バツ」ヲ憎ミテ之ヲ討タムコトアルヘキヲ慮リ「バツ」ニ警戒ヲ怠ルヘカラスト告ケシカ、此心配ハ無用ナリキ「クユク」ハ旅行ノ途中「ウイグル」ノ首都「ビシ・バリク」(Bish Balik)ヲ距ル七日程ノ地ニ於テ死シタリ。齡正ニ四十三。

「クユク」死スルヤ、例ノ如ク、凡テノ道路ニ於ケル往來ヲ遮斷シ「シウル」ククテニ及「バツ」等其族ノ重立チタル者ニ通告シ終リタル後、始メテ喪ヲ發ス「バツ」遂ニ、新王ニ敬意ヲ表スヘク「ウオルガ」(Vogga)河畔ヲ出發セシカ「アラクタク」(Akrat)ニ來リシ時「クユク」急死ノ報ニ接ス。彼レ乃チ、馬ヲ休マシムル爲メト稱シテ、忽チ止マリ、國ノ慣習ニ從ヒテ「オグル・ガイミシ」(Ogul Gaimish)ノ攝政タルヲ承認シ「オグル」ハ「クユク」ノ妻妾中ノ首位ニ在ル者ニシテ「ウイラト」族ノ酋長「クツク」(Kutuk)ノ娘ナリ、同時ニ「アラクタク」ニ「クルルタイ」ヲ召集ス「オゴタイ」ノ子孫等「クルルタイ」ハ蒙古ノ地ニ開カルヘキモノナリトイヒテ出席ヲ拒ミシカト「カラ・クルム」ノ總督「チムル・ノヨン」(Timur

noyon)ニ己等ヲ代表シテ「バツ」及諸王子ノ多數ノ議決ヲ確認スルノ全權ヲ委ネテ之ヲ遣ハシタリ。

此「クルルタイ」ハ、主トシテ「ジュチ」ト「ツルイ」ノ子孫、即チ「ジンギス」汗ノ長子ト末子トノ子孫ヨリ成リシカ「ジエケル」族ノ「イルチキダイ」[Ichi Kidai]曰ク「オゴタイ」ノ子孫ニシテ生存スル限リ其一人ヲ選フヘク、他ノ者ヲ選ハサルヘシトハ我等ノ約束ナリト「ツルイ」ノ子「クビライ」[Kubilai]忽必烈曰ク「然リ、サレト汝等ハ「ジンギス」汗ノ法則ヲ侵犯シ「オゴタイ」ノ意志ヲ無視シタル發頭人ナリ。汝等「ジンギス」汗カ已レノ子孫ハ其同類ノ者ノ會審ニヨルニアラサレハ誅セラルヘカラスト定メタルヲ願ミス、「ジンギス」ノ娘「アルタルン」[Altun]ヲ死ニ處シ又「オゴタイ」カ「シラムン」ヲ己レノ後繼者ト定メタルニ拘ラス、「クユク」ヲ主位ニ即カシメタリ」ト。

右ノ二ツノ異議ハ「オゴタイ」ノ子孫ヲ立ツルヲ欲セサル者等ノ提出シタル所ナルカ「オゴタイ」ノ子孫ト好カラサル「バツ」モ亦「シウル」ククテニ「カ」己レノ長子「マング」ヲ立テムト欲スルニ同意シタリ。彼女ハ「ツルイ」ノ寡婦ニシテ軍人間ニ大勢力アリキ。蓋シ、先キニ「ジンギス」己レノ兵ノ大部分ヲ「ツルイ」ニ授ケシ爲メ「ツルイ」ノ血族、勢力ヲ得タルモノトス。且ツ定マリタル皇帝アル時ハ凡テノ兵其王ノ下ニアルモ、空

位ノ間ハ各部ノ兵、其屬セル王子ヲ戴キテ、専ラ其指揮ヲ仰キシナリ。カクテ「ツルイ」ノ死後、其兵總數十三萬ノ中、十一萬、其正妻、シウル、ククテニ「四子」[Mangut]ト「クビライ」ト「アリク」[Arig Buga]ト「フラグ」トノ所有トナリス。而シテ彼等幼少ノ間ハ、母「ククテニ」専ラ是等多數ノ部族ヲ統卒シ、其稀世ノ果斷ノ才ニヨリテ、ヨク任ニ耐エタリ。而カモ今ヤ「バツ」及其他多クノ王子ノ贊助アリ、彼女、己レノ子ヲ立テムコト易々タルノミ、況ンヤ「オゴタイ」ノ子等ノ何ツレモ極メテ年少ナルヲヤ。

一將「マングサル」[Mangusar] 臂頭ニ、議會ニ建言シテ曰ク、須ラク、カノ支那ニ於テハ、「クユク」ノ下ニ、西方ニ於テハ「バツ」ノ下ニ、燦爛タル光ヲ放チタル、勇アリオアル「マング」ヲ立ツヘキナリト。

然ルニ、諸王子ハ「バツ」コソ其家族中ノ最年長者ナレハトテ彼レヲ推セシニ、彼レ之ヲ拒ミシカハ、然ラハ汝ノ欲スル所ヲ指名セヨ、我等誓ツテ之ヲ選ハム」ト、契約書ヲ作りシカ「バツ」ハ之ヲモ拒ミヌ。然ルニ、其夜、俄ニ志ヲ變シ、翌朝、彼等ニ、彼等ノ意ニ從フヘシト告ケ、ヤカテ議會ニ於テ宣シテ曰ク、凡ソ我國ヲ統治スル者ハ英才ノ王子ニシテ「ジンギス」汗ノ「ヤツサ」ヲ盡ク心得居ル者ナラサルヘカラスト、故ニ我レハ「マング」ヲ推スト。

然ルニ「マング」ハ此大ナル名譽ヲ辭シ「クルルタイ」カ數日ニ亘リテ絶エス懇請スルモ尙聽カサリシカハ、遂ニ其弟起立シテ曰ク「我等ハ凡テ「バツ」ノ決定ニ從フヘク約シタリ「マング」若シ自ラ此約ヲ破ラハ、後來或ハ之レニ傲フ者アラム」ト。「バツ」此言ヲ嘉ミシ「マング」モ遂ニ屈シテ承諾セシカハ滿場舉ツテ彼レヲ祝ス。乃チ凡テノ王子及諸將ノ承認ヲ得ル爲メ、次年ノ春「オノン」及「ケルロン」二河ノ源ニ程近キ「ジンギス」汗ノ生地ニ於テ、新ニ「クルルタイ」ヲ開クヘク決シタリ。

此間「クユク」ノ寡婦「オグル・ガイミシ」其子「コーチャ」*[Khadja]*ト「ナグ」*[Nagu]*ニ輔ケラシテ政ヲ攝シタリ。而シテ、諸地方ノ租税ノ處分ヲ豫メ指定スルコトカ、此攝政ノ唯一ノ、又ハ少クトモ主ナル働作ナリキ「オグル・ガイミシ」妖術ヲ好ミ、毎日多クノ時間ヲ妖術者トノ會話ニ費シ、之レカ爲メニ蒙古國ハ少カラサル害ヲ受ケス。

「コーチャ」ト「ナグ」ハ「マング」ノ選舉ヲ否認シ、「バツ」ニ告ケテ曰ク「ジンギス」ノ生地ヲ距ルコト遙カナル地ニ於テ開キタル、不完全ナル「クルルタイ」ノ決議ニハ我等從フ能ハスト。「バツ」彼等ニ、次回ノ「クルルタイ」ニ出席ヲ請ヒ且ツ附加シテ曰ク、諸王子ハ我國ノ統治ニ最モ適當ト考ヘタル者ヲ選ヒタルナリ。事既ニ決シ、今亦之ヲ改ムルコト能ハスト。

カクテ、此年ノ終リマテ「マング」ノ與黨ト反對黨互ニ論議シテ相下ラサリシカ、「バツ」ハ己レノ兄弟「ベルカイ」ト「ガチムル」*[Togha Timur]*ニ一隊ノ精兵ヲ授ケテ、之ヲ「クルルタイ」ニ送リヌ。之レ「マング」ヲ護衛シテ「ジンギス」汗ノ玉座ニ即カシメムトテナリ。「オゴタイ」及「ジャガタイ」ノ子孫等ハ「マング」ノ選舉ハ不法ナリ、王位繼承ノ權利ハ「オゴタイ」ノ子孫ニ屬スト稱シテ「クルルタイ」ニ出席スルヲ拒ム。「バツ」トシウル。クテニ屢々人ヲ遣ハシテ、彼等ニ、黨争ニヨリテ國ノ分裂ヲ來サシメサラムコトヲ請ヒ、「バツ」ハ「ジンギス」ノ所領餘リニ大キクシテ諸子之ヲ治ムルノ力ナシト告ク。

サレト、彼等毫モ屈セスシテ争フ。カクノ如キモノ一年ノ後「バツ」*[ベルカイ]*ニ命シテ曰ク最早何等ノ論議ヲ用キス。「マング」ヲシテ即位セシムヘシ。若シ之ヲ妨クル者アラハ殺シテ可ナリト「ジュチ」及「ツルイ」ノ子孫等「ジンギス」ノ甥等ト「コイツン・オラ」*[Kotun Ola]*ニ會シ「オゴタイ」及「ジャガタイ」ノ家族中ノ首長ヲ其會ニ來ラシメムト欲シ、使ヲ「オグル・ガイミシ」ト「ジャガタイ」ノ子「イツス」*[Yissu]*トニ遣ハシ、他ノ諸王子等皆集マリテ待チツツアリト告ク。「コーチャ」ト「ナグ」ハ、今ハ反對ノ無効ナルヲ見、日ヲ指定シテ往カムコトヲ約ス。其日來リテ、而カモ彼等ハ來ラサリキ。ヤカテ、星占者即位ノ吉日吉時ヲトシ、遂ニ一二五一年七月、慣例ニ從ツテ式ヲ舉ク。天幕ノ内ニアル

王子等肩ニ帶ヲ着ケ「マング」ノ前ニ伏シテ九拜シ、天幕ノ外ニアル一萬ノ兵亦之ニ倣ヒタリ。

新大汗「本日ハ何人モ勞働ヲ休ミ、凡テノ争ヲ忘レ、皆悦ヒ祝フヘシ」ト命シ、尙ホ自然界ヲモ此悦ニ與ツカラシメムト欲シ、馬ニ乗ルヘカラス、生物ニ荷ヲ負ハスヘカラス、動物ヲ殺スヘカラス、漁獵スヘカラス且地ヲ掘リ又ハソノ他ノ事ニヨリテ地ヲ傷ツケ水ヲ亂タシ又ハ汚カスヘカラス」ト命シタリ。

翌日「マング」珍奇ノ織物ヲ以テ作レル美ハシキ天幕ニ於テ盛宴ヲ催シヌ。彼レノ右方ニハ「ジンギス」ノ子孫ナル諸王子、左方ニハ諸王女座シタリ。同様ノ盛宴、毎日催サレ、七日ニ及フ。凡テノ客、各日、異ナレル色ノ服ヲ着ケ、各日三百頭ノ牛馬ト五千頭ノ羊ヲ屠リテ食ヒ、二千車ノ酒ト「クミス」ヲ飲ミ干シヌ。

此宴会ノ間ナリキ。一日「キシク」(Kisic)トイフ者、大汗ノ天幕ニ來リテ、陰謀ヲ發見シタリト告ク。諸王子集リタル時、彼レ更ニ述ヘテ曰ク、我レ驃馬ヲ失ヒ之ヲ搜シツツアリシ時、一團ノ人々車ヲ牽ケルヲ見シカ、始シメハ、之レ「クルルタイ」ニ入用ノ糧食ヲ運ヘルナルヘシト思ヒタリ。然ルニ其中ノ一少年ニ會ヒ、暫ラク共ニ歩ミシニ、少年、我レヲ仲間ノ一人ト誤リ、「我車、破損シタリ、修繕ニ手傳ヒクレヨ」トイフ。我レ、援

ケムトシテ車ニ近ツキシニ武器ヲ滿載シタリ。我レ「カカル物ヲ運フハ何故ソ」ト問フ。彼レ「他ノ人々モ我レト同シモノヲ運ヘルナリ」ト答ヘシカハ、我レ驚キシカ、ソレトナク問ヒ調ヘタル結果、「シラウン」ト「ナグ」ト「コーヂヤ」トカ、凡テノ者ノ醉キタル時ニ乘シ「マング」等ヲ殺サムト謀レルヲ知り得タリ。我レハ此事ヲ成ルヘク速ニ告ケムト欲シ、三日程ヲ一日ニテ來リタリト。

衆之ヲ聞キテ驚キ、始メハ全クノ虚偽ナラスヤト疑ヒ幾度モ質シタルニ、「キシク」ハ委曲ヲ繰返シ告ケシニヨリ疑睛レタリ。諸王子何ツレモ、己レ往キテ衝ニ當ラムト願ヒシカ、遂ニ「マング」、「サル」ヲ遣ハスヘク決ス。彼レハ、先キニ「クルルタイ」ニ於テ「マング」ヲ立ツヘシト建議シタル最初ノ者ニシテ諸將中ノ首位ニ在ル者ナリ。彼レ、兵ニ「三千ヲ率キテ發ス」シラム「等」ハ「オルツ」(Ord)ヨリ約二日程ノ地ニ陣シ居タリ。「マング」サル「早朝彼等ノ陣ニ達シ之ヲ圍ム。幕内ニ騎兵一千アリ」マングサル「進ムテ叫ンテ曰ク、汝等「マング」ヲ亡ホサムト謀レル由告クル者アリ。其言誤リナリトセハ、汝等直チニ「オルツ」ニ往キテ、以テ己等ノ罪ナキヲ明ニスルヲ得ム。汝等若シ往クヲ欲セスハ我レ「マング」ノ命ニヨリテ汝等ヲ捕フヘシト。王子等天幕ヲ出テ、其陣地ノ既ニ包圍サレタルヲ見テ曰ク、我等往キテ「マング」ニ敬意ヲ表セムト欲シ、カク既

ニ旅途ニアルナリトサレト「マングサル」ハ、只二十名ノ從者ヲ伴フヲ許シ、己レノ後ニ隨ヒ來ラシメタリ。

王子等「オルツ」ニ著シタル時、蒙古ノ慣習ニ從ヒ九個ツツニ別ケタル禮物ヲ奉呈シ、最初ノ二日間ハ何事モナク饗宴ニ與ツカリシカ、第三日ニ至リ三王子捕ヘラレテ、大汗ノ幕中ニ送ラル。翌日「マング」彼等ヲ見テ曰ク、密告者ノ言或ハ詐リナルヘキモ、汝等ハ全ク我疑ヲ去リテ、我ヲシテカノ密告者ヲ罰スルヲ得セシメサルヘカラスト。

王子等、斷乎トシテ其事ナキヲ言フ。「マング」シラムンノ監督者ヲ棍棒ヲ以テ拷問シタルニ、彼レ「反逆ヲ謀リタルハ事實ナルモ、ソハ我レト我部下ノ吏員トノ所爲ニシテ王子等ノ知ル所ニアラス」トイヒ、直チニ自ラ劔ニ伏ス。乃チ「マングサル」部下ノ諸將ニ命シ、三王子部下ノ吏員ヲ糺問セシメ、遂ニ陰謀ヲ白狀セシムルヲ得タリ。「マング」是等ノ吏員ヲ宥サムト欲セシモ、「マング」ノ諸將及親戚等此機會ニ乘シテ敵ヲ滅ホササルヘカラスト勸告セシカハ、彼等ヲ鐵鎖ニ繋キシカ、「マング」未タ意ヲ決スル能ハス。更ニ部下ノ中ノ重立チタル者ノ意見ヲ問フ。彼等何ツレモ殺スヘシト答フ、而カモ「マング」尙躊躇セシカ「マームドエルワヂエ」(Mahmud Yelwajie)ナル者默

シテ答ヘサルヲ見、何故言ハサルカヲ問フ。彼レ答ヘテ曰ク「アレキサンドル」嘗テ陰謀ヲ發見シ、如何ニ處分スヘキカラ、人ヲ遣ハシテ「アリストートル」ニ問フ。「アリストートル」其人ヲ園ノ中ニ伴ヒ往キ散步シツツアリシ間ニ、ヨク根ノ張レル樹數本ヲ引拔キ其代リニ幼樹ヲ植ヘシメタルノミニテ、言フ所ナシ。其人歸リテ「アレキサンドル」ニ語ル。王「アリストートル」ノ意ヲ解シ、反逆者ノ凡テヲ殺ロシ、其後ニ其若キ子ヲ立テタリト。

「マング」此物語ニ感シ吏員七十名ヲ死ニ處ス。中ニ當時「ベルシヤ」ニ在リタル「イルチ・キダイ」ノ二子アリ。彼等石ヲ口ニ挿チ込マレテ死シ、父ハ「コラツサン」ニ於テ捕ヘラレ「バツ」ノ許ニ送ラレ殺サレタリ。三王子ハ「マング」ノ母ノ懇請ニヨリ死ヲ宥サル。一二五二年二月「マング」ノ母「シウル・ククテニ」死ス。彼女ハ「ワンカン」ノ姪ニシテ基督教徒ナリ。夫「ツルイ」ノ傍ニ埋葬セラル。一二五二年八月「マング」「カラ・クルム」ニ到リ、己レノ敵ナル諸王子及諸王女ヲ審判ス。「オグル・ガイミシ」ハ「マング」カ招キタル時、汝ハ他ノ王子ト共ニ「オゴタイ」ノ子孫ニアラスハ、大汗ニ選ハサルヘシト誓ヒタルニアラスヤ」トイヒテ、來ルヲ拒ミタルコトアルニヨリ、甚シク「マング」ノ怒ヲ買ヒ、兩手兩腕ヲ草囊ニ包ミテ縫ハレ、「シラムン」ノ母ト共ニ「シウル・ククテニ」ノ居所ニ送ラル。

「マングサル」彼女ノ凡テノ衣服ヲ剥キ取り訊問ヲ始ム。彼女「我レハ王以外何者ニモ我レノ裸體ヲ見ラレタルコトナシ。汝何スル者ソ」ト罵ル。ヤカラ彼女モ「シラムン」ノ母モ「マング」ヲ呪ヒ殺サムト謀リタリト宣告セラレ皮ニ包ミテ水ニ投セラレ死ス。此二婦人ノ子等ハ「我等カ「マング」ノ大汗トナルヲ承認セサリシハ母ノ教唆ニヨル」ト白狀シ「オグル・カイミシ」ノ顧問ナリシ「カダク」ト「チンカイ」亦殺サレ「ジヤガタイ」ノ孫「ブリ」(Buri)モ「バツ」ニ引渡サレシカ「バツ」彼レハ醉ヒタル時我レヲ辱シメタルコトアリトテ亦之ヲ殺サシム。

「マング」カノ三王子トハ骨肉ノ間ナルヲ以テ命ヲ赦シヌ。即チ「コーヂヤ」ヲ「カラクルム」ノ東「スリガイ」(Seregai)ニ送り「ナグ」トシラウン「ト」ヲ軍隊ニ託シタリ。少シ後「クビライ」支那ニ往クヤ「マング」之レニ「シラウン」ヲ伴ハシメシカ「マング」自ラ支那ニ到リシ時「シラウン」カ祖父ニ選ハレテ皇位ノ繼承者ト定メラレシコトヲ思ヒテ其異圖アルヲ疑ヒ之ヲ殺サシム「マング」又「オゴタイ」ノ子孫ノ過半ヲ諸地ニ送り其所屬ノ兵ヲ奪ヒテ之ヲ己レニ味方シタル他ノ王子ニ與フ。但シ敬意ヲ表スヘク來リタル「カタン・メリク」ト「クツン」ノ子等ノ兵トハ奪ハサリキ。否、嘗ニ其兵ヲ奪ハサルノミナラス更ニ二人ニ各「オゴタイ」ノ「オルズ」ノ一ト其寡婦ノ一ヲモ與ヘタリ。

「マング」巨魁ヲ罰スルヲ以テ満足セス、凡ソ心ヲ「オゴタイ」ニ寄せタル者ハ盡ク之ヲ滅サムト欲シタリ。而シテ彼レハ實ニ此欲望ヲ遂クル力アリシナリ。彼レハ東蒙古ヨリ「オトラル」(Othar)ニ到ル迄「アラユル」地ニ兵ヲ有シタレハナリ。乃チ「ジヤガタイ」管下ノ諸國ニ於ケル嫌疑者ヲ發見シテ之ヲ誅スヘク、裁判官「ベル」(Bel)ヲ遣ハシ、同時ニ他ノ一人ヲ支那駐在ノ軍隊ニ送り又「キルギ」(Kirghis)族ト「ケムジユト」(Kempjuts)族トニ各一隊ノ兵ヲ差向ケス。

「マング」今ヤ敵ヲ亡ホシ、地位強固トナリシカハ、先キニ「クルルタイ」ニ來リタル凡テノ王子及諸將ヲシテ各其國ニ還ラシム。「ベルカイ」ト「トガ・テムル」ハ己等ノ爲メニ及兄弟「バツ」ノ爲メニ、見事ナル贈物ヲ受ケ「カラ・フラグ」旭烈兀モ「ジヤガタイ」ノ遺産ヲ獲タリ。「フラグ」ハカノ「クユク」カ位ニ登ラセタル己レノ叔父「イツス」(Yissu)ヲ殺スヘク命セラレシカ、歸國ノ途中自ラ死セシカハ、妻オルガナ「Organa」イツスヲ誅シテ其所領ヲ得タリ。

「マング」カノ驛追「キシク」ヲ賞スル爲メ、彼レヲ「テルカン」(Terkan)トナシ且ツ多クノ財物ヲ授ケタリ。

蒙古ノ諸汗カ如何ニ其屬邦ノ君ヲ取扱ヒシカハ「ウイグル」王ノ運命ヲ見テ知ル

ヘシ。カノ「イデクト」ノ「バルヂユク」ガ「ジンギス」ニ親ミテ忠實ナリシコトハ前ニ述ヘタリ。「ジンギス」ハ彼レニ報ヒム爲メ、己レノ娘「アルツン・ビギ」(Altun Bighi)ヲ與フヘク約セシニ、「ジンギス」死シタルニヨリ、未タ婚セテアリシカハ、「オゴタイ」父ノ志ヲ遂ケムト欲セシニ、未タ之レニ及ハスシテ「アルツン・ビギ」死シ、「バルヂユク」モ亦死シタリ。ヨツテ「バルヂユク」ノ子「キシマイン」(Kishmain)「オゴタイ」ノ許ニ到リ、「イデクト」即チ「ウイグル」ノ王トイフ父ノ稱號ヲ授ケラレシカ、間モナク、彼レ亦死シ、攝政「ツラキナ」、彼女ノ兄弟「サレンヂ」(Sarenti)ヲ以テ「ウイグル」王トナス。

「サレンヂ」ハ佛教徒ナリキ。彼レ、「マング」ノ即位ノ時之ヲ祝セントテ出發セシカ、出發後、直チニ、一ツノ奴隸來リテ、「サレンヂ」ハ「ウイグル」全國ノ回教徒カ金曜日ニ集マルヲ窺ヒテ之ヲ殺サムト謀レリト、「マング」ノ吏ニ訴フ。吏ノ名ヲ「セイフ・ウド・ヂン」(Seif-ud-din)トイフ。吏、直チニ使ヲ「サレンヂ」ニ送ル。「サレンヂ」急ニ「ビシ・バリク」(Bish Balik)ニ歸リ、カノ奴隸ト對決ス。奴隸、カノ謀ノ凡テヲ詳述セシモ、「サレンヂ」ハ斷乎トシテ之ヲ否認セシカハ、奴隸「マング」ノ裁決ヲ仰カムコトヲ請フ。吏、乃チ「サレンヂ」ヲ「マング」ニ送ル。「マング」彼レヲ鞫問シタルニ、彼レ自ラ罪アリト白狀セシカハ、處刑ノ爲メニ「ビシ・バリク」ニ送還セシニ、彼レ、或金曜日ニ彼レ自ラ兄弟「オケンヂ」(Okentii)ノ手ニヨ

リ首刎ネラレ、彼レノ高級ノ吏員二名亦共謀者トシテ死刑ヲ宣告セラレ、身體ヲ縦横ニ斬ラレタリ。「ベラ」(Bela)トイフ者亦同シ宣告ヲ受ケシカ、「マング」母ノ冥福ヲ祈ル爲メ其命日ニ刑ヲ執行スヘク定メラレタル凡テノ者ヲ赦シタリ。同命令ノ達シタル時ハ「ベラ」ハ既ニ刑場ニ在リテ衣服ヲ剝カレ居タリキ。彼レ命ヲ赦サレシモ、妻子及財産ヲ沒收セラレ、「シリヤ」及「埃及」ニ使スヘク派遣セラレタリ。

蓋シ蒙古ノ王カ罪人ニ其命ヲ赦スヤ或ハ之ヲ軍隊ニ送り是レ王ノ爲メニ死セシメムトスルナリ或ハ危険ナル使命ヲ帶ハシメテ派遣シ、或ハ風土惡シクシテ死ノ虞アル地ニ謫スルヲ例トセシナリ。

サテ「サレンヂ」ヲ訴ヘタル奴隸ハ賞ヲ受ケ且ツ回教徒トナリシカ、彼レ「サレンヂ」ノ死後「ビシ・バリク」ニ歸ルヤ、「ウイグル」人、彼レノ惡意ニヨリテ禍ヲ受ケムコトヲ恐レ馳セ到リテ、豊カナル禮物ヲ彼レニ獻シタリ。

「マング」カクテ「オゴタイ」ノ子孫ヲ援ケムトスル凡テノ「ウイグル」人ヲ滅ホシ除キタル後「ウイグル」國ヲカノ己レノ兄弟ヲ殺シタル「オケンヂ」ニ授ケタリ。

舊金國ノ地ノ南部ニ散在セル蒙兵ハ「オゴタイ」ノ死後、屢々四川、江南、湖廣ヲ侵セシカ、單ニ諸都ヲ蹂躪シ掠奪シタルノミニテ、間モナク退キタリ。凡ソ「マング」治世ノ

間ニ於テ蒙古人ニ取リテ祝スヘキ事アリトセハ、只カノ屢蒙軍ヲ阻止シ又屢々之ヲ撃破シタル宋ノ名將孟珙カ死シタルノ一事是レノミト謂ツテ可ナラム。

一二五二年「マング」兄弟「クビライ」ニ河南ト山西ノ一部トヲ與フ。同年「マング」又豫メ委細ヲ諸儒ニ諮詢シ山上ニ盛ニ天ヲ祭ル。次年露西亞ニ於ケル蒙古人ノ戸口ヲ調査セシム。當時雲南ハ諸ノ小國ヨリ成リ、其多クハ獨立國ナリキ。一二五二年ノ末、蒙將「ワン・チエン」(Wang te Chen 漢字不明)四川ニ入りテ成都ヲ蹂躪シ、其南方三十里ニアル嘉定府ヲ取ル。之レ「クビライ」ノ爲メニ道ヲ開キタルナリ。一二五三年十月「クビライ」兵ヲ集メテ臨洮ヨリ進ム。ウリヤン・カダイ「W. Wang Kadar 兀良合帶」又ハ鳥特哩哈達「軍事ヲ總フ」カダイハ、カノ大ニ「マング」ノ爲メニ働キタル「スポタイ」ノ子ナリ。「クビライ」四川ヲ過キ、多大ノ艱難ヲ以テ山谷ヲ經行シ、筏ニ乘リテ金沙江ヲ渡ル。「ムス・マン」(Musu Man 摩沙蠻)ハ「W」ノ誤。ノ王、迎ヘテ降り「ペ・マン」(Pe Man 白蠻)ノ王亦敢テ抗セサリシカ、其甥、城ニ據リテ拒守セシカハ「クビライ」之レヲ陥レテ彼レヲ殺シタリ、但シ城民ノ生命ハ奪ハサリキ。

南趙ノ首都、大理城ハ戰ハスシテ「クビライ」ヲ迎フ。「クビライ」ノ顧問姚樞、嘗テ宋將曹斌(=T'ao Pin)カ一人ヲ殺サス、ハタ、通行ヲ止メスシテ同城ヲ取りタルコトアルヲ

語ル。「クビライ」我レモ亦ソノ如クナサムトイヒテ、直ニ馬ニ跨リテ城壁ニ到リ、凡ソ男ニテモ女ニテモ人ヲ殺ス者ハ死ニ處セラルヘシト書キタル幾旒ノ絹旗ヲ掲揚ス。城民之ヲ見テ(或ハ他ノ理由モアリタルナラム)門ヲ開キタリ。此開城ニ付テ命ヲ亡ヒシハ、僅カニ五名アリシノミ、即チ降ヲ請ヒタル三名ノ士官ヲ殺シタル。二名ノ蒙將ノ誅セラレシアルノミ。

「クビライ」大理ヲ越ユルコトナク、蒙古ニ引還シ、是等南部ノ地方ハ「ウリアンカダイ」ヲシテ支配セシメタリ。「ウリアンカダイ」「ツボ」(Tubo 吐番)人即西藏人ヲ征服ス。彼等ハ戰ヲ好ム民族ニシテ、其數約一、二百萬アリ。ソノ中「クビライ」ノ軍ニ入りタル者少カラス、又ママ前驅若クハ間牒トナリタルモアリキ。

一二五四年ノ末「ウリアンカダイ」兵ヲ留メテ己レ獨リ蒙古ニ歸リ、吐番征定ノ狀ヲ「マング」ニ報ス。次年、彼レ再ヒ來リテ下西藏ヨリ進ミ、「アバ」(Abu 阿伯)及其他ノ二國ヲ攻メテ或ハ降服セシメ或ハ震駭セシム。二年ノ後、即チ一二五七年、彼レ當時宋ノ屬國ナリシ東京(安南)ノ境ニ現ハレ使ヲ遣ハシテ其王「チエン・チオン」(Chen Chi Kung 陳日煚)ニ降ヲ勸ム。彼レ盡ク使ヲ殺シシカハ、兵ヲ「ター」(河)「姚江」ニ進ム。該河ハ同國ヲ縦ニ貫流ス。對岸ニ、無數ノ象ノ敵軍ニ加ハレルヲ見ル。蒙兵三隊ニ分レテ河ヲ渡

リ、敵兵ヲ破ル。陳日熨、急ニ一舟ニ乘リ流ヲ下リテ走リ、兵亦舟ニヨリテ逃ケタリ。始メ「ウリアン」カダイ、「チエシエツ」(Cheshe)漢字不明ニ、「二隊ヲ率キテ河ヲ渡ルヘシ、但シ他ノ二隊ノ渡リ終ルマテハ戰フヘカラス、又凡テノ舟ヲ押サユヘシ、能ハスハ、舟ト敵兵トノ間ニ在リテ其之ニ乗ルヲ遮キルヘシ」ト命セシニ、彼レ此命ニ従ハス、他隊ノ來ルヲ待タズシテ敵ヲ走ラシメ、以テ、之ヲ擒ニスルコトヲ得サラシメシカハ、「ウリアン」ハ彼レヲ痛ク叱責シ審問ニ附スヘシト嚇セシニ彼レ立所ニ毒ヲ仰イテ死シタリ。

安南ノ首都交趾陷リ、「ウリアン」ハ先キニ遣ハシタル使ヲ獄中ニ發見ス、彼等割竹ヲ以テ縛セラレ其竹肉ニ喰入り、之ヲ解キタル時其一人死シタリ。「ウリアン」此光景ヲ見テ激怒シ、兵ヲシテ城内ニ劫掠ヲ恣ニセシム。

蒙兵、留ルコト九日、暑熱酷シキニ耐ヘス、去ツテ北方ニ向フ。一二五八年、安南王陳日熨、位ヲ長子陳光曷ニ讓ル。光曷己レノ女婿ト多クノ貴族トヲ「マング」ニ遣ハシテ和ヲ請フ。此時「マング」ハ宋ヲ征スヘク兵ヲ進メツツアリキ。

一二五六年「マング」、「オルボルグ」(Orbolg)ニ「クルルタイ」ヲ開キ、集マリタル己レノ血族ノ諸王子及其他ノ者ヲ優待シ厚ク禮物ヲ賜フ。恰モ此時朝鮮降服ス。蓋シ

朝鮮ハ一二四七年以來叛キテ貢セス、ヨツテ討ツテ破リ其王ヲシテ出テ自ラ降ヲ請ハシメタルナリ。

「クビライ」ハ寛仁ニシテ公正ナリシカハ支那ニ於テ甚タ人望アリキ。之カ爲メ、及纒者アリタル爲メ、「マング」ハ「クビライ」ノ或ハ異圖ヲ抱ケルナキヤヲ疑フ。乃チ、一二五七年「クビライ」ノ任ヲ解キ、直チニ「アレムダル」(Alendur)阿藍答兒ヲ以テ之ニ代フ。「アレムダル」ハ「クビライ」ノ會計吏若干名ヲ捕ヘ、二名ノ外盡ク之ヲ誅シ、二名ノ處分ニ付テ「マング」ノ裁決ヲ待ツ。「クビライ」亦己レノ生命ノ危キヲ感シテ大ニ悲歎シ、而カモ未タ爲ス所アラス。姚樞曰ク汝ハ大汗ノ第一ノ臣ナリ、衆ニ先シテ服従ノ意ヲ示ササルヘカラス。須ラク家族ト共ニ蒙古ニ歸リテ、「マング」ノ疑ヲ和ケ、以テ、安全ヲ謀ルヘシト「クビライ」此言ニ聽キ歸蒙ス、兄弟相見テ涙ヲ禁スル能ハス、談、些ノ支那ノ事ニ及フコトナシ。ヤカテ「アレムダル」任ヲ解カレヌ。

蒙人既ニ宋ノ周圍ヲ占領ス。今ヤ問題ハ、如何ニシテ同國ヲ征服スルカニアリ。然ルニ同國征討ノ好口實ハ夙ニ之レアリシコソ幸ナレ。是ヨリ先キ、一二四一年、蒙古攝政「ツラキナ」嬖和ノ爲メ「ユリ・マツサ」(Yul Massa)ヲ遣ハシタルニ、ソノ宋ノ國境ニスルヤ否ヤ宋直チニ之ヲ捕ヘテ、或城ニ監禁シ、附スルニ七十人ヲ以テセシカ、彼レ間

モナク死シ、其隨行者一二五四年迄同城ニ留置サル。同年蒙軍合州ヲ圍ムヤ、城將王堅固守、能ク之ヲ擊退セシモ、宋ハ媾和ノ意アリ、之ヲ示サム爲メ、カノ生存セル隨行者ヲ解放シタリ。

一二五七年十月、マング、國政ヲ兄弟アリク、ブガト、其補佐トシテ、アレムダルトニ委ネ、自ラ宋ヲ討ツヘク出發シ、次年五月、陝西ニ到リ、祖父ノ死ニヨリ有名ナル六盤山附近ニ陣ス。八月、四川ニ進ム。

「マング」四川、湖廣、江、南ヲ一齊ニ攻撃セムト欲シ、部署ヲ定ム。兵ヲ三軍ニ分チ、一ツハ自ラ率キテ四川方面ニ向ヒ、第二軍ハ「クビライ」之ヲ率キテ武昌ヲ圍ミ、「ウリアン」ガダイ「カ安南」ヨリ廣西、貴州ニ省ヲ經テ來ルヲ待チ、第三軍ハ「ウチユゲン」(Uchungen)ノ子トガチャル「指揮」ノ下ニ江南ノ荆山ヲ攻メムトス。

「蒙將」アダク「(Adak)成都ニ於テ宋將「リウチン」(Liu Ching)劉整?ニ圍マレシカハ、「ニウリ」(Niu)紐隣「大兵」ヲ率キテ「マング」ニ先チテ到リ、宋將ヲ破リテ圍ヲ解キ、同城ヲ救ヒ、更ニ進ム。四川ノ總督「ブコチ」(Pu ko chi)蒲澤之?「ニウリ」ノ去ルヤ否ヤ忽チ來リ擊ツテ「アダク」ヲ敗死セシメ、同城ヲ奪フ。ニウリ「乃チ還リテ、兵ヲ同城ト城外ノ宋軍トノ間ニ入レテ連絡ヲ斷ツ。城内食盡キ、蒙軍ニ降リ、城外ノ宋軍退却シ、同地方大抵、ニウ

リ」ニ降服ス。ニウリ「賞セラレ、總大將トナレリ。

此間ニ「マング」漢中ニ著シ保寧ヲ距ル西方二十里、山間ノ要路ニ當レル苦竹隘城ヲ取ラムト欲ス。「ニウリ」乃チ成都ニ守備兵一隊ヲ殘シ置キ、自ラ苦竹隘城ニ到リ、先ヅ、城將ニ降ヲ勸ムル爲メニ宋ノ降將張實ヲ遣ハシタルニ、彼レ城ニ入ルヤ、城將ニ降ヲ説クコトナク、城内ニ留マリ、歸ラサリキ。

是ニ於テ「マング」自ラ兵ヲ率キテ、百難ヲ排シテ進ムテ之ヲ圍ム。攻撃十日ノ後、敵將趙仲内應シテ、陰ニ門ヲ開ク。蒙兵忍ヒ入り、急ニ擊チテ、守將楊立ヲ殺シ、城兵潰散ス。趙仲ハ其家、劫掠ヲ免レタルノミナラス、賞トシテ名譽ノ美服ヲ賜ハリ、且ツ或城守ニ任セラレ、カノ宋ノ降將張實再ヒ捕ヘラレ、翌日「マング」命シテ身體ヲ縦横ニ斬ラシム。此後、西四川ノ大部分降服シタリ。中ニ頑固ナル抵抗ヲ敢ヘテセシモアリシカ、無抵抗又ハ反逆モアリキ。一二五九年二月十八日ハ蒙古ノ新年ナリ、「マング」祝宴ヲ重貴山ニ張ル。宴中「ジエレル」族ノ長「トガン」(Togan)「南支那」ノ地ハ風土惡シ、大汗身ノ安全ノ爲メニ北ニ往カレムコト然ルヘシトイフ。「エルラト」(Erla)族ノ「バリツチ」(Baritchi)是レ怯者ノ言ナリ。大汗依然兵ト共ニ此地ニ留マルヘシトイフ。「マング」悦ビ、留マリ、合州ヲ取ラムト欲シ、晋國寶ヲ同城ニ遣ハシ降ヲ勸ム。守將王堅、其反ヲ責

メテ殺ス。

乃チ「マング」先ツ楊大淵ヲシテ合州ヲ攻メシメ、尋テ自ラ大軍ヲ率キテ、城ノ前面ニ陣ス。城ハ嘉陵江ト涪江トノ間ニアリ。三月及四月ノ間ニ幾回ノ合戦アリ。五月ニ入りテ大風起リ雨已マサルコト三週ニ及フ。兩側互ニ糧道ヲ絶タムト勉ム。蒙兵涪江ニ舟ヲ連ネテ橋トシ以テ糧食ヲ運送シツツアリシヲ、宋兵ノ一隊來リテ襲撃シ之ヲ破壊ス。又蒙兵ハ、宋兵カ舟千艘ヲ以テ重慶ヲ發シテ嘉陵江ヲ溯リツツアリシヲ兩岸ヨリ襲撃シ其百艘ヲ沈メ、餘ヲ重慶ニ逐ヒ還ヘシス。

六月、合戦數回アリシモ、勝敗決セス。七月ニ入りテ、一夜、一蒙將精兵ヲ提ケテ城壘ニ攀チ上ル。曉ニ至リ、敵將王堅ノ將ニ迎ヘ戦ハムトスルヲ見テ叫ムテ曰ク「王堅ヨ、兵士並ニ市民ノ生命ヲ赦サム、早ク降ルニ若カス」ト。言未タ終ラス、石弩砲ヨリ飛ヒ來リテ蒙將ヲ殺ス。壘上ノ蒙兵逃ク。是實ニ蒙兵ノ合州ニ於ケル最後ノ攻撃ナリシナリ。彼等、多次ノ激戦ニ死スル者數千ニ及ヒ、加フルニ疫病流行シ「マング」亦之ニ罹リシカハ、攻撃ヲ中止シ、封鎖ヲ行ハムト欲ス。乃チ精兵ヲ留メ、自ラ其餘ヲ率キテ往キテ重慶ヲ取ラムトセシカ、十二日ノ後（一二五九年八月）合州ノ東方一里ニアル釣魚山ニ死ス。諸將、其屍ヲ携ヘテ北方ニ退ク「マング」ノ子「アスタイ」(Assutai)統率ノ任ニ

當ル。ヤカテ、蒙古ニ到リ、屍ヲ「ジンギス」及「ツルイ」ノ墓ノ傍ニ葬ル。「マング」性、寛大、而カモ嚴格ナリキ。彼レ屢々厚ク兵士ニ賜フ所アリシモ、又常ニ嚴肅ナル規律ヲ保ツヘキヲ命シタリ。其四川ニ戦フヤ、部下ニ掠奪ヲ嚴禁ス。「アスタイ」嘗テ狩ニ出テ麥島ヲ荒ラス。「マング」之ヲ聞キテ、酷シク「アスタイ」ヲ叱責シ且其同伴者ヲ罰シタリ。又一兵命ニ背キテ葱ヲ農夫ヨリ強奪セシメタルニヨリ、直チニ誅セラレシコトアリキ。彼レノ規律ヲ重ンスル、以テ見ルヘシ。彼レ又凡テノ宗教ニ對シ寛容ナリキ。サレトモ迷信ニ耽リ、事毎ニ「シヤマン」等ノ有害ナル言ヲ用キタリ。嘗テ、妻ノ一男兒ヲ生ム。「シヤマン」ヲ召シテ此子ノ運星ヲトセシメシニ壽長カルヘシトイフ。然ルニ數日ナラスシテ兒死セシカハ、母、カノ「シヤマン」ヲ酷シク咎ム。「シヤマン」コハ近頃、或王女ヲ妖術ヲ以テ殺シタルニヨリ誅セラレタル保母ノ所爲ナリト辯ス。母、怒リテ、保母ノ男兒ト女兒ヲ捕ヘテ一人ノ男ニ其男兒ヲ、一人ノ女ニ其女兒ヲ殺サシム。「マング」大ニ憤リ妻ヲ監禁スルコト七日ニ及ヒ一箇月間己レノ前ニ來ルヲ禁シ、更ニカノ乳母ノ男兒ヲ殺シタル男ノ首ヲ斬リテ之ヲカノ女兒ヲ殺シタル女ノ頸ニ懸ケ且ツ其女ヲ燒ケタル鐵棒ヲ以テ打チ殺シタリ。

「マング」死セシ時、兄弟「フラグ」ハ「シリヤ」ニ、「アリク・ブガ」ハ蒙古ノ首都カラクルムニ、

而シテ蒙古ノ制度ニ從ヘハ「マング」ヲ後繼者タルヘキ「クビライ」ハ支那ニアリキ。始メ「マング」^{クビライ}ニ武昌ヲ拔クヘク命ヲ授ク。武昌ハ漢江ノ直前楊子江ノ南岸ニアリ。一二五八年「クビライ」命ヲ果タスヘク上都ヨリ進ム。同都ハ近頃「クビライ」百ラノ築キタル所ニシテ、後ニ彼レノ避暑地トシテ有名トナリタルモノナリ。此行甚徐々ニシテ、一二五九年八月、漸ク河南ノ汝水ニ到リ、暫ク止マリタル後、武昌ニ向ヒ、沿道若干ノ要害ヲ拔ク。此間「マング」ノ計ニ接セシモ躊躇スルコトナク、進ムテ楊子江ヲ渡リス。

彼レ直ニ武昌ヲ圍ミ、別ニ兵一隊ヲ遣ハシテ二城ヲ陷ル。事、宋都臨安ニ聞ヘ、震駭ス。此時マテ、宋帝ノ大臣ハ凡テ巧ニ秘シテ帝ヲ欺キ居タリシカハ帝ハ毫モ蒙軍ノ侵入ヲ知ラサリシナリ。大臣反逆ヲ企ツ、誅スヘシト奏スル者多シ。帝直チニ彼レヲ罷メ、賈似道ヲ以テ後任トシ、兵ヲ率ヒテ往キテ武昌ヲ救フヘク命ス。帝盛ニ徵發ヲ行ハシメ、獲タル銀ト絹トヲ、其徵發ヲ行ヒタル者等ニ頒チ與フ。似道ハ文字ヲ知ルモ武ヲ知ラス、又政ヲ執ルノ器ニアラス。且操行治マラス、奸佞、帝ノ暗弱ナルニ乘シ只權勢ノ掌握ニ是レ勉ム。兵士等毫モ彼レヲ尊重セス、彼レ亦戰ニヨリテ宋ノ社稷ヲ救ハムノ念ナシ。彼レ陰ニ「クビライ」ニ使ヲ遣ハシ禮物ヲ送リテ、蒙古ノ臣トナラ

ムコトヲ請ヒ、且公ケニ「マング」ノ計ヲ告ケシモ「クビライ」聽カス。然ルニ「クビライ」會々「アリク・ブガ」ヲ立テテ「マング」ノ後トセムトスル者アルヲ聞キ、諸將ヲ會シテ議ス。郝經曰ク、ソレ「アリク・ブガ」ハ蒙古ノ首都「カラタルム」ノ主ニシテ「ツレチ」(Dunedin)ハ支那ノ首都燕京(北京)ノ總督ナリ。此二人相結ヒテ、長子トシテ攝政タリ且ツ「クルルタイ」ニ長タルヘキ我君ヲ排斥セムトス。我君、速ニ蒙古ニ到ラムコト今ノ緊吃事タラスムハアラスト。「クビライ」以爲ラク「アリク・ブガ」自ラ立タムト欲シ「アレムダルト」ツレチ極力之ヲ援助セムコト必常ナリ。似道ノ請ヲ容ルルニ若カスト、依ツテ、宋帝ヲ蒙古ノ臣トナシ且ツ毎年銀二十萬兩ト絹二十萬匹ヲ貢セシムヘキコト及楊子江ヲ以テ宋ノ國境トナスヘキコトヲ約シタリ。

約成リテ「クビライ」騎兵中ノ優良ナルヲ率キ北方ニ出發ス。後ニ諸將ヲ殘シ「ウリアン・カダイ」ヲ待タシム「カダイ」ハ先キニ武昌ニ於テ「クビライ」ヲ兵ト會スヘク「マング」ヨリ命セラレタル者ナリ。彼レ支那ニ入ル前、既ニ南方ノ人民ヨリ得タル兵一萬三千アリシニ、支那ニ入リテ後、度々ノ戰勝ニヨリ、其兵數尙多クヲ加ヘタリ。彼レ、江西ノ首都饒州(Kwei-Tin)ヲ攻メテ之ヲ拔キ、更ニ南湖廣ニ出テテ長沙ヲ圍ミシカ「クビライ」宋ト和ヲ約セシニヨリ圍ヲ解キテ楊子江ヲ渡ル。

サテ「クビライ」ニ「カダイ」ヲ侍ツヘク命セラレタル蒙將、其兵五千(先キニ一萬三千ヲ數ヘタルカ今ハカク減シタルナリ)ヲ率キテ、舟ヲ連ネテ橋トシ江ヲ渡リツツアリシ時、賈似道急ニ舟ヲ派シテ之ヲ絶チ、南岸ニ殘レル殿兵百七十人ヲ殺シヌ。似道「クビライ」トノ契約ヲ宋帝ニ秘シ、蒙軍ノ退却ハ全ク己レノ勇ト策ニヨルト稱シ、カノ殿兵百七十人ヲ殺シタルヲ誇リシカハ、宋帝似道ヲ宮廷ニ召シテ厚ク之ヲ勞フ。

「クビライ」燕京ノ城壁ノ外側ニ陣シ、アリク「ブガ」カ人牛馬金錢ヲ徵發スルヲ答責ス。「ブガ」其言ヲ是トスル旨ノ答ヲナシ、以テ「クビライ」及其與黨ノ、今既ニ召集セル「クルルタイ」ニ來ラムコトヲ願ヒタリ。蓋シ「ブガ」ハ、己レノ黨カ多數ヲ占ムヘク百方計ヲ爲シ、目的若シ達セラレスハ「クビライ」ヲ殺サムト考ヘタルヤ疑フヘカラス。當時北京ニアリタル「ツレヂ」亦「クビライ」及其下ノ諸王子ニ「クルルタイ」ニ來ラムコトヲ請フ。「クビライ」我レ先ツ我兵ヲ舍營セシメサルヘカラスト答フ。「ツレヂ」此答ヲ「ブガ」ニ送り、己レハ「クビライ」ト共ニ上都ニ留マリタリ。上都ハ特別ノ選舉ヲ行フ爲メ「クビライ」ノ與黨カ指定シタル地ナリ。

「クビライ」ノ與黨上都ニ集マリ、形勢急迫ノ爲メ「ジュチ」及「オゴタイ」ノ子孫ヲモ、ハ

タ、當時「ベルシヤ」ニアリタル「フラグ」ヲモ待タス、直チニ選舉ヲ行フ。一ツノ反對ナク、「クビライ」當選シ、一二六〇年即位ノ式ヲ舉ク。此選舉コソ、後ニ蒙古國ノ分裂瓦解ヲ致シタル遠因ナリトス。ヤカテ、百名ノ使ヲ派シテ「クビライ」ノ當選、即位ヲ「ブガ」ニ報ス。「ツレヂ」逃レ去ラムトセシモ捕ヘラレ、「ブガ」ノ密謀ヲ告クヘク追マラレ獄ニ投セラル。「クビライ」「ブリ」(Buri)ノ子「アビシガ」(Apsigga)ヲ「ジャガタイ」ノ後繼ニ任シ、兄弟ト共ニ之ヲ蒙古ニ遣ハサムトセシニ、二人、陝西ニ於テ捕ヘラレ、「ブガ」ニ送ラレ、「ブガ」之ヲ監禁シタリ。

此間「ブガ」ハ「カラクルム」ニ於テ活動ヲ怠ラサリキ。彼レ「アレムダル」ヲ北方諸族ノ間ニ遣ハシ、絹及銀ヲ散布シテ兵ヲ募ラシメ、又他ノ二名ヲ陝西ニ派シ、支那ニアル諸將及總督ヲ己レノ味方ニ引入ルヘク勉メ、嘗テ「マング」ノ正妻タリシ「クツク、タイ」、「ブガ」ノ與黨ノ長タリシ「マング」ノ子「アツスタイ」、「ユルンタシ」(Yurungtash)「シレキ」(Shiki)及「ジャガタイ」ノ孫數名之レニ屬シヌ。

「ブガ」ト「クビライ」互ニ使ヲ派シテ屢相議シタリシモ、遂ニ協定ニ至ラス。秋ニ入り、「ブガ」、「カラヂヤル」(Karadjar)ト「フラグ」ノ子「チュムクル」(Chumukur)ヲ將トシテ往キテ「クビライ」ヲ討タシム。彼等「クビライ」ノ前軍ト戰ヒ敗ル。「ブガ」ノ兵之ヲ聞イテ勇氣沮喪

シ潰走ス「ブガ」ヨツテ「アビシガ」ト其兄弟「クビライ」ニ親近セル「ジャガタイ」ノ二子
 一ト「クビライ」ノ當選ヲ報スヘク來リタル百名ノ使トヲ殺シタル後「キルギス」(Kirghis)
 地方ニ身ヲ寄セタリ。

陝西ノ方面ニ於テモ「ブガ」ノ計畫ハ失敗ナリキ「クビライ」當選後、間モナク、陝西ト
 四川トニ部下中ノ名將廉希憲ヲ遣ハシヌ。廉ハ元「ウイグル」人ナリ。彼レ西安府ニ到
 リ「クビライ」ノ勢威日ニ隆々タルヲ告ク「アリク・ブガ」ノ遣ハシタル者、既ニ二日前ニ
 來著シ、頻リニ「ブガ」ノ爲メニ説キツツアリキ。廉、ソノ二人ヲ捉ヘテ獄ニ投セシカ、「ク
 ビライ」カ既ニ大赦令ヲ發シタルヲ聞キ、速ニ二人ヲ殺シヌ。其後、該令達シ之ヲ公布
 シタリ。廉、マタ「カダン」ニ兵三隊ヲ授ケ、「ブガ」ノ將「クンヅカイ」(Kundukai)ヲ討タシム。「ク
 ンヅカイ」新安ヲ取ル能ハス、退キテ「アレムダル」カ新ニ蒙兵ヲ率キ來レルニ會ス。二
 人乃チ兵ヲ合セテ南ニ進ミ、「クビライ」ノ軍ト、陝西ノ中部京兆ノ東ニ戰フ。兩軍激闘、
 勝敗暫ラ決セサリシカ、終ニ「クンヅカイ」ト「アレムダル」討死シ、「ブガ」軍ノ大敗トナ
 リヌ。「クビライ」因ツテ、北ニ進ミテ蒙古ニ入り、「ウンキ」(Ungi)河ニ陣ヲ置キ其冬ヲ送
 ル「カラクルム」ハ、由來兵器及糧食ヲ支那ニ仰ケリ。依ツテ「クビライ」百方其輸入ヲ妨
 ケシカハ、同都忽チ之カ窮乏ヲ告ケシモ、「ブガ」尙屈セス「アルグ」(Alghu)ヲシテ「ジャガ

タイ」ノ後ヲ繼カシメ、且ツ之レニ兵器及糧食ノ調達ヲ命シ、以テ西方ヲ嚴ニ防禦監
 視シ「フラグ」モ「ベルカイ」モ「クビライ」ヲ援クル能ハサラシム。而カモ此時「ブガ」ハ尙「ケ
 ム・ケムヂユト」(Kem Kendjyt)ニ在リ、攻撃ヲ恐レテ、使ヲ「クビライ」ニ遣ハシテ曰ク、我レ、
 我過ヲ悔ヒ、汝ノ王タルヲ承認ス。我レ直ニ汝ニ到ラムト欲スレトモ、馬疲レテ旅行
 ニ耐ヘス。我レ諸王子ト共ニ先キニ「ベルカイ」ト「フラグ」ニ國事ノ處理ヲ依囑シ置キ
 タレハ、二人ノ來著ヲ待チテ共ニ往カムコトヲ願フト。

「クビライ」答ヘテ曰ク、他ノ王子ニ先チテ汝ヲ見ムコトハ我悦フ所ナリト「クビラ
 イ」從弟「エツスカ」(Yessugka)ヲ「カラクルム」ニ留メテ「ブガ」ノ來著ヲ待タシメ、自ラ開平
 府ニ到リ兵ヲ其舍營ニ送リヌ。

第十七章 「クビライ」宋ヲ滅ホス

一二六一年ノ夏ト秋ハ事ナクシテ靜ニ過キヌ「アリク・ブガ」已レノ馬ノ疲勞漸ク
 恢復セシカハ、大軍ヲ集メテ蒙都「カラクルム」ニ出發ス。彼レ「エツスカ」ノ警戒ヲ弛メ
 且ツ疑ヲ去ラム爲メ、使ヲ送リテ、已レノ來リテ降ヲ請ハムトスルヲ告ク。而カモ突
 然「エツスカ」ノ兵ヲ襲ヒテ之ヲ屠リ、直ニ「クビライ」ヲ討ツヘク南ニ進ミ、「ゴビ」天沙漠

ノ東端、上都ノ少シ西北ノ地ニ於テ戰ヒシカ、敗レテ北ニ逃ケス。

「クビライ」、「ブガ」全敗シタリト信セシカハ、追撃ヲ禁シ、方向ヲ轉シテ、南ニ進ム。「ブガ」之ヲ聞キテ、急ニ「クビライ」ヲ追撃ス。激戰、夜ニ入りテ勝敗決セス。兩軍交綏シテ退ク。然ルニ恰モ此時「ブガ」、「アルグ」ノ叛ヲ聞キ、遂ニ此年ノ間、「クビライ」ト兵ヲ交ユルコトナカリキ。

始メ、「アルグ」、「ブガ」ニヨリテ「ジヤガタイ」族ノ汗トセラルルヤ、「カラフラグ」ノ寡婦「オルガナ」(Organa)ニ代リテ政ヲ執リ、其勢力「アルマリク」(Almalik)ヨリ「シルダリヤ」(Syrdarya)ニ及ヒ、兵十五萬ヲ數フルニ至リシカハ、度々ノ失敗ニ弱ク且貧シクナリタル「ブガ」三名ノ使ヲ彼レニ遣ハシテ、牛羊ト兵器ト金錢ヲ徵發セシメシニ、獲ル所甚多カリシニヨリ、「アルグ」之レニ心誘ハレ惑ヒテ、彼等我レヲ罵リタリトイヒテ、之ヲ捕ヘタリ。ソノ後、「アルグ」左右ニ是非ヲ問フ、答ヘテ曰ク「ブガ」ニ對シテ、カカル敵意ヲ表スルノ行動ヲ取リタルハ大ニ誤レリ。サレト、既往ハ追フヘカラス、今ハ「クビライ」ノ主權ヲ認メテ其味方スルノ外ナシト。

「アルグ」カノ三名ヲ死ニ處シ、其集メタル財産ヲ凡テ奪ヒ、之ヲ己レノ兵士ニ與ヘタリ。「アリク・ブガ」之ヲ聞キ逸早く「アルグ」ヲ撃タムト欲シ、「ガラクルム」ニ歸リテ、各宗

教ノ首長ニ必要アラハ「クビライ」ヲ迎フルモ可ナリト告ケ、急ニ西方ニ進ム。

ヤカテ「クビライ」來リ、人民ノ降服ヲ許シ、將ニ「アリク・ブガ」ヲ追撃セムトセシニ、恰モ急使アリ、支那ニ擾亂アルヲ報セシカハ、轉シテ支那ニ向フ。「アリク・ブガ」ノ先鋒「カラ・ブガ」、「ブラド」(Pitad)城ノ附近ニ於テ「アルグ」ノ軍ト戰ヒ敗死ス。「アルグ」此勝利ニ安ンシ、「イリ」河畔ノ己レノ家ニ歸ルヤ、愚ニモ兵ヲ解散シタリ。然ルニ「アリク・ブガ」ノ第二軍ノ將「アッスタイ」鐵門ヲ過キ、「イリ」河ヲ渡リ、「アルマリク」ヲ取リ、「アルグ」ノ私有地ヲ奪フ。「アルグ」ヨツテ、右翼ト共ニ「コーヂェンド」及「カシガル」ノ方ニ退却セシニ、此時「アリク・ブガ」、「アルマリク」ノ附近、「イリ」河畔ニ冬陣ヲ構ヘシカハ、「アルグ」更ニ「サマルカンド」ノ方ニ退却ス。「ブガ」其冬ノ間掠奪ヲ肆ニシ、捕ヘタル「アルグ」ノ兵ヲ盡ク殺ス。ヤカテ春ニ入りテ餓死スル者甚多ク、又「アリク・ブガ」ノ將士ニシテ、「アリク・ブガ」カ俘虜ニ對スル處置ノ残酷ナルヲ憤リ、去ツテ「ユルンタシ」(Yurungash)ニ歸スル者少カラス。「ユルンタシ」ハ「マング」王ノ子ニシテ當時「アルタイ」方面ニ於テ「クビライ」ノ兵ニ將タリシ者ナリ。カクテ「アリク・ブガ」ノ兵、甚タ少數トナリシカハ、「アルグ」ノ來リテ己レヲ攻ムルアラムヲ恐レ、彼レト和ヲ議スヘク試ミス。

前年「アリク・ブガ」ノ來ルヤ「カラフラグ」ノ寡婦「オルガナ」彼レヲ其陣營ニ訪ヒテ曰

ク我レハ汝ノ命ニヨリテ退ケラレタルナリ。須ラク報償セラレサルヘカラスト「アリク・ブガ」乃チ彼女ヲ「マスド・ベイ」(Massud Bey)ト共ニ「アルグ」ニ送リテ協定セシム「アルグ」彼女ヲ見テ其來意ヲ聽キ、ヤカテ彼女ト婚シ「マスド」ヲシテ財政ヲ司ラシメ「ボカラ」ト「サマルカンド」トニ於テ莫大ノ徵稅ヲナサシメタリ。蓋シ當時「オゴタイ」ノ孫「カイヅ」、「バツ」ノ後嗣「ベルカイ」ニ援ケラレ、來リテ「アルグ」ノ所領ヲ奪ハムトスルアリ「アルグ」之ニ備フル爲メ大ニ金錢ノ必要ヲ感セシモノトス。

サテ、友ナク、兵ナク、金モ亦ナクナリタル「アリク・ブガ」今ハ已ムコトナク、兄弟「クビライ」ニ往キテ憐ヲ乞フ。實ニ一二六四年ナリ。彼レ「クビライ」ノ幕屋ニ入ラムトスルヤ、人々彼レヲ慕ニテ包ミ拜跪セシム。之レ、此種ノ場合ニ於ケル蒙古ノ慣習ナリ。彼レ、ヤカテ内ニ入ルヲ許サレ、侍臣ノ席ニ立ツ「クビライ」彼レヲ眺ムルコト少時、ソノ泣クヲ見テ已レ亦涙ヲ禁スル能ハス。遂ニ謂ツテ曰ク「ア、兄弟ヨ、汝ト、我レト何レカ正シキ」始メニハ我レ正シカリシモ、今日ハ汝正シト答フ。

時ニ「アピシガ」(Apishiga)ノ兄弟「アツチガイ」(Achiagai)「アッスタイ」ニ近ツキ問フテ曰ク「我兄弟ヲ殺シタルハ汝ナルカ」我レハ當時我主ナリシ「アリク・ブガ」ノ命ニヨリテ彼レヲ殺シタルナリ。蓋シ、彼レ、我等ノ家ノ子ヲ平民ノ手ニ殺サシムルヲ欲セサリシ

ノミ。今ヤ「クビライ」我主ナリ「クビライ」ノ命トアラハ、我レ汝ヲ殺スヲ憚サラムト答フ。

「クビライ」沈黙ヲ命シテ曰ク「今ハカクノ如キ論議ヲナスノ時ニアラスト」ジンギス「甥」トガチヤル「起ツテ曰ク「汗ハ過去ヲ語ルヲ好マサルナリ。彼レハ只汝等ノ樂マムコトヲ願フノミ」ト。尋テ「クビライ」ニ謂ツテ曰ク「アリク・ブガ」未タ座セス立テリ。汝ハ何レノ席ヲ彼レニ與フルヤ」ト。ヤカテ「アリク・ブガ」「クビライ」ノ子等ト共ニ座スルヲ許サレ、相伴ヒテ其日ヲ過シヌ。然ルニ「クビライ」ハ翌日「アリク・ブガ」ノ臣ヲ盡ク鐵鎖ニ縛シ、四名ノ王子ト三名ノ將トヲシテ「アリク・ブガ」ト其與黨ヲ訊問セシム。「アリク・ブガ」ハ已レ獨リ罪アリ、部下ニハ何ノ責ナシトイフ「クビライ」曰ク「何スレノ罪ナシトセム。カノ「マング」ニ反對シタル諸將ハ「マング」ニ弓ヲ引カサリキ。而カモ、彼等カ、單ニ其志ノ故ニ罰セラレタルコトハ汝ノ知ル所ナリ。若シソレ、内亂ヲ起シ多クノ王子ト兵士ヲ殺シタル汝等ハ如何ナル罰ヲ受クヘキヤ」ト「ブガ」ノ臣等答フル所ナシ。ヤカテ、其中ノ最年長者「ツマン・ノヨン」(Tuman Noyon)曰ク「我友ヨ、汝等、我等カ「アリク・ブガ」ヲ立テタル時、必要アラハ彼レノ爲メニ死セムト誓ヒタルヲ忘レタルカ。今ヤ、其誓ヲ果タスヘキ時至レルナリ」ト「クビライ」「ノヨン」ノ忠誠ヲ嘉ミシ、更ニ「アリ

ク・ブガニ、汝ヲ立ツルノ計畫ヲ發起セシ者ハ誰ソト問フ。ブガ遂ニ答ヘテ曰ク、ソハ「アレムダルト」ト「ボルガ」(Borqa)トナリ。彼等我レニ「フラグ」ト「クビライ」ト今ヤ遠地ニアリ、而シテ、汝ハ「マング」王ノ命ニヨリテ現ニ蒙古ノ主ナル「ウル」ノ首長タルニアラスヤ、何スレソ躊躇スル。速ニ汝自ラ大汗トナルヘシト告ケタルニヨリ、我レ他ノ諸臣ト議セシニ、皆是説ニ賛成シタリト。其處ニアリタル「ブガ」ノ臣等、ブガノ言誤ナキヲ認メシカハ、「クビライ」其中ノ十名ニ死ヲ宣告シタリ。サレト、「クビライ」アリク・ブガニ對スル審判ニ付テハ「フラグ」、「ベルカイ」及「アルグ」ノ臨席ヲ望ミ、彼等ヲ待チタルニ、久シキヲ經テ、彼等來ラス、依ツテ當時蒙古ニアリタル同血族ノ王子ト諸將ヲ會シテ、之レニ問フ。彼等、「クビライ」ノ意ヲ察シ、異口同音ニ、「アリク・ブガ」ト「アツスタイ」トハ生命ヲ赦スヘシト議決ス。乃チ、此議決ヲ齎ラシテ「フラグ」、「ベルカイ」及「アルグ」ノ承認ヲ請フ。「アルグ」曰ク、我レハ「クビライ」ノ許ニヨリ權ト職ヲ保テル者ナレハ意見ヲ具スル能ハスト。但シ、「フラグ」ト「ベルカイ」ハ之ヲ承認シタリ。

カクテ「アリク・ブガ」ト「アツスタイ」トハ、「クビライ」ニ降服シ、ヤカテ解放セラレシカ、一ヶ月ノ後病死シ、「ジンギス」ト「ツルイ」ノ墓ノ傍ニ葬ラル(一二六六年)。

「アリク・ブガ」死シタルモ内訌未タ全ク已マス、激烈ナル葛藤打續キス。「オゴタイ」

ノ孫「カイヅ」、蒙古ニ主タラムト欲シ、其勢力甚強大ニシテ「クビライ」之ヲ撲滅スル能ハサリキ。

實ニ二人ノ争ハ、「ジンギス」汗ノ家族史中最顯著ナル大事件ナリシナリ。「クビライ」ハ支那ト「ビルマ」ニ克ツコトヲ得シモ、「カイヅ」ニ克ツコト能ハサリキ。彼レハ「カイヅ」ト戦ヒ、之レヲ喰止ムルコトヲ得タリ、否、ソレト同時ニ支那ニ己レノ王朝ヲ建立スルノ力ヲモ有シタリ、而カモ遂ニ「カイヅ」ヲ撲滅スルコト能ハサリシナリ。

我等ハ先ツ支那征服ヲ語り、次ニ「カイヅ」ノ事蹟ヲ述ヘム。

サテモ「クビライ」、支那ヲ悉ク征服セムト欲シ、熱心、事ニ著手ス。一二六〇年ノ間ニ、彼レ郝經ヲ遣ハシテ宋帝ニ己レノ即位ヲ告ケ、且ツ武昌ニ於テ賈似道ト結ヒタル條約ヲ實行セシメムトシタリシニ、經等、足ヲ宋地ニ入ルルヤ否ヤ忽チ似道、之ヲ捕ヘテ獄ニ投ス。蓋シ似道、己レノ謀ノ泄レムヲ恐レ、カノ條約ニ付テ知ル所アル者ハ凡テ之ヲ除カムトシタルナリ。

「クビライ」己レノ使ノ拘留セラレタルヲ見、一二六一年詔ヲ發シテ曰ク「我レ位ニ即キテヨリ此方我民ノ平安ヲ謀リ、宋帝ニ和親ヲ求メムカ爲ニ使ヲ遣ハシタリ。然ルニ宋ハ將來ヲ慮ラス、愈々我レヲ侵シ慢スルコト甚シク、宋兵ノ來リテ我邊疆ヲ

騒カササル日アルコトナシ。我レ、此春、諸將ニ命シテ兵備ヲ修メシメタリシカ、戰禍ノ悲惨ヲ想ヒ、且ツ、我使郝經ノ必スヤ好結果ヲ齎ラシ歸ルヘキヲ信シテ、今マテ猶豫シタルニ、望ハ空ニ歸シ、宋ハ、我レト約ニ違ヒテ、我使ヲ拘留シ、六箇月ノ間我レヲシテ徒ラニ待タシム。宋カ敵意ヲ捨テス、我レトノ平和ヲ欲セサルヤ明ナリ。宋ハ多年、賢明禮節ヲ以テ自ラ誇レルノ國、而カモ我等ヲ遇スル、何ソカクノ如クナルヤ。其行フ所、其誇ル所ノ法律ニ違フ、例ヘハ、繪ノ中ノ光ト影カ、對照ニヨリテ、愈々光ヲ明ニシ影ヲ暗クスルニ似タリ。支那ノ法律ノ美ハ其政治ノ醜ト對照シ、愈々明カニ後者ノ非ヲ示セリ。須ラク、兵馬ノ準備ヲナスヘシ。我意誠ニシテ正義我レニアリ。勝利必セリ」ト。

然ルニ、「クビライ」ハ兄弟ト干戈ヲ交ユルノ已ムナキアリシ爲メ、直チニ宋ヲ征スル能ハス、沙漠ノ東端ニ於テ「アリク・ブガ」ト二大激戰ヲナシタル後漸ク燕京ニ到ルヤ、間モナク、山東ノ將軍李璫叛シテ「セチアン・チエ」(Se-tian-che 漢字不明)及益都ヲ取り、是等及其他諸城ノ蒙兵ヲ殺シテ宋帝ヲ援クト宣言ス。「クビライ」王子「アビチエ」(A-bi-che)ト將軍「セチアン・チエ」(Se-tian-che 漢字不明)ヲ遣ハシテ李璫ヲ討タシム。二人彼レヲ濟南ニ圍ム。李璫奮鬪固守セシモ糧盡キ、城兵、市民ノ肉ヲ食フニ至ル。苦戰四箇月

ノ後、李璫先ツ己レノ妻妾ヲ殺シ、自ラ大明湖(原文「大明湖」ハ誤ナラム)ト名ツクル淺沼ニ投ス。救ヒ出サレシモ、忽チ「セチアン・チエ」ノ爲ニ首刎ネラル。彼レノ叛ハ宋人ノ後援アリシニヨルト傳フ。宋人ノ舉動、カクノ如キモノアリシニ拘ラス。「クビライ」ハ未タ大攻撃ニ著手セサリキ。

宋帝理宗、治世四十年、齡六十二ニシテ死ス、實ニ一二六四年十一月ナリ。子ナシ、甥趙昀繼ク、度宗ト稱ス。

一二六七年ニ至リ、「クビライ」南支那ノ征伐ヲ始メタリ。彼レ此作戰ニ付イテハ宋ノ降將劉整ノ言ヲ用ユルコト多カリキ。整ハ、少シ前マテ四川瀘州ノ大守ナリシカ、四川ノ總督之ヲ宰相賈似道ニ讒セシカハ、禍ヲ懼レ、一二六一年來リテ「クビライ」ニ降り、湖廣ト四川ノ境ナル夔州ノ總督ニ命セラレタル者ナリ。整曰ク、先ツ漢江ノ北岸襄陽ヲ圍ムコトニヨリテ始ムヘシ。若シ襄陽ヲ取ラムカ、揚子江地方ノ征服易々タラムノミト。

然ルニ賈似道ハ劉整ヲシテ復歸セシメム又ハ蒙人ヲシテ彼レヲ疑ハシメムト欲シ、彼レヲ燕王ニ封シ、ソノ旨ノ辭令ト金印トヲ送リシカ、整、其使ヲ捕ヘテ、其ニ「クビライ」ノ許ニ到リ、忠誠ノ意ヲ示セシカハ、「クビライ」之ヲ嘉ミシ、カノ使ノ首ヲ刎ネ

タリ。

一二六八年十月、劉整トウリアンカダイノ子アト・チウAtchu阿珠クビライノ命ヲ受ケ、精兵七萬ヲ率キ、往キテ襄陽ヲ圍ム。史天澤總指揮タリ。ウイグルベルシヤ「アラビヤ」キブチヤク等ノ大蒙古帝國ノ諸領地ヨリ高貴ノ諸人、多ク用ヲ爲サムコトヲ申出ツ。

蒙軍、城ノ容易ク拔クヘカラサルヲ知リ、陸ノ交通ヲ絶テ糧食ヲ缺乏セシメムトセシカ、宋兵多クノ船ヲ有シ、河ニヨリテ援ヲ受クルヲ得タリ。蒙軍船五千艘ヲ造リ兵ヲシテ水戰ヲ練習セシム。然レトモ、其秋一二六九年、水多キ時宋人ハ尙筏ヲ以テ、兵器及糧食ヲ城ニ運ヒ來リシカ、阿珠其襄陽ニ近ツキタル頃、擊ツテ之ヲ逐ヒ返ヘシ、船五百隻ヲ奪ヒス。

蒙軍、襄陽ヲ圍ムコト一年ノ後、更ニ對岸ノ樊城ヲ圍ムノ必要ヲ見タリ。此二城ハ船ヲ連ネテ橋トシ以テ連絡ヲ通シ、河ノ西岸ニ塹濠、築堡點綴シ、河ハ鐵鎖ト武裝セル船トニヨリテ固メラレアリシカ、今ヤ蒙兵樊城ヲ圍マムトシテ襄陽孤立ノ勢ヲ呈ス。而カモ賈似道之ヲ救ハムトセス、唯現狀ノ宋帝ニ漏レムコトヲ恐レ、之ヲ秘スルニ汲々タルノミナリキ。然ルニ一二七一年、宋帝、襄陽、蒙兵ニ圍マレ既ニ三年ニ及

フヲ聞キ、似道ニ眞否ヲ問フ。似道、圍ミ既ニ解カレ蒙兵ハ退却シツツアリト答フ。似道、何人カ之ヲ帝ニ告ケシヤト怪シミ、詮索ノ結果、終ニ其人ヲ發見シ、他事ニ託シテ之ヲ殺スヲ得タリシモ、自ラ意安カラヌ。范文虎ヲ遣ハシテ二城ヲ救ハシム。

此間ニ「クビライ」ハ攻圍軍ノ勢ヲ張ラムト欲シ、北支那ノ監獄ヲ開キ、新ニ二萬ノ兵ヲ得タリ。是等ノ者、善ク働キ、中ニハ高位ニ登リシモアリキ。彼等三隊トナリ、途ヲ異ニシテ漢水ノ岸ニ到リテ相合シ、船ヲ繫キテ橋トシ以テ對岸ト連絡シ、其邊リニ集レル宋ノ船ノ凡テヲ奪ヒス。而シテ阿珠ハ似道カ遣ハシタル范文虎ノ十萬ノ兵ト戰フヘク進ミシカ、ソノ先鋒、宋ノ先鋒ト會ヒテ大ニ之ヲ破リ、殆ント全滅セシム。宋兵、先鋒ノ大敗ヲ聞キテ震駭シ、旗及輜重ヲ棄テテ全部潰走ス。サレト、襄陽ノ城兵、固守シテ屈セス。四年ノ末、尙豊カニ糧食ノ供給ヲ受クルヲ得、只鹽及其他僅少ノ物品ニ缺乏ヲ感シタルノミナリキ。河ニ沿ヒテ約二十里下ナル安洛Yanglo鄂州ナルヘシノ城主、此缺乏ニ供給セムト欲シ、漢江ノ一支流ニ船ヲ作り、之レニヨリテ襄陽ニ入ラムトスルノ死士ヲ重賞ヲ懸ケテ募リ、三千人ヲ得タリ。船ハ三隻ヲ一組トシ、一隻ニ貨物ヲ載セ、他ノ二隻ヲ兩側ニ堅ク結ヒ付ケ、之レニ兵ヲ置ク。兵ハ火矢、小石、及燒燃セル炭ヲ發射スル器具ヲ備ヘタリ。彼等二隊ヲナシテ重圍ノ中ヲ過キ

テ襄陽城ニ達ス。城民踴躍シテ喜フ。

此二船隊ハ極メテ勇敢ナル張順ト張貴ノ率ユル所ナリシカ、順ハ城ニ入ラスシテ殺サレ、貴ハ安洛ヘノ歸途、蒙兵ノ襲撃ニ會ヒ、格闘暫クニシテ左右盡ク殺サレ、遂ニ擒ニセラル。彼レ無數ノ創ヲ受ケ全身血ニ塗レ而カモ屈セサリシカハ蒙兵直ニ之ヲ殺シ其屍ヲ四名ノ俘虜ヲシテ昇イテ城下ニ到ラシム。又此時「クビライ」一「ベルシャ」ヨリ招キタル熟練ナル技師ヲシテ、弩砲ヲ作りテ之ヲ建テシム——一二七三年、彼等之レニヨリテ城壁ヲ穿ツヲ得タリ。蒙軍激戦シテ、郊外ノ地ヲ取り、兩城ヲ連絡セル浮橋ヲ燒キタル後、樊城ニ向ヒ之ヲ強襲ス。城將范天順、我レハ宋ノ臣トシテ死セムトイヒテ自殺シ、同僚牛富、從者數名ト共ニ巷ニ逐ハレ、火ヲ放チテ奮闘セシカ、全身創ヲ以テ被ハルルニ及ヒ、皆炎中ニ投シテ死シタリ。

カクテ一二七三年二月、樊城急ヲ告クルヤ、似道、自ラ兵ヲ率キテ諸城ヲ救ハムコトヲ上奏ス。而カモ陰ニ帝ニ説キテ、己レハ宮中ニ缺クヘカラストシテ留マリ、呂文煥ノ仇敵高達ヲ己レノ代リニ遣ハシヌ。

蒙軍、弩砲ヲ襄陽ニ向ツテ建テ、十一月ニ入りテ攻撃ヲ開始ス。礮聲震雷ノ如ク、其巨石ノ落ツル所、盡ク粉碎ス。城兵潛ミテ出テス、恐怖城ニ充ツ。劉整ハ城將呂文煥ト

舊知ナリ、相語ラムコトヲ請フ。煥諾シ、相語ルヘク始ムルヤ否ヤ、城兵盛ニ矢ヲ放ツ。幸ニシテ、整ノ甲冑堅固ナリシ爲メ、彼レ命ヲ救フヲ得タリ。

蒙兵之ヲ見テ憤リ、急ニ城ヲ屠ラムト欲セシカ、會々「クビライ」ヨリ城中ニ告クルノ書到リ、大音モテ朗讀セラル。其要ニ曰ク「汝等、死守五年ニ及フ、大ニ賞スヘシ。忠臣命ヲ献ケテ君ニ仕ヘサルヘカラサルハ、固ヨリ其所ナルモ、固執ノ爲メ數千ノ民ヲ犠牲トスルハ、果シテ正當ナルヤ否ヤ。況ンヤ、汝等既ニ疲勞シテ援ナク、又援ヲ得ルノ望ナキヲヤ。須ラク降服スヘシ。然ラハ何人ヲモ害スルコトナク、却ツテ汝等ヲ重用シテ満足ヲ得セシムヘシ。汝等ノ必ス満足セシメラルヘキコト我カ倫言トシテ誓フ所ナリ」。

呂文煥、此約ヲ信シ、出テ降り「アリハイヤ」(Alihaiya 阿里海牙)ト共ニ「クビライ」ノ許ニ到ル。「クビライ」厚ク之ヲ敬シ、襄陽ノ都督トナス。部下ノ將士亦各々良地位ヲ得タリ。

文煥ノ叛ハ重大ナル結果ヲ齎ラシヌ。其家族ノ中、骨肉ノ故ヲ以テ禍ノ及ハムコトヲ恐レ、自ラ職ヲ辭スル者多カリシカ、友ナル似道ハ一度モ辭表ヲ呈スルコトナカリキ。

サテ「クビライ」ハ骨肉ノ間ノ葛藤ノ爲メ、暫ラク楊子江畔ニ於ケル活動ヲ中止セ
ント欲セシモ諸將、襄陽占領ノ價值ヲ説キ、今ノ間ニ敵ヲ撃ツノ利ヲ言フ。時ニ、恰モ
宋ノ度宗死シ(一二七四年八月)、似道及其徒專ラ事ヲ用ユ。群臣度宗ノ長子趙昀ヲ立
テムコトヲ望ミシモ、似道ハ、己レ權ヲ專ラニセムト欲シ、議シテ第二子趙昀ヲ選フ。
齡、僅ニ四歳、母謝氏政ヲ攝ス。

「クビライ」一方最有效ナル支那征伐ノ準備ヲナスト同時ニ詔シテ曰ク「ジンギス」
ト「オゴタイ」ト「マング」宋トノ和親ニ努メ、我レ亦、尙王子タリシ時、軍ニ將トシテ宋ト
條約ヲ締結セシニ、我レ撤兵スルヤ否ヤ、宋ハ條約ヲ破レリ。而シテ我レ即位シタル
時、一使ヲ遣ハシテ平和ヲ固メ和親ヲ厚フセムトシタルニ、宋ハ我使ヲ捕ヘテ久シ
ク獄ニ繋キタリト。

是ニ於テ「クビライ」史天澤ト「バヤン」(Bayan 巴延)ヲ總將トシ「アチユ」ト「アリハイヤ」
ト呂文煥トヲ之レニ副トシテ湖廣ニ向フヘク命シ、別ニ「ボロハン」(Polo Hwan 博囉干)
及他ノ四將ニ江南ヲ攻ムヘク命シタリ。二軍、併セテ兵約二十萬ヲ數フ。命下リテ間
モナク史天澤死シ第一軍ハ蒙古ノ最良將「バヤン」專ラ指揮ノ任ニ當ルコトトナリ
ヌ。

「バヤン」ハ「バリ」(Barin)族ノ出、幼時「ベルシヤ」ニアリ「イルカン」(Abaka the Ilkhan)
ノ使者トシテ來リタル者ナルカ、其言頗ル「クビライ」ノ悦ヲ所トナリ、一二五六年臣
トシテ仕ヘ、忽チ國務大臣ニ昇進シタリ。

サテ「バヤン」多クノ船ヲ以テ襄陽ヨリ漢江ヲ下リ、「ヌガン・ロー」ニ向ヒシカ、敵河ヲ
鎖ト木材トヲ以テ塞キ且ツ兵ト弩砲ヲ載セタル幾多ノ船アリテ看守シ、又「ヌガン・
ロー」ハ強固ナル壁壘ヲ以テ圍ミタリ。「バヤン」兵ト時ノ多クヲ費スニアラスハソノ
拔キ難キヲ見、頗ル窮シタリシカ、一俘虜ノ教ユル所ニ從ヒ、漢江ヨリ藤湖マテ木材
ヲ布キテ路トシ其上ヲ船ヲ曳キテ同湖ニ入り、同湖ヨリ更ニ漢江ニ出テ、ヨツテ戰
ヲナサシテ「ヌガン・ロー」ヲ過クルヲ得タリ。カクテ、彼レ漢江右岸ノ二城、沙洋ト「シ
ンヒンチャウ」(Sin hing chau)ヲ取り、河口ニ下ル。河口ハ宋將夏貴、多クノ船ヲ以テ守リ
居タリ。「バヤン」其左側ヲ撃ツ如ク裝ヒ、急ニ右側ヲ攻メテ「シャフクイ」(Sha fu kwe 漢字
不明)ヲ擒ニシ且ツ兵船百隻ヲ奪ヒ、己レノ凡テノ船ト共ニ楊子江ノ北岸ニ達シ、忽
チ阿珠ヲシテ一大艦隊ヲ率キテ楊子江ヲ渡ラシム。夏貴、己レノ危キヲ見テ、凡テノ
船ト共ニ江ヲ下リ逃ル。

北岸ノ陽邏陥リ、漢陽亦降ル。「バヤン」軍ヲ率キテ江ヲ渡リ、將ニ武昌ヲ攻メムトス。

守將張晏然ト「チンボン」(Ching pong)程鵬飛ノ事ナルヘシ兵ト共ニ降ル「バヤン」精兵一隊ヲアリハイヤニ授ケテ同城ノ守備トナシ、餘ノ兵ヲ率キテ東方ニ向フ。

程鵬「バヤン」ノ命ヲ受ケテ黃州ノ城主陳奕ニ降ヲ勸ム。陳奕重用セラレムコトヲ望ム「バヤン」楊子江沿岸ノ檢閱使ノ長トナスヘキヲ約ス。陳奕乃チ門ヲ開イテ降ル。蘄州ノ總督モ之ニ倣ヒテ降ル。カクテ、呂文煥又ハ其同家ノ者ノ下ニアリタル楊子江沿岸ノ諸將ハ自ラ進ムテ降ヲ乞ヒ、陳奕ノ子ニシテ江南ノ守將タリシ陳巖モ父ニ倣ヒ、九江ノ總督モ降リ「バヤン」ニ南京、六安、德安諸城ヲ引渡シタリ。蓋シカク容易ニ降服ヲ見タルハ「バヤン」カ支那人ヲ待ツコト親切ナリシニヨラスムハアラス。

サテモ賈似道ハ此間ニ大ニ兵ヲ集メ、一大河船隊ヲ作りテ之ヲ夏貴ノ船隊ト併セ、蕪湖又ハ其附近ニ到リ、先ツ一蒙人俘虜ヲ「バヤン」ニ遣ハシ、美果ヲ禮物トナシ、一六〇年武昌ニ於ケル「クビライ」トノ條約ニ從ヒ和ヲ議セムコトヲ求ム。「バヤン」書ヲ以テ答ヘテ曰ク、我レノ未タ楊子江ヲ渡ラサリシ時ナラハ可ナリ。今若シ和ヲ欲セハ來ツテ面議スヘシト。似道、之ニ對シテ答フル所ナカリキ。

然ルニ楊子江畔ノ池州亦陥リシカハ、似道、孫虎臣ニ一大兵ヲ授ケ池州下流ノ一島ヲ占領セシメ、又夏貴ニ船二千五百隻ヲ授ケテ江ヲ封鎖セシメ、更ニ自ラ兵ヲ將

キテ、海ニ近キ地點ニ陣シタリ。

「バヤン」歩兵騎兵ヲ併セ率キテ江ノ兩岸ヲ下リ、孫虎臣ノ陣セル島ニ對シタル時、弩砲ヲ發シテ之ヲ撃ツ。宋軍潰エ、急ニ舟ニ逃ケシモ舟ノ多クハ擊沈セラレ、殺サルル者亦多ク水之カ爲メニ赤クナリス。

此戰勝ニ蒙軍ノ獲タル戰利品無數ナリキ。似道、夏貴ノ敗ヲ聞キ凡テノ船隊ト共ニ江ヲ下リ、金砂島ニ於テ夏貴ト虎臣ヲ會シテ議ス。兵皆蒙軍ヲ見テ恐レ、我等何事ヲカ爲シ得ムトイフ。似道、因テ、尙モ江ヲ下リテ新ニ兵ヲ集メムト欲セシカ、從フ者一人モナカリキ。此大敗ノ結果、江南ノ諸城ハ、其守將或ハ逃ケ、或ハ降リテ蒙人ノ手ニ歸シタルモノ多シ。「バヤン」ノ來ルヲ見、南京ノ守將汪立信ハ、死ストモ降ルヲ欲セス、親戚知己ヲ招キテ宴シ、其席ニ於テ毒ヲ仰イテ死シ、城、蒙人ノ取ル所トナリス。

大暑將ニ至ラムトス「クビライ」兵ノ困苦ヲ思ヒテ「バヤン」ニ秋マテ戰ヲ休マムコトヲ命ス。「バヤン」答ヘテ曰ク、今ヤ正ニ敵ノ吭ヲ扼ス、是レ少シモ弛ムヘキノ時ニアラスト。當時、カノ「クビライ」ノ使郝經、尙宋ノ獄ニアリ。ソノ兄弟ヲ賈似道ニ遣ハシテ放免ヲ請ハシム。許サレ、經ト其一行、歸路ニ就キシカ、彼レ途中病ミ、燕京ニ著シタル後死シタリ。

此後間モナク「クビライ」廉希賢ヲ遣ハシテ和ヲ議セシム。彼レ往キテ「バヤン」ノ陣地南京ニ到リ護衛ノ兵五百人ヲ受ケタリ。「バヤン」ソレ等ノ兵ニ一切不穩ノ動作ヲ禁シタリシニ、却ツテ、宋兵ハ途上彼等ヲ撃チ、廉ヲ傷ケ其同僚ヲ殺シ、ヤカテ廉ヲ臨安ニ送リシカ、廉、同地ニ於テ先キノ傷ノ爲メニ死ス。宋廷乃チ急ニ一使ヲ南京ニ遣ハシテ曰ク、カノ攻撃ハ無知ニ出ツ。速ニ發頭者ヲ索メテ之ヲ罰セム。且ツ宋帝將ニ「クビライ」ノ臣タラムトスト。

「バヤン」此言ヲ信セサリシモ、表面和ヲ欲スルカ如ク、一使ヲシテ回答ヲ齎ラシ臨安ニ往カシメ、尙「チヤンユ」(Changyu 張易)ナル者ヲ之レニ伴ハシメ、同地ノ狀ヲ探ラシム。然ルニ張ハ途中暗殺セラレシカハ「バヤン」怒リ、「クビライ」ニ戰爭繼續ノ許可ヲ請フ。時ニ「カイヅ」將ニ「クビライ」ヲ攻メムトセシヲ以テ、「クビライ」却ツテ、之ヲ討ツヘク「バヤン」ヲ呼ヒ還シタリ。

湖廣岳州ノ總督高世傑武昌ヲ攻メムト謀リ、數千ノ大船ヲ以テ荆江ノ峽門ヲ占領ス。武昌ノ守將「アリハイヤ」一船隊ヲ以テ之ヲ撃ツ。世傑戰ヲ恐レ、錨ヲ揚ケテ洞庭湖ニ逃ク。「アリハイヤ」其船隊ヲ更ニ數部ニ分チテ急ニ之ヲ攻メテ世傑ノ船ヲ奪ヒ、世傑ヲ擒ニシテ其首ヲ刎ネ、之ヲ槍先ニ著ケ、岳州ノ城下ニ晒ラシ、以テ降ヲ勸ム。岳

州降ル。

尋テ「アリハイヤ」江陵ヲ攻ム。城將高達ハ支那有數ノ名將ナリ、而カモ宋ノ朝廷ハ彼レヲ重用セス、却ツテ無能ノ者ヲ其上ニ置キシカハ、彼レ平ナラス、出テテ「アリハイヤ」ニ降り、且數日ノ後、己レノ管下ノ諸將ニ書ヲ送リテ降ヲ勸メシニ、之レニ從ヒテ降りタル者十五名ニ及フ。「アリハイヤ」是等諸將ヲ凡テ其舊地ニ留マラシメ各之ヲ守ラシム。「クビライ」「アリハイヤ」ノ功ヲ多トシ書ヲ以テ勞ヲ謝シ、又カノ高達ニ、彼レカ宋ノ朝廷ニ望ムテ與ヘラレサリシモノト同一ノ位地ヲ授ケタリ。

南四川未タ平定セサリシカ、蒙將汪良臣、宋將萬壽ヲ嘉定ニ圍ミ之ヲ降ス。萬壽降ル時、省内ノ情勢ヲ告ケ、ヨツテ、元ノ職ヲ保ツヲ得タリ。然レトモ四川未タ全ク降服シタルニアラス、其之アリシハ漸ク一二七八年ノ事ナリトス。サテ、宋ノ朝廷ニ於テハ賈似道ヲ憎ミ之ヲ除カムト謀ル者多ク、一二七四年、攝政謝氏、彼レノ官職ヲ剝キシモ、衆尙満足セス、彼レノ十罪ヲ數ヘテ上奏セシカ、攝政ハ元來似道カ立テタル所ナレハ、斷然、彼レヲ亡ホスノ處置ニ出ツル能ハス、其財産ヲ沒收シテ福建ニ謫ス。之レカ護送ヲ司トレル者、己レノ父ノ似道ニ放逐セラレシコトアルヲ含ミ、途中常ニ彼レヲ惱マシ以テ快シトセシカ、福建ニ著スルヤ遂ニ之ヲ刺殺シタリ。而シテ加害

者亦直チニ誅セラレキ。

宋將張世傑、大船隊ヲ以テ江ヲ守ル。阿珠之ヲ撃タムト欲シ、我船隊ノ前面ニ大船ヲ並ヘ之ニ一千ノ弩砲ヲ備ヘシメ、己レハ近ク其後ニ從ヒ行キ、ヤカテ、一齊ニ火剪燒石ヲ放チテ敵ヲ撃ツ。江上、火ヲ以テ蔽ハル。宋兵燒カレルヲ欲セス、又蒙軍ニ擒セラルルヲ欲セス、江ニ投シテ死スル者多シ。張世傑、船七百餘艘ヲ殘シテ逃ク。

「バヤン」上都ニ於テ「クビライ」ヲ見、少時ト雖征伐ヲ中止スルノ不可ナルヲ説ク。「クビライ」之ニ聽キ、「バヤン」ヲ元ノ地位ニ復シ、速ニ部署ヲ定ム。即チ「バヤン」ヲシテ宋都ヲ取ルヘク直ニ一二七五年進マシメ、副將ヲシテ左右、即チ江西ト淮南ニ於テ之ヲ援ケシメ、更ニ「クビライ」自ラノ軍ヲ三部ニ分チ、前軍各部ノ後ニ從フ。カクテ「バヤン」ノ部隊ハ呂文煥ヲ先鋒トナシ「チヤンチヤン」(Chang chan 漢字不明)ヲ過キリス。

宋ノ朝廷頻リニ援兵ヲ送リシモ「バヤン」之レニ會フ毎ニ盡ク之ヲ屠リ、常州ニ到リ、降ヲ勸メシモ應セサリシカハ、郊外ノ地ヲ取リテ之レニ城壁ニ等シキ高サノ壘ヲ築キ、之レニ據リテ城ヲ攻メ、遂ニ陥ルルヲ得タリ。守將四名ノ中、三名ハ討死シ、一名ハ逃ケ、城民ノ用捨ナク斬ラレタル少カラス。「バヤン」ノ將アルガン(Argan)ト董文炳アラユル物ヲ奪ヒ集ム、數千ノ住民、臨安ニ逃ケ、同都ノ各部恐慌甚シ。宋ノ宰相陳

宜中、凡ソ齡十五年以上ノ男子ハ盡ク隊伍ニ入ラシム。太后、使ヲ「バヤン」ニ遣ハシテ曰ク、罪ハ賈似道ニアリ、我レ既ニ之ヲ罰セリ。帝尙幼ナリ。請フ之ヲ諒トセヨト。

「バヤン」答ヘテ曰ク、我使廉希賢ヲ殺シタルハ似道ニアラス、且ツ汝ノ國、天下ヲ周二奪ヒタル時、周帝ハ尙幼ナリシニアラスヤ。汝カ幼者ヲ遇シタル如ク、汝ノ幼者カ遇セララルコト怪シムニ足ルナシト。

「バヤン」尙モ軍ヲ進ム。陳宜中ト太后トノ使、マタ來リテ、幼帝ハ「クビライ」ノ甥ヲ以テ稱シ且ツ年貢ヲ納レムトイフ。「バヤン」マタ之ヲ斥ク。太后、使ヲ遣ハシテ曰ク、幼帝ハ「クビライ」ノ臣下トナリ且ツ年貢ヲ納ルヘシト。然ルニ、コハ陳宜中ニ謀ルコトナク、全ク太后ノ獨斷ニ出テシナリキ。宜中、都ヲ南方ニ遷サムト欲スルモ、太后之ヲ悅ハス。而カモ「バヤン」益々城下ニ迫ラムトス。諸王子、太后ニ、帝ノ兄弟吉王ト信王トヲ遠地ニ送り以テ宋ノ社稷ヲ保存セムコトヲ勸ム。太后、之ヲ聽キ、吉王ヲ益王、信王ヲ廣王ト改稱シ、二人ヲ福建省ニ送り同省内ノ異ナレル地ニ居ラシム。

「バヤン」臨安附近ニ於テ他ノ二部隊ト會ス。宋ノ太后、降服ノ意ヲ表スル爲メ、國璽ヲ「バヤン」ニ獻ク。「バヤン」直ニ之ヲ「クビライ」ニ送り、ヤカテ、降事ニ付テ協議スヘク宜中ヲ招ネク。太后ニ快カラサル彼レ直ニ南ニ赴キス。張世傑モ軍ト共ニ定海ニ退却

ス「バヤン」高位ノ使ヲ遣ハシテ降ヲ勸メシニ、世傑ハ其者イ舌ヲ切り、且ツ身體ヲ寸斷シタリ。太后、文天祥ヲ宰相トナシ、吳堅ト共ニ「バヤン」ニ遣ハシス。

天祥「バヤン」ニ説イテ曰ク、北朝若シ宋ヲ他ノ征服セラレタル諸國ト同シク、其與國トナサムト欲セハ、請フ、少クトモ嘉興マテ退クヘシ。然ラハ其地ニ於テ各年貢スヘキ絹及銀ト割讓スヘキ土地トニ付テ協議セム。然レトモ、若シ宋ヲ滅サムト欲セハ、須ラク、其目的地ニ到ル途ノ甚長クシテ多クノ戰爭ヲ要スヘキヲ思フヘシ。南方未タ汝ノ勢力圈ニアラス。我等防キ戰ハム。勝敗豫メ定メ難シ。汝ト我レト地位ノ顛倒セムコトナシトモ限ラサルヘシト。

「バヤン」吳堅ヲシテ歸ラシメ、天祥ハ尙協議ノ爲メト稱シテ拘留ス。天祥此處置ヲ難シ且ツ宋臣ニシテ蒙古ニ降レル者ヲ見テ之ヲ痛罵シタリ。呂文煥モ其痛罵ヲ受ケタル一人ナリキ。「バヤン」天祥ヲ「クビライ」ニ送リシニ、途中、警護ヨリ逃走シタリ。

「バヤン」臨安統治ノ爲メニ宋人ト蒙古人トノ議會ヲ設ケ、蒙古ニ降ルヘキ旨ノ勅書ヲ取其長トシ、又程鵬ヲシテ太后ヨリ、諸省ノ總督ニ對シ、蒙古ニ降ルヘキ旨ノ勅書ヲ取ラシメ、且ツ之レニ諸大官ノ印ヲ押捺セシム。諸大官皆命ニ從ヒシカ、獨リ「カイ・ヒウ・エン・ホン」(Kai hien hong 漢字不明)ノミ如何ニ威嚇スルモ遂ニ肯セザリキ。

「バヤン」四名ノ蒙臣ニ命シテ、各州ノ符印ヲ取り、又圖書、史誌一切ヲ押ヘテ之ヲ封セシメ、又都ノ各所ニ兵ヲ置ク。太后ト帝「バヤン」ヲ見ムコトヲ望ミシカ、彼レ野人禮ヲ知ラサレハト稱シテ之ヲ避ケ、翌日、臨安ヲ去レリ。去ルニ臨ミ、二名ノ高位ノ宋臣ニ命シテ、宮殿ヲ監視セシメ、如何ナル事アリトモ太后ノ出ツルヲ許スナカラシム。而カモ是レ太后ヲ敬スル所以ナリト稱シタリ。

此後間モナク、蒙將「アタハイ」(Atehai 安塔海)多クノ隨者ト共ニ宮殿ニ來リ、先ツ、皇帝及太后ノ行フ凡テノ禮儀ヲ廢セシメ、二人ニ速ニ上都ノ「クビライ」ヲ許ニ到ラムコトヲ請フ。太后、七歳ノ幼帝ヲ抱キ泣イテ曰ク「天子汝ノ命ヲ赦シタマヘリ。汝拜謝セサルヘカラス」ト。帝、母ノ傍ニ跪キ、北方即チ山東ノ方ニ向ヒテ、九回、額ヲ床ニ觸レ、大汗「クビライ」ヲ拜シタリ。

カクテ二人、旅裝ヲ整ヘ、臨安ヲ去ル。宋國亦永シヘニ去リス。當時都ニアリタル宋ノ王子、王女ノ凡テ及顯要ノ地位ニアル官人、大學者、有力者等大群ヲナシ、途ヲ北方ニ取リテ之レニ從ヒヌ。太皇太后ハ疾ヲ以テ臨安ニ留マリタリ。宋人若干、幾多ノ大官名士ノ帝ト共ニ送ラルルヲ見テ之ヲ救ハムト欲シ、「アタハイ」ト「リチン」李楨(Li ting)ノ率ユル蒙兵ノ警護ヲ襲フコト二回ニ及ヒシモ、凡テ擊退セラレタリ。

宋ノ幼帝、上都ニ著スルヤ「クビライ」宰相ヲシテ出迎ヘシメ、俘虜盡ク相當ノ待遇ヲ受ケタリ。帝ハ改メテ公トセラレ(公ハ封侯ノ第三位)瀛(？)公ノ稱ヲ授ケラレ。太后ト太皇太后トハ其稱號ヲ奪ハレヌ。但シ「クビライ」ノ正妻、ジヤムブイカツン(Chin Khatun)太后ノ爲メニ寛大ナル處分ヲ請フヘク斡旋スル所アリキ。

帝都臨安ハ當時甚宏大壯麗ナリキ。礮湖ノ間ニ建テラレ、千二百ノ橋アリ、埠頭高ク、二百噸ノ船、橋下ヲ往來スルヲ得タリ。又美ハシキ湖水アリ、宮殿高樓之ヲ繞ル。湖中ノ諸島ニ屋舎ヲ設ケ、婚姻其他ノ太宴ヲ催スニ用キタリ。都中凡テ三千ノ浴場アリ、各同時ニ百名ヲ入ルルノ廣サヲ有ス。マルコ・ボロハ臨安ノ皇居ハ世界ニ於ケル最大ノ宮殿ナリト稱ス。該宮殿ハ二十ノ室ヲ有シ、其中最廣キモノ國用ノ饗宴ニ充テラル。其外ニ一千ノ小室アリテ何ツレモ金及諸色ヲ以テ豊ニ飾レリ。又大市場十箇アリ。戸數百六十萬、堂宇七百。住民ハ最下等ノ勞働者ト苦力ノ外、凡テ絹ヲ織ヒテ美裝シ居タリ。

「クビライ」臨安ノ宮殿ヨリ金銀其他ノ財寶ヲ獲、其王子王女何レモ之ヲ見テ大ニ悦ヒシカ「ジヤムブイカツン」ノミハ涙ヲ禁スル能ハス。大汗ニ謂ツテ曰ク「蒙古帝國モ亦カクノ如クニシテ終ルコトアルヤモ知ルヘカラス」ト。

當時、南支未タ鎮定ニ至ラス「バヤン」ノ盛ニ臨安ヲ攻メツツアリシ間ニ「アリハイヤ」ハ湖廣ニ入りテ長沙ヲ圍ミ猛烈ニ攻撃セシカハ城内大ニ苦シム。ヤカテ、蒙兵總攻撃ヲナシテ城壘ヲ奪ヒ、火ヲ放チ、陷落旦夕ニ迫ル。時ニ、或大城ヨリ來レル一官人、恰モ丁年ニ達シタル己レノ二子ノ偶々其處ニ居合セタルニ冠ヲ被ラセ、是レ大人トナリタルヲ表ハス儀式ナリ、是等及從者ト共ニ火中ニ投ス。長沙ノ總督「リフ」(Liu Nanyang)大ニ此舉動ニ感シ「チンツオン」(Chin Tsong 漢字不明)トイフ者ヲ召シテ謂ツテ曰ク「我レ降服ニヨツテ我血ヲ汚カスヲ欲セス。請フ、汝、速ニ我家族ヲ殺シ、次テ我ヲモ殺セ」ト「チンツオン」額ヲ地ニ打チテ己レヲ此恐ロシキ使命ヨリ赦サムコトヲ請ヒシモ「リフ」聽カス、切ニ命シテ己マサリシカハ「チンツオン」遂ニ屈ス「リフ」家族ト共ニ酒ヲ飲ミ、醉ヒ、首ヲ差出セハ「チンツオン」劔ヲ抜イテ之ヲ斬リ、忽チ、其邸ニ火ヲ放チ、直ニ、己レノ家ニ馳セ行キテ己レノ妻子ヲ殺シタル後自殺シタリ。カクテ、二名ノ外凡テノ官吏ト將卒及人民ノ多數、或ハ井ニ投シ、或ハ自ラ縊レ、或ハ毒ヲ仰キテ死シタリシカハ、蒙兵ノ長沙ニ入ルヤ、其殆ント無人ナルニ驚キヌ。尋テ「アリハイヤ」南湖廣中ノ他ノ諸城ニ降服ヲ勸ム。ソノ殆ント盡ク、些ノ抵抗ヲナスコトナク降レリ。之レト同時ニ蒙將「ソン・ト・カイ」(Sung Tu Kai 宋都帶?)江西ニ於テ著々成功シ、城ヲ拔ク

コト十一、福州亦陥レリ。「クビライ」「バヤン」ヲ上都ニ召ス。「バヤン」往カムトスルニ臨ミ「ソントカイ」之レニ告ケテ曰ク、宋ノ王子等福建及廣東ニ於テ多クノ兵ヲ集メ將ニ江西ニ入ラムトスト。「バヤン」乃チ臨安附近ノ守備ヲ託シタル「アルガン」ト董文炳ニ速ニ往キテ、カノ王子等ヲソノ軍ノ強大ヲ致ササル間ニ討ツヘシト命ス。

宋帝ノ兄弟二王子ノ臨安ヨリ温州ニ來ルヤ、從ヒタル又ハ會シタル諸將、兄益王ヲ立テテ總元帥トナシ、弟廣王ヲ副トシ、福建ニ入ル。恰モ同地ノ二大城將ニ「ホアン」ワシタウ「Hoang wan tau 黃萬石」ニ降ラムトスルニ際ス。「ホアン」ハ近頃「バヤン」ニ命セラレテ同地ノ總督トナリ、成效ヲ誓ツテ全省ノ鎮定ニ從事シツツアリシ者ナリ。然ルニ宋兵ト戰ヒ敗レ、省外ニ逐ハレ、部下ノ兵走ツテ宋軍ニ投シヌ。

二王子、首都福州ニ著シ、九歳ノ兄益王推サレテ位ニ即ク。ヤカテ兵ヲ分テテ四隊トナシ、南方ト楊子江ノ兩岸ニ向ハシム。時ニ恰モ文天祥來リ會ス。彼レハ宋帝カ上都ニ送ラレシ時之ヲ奪ハムトシタル第二次ノ襲撃ノ際、蒙人ノ手ヨリ逃レタルナリ。天祥ヤカテ、統卒ノ任ニ當リ、大ニ士氣ヲ鼓舞ス。帝亦勅ヲ發シテ民ヲ勵マシ、募リテ多クノ兵ヲ得、勢振ヒシカハ蒙人稍安カラヌ。

「バヤン」太后ニ請フテ、凡テノ宋人ニ蒙古ニ降服スヘク命スル旨ノ勅書ヲ得タリ。

阿珠ソノ膽本ヲ楊州ノ守將李庭芝ニ送ル。李、城壘ヨリ答ヘテ曰ク、我レハ、此地ヲ守ルヘキ旨ノ太后自筆ノ勅書以外、何等ノ命令ヲ知ラスト。阿珠、別ニ降服ヲ嚴達スル旨ノ勅書ヲ得テ之ヲ李ニ致セシニ、彼レ、其書ヲ持參セル者ヲ射タリ。

阿珠、敵ノ糧道ヲ絶ツヘク百方試ミタリシカ、「バヤン」カ、サモ速ニ臨安ヲ取り其全省ヲ平ケタルニ己レハ此一城ヲタニ未タ抜ク能ハサルヲ遺憾トシ、更ニ一策ヲ案シ、「クビライ」カ李ノ凡テノ願ヲ容ルヘク約セル書ヲ送リシカ、李、其書ヲ燒キ其使ヲ首刎ネタリ。當時、此地方ニ於テ蒙軍ニ圍マレタル諸城ハ盡ク或ハ降り或ハ餓餓ノ爲ニ陥リ、楊州亦糧食ノ缺乏ニ惱ミタリシモ、蒙軍ハ未タ之ヲ知ラサリシナリ。

阿珠マタ「クビライ」ニ請ヒテ李ニ宛テタル書ヲ得、之ヲ送ル。書ニ曰ク、「汝今降ラハ、我レ喜ンテ前ノ約束ヲ實行シ、且ツ、我使ヲ殺シタルヲ宥サム」ト。李、マタ、之ヲ斥ケシカ、會々益王ノ即位ヲ聞キ、城ノ防守ヲ朱煥ニ託シ、同僚姜才ト共ニ兵七千ヲ率キテ新帝ニ赴カムトシテ、城ヲ出ツルヤ、間モナク朱煥、城ヲ以テ敵ニ降リヌ。

阿珠、騎兵一隊ヲ遣ハシテ、逃クル二將ヲ追撃ス。宋兵一千、爲メニ死シ、李、已ムナク泰州城ニ入リシニ、城内ノ二將之ヲ蒙兵ニ密告ス。李、免ルヘカラサルヲ知り、池ニ投ス。池、淺クシテ死セス、救ヒ出サレ、姜才ト共ニ楊州ニ急キ歸リヌ。阿珠、百方、二人ニク